フヤウナコトデハ、國家トシテ宜シクナイト思フ、最モ此ノ問題ニ付キマシテモ、文獻ニ依リマスルト、明治二十八年ニ福本日南氏デアリマスルトカ、花井卓藏氏デアリマスルトカ云フヤウナ人々ノ努力ニ依ツテ養老法ガ此ノ衆議院ニモ提案致サレテ居リマスルガ、政府ノ反對ニ依ツテ潰レテ居ルノデアル、爾後既ニ年ヲ閲スルコト四十餘年、其ノ間ニ於テ何等是等ニ向ツテ政府ガ積極的ニ手ヲ染メテ居ナイト云フコトハ、私共不可解ニ思フ、今ヤ國ヲ擧ゲテ自由主義、所謂自分サヘ宜ケレバ宜イト云フ思想觀念デハイケナイトカ、國民ハ戰爭ノ犧牲ヲ一緒ニ皆負擔シナケレバナラナイトカ、斯ウ云フ時ニコソ斯ウ云フ法案ヲ御出シニナツテ呼掛ケルニハ、千載一遇ノ機會デアル、多少ノ反對ハアリマシテモ、堂々ト政府ガ所信ヲ披瀝スルナラバ、何人カ之ニ反對シヨウゾ、斷ジテ是ハ實行出來ルノデアルニモ拘ラズ、今日マデ一向ニ御提案ニナラヌ理由ハ一體何處ニアルノカ、何處ニ御遠慮ナサツテ居ルノカ、又サウ云フコトヲスレバ、ドウ云フ弊害ガアルト御考ニナルノカ、勿論總テノ制度ノ改革ト云フモノハ、一應ハ弊害ノ伴ハナイモノハゴザイマセヌ、多少ノ弊害ガ伴フカラト云ツテ、アレニモ手ヲ著ケズ、之ニモ手ヲ著ケナイト云ツタ日ニハ、全クソレ自體民族的發展ノ破壞デ、國家的躍進ノ障碍ト云フコトニナリマスルガ故ニ、政府ハ思切ツテ是等ノ制度ヲ官吏制度ト睨ミ合セテ、御制定ニナル意思アリヤ否ヤ、セヌト言フナラバナゼセヌカ、其ノ譯ヲハツキリ御聞カセ願ヒタイノデアル、私ハ色々質問致シタイコトガアリマスルガ、是ハ委員會等適當ナ機會ニ讓リマシテ、先ヅ此ノ大綱ニ付テ質問致シマシテ、私ノ質疑ヲ終ルコトニ致シマス

吉田厚生大臣ノ應答

御名指デアリマスノデ、冨吉君ノ御質問中、官吏制度ニ關シマシテ種々述ベラレマシタ點ニ付テ私ヨリ御答ヲ致シマス、官吏制度ニ付テ改革ヲシ、其ノ案ヲ此ノ議會ニ提案スル意思ガアルカナイカト云フ最初ノ御尋デゴザイマスガ、官吏制度ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ於テ總理大臣ヨリ明ニセラレマシタ如ク、官吏制度ノ各般ノ方面ニ亙リマシテ、今日ノ重大時局ニ際會シテ官吏ガ其ノ職分ヲ果ス上ニ遺憾ナキヤウナ趣旨ニ於テ、何處ニ弊害ガアリ、ソレヲ如何ニ改ムベキカト云フコトニ付キマシテ考究ヲ致シ、速ニ成案ヲ得タイト云フ心構ヘノ下ニ、目下研究ヲ致シテ居ルノデアリマス、無論最後ニ御尋ニナリマシタ身分保障ノ問題等モ、其ノ中ニ含マレテ來ルコトト思ハレルノデアリマス、御質問中ニモ仰セラレマシタ通リ、色々各種ノ制度ニ付キマシテ利弊モアルコトデアリマス、其ノ利弊ニ付テ十分ナル見透シト肚ヲ決メマシテ、是モ御話ニアリマシタ通リニ、肚ヲ決メテ左樣ナコトノ實行ニ著手スルノデナケレバ、唯一樣ノ考ダト云フコトデハ、御役ニ立タヌコトト考ヘマスノデ、十分ナ肚ヲ以テ此ノ問題ヲ處理致シタイト考ヘテ居リマス次第デアリマス、尙ホ御質問中ニアリマシタヤウナ、下級官吏ヨリノ拔擢ニ付テノ一ツノ御考案ト云フモノハ、洵ニ有益ニ承リマシタ、御精神ニ於テハ私共全然御共鳴ヲスルノデアリマス、唯方法ガ御指摘ニナリマシタヤウナ方法デ宜イカドウカト云フコトハ、能ク考ヘネバナラヌノデアリマスガ、御趣意ノ在スル所ハ、十分ニ此ノ問題ヲ處理スルニ付キマシテ、參考トスベキコトデアルト考ヘルノデアリマス、技術官ノ優遇ト云フコトニ付キマシテモ同樣デアリマス、尙ホ最後ニ國民生活ノ保障トシテノ養老年金ト云フコトニ付テ、未ダニ提案シナイノハドウ云フ譯デアルカ、或ハ提案スルノカシナイノカト云フ御尋デゴザイマシタ、是亦他ノ機會ニ於キマシテ御答ヲ申上ゲタコトガアルカト思フノデアリマスガ、此ノ養老癈疾年金ト云フヤウナコトハ、今日ノ時局下ニ於キマシテ、特ニ考慮セネバナラヌ重大ナル問題ト考ヘマスルノデ、只今當局ニ於キマシテ、各種ノ資料ニ依リマシテ、其ノ檢討ヲ進メテ居ルノデアリマス、是亦出來ル限リ速ニ結論ヲ得ルヤウニ致シタイト思フノデアリマス、今日マデ提案ノ運ビニ至リマセヌコトハ、資料ノ整備、竝ニ之ヲ一ツノ年金制度ト申シマスレバ、ヤハリ一ツノ纏ツタ經濟ニ組立テネバナリマセヌ、其ノ方法ニ付テノ技術的ナ考慮ト云フモノニハ、相當ナ困難ヲ伴フ次第デアリマス、併シ困難デアリマシテモ、何トカシテ至急ニソレ等ノ點ニ關シマシテノ結論ヲ得タイト云フヤウナ考ヲ以テ、研究ヲ進メテ居ルノデゴザイマス、左樣ニ御諒承願ヒタイト思ヒマス、他ノ恩給制度等ニ關スルコトニ付キマシテハ、主管ノ法制局長

官カラ御答ガアルサウデゴザイマス

廣瀬法制局長官ノ應答

御質問ノ第一ノ點デアリマスル恩給ノ外地加算ノ問題デアリマス、外地ノ加算ヲ減額致シテ居ルガ、是ハ支障ハナイカト云フ御質問デアリマスガ、現在行ハレテ居リマス法律ガ、外地ニ對シマシテ一般ニ加算ヲ附スルコトニ致シタ其ノ當時ノ事情ト、今日ノ外地ノ事情トハ餘程變ツテ居リマス、外地ノ文化ノ發展、交通衞生狀態等ノ改善ハ著シイモノガアルト思ヒマスノデ、ヤハリ今日ニ於テハ或ル程度ノ加算ノ減額ヲ致シマスコトガ適當デアル、是ガ却テ均衡ヲ得ル所以デアルト云フ具合ニ考ヘルノデアリマス、隨ヒマシテ是ノ減額ニ依ツテ動搖ヲ來スガ如キ憂ハ、全然ナイモノト私共ハ信ジテ居リマス、次ニ第二點ニ付キマシテハ、今回ノ法改正ノ目的ハ何處ニアルカ、是ハ現在事情ノ變化ニ依ツテ新シイ必要ヲ生ジマシテ、之ニ對シテ加算ノ制度ヲ新ニ設ケナケレバナラヌト云フ點ガ數點アル、是等ノ新シイ必要ニ應ズルト云フコト、又事情ノ變化ニ依リマシテ、改正ヲシテ均衡ヲ得セシメナケレバナラヌ點ガ數點アル、斯ウ云フ點ガ中心デアリマス、ソレカラ尙ホ御尋ノ高額所得者ニ關スル停止ノ問題デアリマスガ、是ハ今回ノ改正ニ依リマシテ、多額ノ所得者ニ對シテ停止ノ程度ヲ强メテ居リマス、今回ノ改正ヲ以テ相當デアルト信ジテ居リマス、此ノ程度デ宜カラウト思ツテ居リマス

次テ本案ハ政府提出會計檢査院法中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十七日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及**五八**、**六一**、**六八**、**七八**ノ五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ

（委員長報告ハ本項**第六八**參看）院議異議ナク五案ノ第一讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日本案及**六八**、**七八**ノ三案ハ貴族院ニ送付シ**五八**及**六一**ノ兩案ハ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

貴族院ニ於テハ三月二十三日本案ヲ可決奏上ス

三月二十九日法律第二十一號ヲ以テ公布セラル

八二　損害保險國營再保險法案

損害保險國營再保險法

第一條　政府ハ戰爭其ノ他ノ變亂ニ際シ保險料ノ昂騰ヲ抑制シ又ハ保險ノ圓滑ナル引受ヲ確保スル爲必要アリト認ムルトキハ本法ニ依リ保險會社ノ引受クル損害保險ノ「再保險ヲ」行フ戰爭其ノ他ノ變亂終了後ノ狀況ニ依リ保險會社ノ外國ノ保險者ニ對スル再保險取引ヲ困難又ハ不適當トスル事由アル場合ニ於テ政府保險ノ圓滑ナル引受ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキ亦同ジ

前項ノ損害保險ノ種類及保險事故ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ再保險ノ引受ヲ爲ス期間ノ始期及終期ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　本法ニ依リ再保險ヲ行フ損害保險ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ目的トスルモノトス

一　帝國法令ニ依ル日本船舶但シ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク

二　帝國（關東州及南洋群島ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヨリ輸出シ又ハ帝國ニ輸入スル積荷但シ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク

三　其ノ他政府ノ定ムルモノ

第三條　保險會社ハ再保險金ノ支拂ヲ受クベキ事由發生シタル場合其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事項ヲ政府ニ通知スベシ

第四條　政府ハ保險會社ノ保險契約ニ基ク塡補ノ責任發生シタル場合ニ於テ再保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依リ塡補ノ責ニ任ズ

保險事故發生シタル場合ニ於テ保險會社ノ負擔シタル費用ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ負擔ス

第五條　左ノ場合ニ於テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ再保險金ノ全部又ハ一部ノ支拂ノ責ニ任ゼズ

一　保險會社ガ法令上又ハ保險契約上ノ義務ナクシテ塡補ヲ爲シタルトキ

二　保險會社ガ塡補額ヲ不當ニ認定シテ塡補ヲ爲シタルトキ

三　保險會社ガ不正ノ目的ヲ以テ第三條ノ規定ニ依ル通知ヲ怠リ又ハ不實ノ通知ヲ爲シタルトキ

四　其ノ他勅令ヲ以テ定ムル場合

第六條　政府ハ保險會社ガ法令又ハ保險契約ニ依リ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還シタルトキハ再保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依リ再保險料ヲ還付ス

第七條　再保險金ノ支拂ヲ受ケタル保險會社ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委付ニ因リテ取得シタル一切ノ權利ヲ行使シ又ハ處分スベシ但シ其ノ權利ノ行使又ハ處分ニ要スル費用ガ其ノ權利ノ行使又ハ處分ニ因リテ得ベキ金額ヲ超ユルモノト認メラルル場合其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ權利ノ全部又ハ一部ヲ行使セズ又ハ處分セザルコトヲ得

保險會社ハ前項ノ權利ノ行使又ハ處分ニ因リテ得タル金額ヨリ之ガ行使又ハ處分ニ要シタル費用ヲ控除シタル殘額ノ中再保險金額ノ保險金額ニ對スル割合ニ依リテ算出シタル金額ヲ遲滯ナク政府ニ還付スベシ

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル還付金ニ付保險會社ヲシテ相當ノ擔保ヲ供託

セシムルコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ供託セラレタルモノノ上ニ質權ヲ有ス

前四項ノ規定ハ保險會社ガ商法第六百六十一條又ハ第六百六十二條ノ規定ニ依リ權利ヲ取得シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ再保險ニ依ル收入金額ヨリ本法ノ再保險ニ依ル支出金額ヲ控除シタル殘額ノ一部ヲ保險會社ニ交付スルコトヲ得

第九條　本法ニ定ムルモノノ外再保險金額、再保險料其ノ他本法ノ再保險ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　商法第六百二十九條、第六百三十一條、第六百三十四條、第六百三十七條、第六百四十二條乃至第六百四十五條、第六百五十七條、第六百六十條第一項本文及第六百六十三條ノ規定ハ本法ノ再保險ニ之ヲ準用ス

第十一條　政府ハ保險料ノ昂騰ヲ抑制シ又ハ保險ノ圓滑ナル引受ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ本法ニ依リ再保險ヲ行フ保險ニ付保險會社ニ對シ保險料其ノ他保險契約ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ保險ノ引受ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ保險ノ引受ヲ命ジタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ保險ノ再保險ヲ引受クルモノトス

第十二條　政府ハ本法ノ再保險事業ノ經營上特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險會社ニ對シ其ノ引受ケタル保險ヲ本法ノ再保險ニ付スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十三條　政府ハ本法ノ再保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ保險會社ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ本法ノ再保險ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保險會社ノ營業所、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十四條　保險會社ガ本法ノ再保險ニ關スル事項ニ付政府ニ對シテ民事訴訟ヲ提起スルニハ損害保險國營再保險審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

損害保險國營再保險審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條　保險會社第十一條第一項又ハ第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタルトキハ其ノ保險會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ヲ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　保險會社第十三條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキハ

其ノ保險會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第十三條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第十五條及第十六條ノ罰則ハ保險會社ニ付業務及財産ノ管理ノ委託アリタル場合ニ於テ其ノ委託アリタル業務ニ付テハ管理ノ委託會社ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ、業務及財産ノ管理ノ命令アリタル場合ニ於テハ保險管理人（保險管理人會社ナルトキハ其ノ取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員）ニ之ヲ適用ス

第十九條　本法施行地內ニ支店、從タル事務所又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム外國人又ハ外國法人ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年三月一日本院ニ提出ス同月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤商工政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題ト相成リマシタ損害保險國營再保險法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、火災保險、海上保險其ノ他ノ損害保險ガ國民生活ヲ安定セシメ、又貿易、海運其ノ他國民經濟ノ運行ヲ圓滑ナラシメマスル爲、必要缺クベカラザル制度ガアルコトハ申上ゲルマデモアリマセヌ、然ルニ一朝戰爭變亂等ノ勃發致シマシタ際ニ於キマシテハ、是等保險ノ對象トスル危險ノ程度ガ著シク上昇致シマスルガ爲ニ、之ニ對スル保險料モ亦急激ニ昂騰スルコトヲ免レズ、更ニ危險ガ或ル程度以上ニ上昇致シマスル時ハ、遂ニ保險ノ引受ヲ爲スコトヲ得ザルニ至ルノデアリマス、隨テ斯ル場合ニ於キマシテハ、國家ガ保險會社ノ引受ケタル保險ノ再保險ヲ爲ス等ノ方法ニ依リマシテ、實質的ニ國家ノ責任ニ於テ、保險制度ノ效用ヲ保持シ、以テ貿易、海運ノ保護其ノ他ニ遺憾ナキヲ期スルコトハ、多數ノ國ニ於テ採用セラルル方策デアリマシテ、我國ニ於キマシテモ、既ニ第一次歐洲大戰當時、戰時海上再保險法ノ制定ニ依リマシテ實施シタ所デアリマス、近時我國ノ民營損害保險事業ハ、國力ノ發展ト保險思想ノ普及トニ依リマシテ、逐年顯著ナル發展ヲ遂ゲ來ッテ居ルノデアリマスガ、昨年九月歐洲大戰ノ勃發ニ際會スルニ至リマシテ、海上危險ノ急激ナル上昇ハ、歐洲向其ノ他ノ海上保險料ヲ著シク昂騰セシメマシタルノミナラズ、延イテハ保險ノ引受ニモ相當ノ不安ヲ感ズルノ情勢ニ立至ッタノデアリマス、而シテ斯ル情勢ヲ放置致シマスル時ハ、我國ノ貿易海運ニ支障ヲ來スヤウナ虞モ感ゼラレマシタノデ、政府ニ於キマシテハ、應急ノ措置トシテ、第一次歐洲大戰當時ノ例ニ倣ヒマシテ、戰時海上保險補償制度ヲ實施シ、之ニ依ッテ當業者ノ損失ヲ補償スル一方、比較的低廉ナル料率ヲ以テ保險ノ引受ヲ確保シ、以テ貿易、海運ノ遂行ニ對スル障碍ノ除去ヲ圖リ、今日ニ立至ッタノデアリマス、併シナガラ此ノ補償制度ハ、固ヨリ臨時應急ノ措置タルニ止マリマスル關係上、帝國議會ノ開會ヲ待ッテ、速急ニ之ヲ更ニ有效適切ナル制度ニ引直サナケレバナラヌト云フコトハ、當初ヨリ政府ノ考ニ入レテ居タ所デアリマシテ、是ガ爲保險會社ノ引受クル損害保險ノ再保險國營ヲ行ハントスルノガ、本法提案ノ主タル理由トスル所デアリマス、以上述ベマシタ如キ必要ハ、戰時ニ於テ最モ痛感セラルルモノデハアリマスルガ、其ノ外戰時ニ準

ズベキ變亂ノ場合、或ハ戰爭ノ終了後ト雖モ、事態ガ平靜ニ復スルマデノ間ニ於キマシテハ、戰爭ノ場合ト同樣、依然トシテ國際情勢ノ緊迫等ノ爲、保險會社ノ外國再保險取引ヲ困難トシ、或ハ之ヲ不適當トスル場合ガ豫測セラレマスルノデ、是等ノ場合ニ於キマシテモ、必要ニ應ジ再保險ノ國營ヲ行フコトニ依リマシテ、保險ノ引受ニ支障ナカラシメ得ルヤウ、豫メ其ノ根據ヲ設ケ置カントスルノガ、併セテ本法提案ノ理由トスル所デアリマス、尙又戰爭、變亂其ノ他ノ非常時局ニ於キマシテ、常ニ此ノ制度ノ必要ヲ生ジマスルコトハ、過去ノ經驗ニ徵シテ明カデアリマスルカラ、本法ハ其ノ都度必要ニ應ジ、何時ニテモ發動シ得ルヤウ、恆久的ノ制度トシテ之ヲ立案シタ次第デアリマス、本法ノ制定ニ依リマシテ、戰爭其ノ他ノ場合ニ於ケル保險制度ノ效用ニ遺憾ナカラシメ、以テ國民生活ノ安定竝ニ貿易、海運其ノ他國民經濟ノ運行ヲ圓滑ナラシムル上ニ、資スル所ガ少クナイデアラウト信ズル次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十一日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同月十二日議事日程ノ順序ヲ變更シ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上知治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ損害保險國營再保險法案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ戰時其ノ他特別ノ場合ニ於テ、政府ガ保險會社ノ引受ケタル損害保險ノ再保險ヲ行フコトヲ目的トスルモノデアリマス、即チ戰時ニ於テハ危險ガ著シク增加シ、且ツ其ノ測定ガ甚ダ困難デアリマスカラ、保險會社ノ獨力ヲ以テシマシテハ、勢ヒ保險料ノ暴騰又ハ其ノ引受ノ困

難ヲ免レナイ、故ニ國家ノ責任ニ於テ保險料ノ昂騰ヲ抑制スルト共ニ、保險ノ引受ヲ確保シ、以テ戰時ニ必要ナル貿易海運ノ遂行其ノ他ニ遺憾ナキヲ期セントスルノガ、本案ノ第一ノ目的デゴザイマス、更ニ我國ノ保險會社ガ、國內ニ於テ引受ケタル損害保險ノ中、相當ノ部分ヲ外國ノ保險業者ニ再保險ヲ付スルコトニ依リマシテ、國際的ニ危險ノ分散ヲ圖ッタ次第デアリマスルガ、戰時其ノ他ノ場合ニ國際的關係、或ハ相手國ノ國內事情等ニ依リマシテ、外國トノ再保險取引ニ支障ヲ生ジタル場合ニ於テ、外國ノ保險業者ニ代リマシテ、政府ガ再保險ヲ行フコトニ依リマシテ、國內ノ保險ノ引受ニ支障ナカラシメントスルノガ、第二ノ目的デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、前後四回ニ亙リマシテ愼重ニ論議ヲ重ネマシタガ、今其ノ內容ノ主ナルモノ二三點ニ付申上ゲタイト思フノデアリマス、第一ニ本法ニ依ッテ國營ノ再保險ヲ行フ損害保險ノ種類如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ差當リ實施セントスルノハ、昨年十一月以降、戰時海上保險補償制度ヲ行ッテ居ル所ノ、戰爭危險ニ對スル海上保險デアッテ、目下ノ所ソレ以外ノ保險ニ付テハ、之ヲ行フ意思ガナイトノ御答辯デアリマシタ、第二ニ外國再保險取引ニ支障ヲ生ジタル場合、一般損害保險ニ付キマシテモ、政府ガ再保險ヲ行フ結果、保險會社ノ事業ヲ不當ニ壓迫スル虞ハナイカトノ質問ニ對シマシテ、政府ハ本法ハ保險會社ノ力ノ及バザル場合、國家ノ力ニ依リマシテ之ヲ補ヒ保險制度ノ效用ヲ發揮スルコトヲ目的トスルモノデアリマスカラ、保險國營ハ、此ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限度ニ限ルコトハ、固ヨリ當然ノコトデアリマシテ、是ガ爲保險會社ノ本來ノ事業ニ不當ノ壓迫ヲ加ヘル虞ハナイ、之ヲ要シマスルニ、本法ノ實施ハ第一條前段、即チ戰時再保險ヲ行フコトヲ、其ノ第一主眼ト致シマシテ、其ノ後段、即チ普通保險ハ極メテ稀ノ場合タル萬一ニ豫メ具ヘタモノデアルトノ、政府ノ答辯ガアッタノデアリマス、第三ニ戰爭危險ニ付テ再保險ヲ行フ場合、其ノ保險料率ノ基準ヲ何處ニ置クヤトノ質問ニ對シマシテハ、政府ハ現在ニ於テハ各國共此ノ種制度ヲ實施シマシテ、極力戰爭保險料ノ低下ニ努力致シテ居リマスガ、本制度實施ノ目的ニ鑑ミマシテ、各國ノ中デモ最モ低料率ヲバ目標トシマシテ、戰爭保險料率ノ低下ニ努ムルトノ答辯ガアッタノデアリマス、

斯クシマシテ質疑ヲ終リ、討論ニ移リマシテ、各派委員ヲ代表シマシテ民政黨ノ古田委員カラ、是カラ申上ゲマスル論旨ノ開陳ガアリマシタ、卽チ本法ハ國際關係ノ變局ニ際シ、損害保險事業ノ圓滑ナル運行ヲ期スル爲、必要ナル事業タルヲ認メマスルケレドモ、特ニ以下ノ四項目ニ付キマシテ、政府ノ御留意ヲ仰ギタイト云フ前提ノ下ニ、一、再保險制度ニ依ツテ民間業者ヲ壓迫セズ、殊ニ多年ノ商習慣ヲ尊重サレタキコト、二、第十二條ノ命令ヲ發動スル場合ニハ、委員會ニ諮問スルハ勿論、委員會ニハ民間ノ專門家ヲ多數參加セシメ、其ノ運用ニハ萬遺憾ナキヲ期スルコト、三、政府ガ言明スルガ如ク、保險料率ハ民間會社ノ企圖シ得ザル低料率タルベキコト、四、關係各省トノ交涉ハ十分是ガ折衝ヲ遂ゲ、以テ保險資金ノ擴充ヲ期スルコト、斯クシマシテ討論ヲ終リ、採決ノ結果、滿場一致ヲ以テ可決セラレタノデアリマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日可決奏上ス

三月三十日法律第七十一號ヲ以テ公布セラル

八三　有機合成事業法案

有機合成事業法

第一條　本法ハ國防ノ整備及產業ノ發達ヲ期スル爲本邦ニ於ケル有機合成事業ノ確立ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條　本法ニ於テ有機合成事業ト稱スルハ勅令ヲ以テ定ムル有機合成品ノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

第三條　有機合成事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル有機合成事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本法ニ定ムルモノノ外前項ノ許可ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式會社ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條　第三條ノ許可ヲ受ケタル會社（有機合成事業會社）ハ政府ノ指定スル期間內ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

有機合成事業會社前二項ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第三條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　有機合成事業會社其ノ設備ヲ增設シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

第七條　勅令ヲ以テ指定スル有機合成事業（指定有機合成事業）ヲ營ム有機合成事業會社政府ノ認可ヲ受ケ勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ於テ政府ノ指定スル時期迄ニ勅令ヲ以テ定ムル設備ヲ新設シ又ハ增設シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ新設シ又ハ增設シタル設備ヲ以テ營ム指定有機合成事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス

前項ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ガ各事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ相當スル所得又ハ純益ニ付テハ同項ノ規定ヲ適用セズ但シ設備完成ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ新設シ又ハ增設シタル設備ヲ以テ營ム指定有機合成事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ資本金額ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ有機合成事業會社其ノ設備ノ完成前其ノ一部ヲ以テ指定有機合成事業ヲ營ム場合ニ於テモ其ノ事業ニ付所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除ス但シ同項ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル時期迄ニ設備ヲ完成セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條　北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ヲ免除セラレタル有機合成事業會社ニハ同條第二項ノ規定ニ依リ賦課セラレタル營業稅ノ附加稅ヲ除クノ外其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　第七條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クベキ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムベキ事實アル者ハ前事業者ガ同條ノ規定ニ依ル所得ニ對スル法人稅及營業稅免除期間内ニ在ルトキハ其ノ期間ヲ承繼ス

第十條　指定有機合成事業ヲ營ム有機合成事業會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具又ハ機械ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ勅令ヲ以テ定ムル期間内勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス

第十一條　有機合成事業會社ノ營ム有機合成事業ニシテ勅令ヲ以テ定ムルモノハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第十二條　政府ハ有機合成事業會社ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造シタル有機合成品ニ付豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十三條　詐欺ノ行爲ヲ以テ前條ノ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

前項ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第十四條　有機合成事業會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法第二百九十七條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル純財産額ガ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル純財産額ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條　有機合成事業會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

有機合成事業會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條　有機合成事業會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　政府ハ有機合成事業會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ有機合成事業會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ有機合成事業會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十八條　政府公益上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ有機合成品ノ製造又ハ販賣ニ關シ有機合成品ノ需給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

政府公益上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張若ハ改良又ハ製造方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十九條　政府軍事上必要アリト認ムルトキハ有機合成事業會社ニ對シ有機合成品ノ製造ニ關

スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十條　第十八條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍內ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十一條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル有機合成品ノ製造ニ關スル研究又ハ試驗ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付スルコトヲ得

第十三條ノ規定ハ前項ノ奬勵金ニ之ヲ準用ス

第二十二條　勅令ヲ以テ定ムル有機合成品又ハ之ト同一若ハ類似ノ性狀ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ガ有機合成事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ當該物品ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條　勅令ヲ以テ定ムル有機合成品又ハ之ト同一若ハ類似ノ性狀ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ニ因リ有機合成品ノ市價ノ低落ヲ來シ有機合成事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調査委員會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ關稅定率法別表輸入稅表ニ定ムル輸入稅ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入稅ヲ課スルコトヲ得

第二十四條　政府第三條若ハ第六條ノ許可、第十八條ノ規定ニ依ル命令、第二十條ノ規定ニ依ル補償金額ノ決定又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外有機合成事業委員會ノ議ヲ經ベシ

有機合成事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條　有機合成事業會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第三條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ有機合成事業ヲ營ミタル者

二　第二十二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ有機合成品又ハ之ト同一若ハ類似ノ性狀ヲ有シ且之ト同種ノ用途ヲ有スル物品ノ輸入ヲ爲シタル者

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ設備ヲ增設シ又ハ變更シタル者

二　第十五條第一項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ

又ハ休止シタル者

三　第十六條第一項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ屆出ヲ爲サズ又ハ屆出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

四　第十六條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

五　第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十八條　第十七條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

二　第十七條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第三十條　當該官吏又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第二十六條乃至第二十八條又ハ第二十九條第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十二條　第二十六條乃至第二十八條及第二十九條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ有機合成事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ增設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ有機合成事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

右ハ昭和十五年三月一日本院ニ提出ス同月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤商工政務次官ハ左ノ趣

旨辯明ヲ爲ス

最近ノ我國化學工業ノ躍進ハ目覺シイモノガアルノデアリマスガ、「アセチレン」瓦斯及ビ水性瓦斯ヲ原料トスル有機合成事業ニ關スル技術ノ進歩ハ、特ニ見ルベキモノガアルノデアリマス、是等有機合成事業ハ、比較的近年ノ發達ニ係ルモノデアリマスガ、其ノ範圍ハ極メテ廣汎多岐ニ亙ツテ居リ、將來化學工業ノ一重要部門トシテ、大イナル發展ヲ期待サレテ居ルノデアリマシテ、天然資源ニ乏シイ我國ニ於キマシテハ、是等有機合成事業ノ中、醋酸「アセトン」、「ブタノール」、「メタノール」等ノ製造事業ハ、現在既ニ企業化ヲ見テ居ルノデアリマシテ、事變以來著シク需要ノ增加ヲ來シマシタ爲ニ、急速ナル生產擴充ノ必要ニ迫ラレテ居ル實情ニアルノデアリマスルガ、未ダ其ノ基礎ハ十分確立致シテ居ルモノトハ申サレナイノデアリマス、又最近論議セラレテ居リマスル合成護謨ヲ初メトシ、優秀ナル性能ヲ有スル航空機燃料ノ原料トナル所ノ高級「アルコール」類、爆藥、染料、醫藥等ノ重要原料タル「ベンゾール」及ビ「トルオール」金屬、硝子、天然樹脂等ニ代リ、特殊ナ性質ヲ具備スル各種合成樹脂等ノ製造ニ付キマシテモ、略ゞ其ノ基礎研究ヲ完成致シマシテ、近ク企業化ノ域ニ到ラントシテ居ルノデアリマシテ、更ニ今後「ナイロン」ノ如キ合成纖維其ノ他新ナル有機合成品ノ出現ガ、大イニ期待セラレル次第デアリマス、斯ノ如ク有機合成品ニハ、國防上、產業上必要不可缺ノ物資ガ多々アルノデアリマシテ、隨テ是等有機合成事業ノ振興ハ、直ニ刻下ノ急務デアルト考ヘラレルノデアリマス、而モ是等有機合成品ハ、其ノ製造工程ニ於キマシテ、相互ニ密接ナル關聯ヲ有シテ居リマスルガ故ニ、合成護謨、合成「トルオール」、合成纖維等、新シキ合成事業ノ企業化ヲ促進致シマスルト共ニ、醋酸、「アセトン」、「ブタノール」、「メタノール」等ノ合成事業ヲモ併セマシテ、是ガ綜合的發達ヲ圖ルコトハ、極メテ重要且ツ緊切ナルモノアリト存ズル次第デアリマス、而シテ是等有機合成事業ニ於キマシテハ、特ニ複雜高度ノ技術ガ必要デアリマシテ、合成技術、製造裝置等ニ涉リ、幾多ノ研鑽ヲ要シマスルノミナラズ、是ガ企業化ニ當リマシテハ、多額ノ資金ヲ必要ト致シマスルノデ、少クトモ事業ノ初期ニ於キマシテハ、採算的ニ有利ナモノトハ認メラレナイノデアリマス、隨テ國家ガ十分ナ保護ヲ與フルト共ニ、必要ナル指導ト統制ヲ加ヘテ參ラナケレバ、到底所期ノ發達ハ望ミ得ナイト考ヘラレルノデアリマシテ、今回提案致シマシタ次第デアリマス、本法律案ノ大要ハ、重要ト認メラルル有機合成事業ヲ許可事業ト致シ、無統制ナル企業ノ濫設ヲ防止シ、技術的ニモ企業的ニモ能力アル者ニ事業ヲ營マシムルト共ニ、所期ノ生產ヲ遂行セシムルコトニ努ムルコト、國家的ニ特ニ重要ナル有機合成品ニシテ、未ダ其ノ製造ノ企業化セラレザルモノニ對シテハ、豫算ノ範圍內ニ於テ製造試驗費ノ補助、製造奬勵金ノ交付ヲ行ヒ得ル途ヲ開クト共ニ、是等ノ事業ニ付テハ稅金ノ免除ヲ爲スコト、必要アル場合ニ於テハ、斯業ノ確立ヲ妨グル虞アル物品ノ輸入ヲ制限シ、且ツ之ニ對シ關稅ノ增課ヲ爲シ得ルノ途ヲ開クコト等デアリマス、何卒十分御審議ノ上御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出鑛業法中改正法律案外一件委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及**六二**、**六三**ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本項第**六三**參看）

先ツ**六二**ノ審議ヲ爲シ次テ院議異議ナク本案及**六三**ノ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十二日本案ヲ可決奏上ス

四月四日法律第九十六號ヲ以テ公布セラル

自動車交通事業法中左ノ通改正ス

第一章中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ、「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者」ニ改ム

第一條中「又ハ物品」ヲ削ル

第四條ノ二　旅客自動車運輸事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅客ノ運送ニ附隨シテ物品ヲ運送スルコトヲ得

第八條　削除

第十條第一項第三號ヲ左ノ如ク改ム

三　他ノ運送事業者ト設備ノ共用、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲サシムルコト

第十三條ノ二　旅客自動車運輸事業ノ管理ノ委託及受託ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ管理ノ受託ハ旅客自動車運輸事業者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ管理ノ委託及受託ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條第七號ヲ削ル

第十六條　第四條第一項、第四條ノ二、第七條、第十條（第一項第二號、第三號及第五號ヲ除ク）及第十一條乃至第十三條ノ規定ハ旅客自動車運輸事業ニ非ズシテ一般ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ旅客ヲ運送スル事業（旅客自動車運送事業）ニ之ヲ準用ス但シ第四條第一項、第七條、第十條、第十二條及第十三條中主務大臣トアルハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス）トシ第十條第一項第四號中路線トアルハ主タル事業區域トス

本法ニ規定スルモノノ外免許ノ失效、免許ノ全部又ハ一部ノ取消、事業ノ全部又ハ一部ノ停止其ノ他旅客自動車運送事業ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

旅客自動車運輸事業又ハ旅客自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ旅客ヲ運送スル事業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章ヲ第四章トシ以下順次二章宛繰下グ

第二章　貨物自動車運送事業

第十六條ノ二　本法ニ於テ貨物自動車運送事業トハ一般ノ需用ニ應ジ自動車ヲ使用シテ物品ヲ

運送スル事業ヲ謂フ

第十六條ノ三　貨物自動車運送事業ヲ經營セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ定メ主務大臣又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監トス以下本章中之ニ同ジ）ノ免許ヲ受クベシ

第十六條ノ四　貨物自動車運送事業經營ノ免許ヲ受ケタル者ハ主務大臣又ハ地方長官ノ指定スル期間內ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

天災其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ノ期間內ニ事業ヲ開始スルコト能ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ハ期間ヲ伸長スルコトヲ得

第十六條ノ五　事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ニ專用自動車道ヲ開設セントスル者ハ工事方法ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ工事方法ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ專用自動車道ノ工事方法ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ六　主務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ左ニ揭グル事項ヲ命ズルコトヲ得

一　運賃其ノ他ニ關スル事業計畫ヲ變更セシムルコト

二　他ノ運送事業者ト設備ノ共用、連絡運輸、運賃協定其ノ他運輸ニ關スル協定ヲ爲サシムルコト

三　全部又ハ一部ノ事業區間又ハ主タル事業區域ヲ共通ニスル數人ノ貨物自動車運送事業者アル場合ニ共同經營ヲ爲サシムルコト

四　物品ノ運送ニ關スル損害ニ付保險ニ付セシムルコト

五　前各號ノ外事業ノ改善ヲ爲サシムルコト

前項第二號及第三號ノ場合ニ於テ其ノ實施方法又ハ各事業者ノ收得シ若ハ負擔スベキ金額ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣又ハ地方長官之ヲ裁定ス

第十六條ノ七　政府ハ貨物自動車ノ整備ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ貨物自動車運送事業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十六條ノ八　第七條（專用自動車道ノ工事方法ノ變更ニ關スル部分ヲ除ク）、第九條、第十一條乃至第十四條及第十五條第六號ノ規定ハ貨物自動車運送事業ニ之ヲ準用ス但シ第七條、第十一條第三項ニ於テ準用スル第十條第二項及第十二條乃至第十四條中主務大臣トアルハ主務大臣又ハ地方長官トス

第十六條ノ九　貨物自動車運送事業ニ非ズシテ自動車ニ依リ物品ヲ運送スル事業及自動車ニ依ル物品運送ノ運送取扱業又ハ運送代辨業ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會

第十六條ノ十　旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業又ハ貨物自動車運送事業（以下自動車運送事業ト總稱ス）ノ事業者ハ各其ノ事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲自動車運送事業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ事業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

自動車運送事業組合ハ法人トス

第十六條ノ十一　自動車運送事業組合ハ左ニ掲グル事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ事業ニ必要ナル物ノ購入、共同設備ノ設置其ノ他組合員ノ事業ニ關スル共同施設

二　運賃、運輸其ノ他組合員ノ事業ニ關スル統制

三　組合員ノ事業ニ關スル指導、研究及調査

四　前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シ其ノ事業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ事業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十六條ノ十二　自動車運送事業組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第十六條ノ十第一項但書ノ場合ニ於テハ各事業毎ニ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザル場合ト雖モ特別ノ事由アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ開クコトヲ得

第十六條ノ十三　主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ自動車運送事業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ十四　自動車運送事業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條ノ十五　第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第十六條ノ十六　自動車運送事業組合ノ定款ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ但シ第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號、第十六條ノ二十第三項ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合ニ在リテハ第七號乃至第九號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一　目的
二　名稱
三　地區
四　事務所ノ所在地
五　組合員タル資格ニ關スル規定
六　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定
七　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
八　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定
九　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法
十　組合員ノ權利義務ニ關スル規定
十一　事業及其ノ執行ニ關スル規定
十二　役員ニ關スル規定
十三　會議ニ關スル規定
十四　會計ニ關スル規定
十五　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第十六條ノ十七　自動車運送事業組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事ハ組合ノ業務ニ付組合ヲ代表ス
監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス
理事ト監事トハ相兼ヌルコトヲ得ズ
組合ト理事ト利益相反スル事項ニ付テハ監事組合ヲ代表ス
理事缺ケタルトキハ監事其ノ職務ヲ行フ但シ其ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十六條ノ十八　左ニ掲グル事項ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

一　定款ノ變更
二　收支豫算及經費ノ分賦收入方法

三　財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ノ承認
四　第十六條ノ二十四ノ規程ノ制定及變更
五　自動車運送事業組合聯合會ノ設立、加入及脫退
六　役員ノ選任及解任
七　合併及解散

前項第一號、第四號、第六號及第七號ニ揭グル事項ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十六條ノ十九　組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第十六條ノ二十　組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ增加スルコトヲ得

第十六條ノ十一第一項第一號及第二項ノ事業ヲ行ハザル組合ニ在リテハ第一項ノ規定ニ拘ラズ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第十六條ノ二十一　第十六條ノ十三ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合ハ左ニ揭グル事項ヲ爲スコトヲ得ズ

一　第十六條ノ十一第一項第一號及第二項ノ事業ヲ行フコト
二　組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコト
三　合併ヲ爲スコト

第十六條ノ二十二　自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ニ對シ經費ヲ分賦シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十六條ノ二十三　組合員ノ責任ハ前條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス自動車運送事業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第十六條ノ二十四　自動車運送事業組合ハ組合員ノ事業ノ統制ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ定ムベシ

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十五　主務大臣ハ自動車運送事業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ必要ナル事

業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十六　主務大臣ハ自動車運送事業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ノ組合員又ハ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條ノ二十七　主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルキトハ第十六條ノ二十第三項ノ規定ニ依ル自動車運送事業組合ノ地區內ニ於テ其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得但シ其ノ組合ノ組合員數ガ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ數ノ三分ノ二以上ナル場合ニ限ル

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ組合ノ地區內ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ノ組合員トス

第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル自動車運送事業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條ノ二十八　政府ハ自動車運送事業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第十六條ノ二十九　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合ニ對シ定款、收支豫算又ハ經費ノ分賦收入方法ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條ノ三十　自動車運送事業組合ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲シタル處分若ハ定款ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消

二　役員ノ解任

三　事業ノ停止

四　解散

第十六條ノ三十一　自動車運送事業組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルベキ總代會ヲ設クルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ合併及解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條ノ三十二　自動車運送事業組合聯合會ハ所屬ノ自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

自動車運送事業組合聯合會ハ法人トス

第十六條ノ三十三　自動車運送事業組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第十六條ノ三十四ニ於テ準用スル第十六條ノ十三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十六條ノ三十四　自動車運送事業組合ニ關スル規定ハ第十六條ノ二十八及第十六條ノ三十一ノ規定ヲ除クノ外自動車運送事業組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十六條ノ十一中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第十六條ノ三十五　主務大臣ハ自動車運送事業ノ統制ヲ徹底ノ期スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ニ對シ他ノ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ト運賃ノ統制其ノ他事業ノ實施ニ關シ協定ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ運賃、事業ノ實施方法其ノ他必要ナル事項ニ付協議調ハザルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十六條ノ三十六　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十六條ノ三十七　本法ニ規定スルモノノ外自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ノ管理、合併、解散、淸算其ノ他組合及聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ三十八　自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會ニハ所得稅、法人稅及營業稅ヲ課セズ

第十七條中「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者（事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ事業者ニ限ル以下本章中之ニ同ジ）」ニ改ム

第二十二條及第三十一條中「又ハ自動車運輸事業者」ヲ「、旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者」ニ改ム

第二十七條中「其ノ事業ニ屬スル一般自動車道ノ全部又ハ一部ノ供用」ヲ「其ノ事業ノ全部又ハ一部」ニ改ム

第三十條第四號中「一般自動車道ノ供用」ヲ「事業」ニ改メ同條第五號ヲ削ル

第三十三條中「自動車道事業及自動車運輸事業ノ兼營」ヲ「自動車道事業ト自動車運送事業トノ兼營」ニ改ム

第三十四條中「又ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム、以下同ジ）」ヲ「、地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム、以下之ニ同ジ）又ハ鐵道局長」ニ、「自動車運輸事業者」ヲ「自動車運送事業ノ事業者、自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

監査員其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第三十五條中「地方長官」ノ下ニ「又ハ鐵道局長」ヲ加フ

第三十六條中「又ハ地方長官」ヲ「、地方長官又ハ鐵道局長」ニ改ム

第三十七條第一項中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、「第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、」ヲ「第四條ノ二、會計ニ關スル部分ヲ除キタル第九條（第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十六條ノ二」ニ、同條第二項中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、「第九條（會計ニ關スル規定ヲ除ク）、」ヲ「第四條ノ二、會計ニ關スル部分ヲ除キタル第九條（第十六條ノ八ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十六條ノ二」ニ、同條第三項中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ、同條第三項中「自動車運輸事業ヲ經營シタル爲之ト路線ヲ共通ニスル自動車運輸事業者ガ其ノ區間ニ付」ヲ「旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ヲ經營シタル爲之ト路線又ハ事業區間ヲ共通ニスル旅客自動車運輸事業者又ハ貨物自動車運送事業者ガ其ノ部分ニ付」ニ、「殘存路線ヲ殘存路線又ハ殘存事業區間」ニ改ム

第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第二項中「自動車運輸事業及自動車道事業」ヲ「第一項ニ揭グル事業」ニ改ム

旅客自動車運輸事業、旅客自動車運送事業、貨物自動車運送事業又ハ自動車道事業ヲ營ム株式會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲旅客自動車運輸事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル自動車道事業ニ在リテハ其事業ノ「全部又ハ一部ニ付、旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ニ在リテハ其ノ事業ノ」全部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得

前項ニ揭グル株式會社自動車交通事業財團ヲ設定セントスルトキハ當該株式會社ニ屬シ且其ノ事業ニ關スル自動車ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ登錄ヲ受クベシ自動車交通事業財團設定後新ニ其ノ財團ノ所有者ニ屬シ又ハ其ノ事業ニ關スルニ至リタル自動車ニ付亦同ジ

第三十九條中「同一自動車運輸事業者又ハ同一自動車道事業者」ヲ「同一ノ旅客自動車運輸事業

者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者又ハ自動車道事業者」ニ、「自動車運輸事業ノ爲登錄ヲ受ケタル」ヲ「前條第二項ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケタル」ニ改ム

第四十條中「自動車運輸事業ノ爲ニ」ヲ削ル

第四十一條　第三十八條第一項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ニ付自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニ於テハ旅客自動車運輸事業ニ在リテハ獨立ノ路線ニ付、事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ニ在リテハ獨立ノ事業區間ニ付、自動車道事業ニ在リテハ獨立ノ一般自動車道ニ付之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　同一事業者ガ第三十八條第一項ニ揭グル事業ノ二以上ヲ兼營スル場合ニ於テハ此等ノ事業ノ中二以上ノ事業ニ關スルモノヲ合シテ一個ノ自動車交通事業財團ヲ設定スルコトヲ得但シ此等ノ事業ノ何レカニ付自動車交通事業「財團ノ設定アリタル後ハ其ノ事業」ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ事業者ガ自動車道事業ト其ノ他ノ事業トニ付各別ニ自動車交通事業財團ヲ設定スル場合ニハ一般自動車道ノ敷地其ノ他專ラ自動車道事業ニ關スルモノハ他ノ事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ屬スルコトナシ

第四十四條、第四十八條、第五十條及第五十一條中「自動車運輸事業又ハ自動車道事業」ヲ「第三十八條第一項ニ揭グル事業」ニ改メ同號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

二ノ二　事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル事業區間ノ表示

二ノ三　旅客自動車運送事業又ハ事業區間ヲ定メザル貨物自動車運送事業ノ爲ノ自動車交通事業財團ニ在リテハ其ノ事業ノ行ハルル事業區域ノ表示

第四十九條第二項中「自動車運輸事業又ハ自動車道事業」ヲ「第三十八條第一項ニ揭グル事業」ニ改メ「主務大臣」ノ下ニ「又ハ地方長官」ヲ加フ

第五十二條中「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自動車運送事業者」ニ、「本法ニ基キテ爲シタル處分」ヲ「本法ニ基キテ爲シタル處分（第十六條ノ十三第一項ノ規定ニ基キテ爲シタル處分ヲ除ク）」ニ、「第八條ノ規定ニ依ル登錄ヲ受ケザル自動車ヲ自動車運輸事業ノ用ニ供シタルトキ又ハ自動車ニ付」ヲ「第三十八條第二項ノ規定ニ依ル自動車ノ登錄ニ付」ニ改ム

第五十三條中「自動車運輸事業者」ヲ「旅客自動車運輸事業者、旅客自動車運送事業者、貨物自

動車運送事業者」ニ改ム

第五十五條中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

第五十八條　自動車運送事業組合「又ハ自動車運送事業組合」聯合會ノ理事、監事、假理事又ハ清算人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十九條　前條第一項ニ揭グル者ニ對シ賄賂ヲ交付シ、提供シ又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第六十條　左ノ場合ニ於テハ自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ノ理事、監事、假理事又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二　本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ監査員ノ監査ヲ妨ゲ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

三　法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

四　組合又ハ聯合會ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

五　第十六條ノ三十六ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

六　第十六條ノ三十七ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキ

附　則

第一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　從前ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ自動車交通事業財團登記簿ニ登記セラレタル事項ニ付變更アリタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ依リテ變更ノ登記ヲ爲スベシ

第三條　本法施行ノ際現ニ存スル商業組合又ハ商業組合聯合會ニシテ從前ノ第一條ノ自動車運輸事業又ハ從來ノ第十六條ノ運送事業ノ事業者ノミヲ其ノ組合員又ハ其ノ所屬ノ組合ノ組合員若ハ其ノ所屬ノ聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員トスルモノハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依ル自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會ト爲リタルモノトス

前項ノ場合ニ於テ登記其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本法施行前從前ノ規定ニ依リテ處罰スベカリシ行爲ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五條　小運送業法第一條中「鐵道、軌道若ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道又ハ軌道」ニ、「鐵道、軌道又ハ自動車運輸事業」ヲ「鐵道又ハ軌道」ニ改ム

第六條　陸上交通事業調整法第一條中「自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業」ニ改ム

第七條　帝國鐵道會計法中左ノ通改正ス

第三條中「又ハ自動車運輸事業」ヲ「旅客自動車運輸事業又ハ事業區間ヲ定ムル貨物自動車運送事業」ニ改ム

第七條中「及地方鐵道補助金」ヲ「、地方鐵道補助金及自動車運送事業補助金」ニ改ム

第八條　商工組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第一條中「及貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第三條第一項中「貿易組合聯合會」ノ下ニ「、自動車運送事業組合聯合會」ヲ加ヘ同條第三項及第四項中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第七條及第二十九條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「、貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第二十七條中「及貿易組合」ヲ「、貿易組合及自動車運送事業組合」ニ改ム

第二十八條中「貿易組合聯合會、」ノ下ニ「自動車運送事業組合、自動車運送事業組合聯合會、」ヲ加フ

第九條　登錄稅法第十九條中「又ハ肥料製造業組合」ヲ「、肥料製造業組合、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ、「又ハ重要肥料業統制法」ヲ「、重要肥料業統制法又ハ自動車交通事業法」ニ改ム

第十條　印紙稅法第四條中「又ハ貿易組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會、自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會」ニ改ム

第十一條　特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條中第七號ヲ第八號トシ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七　自動車運送事業組合又ハ自動車運送事業組合聯合會（所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク）

第六條中「及蠶絲共同施設組合」ヲ「、蠶絲共同施設組合及自動車運送事業組合」ニ改ム

右ハ昭和十五年三月一日本院ニ提出ス同月二日本案ノ第一讀會ヲ開キ松野鐵道大臣ハ左ノ趣旨辯

明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ自動車交通事業法中改正法律案提出ノ理由ヲ申上ゲマス、自動車ニ依ッテ旅客貨物ヲ運送スル事業ガ、産業上將又國民生活上、極メテ重要ナ役割ヲ有シテ居リマスコトハ、改メテ申上ゲルマデモナイ所デアリマスガ、事變勃發以來、或ハ生産力擴充、或ハ物價政策、更ニ又國防强化等ノ見地カラ致シマシテ、自動車運送事業、就中貨物自動車運送事業ノ發達ヲ圖ルコトハ、目下ノ急務デアルト信ズルノデアリマス、仍テ現行自動車交通事業法ヲ一部改正致シマシテ、自動車運送事業ノ健全ナル發達ヲ促進シタイト考ヘマシテ、本改正法律案ノ要點ニ付テ申上ゲマスルニ、第一ニ貨物運送事業ノ區分ヲ實情ニ合フヤウニ改メタノデアリマス、次ニ自動車運送事業組合ノ制度ヲ新ニ設ケマシテ、之ニ依リ事業者ノ利益ノ增進竝ニ運賃輸送等ノ適正ヲ圖ラシムルコトトシタノデアリマス、第三ニハ自動車交通事業抵當ノ制度ヲ擴張シテ、自動車運送事業ノ全般ニ及ボスコトト致シマシタ、第四ニ貨物自動車運送事業者ニ對シ補助金ヲ交付シ得ルコトト致シタノデアリマス、以上申上ゲマシタル事項ノ外、現行法ノ不備トスル諸點ニ付キ改正スルコトト致シマシテ、此ノ改正法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致ス次第デアリマス

山田清君及小串清一君質疑ヲ爲シ松野鐵道大臣、加藤商工政務次官及竹内企畫院總裁應答ス

山田清君ノ質疑

私ノ質問ハ出來ルダケ縮メマシテ、大體四ツニ纏メテ、其ノ要點ヲ御伺致シタイト考ヘマス、第一點ハ、是ハ總理大臣若クハ企畫院總裁カラ御答ヲ願ヒタイ、自動車事業ノ重要性ニ鑑ミ、行政機構ノ統一ヲ爲ス考ガアルカ、第二點ハ、是ハ鐵道大臣及ビ商工大臣兩方面カラ御答ヲ願ヒタイ、自動車自給自足ノ根本方針ニ付テデアリマス、第三點ハ、是ハ商工大臣ニ御尋ヲスルト共ニ、更ニ鐵道大臣カラ御答ガ願ヘルノデハナイカト思フ、現在ノ國情ニ對シ自動車事業ノ應急對策如何、第四點ハ、是ハ鐵道大臣、本法案ニ依ル統制ハ商業組合統制カ或ハ其ノ他ノ組合統制カ、其ノ運用ニ當ッテ官僚獨善ニ陷ラナイ確信ガアルカ、此ノ四點デアリマス、自動車事業ハ只今鐵道大臣ヨリ御說明ニ相成リマシタ通リ、國防上ノ點カラ、又產業上ノ點カラ、運輸ノ各方面ノ點カラ見マシテ、營利事業デナイト云フコトハ、是ハハッキリ致シテ居リマス、卽チ公益事業トシテ極メテ重要性ヲ持ッテ居ルノデアルカラ、國家トシテハ是ガ發達ニハ保護助長ノ政策ヲ執ルノガ本當デアル、然ルニ保護助長政策ニ對シテハ甚ダ徹底シテ居ラナイ、ノミナラズ今日マデ自動車事業ノ發達ニ關シテハ、寧ロソレヲ阻碍スベキ幾多ノ惡イ條件ノミガアッタ、例ヘバ本事業ノ主ナル燃ノ現狀デアル、自動車國策ヲ樹立シテ自給自足ヲ圖ルコトハ、極メテ是ハ困難ナ仕事デアル、隨テ是ガ重要性ヲ考ヘテ保護助長政策ヲ執ラネバナラナイガ、此ノ方針ヲ確立シテ國策ヲ樹立スルニハ、ドウ云フ觀點カラ考ヘテ見タラ宜シイカ、此ノ點ニ於テ第一ニ考ヘルコトハ、現在ノ行政ノ狀態デハ果シテドウデアルカ、洵ニ是ハ區々雜多デアル、譬ヘテ申シマスルナラバ自動車ノ製造事業ニ關シテハ商工省ガ扱ッテ居ル、交通其ノ他ノ取締ニ付テハ內務省及ビ地方廳ガ扱ッテ居ル、稅制問題ハ勿論大藏省デアル、運輸事業ノ監督ハ鐵道省デアル、殊ニ各府縣ノ警察ニ委任セラレテ居ル所ノ運輸事業ノ大部分ノ取締ニ於テハ、取締偏重デアッテ、保護助長ハ始ド見ルベキモノガナイト云フ實情デアル、殊ニ其ノ取締ノ細則ノ如キハ、各地方勝手バラバラデアル、又稅金ノ如キモ、中央地方ヲ通ジテ不當且ッ不公平デアルコトハ贅言ヲ要シナイ、卽チアノ二万圓モ三万圓モスル自動車デモ、使切ッタ古クナッタ一三百圓ノ自動車デモ、等シク物件稅トシテ馬力數ニ依ッテ之ヲ取扱フト云フヤウナコトハ、改制ノ根本ニ於テ不當且ッ不公平デアルト云フ證據デアル、更ニ又運轉手ニ對スル取締ノ如キハ苛酷ヲ極メテ居ル、殊ニ運轉手試驗制度ノ問題ニ付テハ、必要ナラザルコトヲ試驗シテ居ッテ、今回事變ガ始

ツテ以來實ニ國家トシテハ大ナル損失ヲ與ヘテ居ルコトハ、第七十三帝國議會ニ、當議場ニ於テ私ガ議論ヲ致シタ、貴重ナル車ヲ持ツテ行ツテ戰ヲヤツテ、快速部隊ノ運轉手ガ砲彈ニ殪レル、外國ノ如キハ國民悉ク運轉ガ出來ルガ、日本ハ運轉手試驗制度ガ非常ニ嚴重デアルカラ中々運轉手ニナレナイ、隨テ軍トシテハ兵隊トシテ應召シタ者ヲ、極メテ短期間ニ養成スルノデアルカラ、十分使ヘル車ヲ使フコトガ出來ナクテ棄テテ行ツテ、敵軍ノ利用ニ任セルト云フコトハ物資愛護ノ上カラ考ヘテ、又國軍ノ作戰用兵ノ上カラ考ヘテ、見テ、運轉手ノ試驗制度ノ改正ノ如キヲ、現狀ノ儘デ保護助長ノ政策ヲ執ラナイト云フコトハ、國家國防上大ナル影響ガアルト云フコトハ固ヨリ明デアル是ハ一ツノ例デアル、殊ニ今次事變以來自動車燃料ハ、從來ノ五分ノ一强ニ規正ヲ行ハレテ居ル、此ノ尊イ車ヲ持ツテ居ツテモ、一往復致シマスルト、既ニ運行ガ出來ナクナルト云フヤウナ實情デアル、諸物資ハ益〻窮乏ヲ致シテ、此ノ儘デハ自動車ハ國內ニ於テ既ニ死ニ瀕スルト云フ實情ニ蓬著シテ居ルガ、只今政府ノ提案ニナリマシタル自動車事業ニ付テ、保護助長ト云フ細則ノ御話ガアリマシタガ、是ハ天井カラ目藥ヲ垂レルヤウナモノデアツテ、根本的ニ此ノ保護助長政策、國策ヲ樹立スルト云フコトニ付テハ、深ク思ヲ致サネバナラヌト痛感ヲ致シテ居ル次第デアル、今回提出ノ本法案ハ如上ノ所見ニ立ツテ根本的ニ國策遂行ノ觀點カラドウ云フ狙ヒ所ヲ持ツテ居ルノデアルカ、卽チ政府ハ速ニ自動車事業ニ關スル行政機構ノ綜合統制ヲ單一化シテ、是ガ完成ヲ期シテ、或ハ交通省ノ設置ヲ速ニ實現スルカ、若シ已ムヲ得ズンバ次善ノ策トシテ自動車局ヲ作ツテ、サウシテ是ガ根本的對策ヲ爲スコトガ急務デアルト思フガ、此ノ點ニ付テ行政機構ノ統一ヲ爲ス考ガアルカドウカ、更ニ本法案ニ於テ、只今申述ベマシタ私ノ考ヘテ居ル目的達成ノ爲ニ、自動車關係全部ノ統制ヲ企圖スル前提ト爲スベキデアルカドウカト云フコトヲ、是ハ鐵道大臣ニ御伺ヲ致ス次第デアリマス、第二點ハ、現在マデ日本デハ自動車ガ國內ニ於テ自給自足ノ程度マデ製造能力ハナカツタ、殊ニ事變發生以來外國カラハ車ガ來ナイ、而モ自動車ノ負フ任務ハ極メテ重要デアル、此場合ニ處シテ、自動車ノ自給自足ノ大方針ニ對シテ、製造方面ニ付テハドウ云フ抱負經綸ヲ持ツテ居ルカ、是ハ商工大臣カラ御答ヲ願ヒタイノデアリマスガ、第一ニハ規格ノ統一ノ必要ガアル、第二ニハ澤山ノ良イ車ヲ十分國內ニ於テ製造スルノニハ、現在ノ日本ノ國內ノ自動車製造會社ノ方針デ宜イノデアルカドウカ、小會社ガ分立シテ其ノ儘ヤツテ宜イノデアルカドウカ、規格ヲ統一スルト云フ點ニ付テハ、國內ニ於テ散在スル所ノ各會社ヲ合同シテ、一ツノ大ナル國策ノ會社ヲ樹立シテ、日本ノ自動車ノ規格方法等ヲ、日本ノ國情ニ照シタル日本國風ノ自動車ヲ確立スルコトガ必要デアル、例ヘバ日本ノ國ハ如上ニ申上ゲマシタ通リ、燃料資源ニ乏シク、資材ニ乏シク、道路ハ狹隘デアル、殊ニ從來ノ實績ニ徵シテ一・七人ダケガ平均ノ自動車ニ乘ル人ノ數字デアル、デアリマスカラ、ソンナ窮棒ナデカイ車ヲ此ノ現狀ノ儘デ置クコトガ宜イデアルカドウカ、性能、機械其ノ他ノ點ニ於テ無駄ヲ排除シテ、國情ニ卽シタル自動車ヲ確實ニ確保スル爲ニ此ノ儘デ宜シイノデアルカドウカ、之ニ對スル根本對策如何ト云フ問題デアリマス、第三ハ、現在ノ國情ニ於テ自動車事業ハ、モウ是ハ死ニ瀕シテ居ル、モウ保護助長ヲスレバ、是ガ應急對策ハドウスル、例ヘバ燃料ガナイカラ薪炭自動車ヲ政府ノ奬勵ニ依ツテ九千臺附ケタ、三百圓ノ補助金ヲ出シテ貰ウタ、併シ取付ケニ對シテハ千圓位掛ル、四千万貫ノ薪炭ヲ必要トスル、此ノ薪炭ニ對シテ農林省ハ配給ノ圓滑ヲ期スルト言ウタガ、一向配給ノ圓滑ガナイ、薪炭自動車ノ發生爐ヲ取付ケルト云フコトモ出來ナイト」ノ資源ガ出來ナイ、天然瓦斯モ亦出來ナイ、斯ウ云フ狀態ニ對シテドウナルノデアルカ、「ガソリン」ハ五分ノ一强ニ規正ヲサレテ、一往復スレバモウ運轉ガ出來ナイ、稅金ハ從來ノ儘ノ窮棒ニ高イ、而モ不當、不衡平デアル、取締ハ極メテ嚴重デ親心ガナイ、斯ウ云フ狀態デアル、是デ一體ドウナルノデアルカ、此ノ點ニ付テ第一ニ應急對策トシテ薪炭瓦斯發生爐ノ補助金ヲ增額スル考ガアルカ、第二點ハ薪炭ノ圓滿ナル配給ヲ爲ス確信ガアルカ、第三ハ「ガソリン」規正ヲ現在ノ儘以上ニ規正シナイカ、是レ以上規正シスレバ死ヌガ、此ノ儘デ居ルカドウカ、若シ規正ヲスルト云フノデアレバ、自動車全體ヲモツト少イモノニシテ、今ノ儘デハ實ニ立派ナ車ガ無駄ニ動イテ、一日ノ中一時間カ二時間動ケバモウナクナツテシマツテ動ケナクナルノデ

アルガ、之ヲドウスルノデアルカ、又「ガーバイト」其ノ他ノ代用燃料ノ保護助長ヲドウシテ行クノデアルカ、運轉者試驗制度ニ付テ根本的ニドウスルノデアルカ、斯フ云フ問題ニ付テ現狀ニ即シタル所ノ應急對策ヲ爲サナケレバ、鐵道省御示ノ國策ニ順應シタルモノハ、ソレダケデハ到底出來得ナイト考ヘテ居ルガ、應急對策ニ付テドウダ、斯ウ云フコトヲ承リタイ、第四點ハ、本法案ハ其ノ內容ハ主トシテ貨物自動車事業ト旅客自動車ニ大別シテ、特ニ組合ニ對スル所ノ規定ガ其ノ大部分デアルガ、是ガ運用ニ對シテ全國ノ自動車業者ヲ壓迫シテ無用ノ統制ヲ期スルコトガナイカドウカ、此ノ運用ニ當ツテ如何ナル心構ヘヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ承リタイ、從來ノ實績ニ徵シテ見マスルト、鐵道省ハ一方ニハ監督權ヲ持チ、一方ニハ商賣ヲ營業致シテ居ル、營業ト監督ト兩方面ヲ持ツテ居ル、デアリマスカラ從來ハ國內到ル處ニ鐵道省ト業者ト摩擦軋轢ノ甚シイモノガアッテ、又現在千葉縣ノ一角ニアリッツアル、此ノ本法案ノ提出ニ當ッテ、全國業者ハ監督權ト營業ヲ持ッ鐵道省ガ商工省カラ一ッノ引繼ヲ以テ鐵道省デ統制シテ行クト云フノデアルガ、ドウ云フ統制ノ方法ヲヤラウトスルノデアルカ、商業組合ヲ中心トシテ統制スルノデアルカ、或ハ又從來既設ノ政治的組合ノ組合ヲモ其ノ中ニ入レテ統制ヲシヨウトスルノデアルカ、更ニ又松野鐵道大臣ハ能ク御承知ノ筈デアルガ、日本通運株式會社ノ如ク半官半民ノ會社ヲ作ッテ、洵ニ方針ハ良イヤウデアリマスルガ、其ノ重役ハ悉ク古手官吏ヲ連レテ來テ、官僚獨善ヲヤッテ居ルガ、將來ノ組合統制ニ當ッテ業者ノ極メテ心配致シテ居ル問題ハ、又官僚獨善ヲ此ノ機會ニヤラントスル傾向ガアルト心配致シテ居ルガ、苦勞人デアル鐵道大臣ハ左樣ナコトヲシマイト考ヘテ居リマスルガ、之ニ對スル肚ヲ打明ケテノ御說明ヲ願フコトガ出來レバ結構デアル、其ノ他詳細ノ問題ニ付テハ委員會ニ讓リマシテ、以上四點ヲ以テ私ノ質問ヲ終リマス

松野鐵道大臣ノ應答

山田君ノ質疑ニ御答申上ゲマス、自動車運送業ガ極メテ重要ナ役割ヲ持ツコトニナリマシテ、段々之ノ統制發達ヲ助長シタイ、此ノ意味ニ於テ本改正案ヲ提出シマシタヤウナ趣意デアリマス、先ヅ第一ニ組合法デアリマスガ、現在御承知ノ通リ商工省ニ於ケル商業組合法ニ依ッテ組合ガ認可サレテ居ルノデアリマス、今度本法ヲ提出致シマス當時ニ於キマシテ、關係法律デアリマス爲ニ、商工省ノ諒解ノ下ニ將來ハ本法案ノ下ニ於ケル所謂鐵道省關係ノ組合ニ依ッテ之ヲ監督スル、今マデ商工省ニアッタ組合ハ之ヲ認メマスガ、之ヲ監督スルノモ鐵道省デアリマシテ、隨テ將來ハ鐵道省デ統一シタル認可ヲスルト申シマスルト所謂機構改革ハ致シマセヌケレドモ、實際ノ運用ノ上ニ於キマシテ機構改革ト同樣ナ意味ニ於ケル效果ヲ擧ゲル、斯ウ云フコトノ出來ルマア第一步ニ入ッタ、斯ウ考ヘテ居リマス、ソレカラ此ノ組合ヲ監督スルニ對シテモ、統制、即チ監督上ノ統制、要スルニ監督ヲ官僚的ニヤルカドウカ、斯ウ云フ意味デアリマスガ、是ハ主トシテ自治的ニヤリマシテ、決シテ組合ヲ壓迫シタリ何カシナイヤウニ、十分監督ノ下ニ自然ニ自治的ニ組合ノ發達スルガ如ク指導シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ色々ノ意味ニ於キマシテ目下ノ燃料ノ不足其ノ他カラ申シマシテ、地方廳ニ於キマシテ、或ハ燃料問題カラ統制制限ニ對シマシテ多少ノ手心ヲ加ヘテ居ッテ、業者ニ對シテ不便ヲ與ヘテ居タカモ分ラナイト考ヘマスケレドモ、斯ウ云フコトハ、即チ組合ヲ作ラセルニ致シマシテモ、地形的ニ成ベク無理ノナイヤウニ、サウシテ斯ウ云フ問題ニ對シマシテハ出來ルダケ無理ヲ生ゼナイヤウニ指導シテ行キタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

加藤商工政務次官ノ應答

山田君ヨリ自動車ニ對シテモ自給自足ノ方針ヲ執ラナケレバナラヌガ、政府ハドウ考ヘルカト云フ御質疑ノヤウデアッタト思ヒマス、自動車ノ政策ハ山田君ノ御說ノ如ク自給自足ノ方針ヲ執ラナケレバナラヌノデアリマシテ、先年政府ハ「トヨタ」、日產ノ兩會社ヲ許可會社ト致シマシテ、國家ガ御承知ノ如ク之ニ多大ノ援助、助力ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、今後ト雖モ此

ノ方針ニ依リマシテ、成ベク外國車ヲ入レナイヤウニ、只今モ入ツテ居リマセヌガ、今後ト雖モ内國産ヲ以テ補フヤウニ努メタイト思ウテ居ル次第デゴザイマス、而シテ、山田君ハ外ノ許可シナイ弱小ノ會社ガアルガ、之ヲ統一スル考ハナイカト云フ御質疑デアツタノデゴザイマスガ、政府ト致シマシテ出來ルダケ之ヲ統制スルヤウニ目下考究致シツツアルノデゴザイマス、其ノ次ニ山田君ハ小型自動車ノコトニ付テ「ガソリン」節約ノ今日小型自動車ヲ普及セシムル方ガ宜イデハナイカト云フヤウナ御質疑デアリマシタガ、固ヨリ私共モ左樣ニ存ズルノデゴザイマスルガ、只今自動車政策ノ使命ハ、單リ交通ト云フコトノミナラズ、軍事上重要ナル使命ヲ持ツテ居リマスルガ故ニ、小型自動車ノ方ニノミ全力ヲ注グト云フ譯ニハ參ラナイノデゴザイマスルガ、併シナガラ平時ニナリマスレバ、當然サウ云フ方ニモ努力シナケレバナラヌノデゴザイマシテ、商工省ニ於キマシテモサウ云フ方面ニ付テ試作ヲ致シテ居リマシテ、研究モ相當出來テ居ルコトデゴザイマス、又商工省内ニハ自動車技術委員會ナルモノガ出來テ、サウ云フ方面ノ考究モ只今致シツツアルヤウナ次第デゴザイマス、其ノ次ニ薪炭瓦斯發生爐ヲ附ケルコトニ付テノ御質問ガアツタヤウデゴザイマスガ、代用燃料ヲ使用スル今日ニ於キマシテ、殊ニ薪炭瓦斯發生爐ヲ附ケマスルコトハ必要デアルノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ來年度ノ豫算、只今提出致シマシタル豫算ニ於テモ奬勵金トシテ二百九十餘万圓ヲ計上致シテ御協贊ヲ仰イダヤウナ次第デゴザイマス、今後ト雖モ山田君ノ御說ノ如ク一層此ノ方面ハ努力ヲ致シタイト存ズル次第デゴザイマス

竹内企畫院總裁ノ應答

自動車ノ行政機構改革ニ付テノ御尋ニ御答申上ゲマス、自動車ニ關スル行政ガ二三ノ省ニ跨ツテ居リマスコトハ、自動車事業ノ發達、又自動車製造事業ノ進行上ニモ不便ナコトデアリマシテ、隨テ自動車ニ關係ノアリマスル行政ヲ整備統一スルト云フコトノ必要デアリマスルコトハ、全ク只今御述ニナツタ如クデゴザイマス、之ニハ自動車事業ノ保護助長ノ觀點カラ、現在ノ機構ヲ檢討スル必要ガアルト考ヘテ居ルノデゴザイマシテ、政府ニ於キマシテモ只今研究中デゴザイマスガ、交通省ノ設置ト云フヤウナコトニ付キマシテハ、今後尚ホ十分愼重ニ研究ヲシテ參リタイト思ヒマス

小串清一君ノ質疑

只今上程中ノ自動車交通業法中改正法律案ニ付キマシテ二三ノ質疑ヲ致シタイト思ヒマスガ、專門家ノ山田君ガ只今自動車業全般ニ付テ御質問ガアリマシタノデ、私ハ本法案ニ直接關係ノアル問題ニ付テ御尋ヲシテ見タイト思フノデアリマス、自動車ノ交通事業ガ此ノ事變ニ際シテ如何ニ重大デアルカト云フコトハ、只今大臣ノ御說明ニモアツタヤウニ、サウシテ其ノ運送量竝ニ運賃ガ國有鐵道ニ匹敵スル點、又貨物自動車ガ國防上重大ノ使命ヲ有スル點ニ見テモ、論ヲ俟タナイノデアリマスガ、而モ此ノ貨物自動車ノ問題ニ付キマシテハ、最近ニ是ガ不備ノ爲ニ諸君モ御記憶ノ重大ナ問題ガ起ツテ居リマス、卽チ先般大阪、神戸ヲ始メ東京其ノ他ノ都市ニ米穀ノ不足ヲ來シ、危機一髪ノ狀態ニナツタ時ニ、此ノ配給機構ノ不備ガ主タル原因トシテ、貨物自動車ガ思フヤウニ利用ガ出來ナカツタコトガ非常ナ缺陷デアツタノデアリマス、事變以來自動車ハ多數徵發セラレマシテ、現在殘存ノ自動車ニ付キマシテハ、其ノ營業ガ亂脈無統制ノ狀態デアル、貸切自動車運送事業、就中「トラック」業ニ對シテハ、ドウシテモ此ノ法案ノ如ク特ニ之ヲ取上ゲテ國家統制ヲ布カレタト云フコトハ、是ハ時弊ヲ匡救スル上ニ於テ適當ナルモノデアルト思フノデアリマス、併シナガラ本法ニ於テ規定セラレタ自動車運送事業組合及ビ聯合會ハ政府ノ認メマスル一定ノ地域内ニ於テ、又其ノ業種ニ於テ、命令ヲ以テ加入ヲ强行スル、卽チ强制加入ノ制度デアリマス、斯ル統制ガ現下ノ戰時體制ニ於テ、各種ノ事業ニ於テ見ルガ如ク、强度ノ官治統制ニ陷ツテ、民衆ヲ强壓シ、其ノ結果ハ却テ事業ノ發達ヲ害シ、能率ヲ減ズルノミナラズ、失業者ヲ增加スルガ如キ弊害ガ伴ツテ居ルノデアリマス、昨年ノ議會ニ小運送業及ビ日本通運株式會社法ノ實施ニ付テ、此ノ議場ニ於テ深刻ナ御質疑ガアツタヤ

ウニ考ヘテ居リマスガ、兎ニ角此ノ統制ニ對シテハ、表面政府ハ手ヲ下サナクテモ、政府ト一體ニアル所ノ大ナル會社ガ小運送業者ヲ壓迫シテ、サウシテ是等ガ非常ニ苦境ニ立ツテ居ルト云フヤウナ不平ヲ能ク聞クノデアリマス、是ト同ジヤウナヤリ口デ此ノ運送事業組合ヲ通シテ官治統制ガ自動車事業ニ加ヘラレル、サウシテ資本主義「トラスト」ノ强壓ト、是等業界ニ對シテ鐵道省ノ古イ人達ガ澤山入リ込ンデ來ルノデヤナイカト云フヤウナコトヲ非常ニ業者ハ虞レテ居ルノデアリマス、只今大臣ノ御答辯ニ依ツテ、此ノ點ニ付テハ非常ニ大臣ハ苦勞ヲシテ居ラレテ、ハツキリト御答辯ガアツタコトヲ私ハ非常ニ感謝シテ居ル者デアリマスガ、兎ニ角戰時體制ニ於テ計畫經濟ノ上カラ、有ユル產業ガ統制ヲセラレ、其ノ能率ヲ進メ、生產力ノ擴充ヲ圖ルベキデアリマスガ、其ノ統制ハ地方々々ノ實情ニ卽シテ當業者ノ自治ヲ助長シ、所謂流行言葉デアル所ノ官僚獨善ノ弊ヲ除カナケレバ相成ラヌト存ジマス、此ノ自動車組合ニ付キマシテハ、昭和十三年ノ暮頃カラ、所謂「ガソリン」ノ消費規正ノ强化ニ伴フ所ノ對策トシテ、鐵道省ノ發シタル通牒ニ基イテ、各府縣ハ積極的ニ企業ノ合同ヲ慫慂シ、現ニソレ以來各地ニ自動車運輸業ノ合同ガ行ハレテ居リマス、サウシテ是等ノ合同及ビ組合ニ於テ頗ル佳良ナル成績ヲ擧ゲテ居ルモノモアリマスケレドモ、又ソレト反對ノ事實ガ非常ニアル、殊ニ此ノ大ナル資本ヲ背景トシテ各地ノ合同運送業者ヲ巧ニ利用シ、「トラック」業ノ吸收合併ヲシヨウトシテ、現ニ只今大阪、神戸、京都、名古屋等ニ於テハ既ニ此ノ「トラスト」ノ魔手ガ實行ニ移ツテ居ル、東京ニ於テモ此ノ大規模ノ吸收合併工作ガ只今計畫中デアルト云フコトデアリマス、無論此ノ大都市ニ於テ斯樣ナ大會社ノ出來ルコトヲ私ハ絕對ニ反對スルモノデハアリマセヌケレドモ、政府ヲ背景トシテ斯樣ナ問題ガ起ツテ來ルト云フコトニ付テハ餘程考ヘナクチヤナラヌ、殊ニ其ノ役員ガ舊鐵道官吏デアツタ場合ニハ、先刻御指摘ニナツタヤウニ、營業ト監督トヲ混同スルト云フ非難ハ免レナイダラウト思フノデアリマス、又「トラック」業ハ元來必ズシモ大企業制ヲ採ル必要ハナイト思フノデアリマス、寧ロ其ノ組織ハ中小企業ヲ以テ經營スルコトガ能率增進ノ上ニ非常ニ效果ガアル、サウシテ又斯ル方法ニ依ツテ民間ノ業者ノ生活ガ此ノ戰時ニ於テ、殊ニ最モ經濟難ト稱セラルル此ノ業態ニ對シテ安定シ得ラレルノデハナイカ、一體此ノ吸收合併ノ問題ニ付テハ莫大ナ權利金ヲ計上シテ、サウシテ自由經濟時代ノ獨占的企業化ヲ目標トスルヤウナ狀態デ、サウシテソレガ爲ニ合同會社ノ內容ガ不健全ニナリ、買收ニ應ジタル業者ヲ救濟スル爲ニモナラナイ、何トナレバ營業權ハ會社ノ架空ナル資產トシテ其ノ會社ノ經營ニ重壓ヲ加ヘルコトニナリ、又買收ニ應ジタ業者ハ所得稅、臨時利得稅ヲ課セラレテ、結局虻蜂取ラズニナルノデアルト云フコトガ、此ノ大企業ニ對スル非常ナ缺陷デハナイカ、故ニ私ハ中小組合ヲ助長シテ、サウシテ又今大臣ノ仰セラレタヤウナ風ニ、實情ニ卽シテ官治ノ弊害ヲ改メ、何處マデモ自治的ニヤツテ貰ヒタイ、先刻大臣ハアア云フ御答辯ヲナサイマシタケレドモ、前內閣以來ノ鐵道ノ方針ハ、一ツノ大會社デ之ヲ押ヘテ進ンデ行クト云フ方針ガ長ク續イテ居ツタノデアリマスカラ、私ハ此ノ點更ニモウ一應御考慮ヲ煩ハシタイト云フノガ私ノ質疑ノ第一點デアリマス、次ニ自動車業ニ對シマシテハ、先刻モ申シタ通リニ商業組合ノ設立ガ積極的ニ出來上ツテ、今日デハ此ノ六大都市ヲ始メトシマシテ全國ニ多數ノ組合ガ出來、此ノ組合ノ有スル車輛ハ、全車輛數ノ半分ニモ及ンデ居ツテ、著々國策協力ノ態勢ヲ整ヘテ居ル、然ルニ今回ハ此ノ商業組合ヲ改組シテ、之ヲ自動車運送組合ニ變更シ、其ノ變更シタト云フコトハ、卽チ單ナル名稱ノ變更デハナクシテ、實際ハ商工省ノ管轄ヲ離レテ鐵道省ニ入ツタノデアリマスガ、此ノ商工省ヨリ鐵道省ヘ移管シタ方法ガ全部デナクシテ、卽チ商業組合ノ方面ニ最モ商工省トシテ指導若クハ監督ヲシテ居ツタ、卽チ、資材ノ配給「ガソリン」「タイヤ」「メーター」其ノ他ノ物資ノ割當及ビ斡旋等ハ、依然トシテ商工省ガ之ヲ扱ツテ居ル、然ル時ニ此ノ自動車運送組合ハ前ニ商業組合トシテ、非常ニ商工省ノ御世話ニナツテ居ツタコトガアツテ、業者ハ二重ノ監督ヲ受ケル、今マデ大部分ガ一ツノ舅ヲ持ツテ居ツタノガ、今度ハ二ツノ舅ヲ持ツテ行クト云フコトニナルカラ、自然業務ノ澁滯ヲ免レズ、敏速ヲ缺クト云フ缺點ガアルノデハナイカ、一體本法ノ制定ニ當ツテ、兩省ニ於テ意見ガ對立シテ、結局商工省ガ鐵道省ニ讓歩シテ移管シタトカ云フヤウナ噂ガアリマスガ、既ニ斯ウ

ナッタ以上――自動車商業組合ハ元ハ任意ニ設立シタノデハナクテ、政府ノ政策遂行上之ヲ作レト云フコトデ、漸ク組織ガ出來上ッテ、將ニ其ノ運用ヲ整備シヨウトスル時ニ、又再ビ政府ガ方針ヲ變ヘタト云フコトニ付テハ、當業者ハ多大ノ犧牲、迷惑ヲ餘儀ナクサレテ居ルト思フノデアリマス、其ノ理由トシテハ、商業組合ハ經濟組合デアルカラ、統制ニ無力デアル、故ニ變更スルノダト云フコトデアルガ、私ハ若シソコマデ氣ガ付イテ兩省ノ話ガ付イタノデアルナラバ、先刻山田君ノ言ハレタヤウニ、鐵道省デモ構ハナイト思フ、鐵道省ガモット徹底的ニ、此ノ自動車組合ノ有ユル問題ヲ扱フヤウニ、即チ一元的ニ之ヲ爲スベキ理由ガアルト思フ、是ガ私ノ重大ナル心配ノ點デアリマス、詰リ今マデヨリモ却テ業者ガ迷惑ヲ感ズルヤウニナッテハナラヌ、故ニ私ハ之ヲ一元的ニ統制スルコトヲ特ニ希望スル者デアリマスガ、政府ハドウ云フ御考デアリマスカ、是ガ第二デアリマス、次ニ自動車ノ組合、即チ自動車ノ統制上、一昨年來各府縣ニ於テ自動車業者ヲ企業合同セシメル爲ニ、政府ノ方針トシテ各府縣ノ地方長官ガ、警察署長ニ依ッテ是等ノ業者ヲ集メテ、此ノ企業合同ヲ强ヒタ實例ニ對シテ、一言御尋ヲシヨウト思フノデアリマス、自動車ノ業態ガ、今日ノヤウニ資材モ不足シ、燃料モ不足スル場合ニ、適當ニ是ガ合同ヲ致シマシテ、資本ヲ合同シ、企業ヲ合同シテ、サウシテ自分ノ無益ナ消費ヲ防ギ、オ互ニ助合フト云フコトハ、全ク其ノ通リデアリマスガ、而モ之ヲ各府縣區々ノ方法ニ依ッテ、此ノ合同ヲ强制シタ事實ニ御考ヲ願ハナケレバナラヌト存ジマスガ、今回鐵道省ニ移管サレテカラ、殊ニ私ハ鐵道當局ヨウト思ヒマス、某縣ノ郡部デハ警察署長ガ當業者ヲ招集シテ、一警察署管内一會社ト云フコトニ統一スベキ方針ヲ示シテ、即時參加ノ調印ヲ求メ、之ニ應ゼザル者ニ對シテハ、國策ノ違反者ト稱シテ、揮發油配給量ノ削減、或ハ營業免許ノ取消等ノ威嚇的言辭ヲ弄シテ、營業ニ關シテハ警察ニ絶對ノ權利ヲ握ラレテ居ル弱キ當業者ハ、何レモ泣寢入リ的ニ之ニ應ジタト云フ同樣ノ手段ヲ用ヒテ合同ヲ强要シ、現實ニ揮發油ノ配給量ウナコトガアル、又他ノ某縣デハ、同樣ニ應ゼザル者ニ對シテハ、三割方削減ヲシ、或ハ免許更新ノ手續ヲ拒ンダト云ッタヤウナ例ガアル、其ノ他斯ウ云フ報告ガ非常ニ各地カラ來テ居リマス、今後此ノ自動車運送業統制法ニ依ッテ鐵道省ガ統制スルト共ニ、各地方廳ニ向ッテソレ〳〵企業ノ合同ヲ進メラレルノデアリマセウガ、是ハ先刻モ大臣ノ言ハレタ通リ餘程考ヘテ、大都市ノ如キハ相當大キイ合同ガ出來テモ宜シイノデアルガ、サモナイ地方ニ於テハ、却テ其ノ爲ニ非常ナ混亂ヲ來シテ居ル事實ガアル、即チ山間部ニ於ケル實情ヲ考慮セズシテ、地域的ノ合同ヲ爲サシメタガ爲ニ、各部落ニ點在シテ、其ノ部落ノ需要ニ應ジテ發達シテ來タ自動車ガ、其ノ合同ノ結果、其ノ土地ノ中心ノ町ニ集ッテシマッテ、荷主ガ非常ナ不便ヲ感ジテ居ルト云フ地方ガアル、私ガ特ニ其ノ場所ヲ言ハナイノハ、少シ事情ガアッテ、其ノ處ヲ言ハヌノデアリマスルガ、其ノ次ニ又集約ノ結果事業ガ獨占的トナッテ、運賃ハ却テ非常ニ高クナッテ、サウシテ又營利會社デアルカラ、有利ナ運送ニハ車ヲ集中スルケレドモ、部落ノ地方ノ今マデ之ヲ利用シテ居ッタ者ハ、殆ド此ノ利用ガ出來ナイ、假ニ自動車デ行カナケレバ「トラック」ガ見付カラナイト云フ所ガアルノデアリマス、又村落ニアル自動車ガ中心ノ町ニ集リマスガ爲ニ、村落ノ財政、即チ小サナ町村ニ於テハ、其ノ負擔ノ稅其ノ他ガナクナッテシマッテ、其ノ村デサウ云フコトノ爲ニ困ッテ居ル、或ハ又山間地方ニ於ケル所ノ「トラック」運送ト云フモノハ、從來カラ往復運送デアッタモノガ、此ノ合同ノ結果トシテ片々ノミノ運送ニナッテ居ル、或ハ又企業合同ノ斯ウ云フ場合ニ際シテハ、往々ニシテ一部搾取ノ策謀ヤ、或ハ資本家ノ株式ノ買收ト云フヤウナコトガ行ハレテ、ソレガ爲ニ失業者ガ非常ニ出來テ、既存ノ小サイ業者ノ生活ヲ脅ストカ云フヤウナ實例ガ今日アルノデアリマス、以上ノヤウナ弊害ハ、即チ此ノ取締官憲ガ能ク其ノ事情ヲ明ニセズシテ、唯中央ノ統制ト云フ話ヲ聞イテ、直チニ實情ヲ無視シタ机上計畫ニ依ッテ、合同企業ノ結成ヲ强行スルト云フコトノ爲ニ、斯ウ云ッタヤウナ弊害ガ澤山ニアッタト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テハ、今回ノ此ノ法令改正ニ對シテ最モ御留意ニナリマシテ、サウシテ適當ニ之ヲ釐革訂正ヲシテ貰ヒタイ、而モ此ノ事ハ元來鐵道省ト申シマスルヨリモ、內務省ノ仕事デアリマスガ、其ノ主管デアル鐵道省ニ於テ十

分御注意ニナリ、又内務省モ私ノ此ノ質疑ニ對シテ御考慮ヲ仰ギタイト思フノデアリマス、ソレカラ次ハ先刻御話ノ、ヤハリ自動車運送事業ニ一番關係ノアルノハ燃料ノ問題デアリマスガ、此ノ燃料ノ問題ハ、目下代用燃料ニ對シテ當局モ非常ナ苦心ヲ拂ツテ居ラレルケレドモ、而モ木炭モ十分ニナイ、薪モ思フヤウニ集ラナイ、ソレデ其ノ燃料資源ノ缺乏ト云フコトガ、此ノ業態ヲ非常ナ苦況ニ陷レルノミナラズ、卽チ生産力擴充ノ目的ニ最モ大害ヲ持ツテ居ルノデアリマスカラ、今後燃料ノ資源ノ擴張ニ付テハ、國家ハ今ノヤウナバラ〳〵ノ考デハナク、統一アル方針ニ依ツテ、十分ニ此ノ資源ヲ培養セナケレバナラヌト同時ニ、我國ニ於テ最モ乏シイ所ノ「ガソリン」ニ對シテハ、更ニ其ノ利用ト節約ヲ考ヘテ貰ハナケレバナルマイト思フ、現在ハ東京デモサウデアリマスガ、辻待ノ自動車ノ如キハ、殆ド遠距離ノ御客ハ之ヲ斷ル者ガ多イ、サウシテ又貨物自動車ノ如キモ、有利ナ仕事ナラバ引受ケルト云フヤウナ風デ、殆ド所謂公益事業トシテノ任務ヲ果シテ居ナイヤウナコトガ澤山ニアル、又同時ニ盛ニ闇取引ガ行ハレテ居ル、本法ノ實施ニ當ツテハ、特ニ是等ノ點ニ御注意ニナラントコトヲ希望スルノデアリマス、歐羅巴開戰以來、英吉利、佛蘭西、獨逸等ハ、我國ニ比ベテ石油ノ供給ガ更ニ潤澤デアルノデアリマスケレドモ、而モ強度ノ規正ヲ斷行シテ、現ニ今ハ自家用自動車ハ全部配給ヲ止メテ居ルト云フヤウナコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、我國デモサウ云フコトヲ望ム譯デハアリマセヌケレドモ、此ノ燃料ノ利用ヲ大イニ圖ルト共ニ、戰爭ニドウシテモナクテハナラヌ「ガソリン」ノ節約ノ爲ニハ、政府ニ於テモ更ニ思ヲ致サレナケレバナラヌノデハナイカ、此ノ點ニ付テモ御考ヲ承ツテ見タイ、尙ホ次ハ今回ノ法令ニ依ツテ、卽チ強制監督ヲ爲ス結果トシテ、從來ノ補助制度ヲ擴張シテ、車體ニ對シ或ル規格ノモノニ補助ヲ與ヘル外ニ、此ノ統制事務費用ノ爲ニ、其ノ半額ヲ補助セラレルト云フコトデアリマスガ、斯ウ云ッタ補助ハ、ヤハリ大キイ會社ニ利用セラレテ、中小ノ統制企業者ニハドウシテモ均霑ノ割合ガ少イト云フノガ實際デアリマスガ、此ノ戰時ノ重要產業ニ從事スル場合デアリマスカラ、少サイモノニ對シテ、特ニ其ノ補助ノ點ニ付テモ御注意ヲ十分ニ御拂ヒニナリ、サウシテ又都市ト地方トノ業態ヲ顧ミテ、寬嚴宜シキヲ得ルヤウニ願ヒタイノデアリマス、以上五點ニ付テ、意見ト申シマスカ、希望ト申シマスカヲ申上ゲテ、當局ノ善處ヲ促シ、且ツ御質問ヲ致シタ次第デアリマス

松野鐵道大臣ノ應答

小串君ノ御質疑ニ對シテ御答致シマス、小串君ハ能ク御諒解下サッテ居ルト思ヒマスガ、大體御意見トシテ承ッテ見マスト、要スルニ新シイ法律ガ出テ、總テノ事業ガ統制ニナル場合ハ、殆ド民業ヲ壓迫シテシマフデハナイカ、斯ウ云フコトヲ、根本的ニ統制ト云フ問題ニ對シテ、御心配ニナッテ居ルガ如クニ大體ニ於テ感ジマス、ソレデ今回ノコトハ、成ベク自治的ニ組合ヲ統制シヨウト云フ意味デアリマシテ、決シテ強制的ノ意味ニ於テ組合ヲ拵ヘサセル、斯ウ云フ意味デハナイノデアリマス、其ノ事ハ既ニ御承知ノ通リデアリマス、次ニ商業組合ガ現ニアルニ拘ラズ、之ヲ又更ニ本改正法律案ニ依ッテ、鐵道省ノ方ニ拵ヘルコトハドウカ、斯ウ云フコトデアリマスガ、是ハ小串君モ御承知ノ通リニ、今度改正案ガ成立致シマストニ持ッテ來マスノデ、別ニ商工省ノ方ニ是ガ殘ル譯デハナイノデアリマス、サウシテ商業組合トシテ、今マデ極メテ健全ニ發達シテ居ッタニ拘ラズ、ソレヲ鐵道省ニ持ッテ來テ統一スルコトニ依ッテ、其ノ鐵道省ノ統一セル監督權ノ下ニ於テ、又何カ業者ヲ壓迫スルヤウナ感ジヲ與ヘハシナイカ、斯ウ云フ點モ、私ノ聽ク所デハ御不安ノヤウニ考ヘマシタガ、今回ノ改正案ニ依ッテ、商工省ノ方ノ商業組合ヲ鐵道省ノ方ニ一元化サレマスガ、是ハ兩省間ノ諒解ノ下ニ、其ノ運用ノ上ニ於テ、所謂機構改革ノ一助トモナルベク一新紀元ヲ開イタノデアリマシテ、商工省カラ之ヲ鐵道省ニ移シタ方ガ、寧ロ總テノ點カラ考ヘテ宜カラウ、斯ウ云フ意味ニ於テ、舊來アリマシタ商業組合ヲ今回ノ改正法律案ニ依ッテ鐵道省ノ方ニ移ス、斯ウ云フコトニナリマシタノデアリマスカラ、此ノ點ハ、商業組合トシテハ現在營業シテ居ル時ヨリモ、寧ロヨリ良キ諒解ノ下ニ業務ノ統制ガ付ク、斯ウ云フ意味ニ於テ御安心下サッテ差支ナイト考ヘマス、ソレカラ今マデアリマス所ノ「バス」トカ、「トラック」、斯ウ云フモノヲ過去ニ於テ合同スル場合ニ、業者ハ如何ニモ所謂監督權ノ下ニ壓迫

ヲ受ケテ、サウシテ其ノ本意ナイ點マデモ仕方ナク之ニ同意シタ、斯ウ云フ風ノコトガ始終感ゼラレルカラ、斯ウ云フコトニ對シテハ十分ニ當局トシテモ考ヘナケレバナラヌノデハナイカ、斯ウ云フ御趣旨ト拜聽致シマシタガ、此ノ點モ極メテ御尤モダト思ヒマス、サウ云フ事ガ假ニアッタト致シマスレバ、サウ云フコトノナイヤウニ十分ニ監督シナケレバナラヌ譯デアリマス、唯合同其ノモノハ、何トシマシテモ、經濟的ノ點カラ考ヘマシテモ、或ハ經營上ノ點カラ考ヘマシテモ、監督ノ上ニ於キマシテモ、合同其ノモノハ適當ニ指導シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ考ヘマスケレドモ、此ノ事アル爲ニ、業者ガ所謂自分ノ業ヲ奪ハレルガ如キ壓迫ヲ感ズルヤウナコトハ、是ハ斷ジテ致スベキモノデハナイ、斯ウ云フ意味カラ考ヘマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ、所謂監督行政ノ上カラ、十分ニ注意ヲ拂フベキモノダト考ヘテ居リマス、次ニ商工省監督ノ下ノ商業組合デアッタ時分ハ、自動車ノ資材、卽チ「タイヤ」ノ如キモノハ、自然ニ便利好ク扱フコトガ出來タケレドモ、今度鐵道省ニ移サレルト、サウ云フコトニ對シテ不便ナコトニナルノデハナイカ、斯ウ云フ御懸念モアルヤウニ考ヘマスガ、監督官廳タル鐵道省ト致シマシテハ、物資ノ配給關係ニ付キマシテハ、能ク商工省ト連絡ヲ取リマシテ、斯ウ云フ自然ニ出來マシタ組合デ、成ベク圓滑ニ取扱フコトノ出來ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、大體以上ヲ以テ御答ト致シマス

次テ本案ハ政府提出金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及**七九**ノ兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本項第**七九**參看）院議異議ナク兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十六日本案ヲ修正議決シ卽日本院ニ回付ス

貴族院回付案

自動車交通事業法中改正法律案中貴族院回付ノ箇所左ノ如シ

（小字及――ハ貴族院修正）

附　則

第十一條　特別法人稅法中左ノ通改正ス

第二條中第七號ヲ第八號トシ第八號ヲ第九號トシ第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七　自動車運送事業組合聯合會（所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會及ハ自動車運送事業組合ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク）

第六條中「及鰺絲共同施設組合」ヲ「、鰺絲共同施設組合及自動車運送事業組合」ニ改ム

同日議事日程ヲ變更シテ右回付案ヲ院議ニ付シ討論ニ入リ高橋守平君ハ貴族院ノ修正ニ贊成ノ演說ヲ爲ス

高橋守平君ノ贊成演說

本案ニ對スル貴族院ノ修正ハ、曩ニ本院ニ於テ修正議決シタル特別法人稅法案ガ貴族院ニ於テ

可決セラレタル結果、當然不用トナリタル部分ヲ削除シタル點ト、字句ノ整理等ヲ爲シタルモノデアリマス、私ハ各派ヲ代表シテ此ノ貴族院ノ修正ニ同意ヲ表明致シマス

起立採決ノ結果貴族院ノ修正ニ決シ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

四月十日法律第百六號ヲ以テ公布セラル

八五　家畜傳染病豫防法中改正法律案（貴族院送付）

家畜傳染病豫防法中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鷄及鵞ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫、氣腫疽、牛ノ傳染性流産、ダニ熱、炭疽、鼻疽、假性皮疽、加奈陀馬瘟、馬緬羊山羊ノ疥癬、羊瘟、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、狂犬病、家禽コレラ、家禽ペスト及雛白痢ヲ謂フ

第五條第一項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　口蹄疫、氣腫疽、炭疽、鼻疽、假性皮疽、加奈陀馬瘟、緬羊山羊ノ疥癬、羊瘟、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、家禽コレラ、家禽ペスト又ハ雛白痢ニ罹リタル家畜

第八條第二項第一號中「又ハ馬緬羊山羊ノ疥癬」ヲ、「ダニ熱、馬緬羊山羊ノ疥癬又ハ雛白痢」ニ、同項第三號中「又ハ加奈陀馬瘟」ヲ「、加奈陀馬瘟、豚コレラ、豚疫又ハ豚丹毒」ニ改メ同項中第四號ヲ第五號トシ第五號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四　牛ノ傳染性流産、ダニ熱若ハ馬緬羊山羊ノ疥癬ニ罹リ若ハ罹リタル疑アル家畜ノ斃屍體ノ皮又ハ豚コレラ、豚疫若ハ豚丹毒ニ罹リ若ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體ノ皮ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ消毒シタルモノ

第九條及第十一條中「家禽コレラ」ノ下ニ「、家禽ペスト及雛白痢」ヲ加フ

第二十四條第一項中第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四　屠場ニ於テ屠殺シタル後牛疫、牛肺疫、氣腫疽、炭疽又ハ鼻疽ニ罹リ居リタルコト判明シタル爲屍體ヲ燒却若ハ埋却シタル家畜及豚コレラ又ハ豚疫ニ罹リ居リタルコト判明シタル爲屍體ヲ燒却若ハ埋却シ、屍體ヲ化製シ又ハ屍體ノ皮ヲ消毒シタル家畜

評價額ノ三分ノ一

同條第二項中「第二號乃至第四號」ヲ「第二號、第三號及第五號」ニ、同條第三項中「第五號」ヲ「第六號」ニ改ム

第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月十九日貴族院ニ提出ス同院ハ三月四日本案ヲ可決シ卽日本院ニ送付ス本院ハ同月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ島田農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ家畜傳染病豫防法中改正法律案ニ付テ、提案理由ヲ御說明申上ゲマス、改正ノ要點ハ近時、ダニ熱、雞白痢等ノ家畜傳染病ノ發性情況、竝ニ豫防方法ノ研究成績ニ鑑ミマシテ、是等ノ傳染性病ヲ新ニ法定傳染病ノ中ニ加ヘ、以テ是ガ豫防制遏ニ一層ノ徹底ヲ期シマスルト同時ニ、更ニ資源不足ノ現狀ニ對處致シマシテ、從來法律ノ規定ニ依リ、燒却、埋却致シテ居リマシタル豚ノ屍體及ビ牛馬羊豚ノ屍體ノ皮ヲ化製又ハ消毒スルコトニ依リ是ガ利用ヲ圖リ、又屠場ニ於テ屠殺後、家畜ガ傳染病ニ罹レルモノナルコトヲ發見致シマシタ場合ニ、新ニ手當金ヲ交付スルノ途ヲ開キ、所有者ノ負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ、豫防上ノ圓滑ヲ期スル等、現行ノ家畜傳染病豫防法中改正ヲ爲ス必要アリト認メマシテ、是ガ改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、本改正ハ現下ノ時局ニ對應シ、極メテ適切ナルモノト信ズル次第デアリマシテ、過般中央衞生會ニ諮詢ヲ致シ、其ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及六〇、八七、九三ノ四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本院議異議ナク四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

四月四日本案ハ法律第九十三號ヲ以テ公布セラル

八六　軍用電氣通信法中改正法律案（貴族院送付）

軍用電氣通信法中左ノ通改正ス

第七條ノ二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ及ボス障碍ヲ防止スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍二千メートルノ距離以內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

第七條ノ三　特別地域內ニ於テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定スル高周波電流ヲ發生スル設備ヲ施設セントスル者ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條ノ四　前條ノ規定ニ依ル制限ノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上特ニ必要アルトキハ命令ヲ以テ特別地域内ニ於テ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第七條ノ五　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定又ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ除却其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得同項ノ許可ノ效力消滅シタル設備ニ關シ亦同ジ

第七條ノ六　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ使用スル機器ニ關シ軍事官憲ヲシテ障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ七　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ特別地域ノ指定若ハ第七條ノ三第一項ノ指定ノ場合ニ於テ從來存シタル設備ニシテ其ノ後新ニ施設セラレタリトセバ同項ノ規定ニ依ル其ノ施設ノ許可ヲ受クベカリシモノ又ハ特別地域外ニ在ル同項ノ指定ニ該ル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ當該設備ノ使用ノ制限又ハ當該設備ノ除却若ハ變更、障碍防止ノ施設其ノ他障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ命ジ又緊急ノ必要アルトキハ軍事官憲ヲシテ障碍防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ八　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障碍ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入リ檢查セシムルコトヲ得

軍事官憲ハ前項ノ檢查ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ檢查ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條　左ニ揭グルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

一　第四條第二項ノ規定ニ依ル添架ノ爲電氣導體ノ支持物ニ生ジタル損害

二　第五條第一項ノ規定ニ依ル立入又ハ測量標設置ノ爲生ジタル損害

三　第六條第一項ノ規定ニ依ル線路建設ノ爲土地又ハ建造物ニ生ジタル損害

四　第七條ノ規定ニ依リ伐除シタル植物ノ價額又ハ同條ノ規定ニ依ル植物ノ移植ノ費用

五　第七條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタルガ爲既ニ著手シタル設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生ジタル損害

六　第七條ノ七ノ規定ニ依リ著シク使用ヲ制限セラレ若ハ措置ヲ命ゼラレ又ハ軍事官憲ガ措置ヲ爲シタル爲生ジタル損害

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以內

ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者

二　第七條ノ三第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設備ヲ設置シ若ハ使用シタル者、同項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設備ヲ使用シタル者又ハ同項ノ許可ノ效力消滅シタル後當該設備ヲ使用シタル者

三　第七條ノ五又ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第十五條ノ二　第七條ノ四ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ三　第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依ル軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル檢查ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依ル協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第七條ノ八第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十八條中「第十三條乃至第十五條」ヲ「第十三條、第十四條、第十五條第一號」ニ改ム

第十九條ノ二第二十二條トス

第十九條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十五條第二號若ハ第三號又ハ第十五條ノ三第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十條　第十五條第二號及第三號竝ニ第十五條ノ三第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月二十日貴族院ニ提出ス同院ハ三月四日本案ヲ可決シ卽日本院ニ送付ス本院ハ同月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ畑陸軍大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ軍用電氣通信法中改正法律案ノ提出理由ニ付テ說明致シマス、軍用電氣通信ハ、軍隊統率ノ神經系統トモ見ラルベキモノデアリマシテ、其ノ重要性ニ付キマシテハ、茲ニ改メテ申上グルマデモナイコトト存ジマス、然ルニ近年工業ノ發達、都市ノ膨脹ニ伴ヒマシテ、電氣的設備又ハ機器使用ノ範圍ガ、地域的ニモ數量的ニモ急激ニ增大シテ參リマシテ、是

等ヨリ發散スル高周波ノ作用ニ依リ、重要ナル軍用電氣通信ノ實施ガ障碍ヲ被ル虞ガ、極メテ大キク相成ッテ參ッタノデアリマス、是ニ於キマシテ軍用電氣通信ノ重要性ニ鑑ミ、之ニ及ボス電氣的障碍ヲ確實ニ防止シテ、其ノ機能ヲ確保スル爲、軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍二千米ノ距離以内ニ於テ、特別地域ヲ指定シ、此ノ地域ニ於テ高周波電流ヲ發生スル設備ノ設置、或ハ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スル等ノ措置ヲ講ズル必要ガアルノデアリマス、本制限及ビ之ニ伴フ必要措置ニ依リ、一般ニ對シ多少ノ損害ヲ與ヘルコトニナリマセウガ、軍用電氣通信ノ重要性ニ鑑ミマスレバ、本改正案程度ノ制限ハ、必要已ムヲ得ナイモノト考ヘルマス、何卒御審議ノ上、御協贊アランコトヲ希望致シマス

次テ本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌八日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十四日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長山本厚三君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

軍用電氣通信法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ議決ニ付キマシテ御報告申上ゲマス、本法律案立法ノ趣旨ニ付キマシテハ、既ニ本議場ニ於テモ明ニサレタ所デアリマスルカラ之ヲ繰返シマセヌ、今日我國ノ軍用電氣通信ノ重要デアルコトハ今更言ヲ俟チマセヌ、近來工業ノ進歩、都市ノ膨脹ニ伴ヒマシテ、電氣的設備又ハ機器使用ノ範圍ガ急激ニ增加ヲ致シテ參リマシタ結果、是等ヨリ發散致シマス所ノ高周波ノ電氣ノ作用ニ依リマシテ、軍用電氣通信ニ非常ナ障害ヲ與ヘルコトニナツタノデアリマス、之ヲ完全ニ防ガントスルノガ今回ノ本法案デアリマスルガ、先ヅ周圍二千米以内ニ特殊區域ト云フモノヲ指定致シマシテ、高周波發生設備ノ施設ヲ許可制度ト致シマシテ其ノ使用ヲ制限シ、除去其ノ他ノ處分ヲ爲シ得ルコトニシヨウト云フノデアリマス、又是等ニ付キマシテ報告ヲ命ジ立入檢査ヲスルト云フヤウナ、强力ナ規定モ設ケルコトニシヨウト云フノデアリマス、本案ニ付キマシテハ、委員ト政府トノ間ニ種々質疑應答ガ行ハレマシタガ、我國今日ノ情勢ニ照シマシテ、緊要ナル立法ト認メ、滿場一致ヲ以テ原案通リ可決ヲ致シタ次第デアリマス、此ノ段御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ノ通可決シ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

三月二十二日法律第一號ヲ以テ公布セラル

八七　牧野法中改正法律案（貴族院送付）

牧野法中左ノ通改正ス

第一條ノ二　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ牧野タル土地ニシテ特ニ牧野トシテ保續スル必要アルモノヲ牧野特定地ニ指定スルコトヲ得

第一條ノ三　行政官廳公益上必要アリト認ムルトキ又ハ其ノ土地ヲ牧野特定地トシテ存置スル

必要ナシト認ムルトキハ牧野特定地ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第一條ノ四　行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨其ノ土地ノ所有者、其ノ土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依ル公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ニ付牧野委員會ニ諮問スベシ

前項ノ規定ハ國有地タル牧野ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一條ノ五　牧野委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條ノ六　牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ指定又ハ取消ニ異議アルトキハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依ル公示ノ日ヨリ二十五日以內ニ意見書ヲ當該行政官廳ニ提出スルコトヲ得

第一條ノ七　行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨第一條ノ四第一項ニ揭グル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲サザルコトト決定シタルトキ亦同ジ

第一條ノ八　牧野特定地ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　開墾

二　造林

三　工作物ノ新築、改築又ハ增築

四　其ノ他牧野ノ保續ヲ妨グル虞アル行爲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依ル公示アリタル場合ニ於テ當該公示ニ係ル牧野特定地ノ豫定地ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ九　行政官廳ハ牧野特定地ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル事項ヲ命ゼラレタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ補助ス

第一條ノ十　牧野特定地ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ牧野ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第二條ノ二　北海道、府縣、市町村、牧野組合、畜產組合又ハ畜產組合聯合會ハ馬ノ生產飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ爲ス牧野ヲ經營スル爲土地ヲ取得シ又ハ使用スル必要アルトキハ勅令

ノ定ムル所ニ依リ御料地又ハ國有地タリシ土地ニシテ現ニ公共團體又ハ私人ノ所有ニ屬スルモ其ノ利用ノ極メテ不十分ナルモノニ付行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ土地ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ト土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ付協議ヲ爲スコトヲ得

行政官廳前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ牧野委員會ニ諮問スベシ

第二條ノ三　前條第一項ノ規定ニ依ル協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ同項ニ揭グル團體ハ其ノ土地又ハ其ノ土地ノ使用收益ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第四條　牧野ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ共同シテ放牧又ハ採草ヲ爲サントスル者ニシテ行政官廳ノ指定ヲ受ケタルモノハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

第五條　牧野組合ハ法人トシ牧野ノ維持若ハ改良ヲ圖リ又ハ放牧若ハ採草ニ關スル施設ヲ爲シ以テ組合員ノ共同ノ利益ヲ增進スルコトヲ目的トス

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

命令ヲ以テ牧野ニ準ズベキモノト定ムル土地ハ牧野組合ノ地區ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ牧野ト看做ス

第八條第六號ヲ左ノ如ク改ム

六　牛馬ノ受託放牧

七　放牧牛馬ニ關スル衞生施設

八　採草ニ必要ナル共同設備ノ設置

九　其ノ他組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事業

第八條ノ二　牧野組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條第二項ヲ削ル

第十條ノ二　行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ牧野特定地タル牧野ニ付地區ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ牧野組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ設立ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條ノ三　牧野組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十一條中「特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者」ヲ「命令ヲ以テ定ムル者」ニ改ム

第十三條中「第十條ノ認可」ヲ「設立ノ認可」ニ改ム

第二十一條ノ二　牧野組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ルベキ總代會ヲ設クル

コトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ地區ノ增減又ハ事業ノ變更ニ關スル定款ノ變更及組合ノ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條中「第百三十六條乃至第百三十八條」ヲ「第百三十六條第一項、第百三十七條、第百三十八條」ニ改メ但書ヲ削ル

第二十五條ノ二　行政官廳必要アリト認ムルトキハ牧野組合又ハ命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野技術者ノ雇入ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ヲ補助ス

第二十五條ノ三　行政官廳ハ牧野ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野ニ關スル事項ノ報告ヲ爲サシメ又ハ之ニ關スル書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付必要ナル檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十五條ノ四　行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付行政官廳ノ指定スル牧野ニ於ケル放牧又ハ放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ牧野ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依ル放牧又ハ放牧ノ委託ニ關スル條件ニ付テハ放牧又ハ放牧ノ委託ヲ命ゼラレタル者ト牧野ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付前項ノ協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコトヲ能ハザルトキハ行政官廳其ノ條件ヲ指定ス

第二十五條ノ五　政府ハ馬ノ生產確保又ハ資質ノ向上ヲ圖ル爲特ニ必要アル場合ニ於テハ受託放牧ヲ爲ス爲牧野ノ經營ヲ爲スコトヲ得

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付前項ノ牧野ニ於ケル放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

第二十五條ノ六　第一條ノ二、第一條ノ三、第一條ノ八、第二條ノ二第一項又ハ第二十五條ノ四第三項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

第二十五條ノ七　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條ノ八ノ規定ニ違反シタル者

二　第一條ノ九第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三　第二十五條ノ四第一項又ハ第二十五條ノ五第二項ノ規定ニ依ル放牧又ハ放牧ノ委託ノ命令ニ違反シタル者

第二十五條ノ八　法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザ

ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條ノ九　第二十五條ノ七ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條　第二十五條ノ三ニ揭グル者同條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條　本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村ニ準ズベキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

右ハ昭和十五年二月二十一日貴族院ニ提出ス同院ハ三月四日本案ヲ可決シ卽日本院ニ送付ス本院ハ同月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ島田農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ牧野法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、現時局下ニ於キマシテハ、軍事上竝ニ產業上ノ見地ヨリ、馬ノ增產及ビ資質ノ向上ハ焦眉ノ急デアリマスガ、之ヲ達成致シマスル爲ニハ、牧野ノ整備擴大ヲ圖ルコトガ必要デアリマス、特ニ內地馬政

計畫ニ依リ要望セラレマス有能馬ノ生產ニハ、放牧ヲ必要ト致シマスコトハ、今次事變ニ於ケル幾多ノ事例ニ徵シ疑ノナイ所デアリマス、然ルニ我國ニ於ケル牧野ノ現狀ハ、此ノ牧野ノ使命ニ對シ、未ダ尙ホ遺憾ノ點ガ尠クナイモノト存ゼラレマスノデ、仍テ玆ニ牧野法ヲ改正シ、其ノ要求ニ應ゼントスルモノデアリマス、而シテ玆ニ提出致シマシタ牧野法中改正法律案ハ、過般ノ馬政調查會ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマシテ、其ノ內容ノ主ナル事項ヲ申上ゲマスト、先ヅ其ノ一ツハ牧野特定地ノ制度デアリマス、我國ニ於ケル牧野ノ現狀ハ、尙ホ一段ノ改良ヲ要スルト共ニ、之ヲ牧野トシテ確保スルコトヲ必要トスル狀態ニアリマスノデ、特ニ牧野トシテ保續スル必要アルモノヲ、牧野特定地ニ指定シ、是ガ改良ヲ促進シ、其ノ監督ヲ周密ニスルト共ニ、併セテ牧野ノ減少ヲ防止セント致シタノデアリマス、次ニ從來北海道等ニ於キマシテハ、御料地又ハ國有地ノ拂下ヲ受ケ、之ヲ殆ド利用スルコトナク、放置シテアルモノガ尠クナイノデアリマスガ、此ノ中牧野ニ適スル土地ヲ、牧野トシテ利用セシムルコトハ、極メテ適切ナルコトト存ジマスノデ、必要ニ應ジテ之ヲ使用收用シ得ルノ途ヲ開イタ次第デアリマス、更ニ又牧野組合ノ機能ヲ强化シテ、牧野ノ經營ヲ爲スコトヲ得ルコトトシ、或ハ牧野ノ經營者ニ對シ、牧野技術員ノ雇入ヲ命ズル途ヲ開イテ、牧野ノ維持改良ノ周到ヲ期シ、或ハ又必要ニ應ジテ放牧ヲ命ジ得ルコトトシ、以テ牧野ノ整備ヲ圖ラントシタ次第デアリマス、以上ノ如ク民營牧野ノ擴大整備ニ關スル諸方策ヲ講ズル外ニ、民間經營ニ依ツテハ、十分ニ其ノ成績ヲ擧グルコトノ困難ナリト認メラレルモノニアリマシテハ、必要ニ應ジ、政府自ラ牧野ヲ經營シテ、有能ナル馬ノ造成ヲ圖リ、時局下ニ於ケル馬政ノ遂行ニ、遺憾ナキヲ期セントシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス

土田莊助君及杉山元治郎君質疑ヲ爲シ島田農林大臣、畑陸軍大臣及舟橋文部政務次官應答ス

土田莊助君ノ質疑

只今上程議題トナリマシタ牧野法中改正法律案ニ付テ、政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス、此ノ牧野法ノ改正法律案ノ内容ニ於キマシテハ、現時戰時下ニ於ケル突發シタ問題ノ處理ニ關シ、應急的ノ措置ノ法律案ト違ヒマシテ、事ハ當面ノ問題ヲ解決シ、更ニ將來永遠ノ農業ノ國策ニ觸レル所ノ恆久問題デアルノデアリマシテ、此ノ提案ヲ見マシタコトハ、今日全國各農民ノ歡喜措カザル所デアリマス、サウ云フ理由カラ致シマシテ、實ニ多イノデアリマス、然ルニ此ノ牧野法ノ内容ハ、法律ハ出來マシテモ、ソレニ對スル豫算ガ未ダ確定シテ居ラヌノデアリマスカラ、此ノ牧野法ノ機能ヲ、如何ナル程度ニ發揮スルカ否ヤト云フコトハ、今後爲政者ノ抱負如何ニアルコトト確信致スノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ、既ニ日本各地ノ問題トナリマシテ、二十數年ニ亙ッテ檢討サレタ問題デアリマス、而モ當業者ハ各種團體ヲ通ジマシテ、全國大會ノ決議ヲ以テ、幾多政府ニ折衝シタコトガアルノデアリマス、然ルニ歷代當局ハ、此ノ提案ヲ見ズシテ、今日色々ナ缺陷ヲ國内態勢ノ上ニ現ハスト云フコトハ、洵ニ遺憾デアッタノデアリマシタコトニ對シマシテハ、本員ハ滿腔ノ敬意ヲ以テ、此ノ法案ノ成立ヲ期待スル次第デアリマス、由來家畜ガナケレバ農業ハ無シト云フコトハ、古今ヲ通ジマシタ大キナ問題デアルノデアリマス、又國防ニ對シマシテハ、軍馬政策ガ確立シナケレバ、國内ノ完璧ヲ期スルコトガ出來ナイト云フコトハ、有史以來ノ日本ノ國情デアルノデアリマス、卽チ國防產業ノ密接ナル關係、斯ウ云フ理由カラ致シマシテ、頗ル重大ナルモノデアルノデアリマス、然ルニ大正五年以來、此ノ牧野ノ利用ガ禁止サレマシテ、過去ニ於ケル吾々農民ハ、林野ニ對シマシテ入會權ノ制度ヲ認メラレテ居ッタノデアリマス、然ルニ二十數年以前ニ於キマシテ、此ノ入會權ノ禁止ト相成ッタノデアリマス、農業經營上又國防上、ソコニ非常ナル障碍ヲ來シタノデアリマス、其ノ結果ト致シマシテ、產業上ニ於キマシテハ、自給肥料ノ材料トナル所ノ秣ノ取入ガ出來ヌ、又家畜ヲ勞力ニ利用シテ、社會萬般ノ產業上ノ要求ニ應ジテアッタモノガ、其ノ生育モ漸次放牧場ノ制限ニ依リ低下致シマシテ、四苦八苦ノ苦ミニ喘イデ居ッタノデアリマス、而シテ

自給肥料ノ減產ハ、遂ニ農家ヲシテ金肥ニ賴ッテ農耕ヲシ、サウシテ農產物ヲ生產シナケレバナラヌト云フ結論ニ達セシメタノデアリマス、而シテ金肥ノ需要ガ漸次增加致シマシテ、只今ニ於テハ既ニ數億圓ニ達シタノデアリマス、而モ米ノ價格ガ生產費ヲ割ッタ際ハ、金肥ヲ購入シタ費用全部ガ農家ノ借金ト相成リマシテ、今日五十億圓ノ農家負債、其ノ大半ノ原因タル、所謂牧野行政ニ對スル當時ノ政府ノ誤リカラ致シマシテ、今日ノ農民ノ痛苦ヲ見テ居ルノデアリマス、農民ハ入會權ノ禁止、或ハ農民ノミニ許サレマシタ酒ノ釀造、或ハ煙草ノ生產等、何レモ其ノ權益ハ奪ハレマシテ、愈〻農村ハ自力更生不能ト云フ悲境ノドン底ニ陷レラレテ居ルト云フコトハ、社會問題トシテモ輕々ニスベキ問題デハナイノデアリマス、而シテ最近ノ農村問題ニ關シマシテハ、國家ノ重要政策トシテ檢討サレマシタ結果、或ハ分與稅ノ問題、或ハ地方附加稅ノ問題等、幾多ノ農村對策ヲ考究サレテ居ルノデアリマスケレドモ、農業ノ基本トナルベキ有畜農業ノ計畫ヲ確立シナイ以上ハ、農業ノ經營ヲ經濟化スルコトハ出來ヌノデアリマス、ソコデ私共ハ此ノ際政府ガ此ノ法律案ニ依ッテ、飽クマデモ全農村ノ期待ニ背カナイヤウナ施設ヲ御願致シタイノデアリマス、現時日本ノ家畜ノ數カラ見マシテ、其ノ一箇年ニ消費致シマスル所ノ飼料ノ廐數ハ、約四千万廐ニ上ッテ居ルノデアリマス、此ノ四千万廐ハ、最低ノ價格ニ見積リマシテモ、八億圓ト云フ經費ヲ要スルノデアリマス、政府ハ國防產業其ノ他刻下ノ重要性カラ致シマシテ、畜產ノ增殖其ノ頭數ノ確保ヲ民間ニ要望致スノデアリマスガ、此ノ經濟的ノ犧牲ハ、全部全農家ノ負擔ト相成ッテ居ルノデアリマス、仍テ農家ハ負擔ノ重壓ニ依リマシテ、農產物生產ノ生產費ガ非常ニ昂騰致シマシテ、今日社會問題ニ於ケル所ノ統制價格等、幾多ノ問題ガ派生致シテ居ルノデアッテ、根本ニ於テ生產費ヲ低減スルト云フコトニ立脚シテ、初メテ全國民ノ納得ガ行クノデアリマスガ、政府ガ何等此ノ方策ヲ講ジナイ際ニハ、幾ラ法律ノ力ヲ以テシテモ、遂ニ闇取引ト云フ忌ハシキコトガ、各社會ノ裏面ニ流レテ居ルト云フノガ、現實ノ姿デアルノデアリマス、仍テ只今政府ノ計畫シテ居ル法案ノ内容ヲ見マスルト、國營牧野ノ設置、府縣知事ノ命令ニ依ル指定牧

野ノ設置、民有地ノ牧野化、此ノ三ツニ依ツテ牧野ノ所要面積ヲ獲得セント致シテ居ルノデアリマス、而シテ又牧野組合ノ機能ヲ擴大シ、サウシテ圓滿ナル牧野ノ發達ヲ促シ、次ニハ牧野ノ整備ニ關シマシテ、政府ハ命令ヲ以テ其ノ牧野ノ整備ヲ計畫セシメル、此ノ五ツガ重要ナル所ノ內容デアルノデアリマスルガ、政府ノ考ヘテ居ル面積ハ、約百六十万町歩ノ範圍シカナイヤウニ窺ハレルノデアリマス、而シテ私共ハ在來認メラレテ居リマシタ所ノ混牧政策、所謂山林ノ中ニ馬ノ放牧ヲ許ス、斯ウ云フコトニ對シマシテハ、政府ハ何等考ヘテ居ラレナイ、是ハ非常ナル缺陷デアリマシテ、ドウ致シマシテモ、此ノ混牧政策モ併セテ將來政府ガ考究スル必要ガナイカドウカ、此ノ點ヲモ伺ハントスルノデアリマス、サウシテ政府ノ增產計畫ニ依リマスルト、牛馬ニ於テ約四百万頭ノ計畫ヲ立テテ居ル、併シナガラ百六十万町歩ノ牧野ヲ利用致シマシテ、如何ニ其ノ整備ヲ致シマシテモ、四百万頭ノ家畜ノ生產資源ニ充テルト云フコトハ、洵ニ無謀ナル計畫ト言ハナケレバナラヌデアリマス、少クトモ政府ハ八百万町歩近クノ牧野ヲ設置シナケレバ、ドウシテモ當面ノ問題ヲ解決スルコトハ出來ヌコトハ、是ハ全國民ノ認メル所デアルノデアリマス、而シテ若シモ政府ガ民間ノ要望ヲ容レマシテ、此ノ家畜ノ生育ニ適當ナル林野ヲ開放致シマシタナラバ、ソコニ初メテ有畜農業ノ實體ヲ現ハスコトガ出來ルノデアリマス、有畜農業ヲ政府ガ採入レマシテ、產業上ニ貢獻スルト云フコトハ、一ツノ劃期的ノ農業政策ノ進步デアリマシテ、隨テ之ニ對シテハ又非常ナ訓練ヲ要スルノデアリマス、單一ナル穀菽農業ハ、大シタ技能ヲ要セズシテ、其ノ目的ヲ達成シ得ルノデアリマスルガ、一旦生產サレマシタ農產物、竝ニ刈取リマシタ草ヲ、更ニ之ヲ變化サセマシテ、動物ニ變化サセルト云フコトハ、一ツノ有畜農業ノ問題デアリマシテ、所謂更ニ農業ノ上ニ、其ノ農產物ヲ家畜ニ變化サセルト云フ機能ガ、所謂畜產行政、畜產技術デアルノデアリマス、サウ云フ點カラ考ヘテ見レバ、政府ハ此ノ有畜農業ヲ徹底化シ、サウシテ總テノ方面ノ農產物ノ增產ヲ計畫スル場合ニ於テハ、幾多ノ有畜農業ニ訓練ヲ與ヘル所ノ施設ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、サウ云フ實際上ノ問題カラ考ヘマシタ時ニ、私共ハソコニ遺憾ナ點ガ多イノデアリマシテ、現在ノ農民ニ之ヲ教ヘ込ム、拓殖計畫ニ依ツテ教ヘ込ムト云フコトモ、一ツノ方法デアリマスルガ、更ニ進ンデ現在ノ靑少年ヲシテ、此ノ有畜農業ノ眞髓ヲ體驗サセルト云フコトモ、相當大キナ問題ト思フノデアリマス、而シテ私共ハドウシテモ此ノ有畜農業ヲ徹底致シタ結果ト致シマシテハ、日本ノ農產物ノ生產額ガ、現在ヨリ五割ヲ增產シ、米ハ現在二石一斗六升ノ反當リノ生產デアルノデアリマスガ、各農事試驗場竝ニ各篤農家ガ家畜ヲ利用シテ、眞ニ有畜農業ヲ徹底シタ箇所ニ於キマシテハ、三石、四石乃至ハ五石ノ增產ヲ爲シテ居ルノデアリマス、又此ノ家畜ノ排泄物タル自給肥料ノ管理ニ於キマシテモ、現在ノ狀態ハ非常ニ缺陷ガ多イノデアリマス、日本ノ家畜ニ依ル堆肥竝ニ其ノ肥料ハ、有效成分ガ六割飛散致シマシテ、其ノ殘ル成分ガ唯四割ト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマスガ、眞ニ之ヲ合理化シタ際ニ於キマシテハ、ドウシテモ其ノ飛散スル部分ガ二割デ、八割ノ有效成分ガ殘ルト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、既ニ農林省內ノ研究ニ於キマシテモ、若シ一町歩一頭當リノ家畜、更ニ進ンデ政府ノ謂フ四百万頭カラ六百万頭ノ大家畜ヲ、日本ノ國內ニ確保シテ參リマスレバ、現在ノ窒素、燐酸加里ノ肥料所要ノ成分ノ尙ホソレ以上ノ增產ガ出來マシテ、或ル場合ニ於キマシテハ、其ノ成分ヲ國外ニ輸出致シテモ宜シイ、サウ云フ程度マデ研究ガ進ンデ居ルノデアリマス、此ノ有畜農業ト云フ農業體系ヲ忘レタ結果、今日國民ガ食糧ノ不安ニ惱ミ、又農家ハ肥料飢饉ニ惱ンデ居ルト云フコトハ、實ニ私共ハ過去ノ政治ニ對スル無責任ヲ痛感致スノデアリマス、何レノ國ニ於キマシテモ、其ノ國家ノ隆昌ノ裏面ニ於キマシテハ、幾多ノ合理化シタ施設ガナケレバナラヌ、又社會ノ經濟情勢ノ變化、戰後ノ對策トシテ各國ガ執リマシタ方策ニ於テ、私共ハ第一ニ此ノ有畜農業ヲ立派ニ活用スルト云フコトハ、一番其ノ國民生活ヲ安定ニシ、國力ヲ强化シタ所以デアッテ、現ニ亞米利加ハ南北戰爭ノ後ニ於テ非常ニ國力ガ疲弊致シタ、今日ノ亞米利加ノ發展、亞米利加ノ國力ノ强化サレタ大ナル原因ノ一ツハ、農牧政策ヲ亞米利加ガ採ツタコトデアル、或ハ獨逸ハ普佛戰爭ノ後ニ土地問題ヲ解決致シマシタノデアリマスガ、食糧ノ安定ハ未ダニ出來得ナイノデアリマス、又伊太利ハ伊土戰爭ノ後ニ於キマシテ工

場ノ分布ヲ計畫致シタノデアリマスガ、是亦今日伊太利ハ食糧ノ完璧ヲ期シ得ナイノデアリマス、或ハ千八百年ノ當初ニ於テ、歐洲ニハ中歐諸國ニ小麥ガ大洪水ノヤウニ流レ込ンダ、其ノ時單一穀菽農業ヲ農業ノ主體ト致シマシタ歐洲ハ、非常ナル打撃ヲ受ケテ、農民ハ四苦八苦ノ苦ミヲ嘗メタ、ソレニ對シマシテ、ヤハリ何十年カノ歲月ヲ費シテ、有畜農業ヲ經營化シテ、今日世界農村ニ範ヲ垂レテ居リマス丁抹ノ農業政策ナドハ、全ク二百何十年ノ歲月ヲ費シテ今日ニ至ツテ居ルト云フコトハ明カデアルノデアリマス、仍テ私ハ今ヤ日本ハ此ノ戰時下ニ於キマシテ、此ノ食糧不安カラ國民ヲ救ヒ、又第三國カラ輸入ヲ仰グ肥料ヲ、自給自足ニ依リマシテ、此ノ肥料部門ニ於キマシテモ、確固タル政策ガ確立致スト云フコトハ、過去ノ世界産業ノ歷史ヲ通ジマシテ、最モ貴キ施設デナケレバナラヌト思フノデアリマス、サウ云フ理由カラ考ヘテ見マシタ時ニ、之ニ對スル經費ハ、然ラバドレダケアレバ宜イカト云フコトヲ、私共ノ體驗ノ上カラ所信ヲ披瀝シテ、政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス、私共ハ拓殖計畫ニ於キマシテハ、ドウシテモ二十箇年ノ歲月ト、八億圓ノ經費ガ必要ト思フノデアリマス、ソレカラ致シマシテ、此ノ青少年ノ有畜農業ヲ訓練スル爲ニハ、ドウシテモ一年ニ一億圓、二十箇年ニシテ二十億圓ノ經費ガナケレバ、立派ニ其ノ目的ヲ遂行スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、是ハ最小限度ニ於テデアルノデアリマス、現在軍隊ガ軍馬ヲ購入致シマシテ、戰地ヘ持ツテ參リマシテ、血氣ナ軍人ガ戰地ニ於キマシテ其ノ馬ヲ訓練スル際ニ於キマシテ、其ノ訓練ガ、所謂立派ナ力ヲ持ツタ軍馬ト云フモノハ、昨年ノ議會デ決定致サレマシテ、今ヤ全國津々浦々ニ、其ノ軍用鍛錬ト云フコトヲヤラナケレバ、其ノ性能ヲ發揮シ得ナイ所ノ狀況ニ相成ツテ居ルノデアリマス、況シテ農民ガ此ノ有畜農業ノ政策ヲ採入レテ、眞ニ米ノ增産、肥料ノ自給自足ヲ計畫スル上ニ於キマシテ、此ノ馴致ト云フコトハ、非常ニ重大ナ大キナ問題ト相成ルノデアリマス、例ヘバ鷄ヲ飼ツテモ、年ニ百箇ノ鷄、三百箇ノ鷄ト云フヤウニ、非常ニ性能ガ違ツテ來ル、乳牛ヲ飼ヒマシテモ、年ニ十石モアルシ、三十石モアル、此ノ天賦ノ性能ヲ十分發揮サセル上ニ於キマシテハ、ソコニ青少年

ノ頃カラシテ、有畜農業ト云フコトノ觀念ヲ與ヘ、之ヲ馴致シナケレバ、折角動物ノ數ヲ集メ、サウシテ幾多ノ施設ヲ致シマシテモ、其ノ效果ハ甚ダ微弱ト相成リマシテ、又肥料ノ處理ノ問題ニ對シマシテ、有效成分八割ヲ殘スト云フコトニ對シマシテハ、相當ナル所ノ經驗ヲ持タナケレバ出來ヌノデアリマス、肥料對策、食糧對策、此ノ完璧ヲ期スルノハ、將ニ今日戰後ノ對策トシテ、必ズ必要ナ大キナ問題デアルノデアリマシテ、政府ハ——二十數億ノ金ハ、金ハ多額デアルノデアリマスルガ、民間ガ今日家畜ノ飼養費ニ對シテ、一箇年八億圓ノ犧牲ヲ拂ツテ居ルコトヲ考ヘテ見マシタ時ハ、其ノ金額ハ決シテ莫大デハナイノデアリマス、併シナガラ戰爭ハ必ズ勝タナケレバナラヌ、支那大陸ハ必ズ建設シナケレバナラヌト云フ所ノ、國策ガ樹立シタ以上ニ於キマシテハ、一文モ餘分ナ經費ハ現在私ハナイト思フノデアリマス、然ラバ此ノ財源ヲ公債ニ求メルト云フコトモ、洵ニ是ハ將來國民ノ負擔ト相成ルノデアリマスルカラ、成ベク別途ノ方法ニ於テ、此ノ二十八億圓ノ金ヲ捻出シナケレバナラヌ、然ラバ之ヲドウスルカ、是コソ眞ニ政治ノヤリ方デアリマシテ、吾々ハ馬產ノ奬勵ニ對シテ、公認競馬ニ依ツテ其ノ費用ヲ捻出シタ如ク、吾々ハ農產物貨ヲ消費スル過程ニ於キマシテ、此ノ二十八億ト云フ金ヲ捻出スルコトハ、政府ノ考ヘヤウニ依ツテハ出來得ナイコトハナイノデアリマス、前內閣ハ、米ガ不足デアル、米ガ不足デアルナラ節米ヲスレバ、ソレデ米ガ餘ルデハナイカ、斯ウ云フ簡單ナ理由カラ、白米禁止令ト云フモノヲ出シテ、今日白米ハ食ヘナイ、併シナガラ七分搗、胚芽米ハ、榮養價ハアルカモ知レマセヌガ、退行年齡ノ人ニ對シテハ、消化ガ非常ニ難カシク胃腸病ニナル、サウシテ不味イ、デアルカラ孝行ナル子供ハ、所謂七分搗ヲ買ツテ來マシテ、オ婆サンヤオ父サンニ食ハセル爲ニ機械ヲ買ツテ、白米ニシテソレヲ食ハセル、其ノ勞苦ト苦心ト云フモノハ相當大ナルモノデアル、而モ飼料トナルベキ貴イ米糠ヤ「コザキ」ハ流失シマシテ、大ナル所ノ損失ヲ招ク、所謂飼料ノ不足ト云フコトモ、サウ云フコトカラ來テ居ル、一億五百万石ノ日本ノ平時ニ於ケル米ノ產額ノ中ニ於キマシテ、其ノ三分ノ一ハ、國民保健ノ上カラ見マシテモ、ドウシテモ白米ヲ食ハセナケレバナラヌヤウナ國情ニアルノデアリマス、

ソレデ私ハ此ノ白米ニ課稅致シマシテ、石四圓ノ課稅ヲ致シマスト、一箇年ニ一億四千万圓ト云フ所ノ金ガ出テ來ルノデアリマス、而モ一石ノ米ハ、退行年齡ノ人ニ取ツテハ一箇年ノ消費量デアルノデアリマス、四圓ヲ拂ツテ年中白米ヲ食フト云フコトハ、今七分搗ヲ買ツテ白米ニスルト云フ、其ノ間ノ勞力ノ消耗トカ、或ハ貴キ食糧資材ヲ水ニ流失スルトカ、サウ云フ觀念カラ考ヘテ見マシタ時ニハ、白米ナル特殊ノ食料ヲ食フト云フ際ニ於キマシテ、一日ニ一錢何厘カノ支拂ト云フコトハ——白米ヲ食ベル人ハ、年々四圓ト云フ額ヲ政府ニ納メルコトハ、却テ喜ンデ出スト云フ結果ニナルノデアリマス、之ヲ現狀ノヤウニ致シマスルト、「コザキ」ハ水ニ流失シ、貴キ飼料トナル所ノ米糠ハ、流失致シマシテ、洵ニ勿體ナイト云フコトヲ考ヘツツモ、總テ人間ニ生命ヲ維持スルト云フ要求ハ、如何ナルモノヲモ超越致シマシテ、勿體ナイトヤツテ居ル、是ハ國民ノ現在ノ心理狀態カラ考ヘマシテ、知リナガラ、國ノ掟ニ反イテマデモヤツテ居ル、是ハ國民ノ現在ノ心理狀態カラ考ヘマシテ、石四圓ノ金ヲ出スコトハ、實ニ喜ンデ出スノデアル、是ガ一年ニ一億四千万圓、其ノ中拓殖經費ニハ四千万圓、又靑少年ヲ訓育スル學校機構ノ改革ニ對シマシテハ、一億圓、二十年ヤツテ二十八億ト云フ所ノ、此ノ莫大ナル所ノ金ハ、簡單ナル所ノ政府ノ方針ニ依ツテ、實現スルコトガ出來ルノデアリマス、私ハ更ニ進ンデ大陸ノ長期建設ト云フ問題ハ、武力ニ依ツテ敵ヲ制壓シ、治安ヲ確保スルト云フコトハ勿論デアリマスルガ、長期ノ建設ハ、所謂經濟建設デナケレバナラヌ、日本ノ內地ニ於キマシテモ、國力ノ强化ハ、所謂武力ノ戰ト、經濟力ノ戰デナケレバナラヌ、サウ考ヘマシタ時ニ於キマシテモ、此ノ支那人八割五分ノ住民ヲ指導スルニハ、ドウシテモ之ニ確固タル所ノ拓殖計畫ヲ以テ、支那住民ハ日本ノ所謂拓殖計畫ヲ眞似シテ、眞ニ其ノ生活ノ安定ヲ日本ヲ手本トシテ致スト云フ風ニ導イテコソ、眞ニ支那ノ經濟的建設ガ出來ルノデアリマシテ、此ノ武力ノ戰ト相俟ツテ、經濟戰ト云フコトニ重點ヲ置カナケレバナラヌ、サウ考ヘマシタ時ニ、只今學校ニ於テ軍事敎練ヲヤツテ居ル、幾多ノ訓練ヲ學校生徒ニヤラセテ居ル、是ト相俟ツテ所謂產業經濟ノ訓練ヲサセルコトガ、現時局下ニ於キマシテ、ドウシテモ必要ナ問題ト思フノデアリマス、唯軍事訓練ノミヲヤツタノデハ、眞ノ大陸經濟建設ハ出來ナイノデアリマスカラ、玆ニ生產經濟ノ訓練ヲ學校ノ課程ニ織込ミマシテ、サウシテ軀テ經濟戰線ニ日本ガ優秀ナル地步ヲ世界ノ上ニ占メテ——東亞ノ建設ハ勿論デアリマス、サウシテ行ツタナラバ、亞米利加ノ現在ノ富ナドト云フモノハ、テンデ問題ニナラヌノデアリマス、サウ云フ考カラ見マスレバ、此ノ拓殖計畫、所謂有畜農業ノ計畫ヲ國民敎育ノ上ニ織込ム、サウシテ少クトモ中學校三年以上ノ學生ニ對シマシテハ、只今勤勞奉仕ト云フコトヲヤラセテ居リマスガ、之ヲ生產勤勞ニ向ハセナケレバナラヌ、假ニ一箇年六十日間生產勤勞ニ從事シタトシマススレバ、其ノ學生自身ノ衣食ノ費用ガ全部賄ヒ得ルノデアリマス、卽チ公立ノ學校ニ入ツタ生徒ハ、中學校三年以上ニナリマスレバ、父兄カラ一厘ノ學資モ貰ハズシテ、立派ニ大學ヲ卒業シ得ル、サウシテ立派ナル體力ヲ以テ社會ニ雄飛シ得ルト云フ、大キナ問題モ裏面ニ伏在シテ居ルノデアリマス、今農村ノ所謂幾多ノ經濟上ノ問題ノ中、最モ重壓ナル問題ハ、子弟ノ敎育費デアルノデアリマス、此ノ子弟ノ敎育費ハ、ソレニ依ツテ其ノ重壓ヲ除キ得ルノデアリマス、有畜農業ヲ實地ニ織込ム所ノ拓殖計畫ノ裏面ニ於テハ、非常ナル大キナ問題ガ含マレテ居ルノデアリマシテ、軀テ學校ヲ卒業スル學生ハ、必ズヤ片輪デナイ以上ハ、軍隊ニ入ラナケレバナラヌ、其ノ時現在ノ學生ノ境遇ト、軍隊生活ノ境遇ノ上カラシテ、非常ニ變化ガ多イ爲ニ、本人ノ惱ミハ勿論、軍隊自身トシテモ、其ノ訓練ニ非常ニ餘分ナ手數ヲ重ネナケレバナラヌ、是ハ本人ノ爲ニモ、亦國軍ト致シマシテモ、洵ニ遺憾ノ點ガアルノデアリマス、ソレヲ此有畜農業ノ計畫ニ依リマシテ體力ヲ以テ學校ヲ卒業シタ場合ニ於キマシテハ、軍ニ於キマシテモ、其ノ基本的體質ガ出來テ居ルノデアリマスカラ、軍事訓練モ短期ニシテ立派ナ成果ヲ擧ゲ得ルト云フ、裏面ニ大キナ問題ガ伏在シテ居ルノデアリマス、仍テ政府ハ大ナル決意ヲ以テ、長年私共國民ガ要望致シマシタル所ノ牧野ノ開放、牧野ノ利用、而シテ有畜農業ヲ實現化シテ、食糧ノ不安ヲ除キ、飼料ノ供給ヲ圓滑ニシ、以テ國家國民ノ最モ健全ナル所ノ發達ヲ促シ、經濟力ニ於テモ、國防ノ上ニ於キマシテモ、智力ノ上ニ於キマシテモ、活動力ノ上ニ於キマシテモ、ヤハリ日本國民ノ偉大ニシテ且ツ健全ナル者ヲ

造リ上ゲルト云フコトハ此ノ戰時下ニ於テハ勿論、將來永遠ノ問題トシテ、之ヲ十分御檢討ニナラナケレバナラヌ所ノ、大キイ問題デアルノデアリマスルカラ、特ニ此ノ有畜農業ノ派生的裏面ノ問題ニ於キマシテ、若シ政府ノ御答辯ヲ得マスレバ、私ハ洵ニ幸ト致スノデアリマス、之ヲ以テ質問ヲ打切リマス

島田農林大臣ノ應答

土田君ノ御質問中、放牧林ニ關スルコトニ付キマシテハ、是ハ有能強健ナル馬ヲ生産スル上ニ於キマシテ、牧野ノ狀況ハ、面積尚ホ不十分デアリマシテ、之ヲ擴張シ牧野ノ經營ヲ豐カニシタイト云フコトガ、今回ノ提案ノ一ツノ理由ニナッテ居ル次第デアリマスガ、將來國有林野等ニ付キマシテ、之ヲ開放シテ牧野ニ改メ、或ハ未ダ利用セラレザル土地ニ對シマシテ牧野ノ設定ヲスル、斯樣ナコトヲ致シマスルト共ニ、放牧林ノ方法ヲ用ヒマシテ、林野ノ中ニ馬ヲ放牧シテヤルト云フヤウナ事柄ニ付キマシテハ、是ハ必要ナコトト考ヘマスルカラシテ、將來ニ於テ此ノ點ニ付キマシテハ、十分研究ヲ致シテ見タイト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ有畜農業ノ知識ヲ普及セシメ、青少年ニ是等ノ知識ヲ普及セシメテ、馬產ノ上ニ貢獻ヲサセルヤウニシタイト云フ御意見ニ付キマシテハ、是ハ極メテ適切ナル御意見ト考ヘテ、是等ノ點ニ付キマシテハ、關係ノ當局トモ能ク協議ヲ致シマシテ、其ノ實現ヲ期スルヤウニ致シタイト考ヘル次第デアリマス、次ニ馬政ノ關係ニ付テ財源ノ問題デアリマスガ、之ニ付キマシテハ、御承知ノ如ク從來競馬ニ依ル政府納付金ト云フモノヲ大體基礎ト致シマシテ、馬政ノ振興ヲ圖ッテ居ッタノデアリマスガ、現時ノ時局ニ鑑ミマシテ、是等ノ收入ノ範圍內ニ於テスルト云フコトハ、狹小ニ過ギルト云フ考カラ致シマシテ、昭和十四年度以降ニ於キマシテハ、此ノ納付金ノ金額ニ拘ラズ、之ヲ超過シテ馬政ニ關スル經費ニ支出スルト云フノ方針ヲ執リマシテ、其ノ考ヲ以テ財源ノ關係ヲ振合セテ居ルヤウナ次第デアリマス、尙ホ多岐ニ亙ッテ御質問ガアリマシタガ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ他ノ機會ニ御答ヲスルコトニ致シマス

舟橋文部政務次官ノ應答

只今土田君カラノ御質問ニ付キマシテ、大臣差支ガゴザイマスノデ、私カラ御答辯申上ゲマス、御質問ノ、有畜農業奬勵ニ關スル御質問ノ要旨ハ、能ク拜承致シマシタ、ソレニ付キマシテ、文部當局ト致シマシテ只今實行致シテ居リマスル點ヲ簡單ニ申上ゲマス、卽チ畜產農業ノ敎育奬勵ノ見地ヨリ致シマシテ、農學校ニ於キマシテハ、牛馬ノ飼養ニ付キマシテ、實習研究致シマスル目的ヨリシテ、更ニ御質問ノ中ニ、百八十万町歩ノ牧野ヲ利用スルニ付キマシテ、青少年殊ニ學生ヲ動員致シマシテ、有畜農業ヲ實習セシメ、ソレニ依ッテ農產物增收ノ國策ノ一助ニシテ盛ラレテ居ルモノト拜承致シマス、御意見ノ中デ、學生ヲ利用スルト云フコトノ御趣旨ハ、極メテ同感デアリマス、併シナガラ之ニ付キマシテハドウカト云フ、極メテ遠大ナル御計畫ガ等モゴザイマスノデ、影響スル所極メテ大ナルモノガアルト信ジマス、就キマシテハ是ガ實行ニ付キマシテハ、十分ニ研究考慮致シタイト考ヘテ居リマス

杉山元治郎君ノ質疑

私ハ只今上程ニナリマシタ牧野法中改正法律案ニ付キマシテ、簡單ニ質疑ヲ試ミタイト存ジマス、抑〻牧野法ハ、昭和六年四月一日法律第三十七號ヲ以テ發布セラレ、同十四年法律第六十八號ヲ以テ改正セラレタモノデアリマス、今回ノ改正ハ、只今大臣ノ御說明ニナリマシタヤウニ、事變下馬ノ增產竝ニ資質ノ向上ヲ期シマスル爲ニ、牧野ノ整備擴大ヲ圖ル必要上爲サレタモノデ、其ノ要點ハ、牧野特定地ノ制度、民有未利用地ノ牧野化、牧野組合ノ機能强化、牧野經營ノ積極的指導、國營牧野ノ設置等デアルト考ヘルノデアリマス、ソコデ本法案竝ニ之ニ關聯致シマスル事項ニ付キマシテ、農林大臣竝ニソレ〳〵所管ノ大臣ニ御尋致シタイト存ズルノデ

アリマス、第一ニ御伺致シタイ點ハ、現在ノ情勢ヲ以テシテ、果シテ今次ノ馬政計畫ガ順調ニ遂行シ得ルヤ否ヤ、若シ出來ナイトスルナラバ、如何ナル方策ヲ執ルヤト云フ點デアリマス、一寸表面的ニ、又近視眼的ニ考ヘマスルナラバ、機械ノ進歩發達致シマシタ今日、軍ニ於ケル馬ノ必要性ガ、漸次減少スルノデナイカト思ハレルノデアリマスルガ、事實ハ之ニ反對デアリマシテ、日露戰爭ノ際ハ、兵百万ノ動員ニ對シテ、馬十九万頭デアリマシタモノガ、滿洲事變及ビ歐洲大戰デハ、兵百万ニ對シテ、馬二十五万頭ヲ要シテ居ル事實ニ徵シマスレバ、近代戰ニハ少クトモ兵百万ニ對シ、馬三十万頭ガ必要デアラウト類推サレテ居ルノデアリマス、若シ大陸ニ於テ數百万ノ兵ヲ動カス爲ニハ、ドウシテモ有能馬モ亦百万頭位保有シテ置カネバナラヌコトハ當然デアリマス、政府ハ曩ニ明治三十九年カラ昭和十五年マデ三十年間、第一次馬政計畫ヲ立テ、幸ニ農家ヲシテ百五十万頭ヲ飼育保有セシメタノデアリマス、又昭和十三年ヨリ三十年間ヲ期シ、第二次馬政計畫ニ入ツタノデアリマスガ、丁度事變ニ當面致シマシテ、統計ニ依リマスト、事變前既ニ馬ノ飼養戸數ニ於テ、頭數ニ於テ、自然增加數ニ於テ、減少ヲ來シテ居ルノデアリマス、例ヘバ、大正十三年ニ飼養戸數百十七万戸アツタモノガ、昭和十一年ニハ百七十万四千戸トナリ、比率ニシテ八分三厘ノ減少トナツテ居ルノデアリマス、明治三十三年カラ同三十七年マデノ五箇年間、平均百五十万頭飼育シテ居タモノガ、昭和十一年マデノ五箇年間、平均一箇年ノ生產數ニシテ四分六厘ノ減少デアリマス、昭和七年カラ十一年ノ斃死竝ニ屠殺數合計十一萬八千頭デ、遙ニ生產數ハ十一万七千頭デアリマスルガ、昭和十一年ノ數ヲ凌駕シテ居ルノデアリマス、爾來事變トナリ、多數ノ馬ハ徵發サレテ大陸ニ行ツテ居リマスノデ、生產減ハヨリ多クナツテ居ルダラウト察セラレルノデアリマス、然ルニ昨年軍馬資源保護法ガ本議會ニ上程ノ際、當局ハ百五十万頭ノ飼育、軍ノ適齡馬五歲乃至十七歲ノモノ、百万頭保有スル目的ヲ以テ進ムト申サレマシタガ、此ノ計畫ガ果シテ順調ニ進ミツツアリヤ否ヤ伺ヒタイノデアリマス、私共ノ考デハ減退シテ居ルノデアリマス、其ノ理由ハ、馬ノ飼育ガ農家ノ經濟上利益ニナラナイ、ダカラ東北地方ニ於キマシテハ、產馬事業ヲ犧牲產業トマデ申シテ居ル位デアリマス、牛ハ馬ヨリ利益ニナリマスカラ漸次馬カラ牛ヘト乘替ヘル傾向ガアルノデアリマス、統計ニ依レバ、牛ハ昭和二年カラ六年ノ五箇年間、平均百四十九万一千頭ノモノガ、昭和七年カラ十年ノ四箇年、平均百五十九万七千頭トナリ、十万六千頭モ增加シテ居ルノデアリマス、然ルニ馬ハ百四十八万九千頭ヲ一歩モ出テ居リマセヌ、況シテヤ前申述ベマスルヤウニ、徵發馬ノ大陸ヘノ進出、飼料ノ不足竝ニ昂騰、斯ウシタコトカラ一層ノ減少ヲ豫想サレルノデアリマス、農林大臣ハ或所デ牛馬ヲ減ズルカ、飼料ノ値上カ、政府ガ腹ヲ切ルカト言ハレテ居リマシタガ、マサカ政府ガ腹ヲ切ルコトモ出來ズ、サウスルナラバ、結局牛馬ヲ減ズルコトニナルヨリ外ナイガ、之ヲ對シマスル政府ノ所見ハ如何デゴザイマスルカ、若シ順調ニ此ノ增產計畫ガ進ンデ居ラナイト致シマスナラバ、如何ナル新シイ對策ヲ執ツテ其ノ方策ニ順應シテ行カウトスルノデアルカ、其ノ點ヲ併セテ伺ヒタイト存ズルノデアリマス、增產ノ近道ハ、利益ノ少ナイ所ノ飼養家ニ補助ヲ與ヘルコトデアルト考ヘルノデアリマス、勿論軍用保護馬ノ飼育者ニハ、年ニ約四十圓ノ補助金ヲ與ヘラレテ居リマスガ、飼料高、勞銀高ノ今日、補助金ヲ增加スルノ意思ハナイカ、單ニ保護馬バカリナシニ、保護馬ヲ作出シマス爲ニ、多クノ馬ヲ飼養シナケレバナラナイコトヲ考ヘマスル時ニ、有能馬以外ノモノニ對シテモ、何等カノ保護、援助ヲ與ヘル方法ヲ講ズル必要ハナイカ、此ノ點モ併セテ御伺致シタイト思フノデアリマス、第二點ハ、牛馬ノ飼料ニ關シマスル所ノ問題デアリマス、此ノ點ニ關シテ數箇ノ點ヲ御伺致シタイト存ズルノデアリマス、牛馬ノ飼料ハ、昭和十年ノ調査ニ依リマスルト、飼料供用見込額四百四十餘万噸、其價額一億六千六百万圓ノ中、牛馬ノ飼料トナリマスルモノハ二百九十一万噸デ、總額ノ六割六分ニ當ツテ居ルノデアリマス、所ガ飼料ノ國內生產ハ、約七割五分デアリマシテ、他ハ支那產ノ麩、加奈陀及ビ支那產ノ小麥、「ジヤワ」及ビ滿洲產ノ玉蜀黍或ハ高粱、大豆粕、各種ノ配合飼料ノ輸入ニ俟ツテ居ルノデアリマス、併シ飼料ハ事變以來價格ノ昂騰ヲ續ケ、九・一八ノ物價停止令ノ發セラレル時、既ニ前年ニ比シ三

四割ノ騰貴ヲ見テ居ルノデアリマス、價格停止ト共ニ原料ノ入手ハ困難トナリ、一方不採算ノ爲配合飼料ヲ中止スル者ガアリ、其ノ後更ニ重要飼料タル麩ノ生産竝ニ輸入ガ共ニ激減致シマシタ爲、非常ナ品不足ヲ生ジ、代用品デアル米糠モ亦七分搗ヤ米糠統制法ノ爲出廻ガ全クナク、闇取引ガ横行シテ居ルヤウナ有様デアリマス、先般豫算委員會ニ於キマシテ、同僚三宅君ガ申上ゲマシタヤウニ、小麥一貫目ト其ノ皮デアリマス所ノ麩一貫目トガ、同一値段デ取引サレテ居ルト云フヤウナ、馬鹿々々シイコトガ到ル處デ行ハレテ居ルノデアリマス、斯ルコトデ果シテ牛馬初メ家畜、家禽等ノ增産ガ出來ルカドウカ、此ノ點ニ關シテ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、私ノ所ハ此ノ飼料ニ關シテ多クノ手紙ガ參ツテ居リマス、昨日モ丁度伯耆大山ノ麓ニアリマス所ノ、中國ノ馬產地カラ一通ノ手紙ガ參リマシタ、政府ニ爲ノナイ此ノ醇朴ナ農民ノ聲ヲ聽イテ戴キマス爲ニ、其ノ一節ヲ讀ムコトニ致シマス、「吾々馬產家ノ目下ノ直面シテ居ル問題ハ、例ノ飼料問題ニテ、是ハ牧野法以上ニ必要ナ大問題ト存ジマス、糠及ビ麩ヲ千五百俵毎年本村ニ購入シテ居リマシタ所、產業組合ヲ通ジテ、昨年十月以來今日マデニ漸ク十五俵ノ配給ヲ受ケタニ過ギマセヌ、是ガ爲高價ナ麥ヲ購入シテ、漸ク其ノ不足ヲ補フコトニ致シテ居リマス、併シ是モ制限ガアリマスノデ、ボツ〳〵米ヤ粃ヲ煮テ食ベサセテ居ルヤウナ次第デアリマス、是ハ已ムヲ得ナイ現象ト存ジマス、大麥ハ皮附一貫目六十七錢、粃ハ正味一貫目七十五錢、其ノ差ハ僅ニ八九錢、豆粕百斤入十六圓九十錢ナリシモノハ恐ラク二十圓以上、是モ手ニ入リマセヌ、麩ハ時價九圓乃至十圓、是モ殆ド手ニ入リマセヌ、糠一俵四圓ノモノガ、五圓乃至七圓デモ手ニ入ルコトガ難カシク、米不足ヲ憂ヘ、成ベク出荷シテ、此ノ非常時ニ農業報國ノ誠ヲ現ハシタイト考ヘテ居ル醇朴ナル農民達ガ、心ノ中ニ泣キナガラ、粃ヲ瘠セテ行ク所ノ家畜ニ、少シヅツ食ベサセテ居ルヤウナ實情デス、配給機構ハ整備シマシタガ、物ハ配給サレマセヌ、統制價格ニ依リ農產物、米及ビ炭ハ賣ツテ居リマスガ、併シ肥料モ、飼料モ手ニ入ラズ、而モ少量ノ飼料モ統制價格デハ手ニ入リマセヌ、此ノ現實ヲ政府ハ如何ニシテ解決シテ吳レルノデセウ、農相ノ答辯ハ一片ノ三百代言的技巧ニ過ギナイ氣ガシマス、岸畜產局長ノ飼料問題ノ答辯ニ、駄畜ヲ整理セヨト、駄畜ノ意義範圍甚ダ不明瞭、善意ニ解釋シテ、老衰シタモノカ、或ハ瘠疲ニ因ル不生產的ノモノノ意味ナラントシテモ、是等モ十分ナ飼料ヲ供スルコトニ依リ、立派ナ肉畜、軍需ニ應ズル至寶優畜モ出來、瘠セレバ又駄畜ニナリマス、飼料難來レバ駄畜ノ淘汰洵ニ名論、併シ農民心理カラ言ヘバ、家畜モ亦家族ノ一因子、之ニ對スル感情ハ人間ニ對スルト殆ド同ジモノデアリ、米不足ニ對シテ駄人ヲ整理シテハト岸氏ニ申上ゲタイ位デアリマス」斯ウ云フヤウニ農民ガ申シテ來テ居リマスガ、私ハ以上ノ言葉ノヤウニ、駄畜デモ飼ツテ居リマスナラバ、是ハ家族ノ一員デアリマシテ、家ノ出入リニ馬ガ鼻ヲ鳴ラシテ吳レル時ノ喜ビヲ知ラズシテ、ドウシテ馬ヲ飼フコトガ出來マセウ、飼料ガナケレバ麥デモ粃デモヤラザルヲ得マセヌ、飼料統制法ガ制定サレ、國策會社タル飼料配給株式會社ガ出來マシタ際、飼料ニ對シテ絕對迷惑ヲ掛ケルヤウナコトハアリマセヌト言明シタルニ、今日ノ實情ハ一體ドウシタコトデアリマスカ、飼料政策ノ失敗不徹底ノ結果デアルト考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ノ所見如何デアリマセウカ、一昨日ノ議會ニ農林大臣ハ、肥料ニ對シテハ八月カラモウ心配スルコトハナイ、斯ウ云フコトヲ此ノ壇上カラ申サレ、又ソレガ新聞ニ記載サレテ、多クノ農民ニ安心ヲ與ヘタト思ヒマスガ、今飼料地獄ニ惱ンデ居リマス所ノ多クノ畜產家達ニ對シテ、モウ一度此ノ演壇ノ上カラ、何時ニナツタラナラバ飼料ニ對シテハ心配ヲ掛ケルコトハナイト、斯ウ云フコトヲ一ツ明瞭ニ御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、然ルニ最近又飼料配給株式會社ガアリマスルニ拘リマセズ、飼料製品ノ配給ヲ目的トスル所ノ、保稅工場會ヲ主體トスル共販會社ノ設立、又大家畜ノ飼料配給ヲ目的トスル全國飼料配給聯合會ノ設立計畫、其ノ他內地麩ノ共販會社、及ビ大連混合ノ共販會社ノ設立計畫等ト、屋上屋ヲ架シ、飼料ノ配給ガ益〻混亂ニ陷ラントシテ居ルノデアリマス、政府ハ此ノ際一元的統制ト配給ノ圓滑ヲ期セラレタイノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ御伺シタイノデアリマス、政府ハ曩ニ議會ニ於キマシテ、現下ノ飼料事情ニ鑑ミ、心要ナル數量ヲ確保スル爲、日滿經濟一體ノ方針ニ則リ、其ノ

資源ヲ目滿兩國內ニ於テ自給スル方針ヲ立テ、以テ飼料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正ヲ期スルト
公約サレマシタガ、事實ハソレニ相反シテ居ル、如何ナル理由ニ依ルカ、本年滿洲大豆及ビ雜穀ノ
出廻ノ惡イノハ、滿洲特產專管公社ガ出來テ、ソレ等ノ公定價格ヲ官僚獨善的ニ安ク決定シタ結
果デナイカ、滿農ハ公社ニ賣ラズニ、密ニ氷結シタ黑龍江ヲ越エ、露領ニ密賣シテ居ル者モアル
ト云フヤウナ話モ聞イテ居ルガ、サウ云フコトガアルカ、此ノ頃專管公社ハ餘リ品物ノ出廻ノ惡
イノニ鑑ミテ、價格ノ引上ヲシテ居ルヤウデアリマスルガ、是ハ又高クナレバ、又高クナルデア
ラウト云フ農民心理ガ逆ニ働イテ、却テ出廻ヲ惡クスルノデナイカ、是等ノ點ニ關シマシテ、對
滿事務局ノオ方ガ居リマスナラバ、御意見ヲ承リタイト考ヘルノデアリマス、尙ホ飼料不足ヲ補
フ一ツノ方法トシテ、山林ノ種實デアリマスル所ノ、橡、樫、椎、サウシタ山林ノ種實ヲ採收シ
テ使用スルナラバ、相當ノ數量アリト思フノデアリマスガ、之ニ對シマスル所ノ調査研究ガ出來
テ居リマスルカ、斯ル立派ナ飼料資源ヲ無爲ニ打捨テ置イテハナラナイノデアリマス、ドウシ
テ見テモ、今日ノヤウナ飼料不足ノ場合ニ今マデ打捨テラレテ居リマシタ所ノ、此ノ山林ノ種實
ヲ利用スル所ノ途ヲ講ジナケレバナラナイト考ヘマスルガ、此ノ點ニ付テノ所信モ承リタイト
考ヘルノデアリマス、第三ハ、馬種變更ニ依ル所ノ障碍ニ對シテ、如何ナル緩和方策ヲ執ラレタ
カト云フコトデアリマス、軍ハ第二次馬政計畫ニ於テ、國防上必要ナル有能馬、特ニ重挽馬ノ充
實ヲ目標トシ、又地域的ニ役種別產馬方針ヲ立テ、北海道デハ主ニ重種、他ノ廣範圍ノ地方デハ輕
種ヲ飼育シテ來タノデアリマス、然ルニ事變勃發ト共ニ、戰地ニ於ケル貴イ經驗ノ結果、第二次
馬政計畫ヲ根本的ニ改革シ、軍ノ必要ナル馬ハ、低身廣軀、四肢强健ニシテ、負擔力、挽曳力、
持久力ニ富ミ、中等體尺者ノ使用ニ便ニシテ、飼用管理ニ容易ナル馬ヲ標準トシ、挽型馬ヲ生
產スルヲ以テ第一義トシ、乘型馬ハ平時ニ於ケル軍ノ需要ヲ充スヲ目的トシ、之ヲ制限スルト聲
明スルニ至リマシタノデ、軍馬ニ適當ナル種類ハ、乘、挽型共ニ中間種タル「アングロ・ノルマン」
種ガ指定サレルニ至ッタノデアリマス、ソコデ從來重種或ハ輕重ヲ飼養シテ來タ多クノ地方
ハ、此ノ計畫變更ノ爲、幾多ノ犧牲ト損失ヲ蒙ッテ居ルノデアリマス、產馬家ハ今日マデモ非

常ニ努力シテ、軍ノ要求ニ應ジ改良シタトキ變更サレル、常ニ其ノ後ヲ追ッ掛廻ッテ居ルヤウ
ナ次第デアリマス、昨年軍馬保護法制定ノ際、斯ル障碍ハ必ズ緩和ノ方針ヲ執ルト仰セニナリ
マシタガ、今日マデニ如何ナル方策ヲ執ラレテ居ラナイト致シマスナラバ、今後ニ於キマシテ如
何ナル方策ヲ執ラレマシタカ、若シ今日マデ方策ハ執ラレテ居ラナイト思フノデアリマス、第四
見ヲ承リタイカト云フ點デアリマス、昭和十一年我國農家ノ馬飼養頭數別調査ヲ見マスルニ、
一頭ダケ飼養シテ居ルモノハ八四・一%、二頭飼養シテ居ルモノハ一一・二%、三頭乃至四頭
飼養シテ居ルモノハ三・七%、五頭以上ハ僅ニ一%デアリマス、ダカラ從來舍飼ノ多イコトハ之
ヲ見テモ察セラレルノデアリマスガ、併シ舍飼ヲ致シマスルト、四肢ガ弱クナリ、又骨軟症ナ
ドニモ罹リ易イコトハ、既ニ御承知ノ通リデアリマス、軍ノ要求致シマスル所ノ、有能馬ノ資格
ト相反スルノデアリマス、故ニ是等ヲ補正スル爲ニ、牧野ニ放シ飼ヒヲ致シマスル必要ガアル
ノデ、政府モ此ノ法案ヲ提出サレタコトト信ズルノデアリマスガ、又舍飼デハ多クノ飼料ト勞
力ヲ要シマス、今日ノヤウナ飼料不足、勞力不足ヲ補フ爲ニモ、放牧ノ必要ヲ痛感スルノデア
リマス、所ガ本法案ニ依リマスト、牧野特定地ヲ御設ケニナリマスルガ、五十町歩以上ノ牧野
ヲ目標トシテ居ラレマスノデ、大牧野對策デ、ソレ以下ノ小牧野ハ所謂牧野組合ヲ作ルニシテ
モ、恩惠ヲ受ケルコトガ少イノデナイカ、否、却テ面倒ダケガ增シ加ハルノデナイカト考ヘテ居
ルノデアリマス、七千五百頭ノ種牡馬ト、百万頭ノ有能馬ヲ保有セントスル大事業デアリマスル
カラ、大馬產地、大牧野重點主義ヲ執ラレルト云フコトモ亦已ムヲ得マセヌガ、軍馬ノ地域的分
布調整ノ必要上、又產馬ノ圓滑ヲ期シマスル爲ニ、牧野組合ヲ作リ得ナイ小牧野ノ利用モ、亦必
要ト考ヘルノデアリマスルガ、此ノ點ニ關スル政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ、第五ハ、先程
土田君モ御尋ニナリマシタガ、國有林野ヲ混牧林野トシテ、或ハ牧野トシテ開放スル考ハナイカ
ト云フ點デアリマスルガ、御承知ノ通リ森林地帶ハ二千百三万五千
町歩デ總面積ノ五四%ニ當ッテ居リマスガ、御料林ダケデモ全國ニ百三十八万町歩アリ、其ノ中、

青森、岩手、福島ノ三縣ダケニ七十七万三千町歩、約五割ガアルノデアリマス、國有林野ハ七百七十一万町歩、其ノ中東北六縣ニ二百二十三万町歩、約三割保有致シテ居ルノデアリマス、又牧野ハ三百二十五万町歩デ、總面積ノ一〇%アリマス、是等ノ土地ノ中、混牧林野トシテ、又採草地、放牧地トシテ開放スベキ所ハ、多々アラウト信ズルノデアリマス、曩ニ政府ハ森林法改正ノ際、治水及ビ森林政策ニ支障ノナイ限リ、開放スルト云フ御意見デゴザイマシタガ、仄聞スル所ニ依ルト、既ニ内地デ六万町歩、北海道デ二十六万町歩ヲ開放セラレタサウデアリマスルガ、是位デハ今次ノ牛馬増産計畫ニハマダ〳〵不足デアルト考ヘルノデアリマス、此ノ際政府ハ民間未利用地ヲ全部收容シ、牧野化ヲ圖ラレマスルコトハ當然デアリマスルガ、ソレト同時ニ國有森野ノ開放モ亦必要デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ今後ドノ程度マデ開放スル所ノ御積リデアルカ、御所見ヲ承リタイモノデアリマス、第六ハ、牧野經營ノ積極的指導ヲ掲ゲテ居リマスルガ、今日マデ多クノ牧野ガ荒廢ニ瀕シテ居リマスルノハ、經濟的貧困ニ關スル點モゴザイマスルガ、又良キ指導者ノ居ラナイ爲デモアリマス、折角牧野特定地ノ制度ガ設ケラレ、五十万町歩ノ牧野ガ出來、又民間未利用地ガドシ〳〵收容サレ、牧野化サレマシテモ、良キ指導者ガ居ラナケレバ、相變ラズ荒廢ニ歸スルノデハナイカト考ヘルノデアリマス、ソコデ本法案ニモ牧野組合ヲ作リ、技術員ヲ置クヤウニ定メラレテ居ルガ、僅カバカリノ補助金ヲ貰フ位デ置ケルカドウカ、置ケルト致シマシテモ、之ニ應ズルダケノ獸醫ガアリヤ否ヤデアリマス、獸醫養成機關ハ、御承知ノヤウニ官立大學二、官立專門學校五、私立專門學校三トナッテ居ルヤウデアリマスルガ、恐ラク是等ノ卒業生デハ不足デアリマセウ、ソコデ今回獸醫手ノ便法モ考ヘラレテ居ルヤウデアリマスルガ、此ノ法案ニ獸醫手養成モ當分ノ中ト書イテゴザイマスルガ、ソレハ事變中ノコトカ、事變後ニ是等ノ獸醫手ノ人達ハ獸醫ニ引上ゲラレルノカドウカ、又曾テ獸醫科ヲ設置シテ居タ、甲種農學校中設備ノ立派ナモノガアリマス、例ヘバ私ノ母校デアリマス大阪府立農學校ノ如キ其ノ一ッデアリマスガ、是等ノ學校ヲ利用シテ獸醫養成ヲ尚ホ一層多クスルト云フヤウナ考ガアルカドウカ、此ノ點文部大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、第七點ハ、本法案ト食糧增産計畫トノ關係デアリマス、一旦牧野特定地或ハ牧野ニ準ズルモノト指定致サレマスルナラバ、開墾ガ出來ナクナッテ居リマス、戰時下食糧生産ノ必要ナコトハ申スマデモアリマセヌ、今後ニ於テモ人口增加ニ伴ヒ、益〻增産ヲ圖ラネバナラヌノデアリマス、政府モ本年度ノ豫算ニ於テ、二箇所ノ國營開墾竝ニ幾多ノ開墾助成ヲ爲サレテ居リマスガ、牧野地區ノ開墾禁止ト食糧增産ノ爲ノ開墾事業トノ間ニ、矛盾衝突ハ起ラナイノデアラウカ、此ノ點ヲ十分考慮ニ入レテヤッテ居ルカドウカ、御意見ヲ承リタイ、各省各局バラ〳〵ノ計畫デアッタリ、其ノ時々ノ重點主義ヲ行ハレテハ、國家百年ノ計ヲ誤ラナイトハ限ラナイノデアリマス、或ハ牧野ニ指定スル所ハ、主ニ丘陵地帶或ハ傾斜地デアリ、開墾ニ不向ノ所デアルト申サレルカモ知レマセヌ、併シ最近果木栽培或ハ立體農業ナルモノガ唱道サレテ參リマシタ、ソレハ地中海ノ「コルシカ」島ノ如キ、世界最多數ノ人口ヲ養ウテ居リマスノハ、山地傾斜面ヲ利用致シマスル立體農業ニ依リマスコトヲ、世界食糧資源論ノ著者デアリマスル所ノ「ラッセル・スミス」ガ申シテ居ルノデアリマス、將來日本モ此ノ點ニ關シテ大イニ研究スル必要ガアルト思フノデアリマスガ、ソレト牧野設定トノ間ニ矛盾衝突ノナイヤウニ、今カラ考ヘテ置カナケレバナラナイガ、其ノ邊ニ對スル所ノ政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ、私ハ最後ニ畜種別牧野ヲ造ル考ハナイカト云フコトヲ御尋ヲ致シテ見タイト思ヒマス、本法ニ依リマスト、牧野組合ハ牛馬ノ受託放牧ヲスルト云フヤウニ規定サレテ居リマスルガ、混牧シテ居リマス所ノ地方ノ實情ヲ伺ヒマスルト、牛馬ヲ一緒ニ放牧スルコトヲ餘リ喜ンデハ居ラナイヤウデアリマス、ソレハ牛ハ牧野ヲ馬ヨリモ荒ストト云フヤウナ點カラ致シマシテ、馬ヲ飼フ所ノ者ガ牛ヲ一緒ニ放スコトヲ好ンデ居リマセヌ、ソコデ法文ニハ牛馬ノ受託共ニ受ケルヤウニナッテ居リマスガ、是ハ牧野組合デ別々ニスルノデアルカ、或ハサウデナシニ混合シテ之ヲ放牧サスノデアルカ、ソレ等ノ點ニ付テモ御伺スルコトガ出來マスナラバ幸ヒデアリマス、尚ホ其ノ外色々ノ點ガゴザイマスガ、細カイ點ハ委員會デ御尋致シタイト思ヒマスガ故ニ、私ノ質問ハ之ヲ以テ

終ルコトニ致シマス

島田農林大臣ノ應答

杉山君ノ御質問ハ極メテ重要ナル點ニ觸レテ居リ、同時ニ極メテ多岐ニ亙ツテ居リマス、又其ノ質問ノ內容ハ、相當技術的ノ問題ニ觸レテ居リマスカラシテ、私ハ大體ノ點ニ付テ一應ノ御答ヲ致シマシテ、詳細ノ事柄ニ付テハ、委員會ニ於テ御答ヲスルコトニ致シタイト考ヘマスカラ、此ノ點ヲ豫メ御諒承置キヲ願ヒタイ、只今御質問中飼料ノ點ニ付キマシテハ、地方ヨリ送ツタ農民ノ手紙ヲ御朗讀ニナリマシテ、御質問ニナリマシタ點ニ付キマシテハ、是ハ他ノ機會ニ於キマシテモ屢、申上ゲテ居ル如ク、今日ノ我國ノ事情ト致シマシテ、飼料、肥料、食糧ト云フモノガ、關聯シタ離ルベカラザル關係ニアルト云フコトハ、是ハ政府ト致シマシテモ、深クソレヲ認識致シテ居ル所デアリマス、而シテ此ノ飼料ノ點ニ付キマシテハ、殊ニ現今是ノ供給其ノ點ニ於テ、甚ダ窮屈ナ狀態ニナツテ居ルノデアリマス、シテ居ル、ソレガ爲ニ家畜ノ數ヲ減少スルト云フヤウナ、遺憾ナル事實ガ現ハレテ居ルト云フコトヲ、憂慮スルト云フ點ニ於キマシテハ、質問者ト政府トハ全ク感ヲ同ジク致シテ居ルノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ懸命ノ努力ヲシテ、此ノ飼料ノ確保ト云フコトニ付テヤツテ居ルノデアリマス、其ノ事情ニ付テ詳細ナ事柄ニ付キマシテハ、或ハ杉山君御自身モ亦十分御承知ノコトト思フノデアリマスガ、卽チ政府ハ御質問ノ趣意ニ鑑ミ、憂ヲ同ジクシテ、此ノ飼料ノ確保ト云フコトニ付テ、努力ヲ致シテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、申スマデモナク此ノ粗飼料ニ付キマシテハ、是ハ內地ニ於テ相當ナ供給ガアルノデアリマスケレドモ、濃厚飼料ニ付キマシテハ、遺憾ナガラ內地ノ生產ヲ以テ、此ノ需要ヲ充スコトガ十分出來ナイ爲ニ、外國ヨリシテ輸入ヲ致サナケレバナラヌ部分ガ、相當ニアルノデアリマス、而シテ圓「ブロック」ノ關係カラ、入リ得ル所ノモノニ付キマシテモ、昨年ノ滿洲ニ於ケル旱害等ノ爲ニ、相當窮屈ニナツテ居ルヽ而シテ之ヲ第三國カラ輸入スルト云フコトニ付キマシテハ、是ハ所謂物動ノ計畫カラ致シマシテ、正貨ヲ外ニ拂ツテ行カナケレバナラヌト云フ關係ガアリマシテ、之ニ付キマシテモ出來ルダケノ努力ヲ致シマシテ、輸入ニ俟チ得ルモノニ付キマシテハ、之ヲ輸入ニ仰イデ居ル次第デアリマスケレドモ、是等ノ點ニ付キマシテ未ダ十分畜產家ニ對シテ安心ヲ與ヘルト云フ程度ニ達シテ居ラヌコトヲ、甚ダ遺憾ト致シテ居リマスケレドモ、出來得ル限リノ努力ヲ致シマシテ、來年度ノ物動ノ計畫ノ上ニ於キマシテ、是等ノ點ニ付テ遺憾ナキヲ期スルト云フ意味ヲ以テ、努力ヲシテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置ク次第デアリマス、尙ホ之ニ關聯致シマシテ、飼料會社ノコトニ付テ、色々御質問ノ意味ヲ以テ御話ガゴザイマシタガ、現在ノ飼料ノ事情カラ考ヘマシテ、此ノ飼料ノ配給ノ機關ニ付テ、尙ホ不十分ナ點ガアルト云フコトハ、是ハ御質問ノ通リデアル、隨テ是等ノ點ニ付キマシテハ、飼料配給ノ機關ニ付キマシテモ、之ヲ强化充實スルノ點ニ付キマシテ、十分政府トシテハ考究ヲ致シタイ、サウシテ成ベク速ニ此ノ實現ノ方途ニ付テ考ヘテ見タイ、斯樣ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、尙ホ軍馬ノコトニ付キマシテ、馬政計畫ノ新規ニ更新セラレタ結果トシテ、馬ノ種類ガ變ツタ、斯ウ云フ點ニ付テ、保護ノ點カラ御質問ガアリマシタガ、是等ノ事柄ニ付キマシテハ、是ハ技術ノ專門家ノ部分ニ屬スルコトデアリマスガ、新馬政計畫ノ下ニ於テ蒙ムルベキ色々ナ事情ニ付キマシテハ、之ヲ出來ルダケ緩和スルト云フ途ニ付テ、考究シテ居ルト云フ點ダケヲ申上ゲテ置キマス、尙ホ此ノ點ニ付キマシテノ詳細ナル事柄ニ付テハ、委員會ニ於テ十分ニ申上ゲテ見タイト思ヒマス、ソレカラ小牧野ノコトニ付テ、是ノ必要云々ノコトニ付キマシテハ、是ハ大體牧野トシテハ、相當纏ツタ面積ノモノヲ理想トシ、之ヲ必要トハ致ス次第デアリマスルガ、併シナガラ地方ノ事情ニ鑑ミマシテ、小ナル牧野ト雖モ、之ニ對シテ相當ナ考ヲ以テ、之ヲ必要ナル場合ニハ、特定地トシテ、指定ヲスルト云フヤウナコトニ付テハ、決シテ政府ハ之ヲシナイト云フ方針デハナイノデアリマシテ、ソレニ付テ相當特定地トシテ指定ヲ致シマシテ、相當ナ保護ヲスルト云フコトニ付テハ、十分考ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ國有林野ノ開放ニ付キマシテ、縷々御意見ガアツタノデアリマスガ國有林野ニ付テ現在政府ガ考ヘテ居ル程度デハ少イ、斯

ウ云フ事柄ニ付キマシテハ、或ハ左様ナ御感ジガアルカモ知レマセヌガ、之ニ付キマシテハ尚ホ十分ニ政府トシテハ檢討ヲ加ヘマシテ、出來得ル限リ廣イ面積ヲ、所謂牧野ニ對シテ開放スルト云フ考ヲ以テ檢討ヲ加ヘテ見タイト思フノデアリマスガ、現在ハ只今御話ノアリマシタ程度ノモノニ付テ、研究ヲシテ居ルト云フ次第デアリマス、而シテ此ノ場合ニ於テ、之ニ關聯シテ混牧ノコトニ付テ御話ガアリマシタガ、御承知ノヤウニ、又御話ノヤウニ、混牧ト云フコトハ、實行ノ上ニハ好マナイト云フコトハ、實情トシテアリマスケレドモ、併シナガラ政府ト致シマシテハ、此ノ法案ヲ實施スルト共ニ、混牧ノコトニ付テモ出來ルダケ、許ス限リ之ヲ認メル、斯ウ云フヤウナ考ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、尚ホ牧野ト開墾、食糧ノ問題ニ關聯シテノ御話デアリマシタガ、是ハ十分ニ調和ヲ圖リマシテ、決シテ各局割據ノヤウナコトニ陷ラナイヤウニ、牧野ト農耕ノ爲ニスル所ノ開墾トノ間ニ矛盾ヲシタリ、或ハ衝突ノアルヤウナコトノナキヤウニ、調和ヲ圖ルト云フ點ニ付キマシテハ、十分遺憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、尚ホ技術員ニ關係シテ、獸醫師等ノコトニ付テ、法律ヲ提案スルコトニナツテ居リマスルカラシテ、其ノ點ニ付テ御考慮ヲ願ヒ、獸醫師ノ問題ニ付キマシテハ、次ニ提案ヲ爲スベキ法案ニ依ツテ解決ヲシ、當面ノ急ニ應ジタイト考ヘテ居リマス、尚ホ多數ノ點ニ付テ御質問ガアツタヤウデアリマスケレドモ、是ハ十分ニ調ベマシテ、委員會ノ席上ニ於テ詳細ニ御答ヲシタイト思ヒマス

畑陸軍大臣ノ應答

對滿事務局總裁トシテ御答ヲ致シマス、滿洲國ニ於キマスル本年度ノ雜穀ノ收穫ハ減收デアリマシタ爲ニ、隨テ出廻ガ不十分デアリマシテ、內地ヘノ供給ハ十分デアリマセヌデシタコトハ、事實其ノ通リデアリマス、洵ニ是ハ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、併シ其ノ後滿洲國側ト密接ニ連絡シ、又ソレ〴〵ノ方面モ督勵ヲ致シマシタ結果、最近漸ク順調ニ向ツテ居ルヤウデアリマスルガ、併シ今後トモ尚ホ十分ニ注意ヲ致シマシテ、需要ニ應ズルヤウニ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、先程專管公社ノ建値ト云フコトハ伺ツテ居リマスガ、細部ノ點ハ別ノ機會ニ政府委員カラ說明ヲサセルヤウニ致シタイト存ジマス、次ニ軍馬ノ馬產計畫ノコトニ付テ御質問ガアリマシタガ、是ハ値上ヲシタノ建値ノ件ニ付テ御質問ガアリマシタガ、軍馬ハ數次ノ戰役竝ニ多年ノ經驗ニ鑑ミマシテ、軍ハ持久力ノアル、所謂骨量ノアル中格馬ヲ必要トスルコトニ落著イタノデアリマス、今後軍ト致シマシテハ此ノ方針ヲ持續シテ參リタイト思フノデアリマスガ、何ニ致セ馬產計畫ト云フモノハ、大變長イ年數ヲ要スルモノデアリマスカラ、漸ヲ追ヒマシテ、順次此ノ方針ニ依ツテ指導シテ參リタイト考ヘテ居リマス

舟橋文部政務次官ノ應答

只今杉山君ノ御質問中、文部當局關係ノ御質問ガゴザイマシタノデ御答申上ゲマス、御質問ノ要旨ハ、獸醫技術員ノ不足ヲ補フ目的カラ、例ヘバ大阪農業學校ノ如キヲ利用スル考ハナイカトウカト云フ御質問デアツタト拜承致シマシタ次第デアリマスルガ、昨年二部ヲ設置致シマシテ、獸醫技術員ノ養成ニ努力致シテ居リマス、尚ホ全般的ノ問題ト致シマシテハ、時局ノ要望ニ副フ目的カラ、一般的ノ施設ト致シマシテ、農業學校獸醫技術員ノ養成施設トシテ、只今具體案ノ作成ヲ致シマシタ上デ、關係當局ト折衝スル豫定デアリマス

次テ本案ハ政府提出昭和十二年法律第九十號中改正法律案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及六〇、八五、九三、四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本院議異議ナク四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

四月四日本案ハ法律第九十四號ヲ以テ公布セラル

八八　輸出毛織物取締法案（貴族院送付）

輸出毛織物取締法

第一條　輸出毛織物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ輸出毛織物檢查所ノ檢查ニ合格シタルモノニ非ザレバ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　販賣ノ目的ヲ以テ輸出毛織物ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輸出毛織物ガ前條ノ規定ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閱ヲ受クベシ

第三號　主務大臣輸出毛織物ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保稅地域內ニ於テ又ハ店舖、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏前二條ノ規定ニ違反シテ輸出毛織物ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第四條　輸出毛織物ノ檢查ニ關シ之ニ附シタル輸出毛織物檢查所ノ印章又ハ記號ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、除却シ又ハ隱蔽スルコトヲ得ズ

前項ノ印章又ハ記號ヲ抹消シ、除却シ又ハ隱蔽シタル輸出毛織物ハ之ヲ輸出スルコトヲ得ズ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條、第二條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ輸出毛織物ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者

二　前條第一項ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル輸出毛織物ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第六條　正當ノ理由ナクシテ第三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢查、搜索若ハ差押ヲ拒シムルコトヲ得

ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　輸出毛織物ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第五條第一項第一號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八條　第五條第一項第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　輸出ノ目的ヲ以テ爲ス輸出毛織物ノ移出ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ輸出毛織物ノ輸出ニ付關稅法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ハ第一條及第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ輸出毛織物ヲ輸出スルコトヲ得

前項ノ輸出毛織物ヲ除クノ外本法施行前ニ製織シタル輸出毛織物ハ本法施行ノ日ヨリ一月以內ニ輸出毛織物檢查所ノ認定ヲ受ケ本法施行ノ日ヨリ六月間第一條及第二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ輸出スルコトヲ得

右ハ昭和十五年二月二十一日貴族院ニ提出ス同院ハ三月四日本案ヲ可決シ卽日本院ニ送付ス本院ハ同月七日本案ノ第一讀會ヲ開キ加藤商工政務次官ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ輸出毛織物取締法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、本邦毛織物ハ近年異常ナル輸出ノ增進ヲ示シマシテ、輸出品中特ニ將來性ニ富ム商品デアリマスルガ、本品ハ大部分中小工業者ノ生產ニ係リマスル關係上、動トモスレバ粗製濫造ニ陷リ、延イテハ粗惡品ガ輸出セラレマシテ、品質ニ對スル海外ヨリノ苦情ガ少クナイノデアリマス、仍テ政府ハ國營ニ依ル精密嚴正ナル輸出檢查ヲ實施シマスト共ニ、其ノ輸出ノ取締ヲ行ヒ、粗惡品ノ輸出ヲ防止致シマシテ、海外市場ニ於ケル聲價ヲ維持シ、進ンデ品質ノ改善向上、竝ニ製品ノ恆久化ヲ促シ、以テ本品ノ輸出振興ヲ圖リ、輸出貿易ノ健全ナル發展ニ資セントスルモノデアリマス、以上ノ如キ趣旨ヲ以チマシテ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アランコトヲ望ミマス

渡邊玉三郎君及須永好君質疑ヲ爲シ小磯拓務大臣、島田農林大臣、畑陸軍大臣及加藤商工政務次官應答ス

渡邊玉三郎君ノ質疑

只今上程サレマシタル輸出毛織物取締法案ニ付キマシテ、若干ノ質疑ヲ試ミントスルモノデアリマス、歷代ノ政府ガ輸出振興ニ力ヲ注ガレマスコトハ、是ハ我國ノ國情カラ當然ノコトデア

ルノデアリマス、我國ノ毛織物ハ、大正年間ハ全ク輸入ニ依存シテ居ツタノデアリマスケレドモ、昭和ノ初メ頃カラ國産奬勵、輸出振興ノ運動ガ盛ニナリマシテカラ、順次發達シタノデアリマス、曾テ昭和二年デアリマシタカ、畏多クモ　大元帥陛下ガ陸軍大演習ノ當時、名古屋ニ御駐輦遊バシマシタ當時、愛知縣ノ毛織物ヲ種々御買上ヲ賜ツタノデアリマス、漏レ承ル所ニ依リマスルト、當時ノ閣僚諸公ハ、其ノ御買上ニナリマシタル服地ヲ賜ハリマシテ、非常ニ感激セラレタコトヲ聞イテ居リマス、所謂毛織物ノ發達ハ、誠ニ畏多イ御話デアリマスケレドモ、大御心ニ依ルコトト思ヒマシテ、唯々感激シ、サウシテ業者ハ研鑽努力ヲ續ケテ、今日ノ發達ヲ遂ゲタノデアリマス、毛織物ハ數年前マデハ全ク輸入品デアリマシタノガ、晩近之ヲ防遏致シマシテ、此ノ時局下ニ於キマシテ數千万圓ノ輸出ヲ見ルニ至リマシタコトハ、洵ニ欣快ノ至リデアリマス、以下數項ニ付キマシテ質問ヲ致サウトスル者デアリマス、第一問ト致シマシテハ「リンク」制度ノ改善ノ要アリト思フノデアリマス、輸出品ニ對シマシテハ、或ハ綿ノ個人「リンク」、或ハ毛織物ノ團體「リンク」制、種々ナル「リンク」制ヲ布カレテ居ルノデアリマスケレドモ、今日現在ノ實情トハ全ク即シテ居ナイ、殊ニ毛織物ノ「リンク」制度ニ於キマシテハ、數量「リンク」デアリマスカラ、之ニ金額ト數量トヲ併用シタル「リンク」制ヲ布ク必要ガアリト信ズルノデアリマス、所謂數量「リンク」デアリマスカラ、數量ヲ多ク輸出スレバ宜イノデアル、斯ウ云フ所ニ現行法ノ缺點ガアルト思フノデアリマス、サウシテ「リンク」ノ期間ガ或ル程度少イノデアリマスカラ、其ノ間ニ「リンク」スル必要ガアル、隨テ半製品ヲ輸出スルコトヲ好ムコトニナル、即チ現在ノ「リンク」制ニ於キマシテハ、半製品奬勵ノ「リンク」制度デアルノデアリマス、完成品ノ輸出ハ、生産工程ニ日數ヲ要シ極メテ不利デアルノデアリマス、又一面カラ言ヘバ、物ノ輸出ノ「リンク」デアリマスカラ、只今政府御說明ノ所謂優良ナルモノノ輸出ヲ却テ阻碍スルノデアリマス、物ノ量ヲ輸出スレバ宜イノデアリマスカラ、數量本位デ優良品ガ出ナイ虞ガナイトハ言ヘナイノデアリマス、又現在毛織物ノ輸出ノ實情カラ申シマスレバ、現ニ海外ヨリハ隨分註文ガアル、併シ原料ノ毛ガ「リンク」制度ノ缺點カラ、毛絲紡績ガ中小工業ヘ賣ラナイ、手ニ入ラナイ、原料ノ毛絲ノ入手ハ極メテ困難ナル狀態デアル、ソレハドウ云フ譯デアルカト申シマスナラバ、國内ニ於テ六〇、雙絲ノ毛絲ガ三圓ニ公定サレテ居リマス、而シテ之ヲ毛絲デ其ノ儘輸出スレバ、二割五分高ク賣レマス、國内ヨリハ輸出ノ方ガ高イノデアリマス、更ニ織物ニシテ輸出スレバ、其ノ原絲ノ代價ハ四圓以上ニ相當スル採算ヲ以テ續々註文ガアルノデアリマス、併シナガラ此ノ採算ノ採レル方ニハ註文ガアッテモ毛絲ヲ賣ラナイ、道理ニ反スルノハ何ノ理由カト申シマスレバ、早ク「リンク」セネバナラヌ、期限ノ關係ニ依ルノデアリマス、又現在ノ「リンク」制度ト致シマシテハ、其ノ期限ノアル爲ニ、期限經過ノ時ニハ、商工省カラ非常ナ御叱リヲ受ケル、其ノ後ハ原料ヲ配給セナイ、毛絲紡績ガ操業困難ニナル罰則ガアリマスカラ、其ノ輸出證明券ハ非常ナ高價ナ「プレミアム」ガ附イテ居リマス、其ノ「プレミアム」ノ價格ハ時々變リマスケレドモ、原毛ノ代價以上ノ「プレミアム」ガ附クト云フ不合理ガアルノデアリマス、「プレミアム」ノ値段、詰リ輸出證明券ニハ物價統制令ヲ適用シナイノデアリマス、取締ガナイノデアリマスカラ、是ハ其ノ期間ガ來ル度ニ、其會社等ガ買ヒアセル、値ガ上ッテ來ル、斯ウ云フコトガ洵ニ種々ナル影響トナリ、輸出ヲ阻碍スルノデアリマス、隨テ今私ガ問ハントスル所ハ、毛織物ノ「リンク」制ヲ改正スベシト思フノデアリマスケレドモ、總テ纖維ノ輸出ニ對スル「リンク」制ハ御改正ヲ行フ必要ガアル、棉ノ個人「リンク」制モ、中小工業ノ責任ニ於テモ出來ルヤウニセラレタイト思フノデアリマス、商工當局ノ御所見ハ如何デアリマセウカ御尋致シマス、第二問、輸出ノ振興ニ付テ、國内生産及ビ物價問題ヲ如何ニ考慮サレテ居ルカ、斯ウ云フ問題デアリマスガ、國内ヲ考ヘザルニ於テハ輸出ト云フ花ハ唉カヌノデアリマス、民需ノ節約ハ勿論デアリマスガ、國内ヲ考ヘテハ如何、次ニ九・一八ノ「ストップ」令デ、輸出品ノ工賃ノ如キモ之ヲ抑制シテ居ル、即チ輸出毛織物生産業者ハ、只今政府ノ說明モアッタ通リニ、毛織物ニ於キマシテハ中小工業ガ多イノデアリマス、隨テ大工場ノ工費ヲ以テ生産スルモノガ隨分アル、併シナガラ其ノ工費ナルモ

ノヲ換言スレバ請負デアル、之ヲ九・一八ノ賃金統制デ抑ヘテシマツテ居ル、併シナガラ現在ハ輸出ハ盛ンデアル、採算ハ引合フ、毛絲ヲ渡シ毛織物ヲ引取ル、之ヲ工費利益ト通稱スルノデアルガ、之ヲ抑ヘルト云フ不合理ヲ生ズル、昨年ノ平沼内閣時代マデハ、輸出ハ所謂民需ノ「サービス」的犧牲ヲ以テ輸出致シテ居ツタノデアリマス、國際物價ノ情勢ガ今ハ一變シテ、國内ヨリ輸出ガ高ク取引サレマス今日ニ於キマシテハ、我國ノ物價ヨリ外貨ヲ獲得スル中小工業ノ生産ニ要スル工費ヲ抑ヘルコトガ不合理デアルト信ズルノデアリマス、又規格品以外ノ生産ヲアル、速ニ是正サレタキヲ望ムノデアリマス、次ニ輸出ハ豫メ計畫セザルモノハ、即チ手續キシテ輸出品ヲ生産セザルモノハ、毛織物トナツテカラ輸出シヨウト致シマシテモ、國内ノ物價統制デ生産者ハ抑制サレ、輸出商ハ統制サレテ居ナイノデアリマスカラ、生産者ハ輸出商ガ如何ニ高ク賣リマシテモ、如何ニ買ハウト致シマシテモ、生産者ハ國内物價ノ公定價格ヨリ賣ルコトガ出來ナイ隨テ是ガ政府ノ只今說明サレマシタル良品ヲ輸出スル爲ニ、本法案ヲ提出シタト云フコトニ付テ大變齟齬ヲスルデハナイカ、如何ニ品質ガ良クテモ、技術ヲ加ヘタ毛織物ガ第三國ヘ高ク賣レテモ、生産者ハ如何ニ努力シテモ、販賣價格ト云フモノハ國内價格ニ依ツテ抑ヘラレルト云フコトハ、所謂輸出ノ不振興デアルト云フ、吾々ハ肯定致シマス、併シナガラ政府ガ規格國内デ禁止スルコトハ一ツノ手段デアリマシテ、又規格品以外ノ生産ヲノ絲ヲ作リ、統制スル以前ニアツタモノヲ政府ガ配給シ、其ノ絲デ作ツテ、規定ノ期間内ニ作リ上ゲマシタル其ノ製品、其ノ優良品ヲ、規格ヲ制定サレマシタル現在ト致シマシテハ、ソレヲ當分之ヲ認メルガ、三月二十五日ヨリ格外品トシテ懲罰的ニ安ク査定スル、斯ウ云フヤウナ暴擧ヲ現在セントシテ居リマス、斯ノ如キ適正物價ト云フ、何故ニ生産者ノミ期限ヲ附スルカ、之ニ付テハ當然商工當局ハ、過去ニ出來テ居ルモノニ付テハ、之ヲ認ムルコトガ適當デアルト思フノデアリマス、此ノ第二問ノ諸點ニ付キマシテ、明快ナル當局ノ御答辯ヲ要求スルノデアリマス、第三ハ、軍需及ビ輸出品ノ生産、斯ウ云フ生産ニ對シマシテハ、毛織物ニハ封緘規則ガアリマスガ、之ヲ改正スベキデアルト思フノデアリマス、毛織物ガ民需ノミナラズ國防上必要ナルコトハ申スマデモアリマセヌ、此ノ軍需ノ註文、或ハ輸出ノ註文ガアリマシテモ、其ノ物ヲ製造スル時ニハ、織機ガ封緘サレテ居ルノヲ解除ノ願出ヲシナケレバナラナイ、許可ヲ得ルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ前々内閣時代ニ、生産調整ノ爲ニ封緘サレタノデアリマスカラ、當時トシテハ已ムヲ得ナイト思ヒマスケレドモ、今日ノ現狀、即チ絲ガ嚴正ナル配給ヲサレテ居リマス今日ニ於キマシテハ、毛織物織機ノ封緘ダケヲ削除スル、其ノ條項ヲ削除スベキデアルト思ヒマス、若シ是ガ商工省當局ノ面子デ出來ナケレバ、軍需、輸出ヲ製造スル時ハ——毛工聯ガ受註ヲ認メタル時ニハ、之ヲ直チニ解除スルト云フヤウナ制度ニ改善サレタイト思フノデアリマス、第四ト致シマシテハ、現在ノ毛織物及ビ毛製品ノ輸出振興ノ爲ニ、民間資本ヲ以テ輸出毛製品國策會社ヲ設立シ、一元的ニ統制ヲ圖ル必要アリト認ムルノデアリマスガ、當局ノ御所見ハ如何ナモノデアリマセウカ、即チ御提案ニナリマシタル總テハ、所謂品質ノ檢査デアリマス、是ハ消極的輸出振興策デアリマスカラ、吾々ハ反對スル者デハナイ、併シナガラ消極的ノ輸出振興策ニ竝行シテ、積極的ノ方途ヲ講ゼラルベキ筈デアルノデアリマス、如何ニ輸出ヲ叫ンデモ、原料資材ガナケレバ、木ニ縁ツテ魚ヲ求ムルノ類デアリマス、一元的ニ統制ヲスル、即チ原毛ヲ其ノ會社ガ輸入シ、其ノ原毛ヲ以テ毛絲紡績會社ニ賃挽キヲサセル、更ニ其ノ絲ヲ絲商ニ扱ハセ、生産者ノ手ニ必ズ入ル、サウシテ毛織物ハ整理ヲ必要ト致シマスカラ、之ヲ整理スル、サウシテ輸出商ハ是ノ「メンバー」ニナル、斯ウ云フヤウニ立體的ニ一元化スル必要ガアル、現在ノ情勢カラ申シマスナラバ、中小工業ヘハ毛絲ガ入ツテ來ナイ、若シ採算ガ有利デアルナラバ大工場ガ造ル、又輸出ノ方面カラ行キマシテモ、輸出ノ不當競爭ヲ防止スル所以ニナル、隨テ一元的ニ輸出國策會社ヲ設立シテ、其ノ資本ハ民間ノ資本デ宜イノデアリマスガ、政府ハ之ヲ監督スル、斯樣ナ方法ガ最モ適當デアルト思フガ、商工當局ハ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレルノデアリマセウカ、尙ホ之ニ關聯致シマシテ農林大臣ニモ、興亞院、拓務省ニモ御尋シタイト思ヒマスガ、所謂日滿支一體ノ經濟カラ、羊毛ノ增產計畫ヲ如何ナル程度ニ振興セシメラレ

テ居ルノデアルカ、私ハ氣候、風土ノ關係カラ、各國特徴ノアル羊毛ガ産出サレルト思フノデアリマス、所謂我國ノ綿羊國策ハ、量ニ於テハ自給自足ニ至ラナイデモ、其ノ特徴ヲ發揮スル時ニ、毛織物ノ發展ガアルト思フノデアリマス、英國ノ毛織物ガ高級デアルト云フ所以ノモノハ、所謂「カシミヤ・ウール」ヲ混入致シマシテ毛織物ヲ造ル爲ニ、英國ノ製品ガ良イノデアル、又北支ノ羊毛ハ概シテ惡イト言ハレテ居リマスケレドモ「カーベット」用ノ如キハ、殆ド北支ノ羊毛ガ亞米利加ニ全部輸出サレルト言ッテモ過言デナイノデアリマス、斯ウ云フ狀態デアリマスカラ、此ノ我國ノ情勢カラ言フナラバ、其ノ特徴ヲ現ハス必要ガアルト思フノデアリマス、斯ウ云フ見地カラ目滿支ノ羊毛國策ヲ樹立スルコトハ、皇軍ノ被服等ヲ初メ、軍需上ノ必需品デアル此ノ綿羊國策、我國ノ毛織物ノ特異性ヲ發揮シテ、輸出貿易ニ貢獻スル所ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、之ニ對シテ如何ナル所見ヲ有セラレルノデアルカ、農林省、拓務省、興亞院ノ、ソレ〴〵ノ御答辯ヲ得テ置キタイト思フノデアリマス、第五問トシテ、最後ニ絲ノ配給ヲ適正ナラシムル爲ニ、商工當局ハ如何ナル用意ガアルカ、政府ハ絲ノ配給等ニ付キマシテハ、勿論規格ヲ定メテ計畫ヲシテ、サウシテ關係工業組合聯合會ヲシテ絲ノ配給ヲ自治的ニ配給セシメナケレバ、斷ジテ必要ノ方面ヘ物ガ流レテ行カナイト信ズルノデアリマス、現ニ鐵道省ト致シマシテモ、又遞信大臣モ見エマスケレドモ、遞信省トシテモ、或ハ文部省ノ關係デアル女學生ノ服ト致シマシテモ、内務省ノ制服ニ致シマシテモ、恐ラク今日現在ニ於テハ品ガ不足デアルト思ヒマス、又勞働者ノ服ノ如キハ配給ガ不圓滑デアリマス、是ハドウ云フ原因カト申シマスルト、絲ノ配給ガ適正デナイ爲ニ、現在殆ド生産業者ハ是等ノ織物ハ一切生産ヲシテ居リマセヌ、何故ニ生産シナイカト云フナラバ、絲ノ太イモノハ多ク渡シ、細イモノニハ長サガ長イカラ少ク渡ス、其他幾ラモアリマスケレドモ、省略スル、サウ云フ關係ノ配給方法ヲシテ居ラレマスカラ、生産スルモノガ殆ドナイ、斯ウ云フ現狀デアルノデアリマス、之ニ對シテドンナ對策ヲ商工省ハ御持チニナッテ居ルカ、政府ハ近來工業組合ヲ弱體化セントスルノデハナイカト云フヤウナ、疑マデモ持ッ者ガ相當アルノデアリマス、机上ノ空論ヲ立テマシテ、事業ニ經驗ノナイ者ガ、數學遊戲トデモ申シマスカ、机上デ算盤ガ合ッタノダ、サウシテ此ノ絲ノ配給ヲスルカラ、大衆向ノ必要品デアル「サージ」ノ如キモノハ、一人モ生産スル者ガナイト言ッテ宜イヤウナ狀態デアル、斯ウ云フ物ヲ若シ作ルナラバ、工場ハ三分ノ一モ操業ガ出來ナイ、生活ハ勿論出來ナイ、斯ウ云フ無茶苦茶ノ配給デアリマスカラ、中小工業者ガ職ヲ休ンデ上京ヲシテ、色々陳情ヲシテモ中々御聽入レガナイ又官廳向ノヤウナ檢査ノ嚴シイモノ、手數ノ掛ルモノヲ造ルヨリモ、物ノ不足時代デアリマスカラ、頭ヲ使ハズニ唯規格品ヲ造レバ賣レルノデアリマス、頭ヲ使ハヌ方ガ樂デアリマス、斯ウ云フ風ナ工場ガ輸出品ヲ生産シタナラバ、輸出ハ衰亡スルコトハ明ナモノデアルト私ハ信ジマス、複雜多岐ナル毛織物ノ實情ニ卽セザル配給ヲ改メルコトガ急務デアリマス、統制時代ニ卽スル爲ニ工業組合ヲ奬勵シ、過去ニ於テ十數年前カラ、統制ノ最モ必要ナル今日ニ於テハ、工業組合ヲ利用セズニ居ル、商工省ハ如何ナル御考デアルカ、私ハ甚ダ言ヒ過ギカモ知レマセヌケレドモ、内部ノ軋轢ガ斯樣ナ結果ヲ來シテ居ルノデハナイカ、卽チ商業組合ニハ手形ノ割引、家族使用人ノ貯金、或ハ出資セザル組合ヲ許ス制度ヲ設ケッツ、工業組合ニハ之ヲ要望シテモ、未ダニ其ノ實現ヲ見ナイ如キハ、所謂工業組合ノ熱心ナ係ノ方ガ押サレテ居ル、手形割引等ニ於テモ、商業組合ニ於テハ今度政府ハ提案サレテ居ル、斯ウ云フコトハナゼ工業組合モ同時ニ改正スルヤウニ、御提案ニナラナカッタノデアルカ、私ハ以上申述ベマシタル諸點カラ考ヘマシテモ、工業組合ニ實際ノ配給ヲ掌ラセナケレバ、到底絲ノ配給ハ圓滿デナイト思フノデアリマス、政府ハ唯輸出振興ノ爲ニ織物ノ嚴格ナル檢査ヲスルノダ、斯ウ云フ消極方面ダケニ墮セズニ、積極方面、卽チ今日ノ實情ニ卽シタル輸出振興策ヲ立テラレンコトヲ望ムノデアリマス、甚ダ簡單デアリマスケレドモ、私ノ質問致シマシタル諸點ニ付キマシテ、ソレ〴〵明快ナル御答辯ヲ要求スル次第デアリマス

加藤商工政務次官ノ應答
只今渡邊君ヨリ各方面ニ亙リ、多年ノ御經驗ニ基イタル專門的ノ御質疑ガアツタノデアリマスルガ、此處デハ極ク大綱ニ付テノミ御答致シマシテ、何レ委員會ニ於テ詳細ニ御答致シタイト存ズル次第デアリマス、第一ハ「リンク」制度ヲ改善シテハドウカト云フ御質問デアツタヤウニ思ヒマスルガ、毛織物ノ「リンク」制ハ、實施以來相當ノ效果ヲ擧ゲテ參リマシタガ、今後ハ海外市場ノ狀況、原毛輸入ノ關係、其ノ他ノ狀況ノ變化モゴザイマスルガ故ニ、內容制度ニ於テモ、今後相當ノ改善ヲ致サナケレバナラヌト存ジマス、殊ニ只今ノ數量ノミノ「リンク」ヲシテ居ツテハイカヌデハナイカ、金額ト云フモノヲ考ヘナケレバナラヌデハナイカ、期限ガ短イデハナイカト云フヤウナ御論議ニ至リマシテハ、洵ニ御尤モデアリマシテ、政府ト致シマシテモ今後渡邊君ノ御說ニ從ヒマシテ、愼重考慮ヲ致シマシテ、「リンク」制ノ改善ヲ期シタイト存ズル次第デゴザイマス、次ニ渡邊君ハ輸出ノ振興上、國內物價ト輸出物價ノ關係ニ付テノ御質問デゴザイマシタガ、御承知ノ如ク輸出物價ハ、國內ノ物價統制トハ、常ニ密接ナル關聯ノ下ニ考ヘナケレバナラヌノデアリマスルガ故ニ、今後トモ輸出市場ノ情勢ノ推移ニ伴ヒマシテ、兩者ノ間ニ適正ナル調整ヲ保持致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ毛織物ノ封緘規則ノ改正ニ關シマシテノ御質疑ガアツタノデアリマスルガ、國內民需ノ毛絲ノ配給機構ガ段々良クナルニ從ヒマシテ、封緘ノ必要モ段々減ジテ參ツタヤウニ存ゼラレルノデアリマシテ、目下是ガ改廢ニ付キマシテハ、相當考慮致シテ居ル次第デアリマス、併シ差當リ軍需品、輸出品ノ製造ニ不便ノナイヤウニスル爲ニ、本規則ノ運用ニ付キマシテハ、地方廳ニ對シテ適切ナル指示ヲ、今後致シタイト存ズル次第デゴザイマス、次ニ生絲ノ配給ニ關スル御質問デゴザイマシタガ、生絲ノ配給ニ付キマシテハ、漸次其ノ機構モ改善サレテ參リマシタガ、何分限ラレタル原料デ、出來ルダケ國內ノ必要ヲ充タサウト云フノデアリマスルガ故ニ、今後ハ毛織物規則ノ統制ト、生產計畫ノ具體化トモ密接ナ關係ガアリマスノデ、是等ノ點ヲ睨ミ合セマシテ、今後一層適切ナル方法ヲ講ジタイト存ジテ居ル次第デゴザイマス、又輸出毛織物會社ニ付テノ御意見デゴザイマシタガ、拜聽致シマシテ、今後十分ニ研究致シタイト存ズルノデアリマス、其ノ他詳細ノ點ニ付キマシテハ、何分專門ニ亙ツテ居ルコトデゴザイマスルガ故ニ、委員會ニ於テ他ノ政府委員ヨリ詳細ニ御答ヲ致シタイト存ズル次第デアリマス

小磯拓務大臣ノ應答
拓務省トシテ關係シテ居リマスル羊毛ノ增產ニ關シテ御答申上ゲマス、朝鮮ニアリマシテハ目下緬羊四万一千頭ヲ保有シテ居ルニ過ギマセヌ、併シナガラ昭和九年ヨリ昭昭二十一年ニ亙ル永年計畫ヲ以チマシテ、之ヲ六十五万頭ニ增產スル計畫ヲ持ツテ居リマス、尙ホ拓務省ノ管理シテ居リマスル東亞緬羊協會ヲシテ滿洲、北支及ビ蒙疆ニ於ケル羊毛ノ改良增殖ニ關シ指導セシメツツアリマス、其ノ業務ノ一班ヲ申上ゲマスルト、滿洲ニ於テハ龍爪ト云フ所ニ、濠洲緬羊ノ純系牧場ヲ經營シテ居リマス、又蒙疆ノ多倫諾爾ニハ雜種ノ育成牧場ヲ持ツテ居リマス、其ノ外滿洲ノ移民地ニ對シマシテハ、年々三千頭乃至五千頭ノ蒙古羊ヲ無償配付ヲシツツアリマス、サウシテ此ノ十五年度ニ於テハ、更ニ北支及ビ蒙疆ニ一箇所ヅツノ牧場ヲ、新規ニ開設ヲスル計畫ニナツテ居リマス、左樣御諒承ヲ願ヒマス

島田農林大臣ノ應答
緬羊ノ飼育ノコトニ付テ簡單ニ御答シテ置キマス、御承知ノ如ク昭和十二年ヨリ八年計畫ヲ以チマシテ、百四十万頭ニ緬羊ヲ殖ヤシタイト云フ計畫デ進ンデ居ル次第デアリマシテ、昭和十四年ノ現在ニ於キマシテハ十二万五千領、羊毛ニシテ三十七万斤ノ產額ノ程度デアリマスガ、尙ホ後ノ年度計畫ニ依ツテ、只今申上ゲマスヤウニ、百四十万頭マデソレヲ殖ヤシテ行キタイト云フ計畫ヲ實行中デアルト云フコトダケヲ申上ゲマス

須永好君ノ質疑

本法案ハ輸出毛織物ニ對シ國營檢査ヲ施行シテ、其ノ檢査合格品ノミヲ輸出セシメテ、サウシテ海外ニ於ケル本邦製品ノ聲價ヲ高メ、其ノ販路ヲ擴張セントスルモノデアリマスカラ、洵ニ結構ナ法案デアリマス、併シナガラ其ノ運用ノ上ニハ注意ヲセネバナラヌ問題ガ相當アルト思フノデアリマス、ソコデ之ニ對スル政府ノ所信ヲ伺ツテ見タイト思フノデアリマス、第一ハ新規工夫ノ製品、及ビ見本的輸出品ニ對スル取扱ノ問題デアリマス、檢査ヲ執行致シマシテ、其ノ合格品ノミガ輸出サレルト云フコトハ、今マデ出テ居リマシタ輸出品ニ付キマシテハ、其ノ品質ガ向上致シマシテ、相當聲價ヲ高メルト云フ效果ハアルノデアリマスケレドモ、動トモ致シマスルト此ノ檢査ノ規定ニ拘束ヲサレマシテ、新規工夫ノ見本的ナ製品ノ進出ヲ抑ヘテシマフ、其ノ爲ニ販路擴張ノ上ニモ支障トナルコトガアルノデアリマス、殊ニ我國ノ毛織物ノ如キ、新シイ販路ヲ見付ケテ進出シナケレバナラナイ立場ニアルモノハ特ニ斯ウ云フ必要ヲ考ヘルノデアリマス、而モ其ノ生産方法ガ中小工場ニ於テ生産サレ、ソコニ創作的ナ技術ヲ特徵トシテ持ツテ、サウシタ商品トシテ出テ參ルノデアリマスケレドモ、其ノ特徵ヲ生カスト云フコトニ相當注意致シマセヌト云フト、私ハ輸出ノ上ニ支障ヲ來スト思フノデアリマスガ、之ニ對スル商工省ノ御考ガ伺ヒタイノデアリマス、第二點ハ、設備改良ニ付テノ特別ナ考慮ヲ與ヘラレルカドウカト云フコトデアリマス、本法ノ施行ノ目的ガ品質ノ向上ニアリマスコトハ、先程ノ說明ノ通リデアリマスルガ、其ノ品質ヲ向上サセルト云フコトハ、決シテ檢査ノミデハ品質ノ向上ガ達セラレナイノデアリマス、ソコデ製造設備ノ改良モ伴ハネバナラナイト思フノデアリマスルガ、我國ノ輸出毛織物ノ製造ハ、歷史モ淺ク、設備モ小規模ニシテ、而モ完全デハナイノデアリマス、特ニ之ヲ經營スル者ガ多ク中小工業家ノ經營デアリマスル關係上、其ノ設備ノ改良ハ必要デアリナガラ、而モ非常ナ困難ナ事情ニアルノデアリマス、隨テ設備改良ノ資金ノ融通ノ問題、及ビ織機改良ノコトニ對シマシテハ、特ニ政府ニ於テ考慮ヲ拂ハナケレバ、本法ヲ折角制定致シマシタ目的ニ副ハナイモノガアルト思フノデアリマスルガ、此ノ設備改良ニ對スル政府ノ御方針ヲ承リタイコトハ、毛製品ト原毛トノ「リンク」ノ問題デアリマスル、此ノ問題ニ付キマシテハ、先程同僚渡邊君カラ御伺ガアツタヤウデアリマスルカラ、私ハ其ノ答辯デ滿足スルノデアリマスルケレドモ、併シナガラ特ニ注意ヲ拂ツテ戴キタイ點ニ付キマシテ一點申上ゲマスルナラバ、價格「リンク」ニ致シマセウガ、結局モウ一ツ考慮ニ入レナケレバナラナイコトハ、其ノ原毛ノ數量「リンク」ニ致シマセウガ、結局モウ一ツ考慮ニ入レナケレバナラナイコトハ、其ノ原毛ノ輸入先ト製品ノ輸出先トノ關係デアリマス、今日ニ於キマシテハ濠洲ノ方面カラ最モ澤山ノ原毛ヲ輸入シテ居ルノデアリマスガ、其ノ輸出先ハ印度方面ノ變ツタ方面ニ出テ參ルノデアリマス、是ハ我國ニ於キマスル「リンク」制度ノ全體ニ亙ツテ考慮スベキ問題デアルト思フノデアリマスケレドモ、此ノ輸出入先ト云フコトヲ考慮ニ入レマセヌト、私ハ今日ノ如ク制限サレタ貿易ノ間ニ於テハ、「リンク」ノ制度ニ依ツテ輸出ハ幾ラデモ發展スルト考ヘテ居リマシテモ、サウ參ラヌト考ヘルノデアリマス、例ヘバ濠洲方面ニ於テハ原毛ハ輸出致シマスケレドモ、決シテ毛織物ヲ輸入致シマセヌ、隨テ濠洲方面デ買入ヲ希望シテ居ルモノハ、結局人絹織物其ノ他ノ製品デ出テ參ルノデアリマス、斯樣ナ輸出先ヲ考慮致シマシタ「リンク」制ヲ相當考慮ニ入レル必要ガアルト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、先程ノ渡邊君カラノ質問ノ上ニ更ニ此ノ一點ヲ考慮ニ入レテ戴キタイト考ヘルノデアリマス、第四ノ問題ハ圓「ブロック」ヘノ輸出ニモ檢査ヲ行ヒ、合格品ノミヲ輸出セントスル方針デアルヤウデアリマスガ、本法ニ依ル檢査ガ施行セラルルコトニナリマスルナラバ、不合格品モ相當出來ルト思フノデアリマス、特ニ今日マデノ取引ノ事情カラ考ヘマスルナラバ、圓「ブロック」向ノ輸出品ハ一變セラレナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、私ハ圓「ブロック」ヘノ輸出品ハ、檢査ヲスルト致シマシテモ、第三國向ト區別ヲシタ檢査ヲ行ヒ、第三國向不合格品ト雖モ、輸出ノ出來ルヤウナ方法ヲ講ズベキダト考ヘテ居リマスガ、政府ハ之ニ對シテドウ云フ風ニ御考デアリマスカ、其ノ點御伺シタイト思フノデアリマス、第五ハ、原料確保ニ付テノ政府ノ所信ガ伺ヒタイノデアリマス、是ハ單ニ輸出毛織物ノ問題ダケデハナイノデアリマシテ、我國ノ毛織物全體ニ付テノ政策ニ付テ伺

ヒタイノデアリマス、毛製品ハ今日我ガ國民生活ノ上ニ於テ最早缺クベカラザルモノデアルト同時ニ、重要ナル軍需品デアルコトハ申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ我國ニ於キマシテハ其ノ原料ガ極メテ乏シク、數十年前ヨリ其ノ生産ニ努力シテ居ルニモ拘ラズ、未ダニ其ノ成績ハ十分ニ擧ツテ居ラナイノデアリマス、昨年カラ日滿ヲ通ジマシタ緬羊七箇年計畫等ガ立テラレタトハ申シマスルケレドモ、其ノ目標ト云フモノハ餘リ貧弱ニシテ、私ハ日滿支ヲ一體トシタ今日ノ事情ニ比ベマスナラバ、更ニ大規模ナ計畫ヲ立ツベキデアラウト考ヘルノデアリマスガ、先程拓務大臣、農林大臣等カラ朝鮮及ビ內地ニ於ケル增產計畫ノ一部ハ承ツタノデアリマスルガ、私ハ更ニ滿洲及ビ支那モ入レタ大キナ此ノ原料ヲ獲得スル所ノ計畫ニ付テドウ云フ御考デアルカヲ承リタイノデアリマス、私ハ此ノ毛織物ガ缺クベカラザル軍需品デアルト云フ見地カラ申シマスルナラバ、單ニ我國ノ輸出貿易ノ保護ト云フ見地ヨリモ、此ノ軍需品ヲ自給自足スルト云フ見地ニ立ツテ、三百万ヤ五百万ノ軍隊ガ五年ヤ六年動イテ居リマシテモ、「ステープル・ファイバー」ノ混ツタ洋服ヲ著セテ出スコトノナイヤウナ、シツカリシタ羊毛ニ對スル所ノ計畫ヲ立テテ欲シイト考ヘルノデアリマス、此ノ點ハ先程渡邊君ノ質問ニ御答ニナリマシタノデアリマスルケレドモ、私ノ質問セントスル立場ハ、所謂輸出品トシテノ持徵ヲ持タスト云ツタ立場ヨリモ、今日ニ付キマシテハ軍需品トシテノ重要ナ此ノ緬毛ノ需給ヲ自給自足出來ル程度ニマデ、日滿支一體ノ上ニ其ノ計畫ヲ立テル必要ガアルノデハナイカト云フ見地ニ立ツテ、滿洲支那方面ニ對スル分マデ一ツ考ヘテ、此ノ點ハ拓務大臣及ビ對滿事務局總裁デアリマスルト所ノ陸軍大臣等カラ御答辯ガ願ヒタイト思フノデアリマス、第六ノ問題ハ國民服制定ノ問題ニ付テデアリマス、隨テ毛製品ニ付キマシテモ、現在ハ原毛ヲ第三國ニ仰ガネバナラヌ國情ニ置カレテ居ルノデアリマス、軍需ヲ全ウスレバ民需ガナイ、而モ有效ニ之ヲ使用セナケレバナラナイト思フノデアリマスルガ、全カラズト云フヤウナ今日ノ時代ニ於キマシテハ、少民需ヲ少シデモ補ハウトスレバ、軍需ガ全ク軍民共用ノ國民服ノ制定ヲ行ヒ、之ヲ兵役ニ最モ近クトモ私ハ軍ト民トヲ切離サズシテ、全ク

接シテ居リマスル所ノ勤勞大衆ニ重點ヲ置イテ配給シ、サウシテ此ノ國民服ハ直チニ民間ノ「ストツク」ノ形ニシテ置イテ、一朝事アル時ハ召集サレタ者ガ直チニ之ヲ著テ出テ出征スルコトガ出來ルト云フコトニシマスルナラバ、是ハ民需ヲ全ウシ、且ツ軍用ヲ充實セシムル所ノ方法デアルト考ヘルノデアリマス、斯樣ニ考ヘマスルナラバ、今日ノ民需ノ如ク、上流社會ニ於キマシテハ、殆ド純毛品ヲ獨占シテ、サウシテ上流社會ニハ贅澤ナ純毛ノ洋服ヲ何著モ死藏シテ置クヤウナコトガサレテ居ルノデアリマスルケレドモ、之ヲモツト大衆化スルト同時ニ、是ガ直チニ軍需ニ役立ツヤウナ方法ヲ講ズルコトハ、今日最モ必要ナコトデアルト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ陸軍大臣ノ御所見ガ伺ツテ置キタイノデアリマス、更ニ此ノ國民服制定ノコトニ關聯致シテ、私ガ政府ノ意向ヲ質シタイト思ヒマスルコトハ、今日現在ニ於キマシテモ、私ハ反毛回收ノ運動ガ十分ニ徹底シテ居ラヌト云フ如ク極ク缺乏シタル時代ニ於キマシテモ、私ハ反毛回收運動ヲ猛烈ニシテ、コトヲ考ヘマスル時ニ、商工省ハ此ノ國民服制定ト同時ニ、此ノ反毛回收シ、サウシテ新シイ國民服サウシテ今日ノ上流社會ニ死藏セシメテアル所ノ一切ノモノヲ回收トシテ更生シテ出ス必要ガアルト思フノデアリマスルガ、之ニ付テノ御所見ガ承リタイノデアリマス、以上簡單デアリマスルガ明確ナル御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス、私ハ是ニテ質問ヲ打切ルコトニ致シマス

加藤商工政務次官ノ應答

須永君ニ御答致シマス、須永君ハ毛織物ノ檢査ニ當シテ、見本品若クハ新規商品ニ付テハドウ云フ扱ヒヲスルノデアルカト云フ御尋デアリマスルガ、毛織物檢査ヲ實施シマスルニ付キマシテハ、見本品タルコトガ明カデアル場合ハ、是ハ檢査カラ除外致シマス、又新規ノ商品ニ付キマシテ檢査ヲ爲シマシテモ、其ノ運用ニ關シマシテハ、何處マデモ輸出奬勵ノ立場ニ立ツテ、適當ニ措置ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、併ナガラ假令新規商品デアリマシテモ、其ノ物ガ粗惡デアッタ場合ハ、サウシテ海外ノ聲價ヲ落スヤウナ場合ハ、是ハ不合格トセザルヲ得ヌノデアリマス、次ニ毛

織物ノ工場ノ設備ハ、斯ウ云フ毛織物工場ハ中小工業者ガ多數デアルガ爲ニ不完全デアルガ、之ヲ何トカ改善シナケレバナラヌト思フノガ、政府ノ所信如何ト云フ御質問ノヤウ承ツタノデアリマス、何分此ノ改善ト云フコトハ、第一ニ金ガ大切デ、金融ノ問題デアルト思ヒマスガ故ニ、政府ト致シマシテハ、本年モ商工中央金庫法ヲ改正致シマシテ、其ノ融通ヲ一層圓滑ニ致シマシテ、以テ此ノ工場ノ改善ニ資シタイト存ジマス、次ニ「リンク」制ノ問題ニ付テノ御質問デアリマス、是ハ先刻渡邊君ニ御答致シマシタ如クデアリマスルガ、更ニ只今ノ御質問ニ依リマシテ、政府トシテハ一層考慮研究致シタイト存ズル次第デアリマス、次ニ圓「ブロック」向ノ毛織物ニ付テノ檢査ハ、サウ嚴重ニシナクテモ宜イデハナイカト云フ意味ノ御質疑デアリマスルガ、現ニ圓「ブロック」ニ對シマシテ、絹織物及ビ人絹織物ニ對シマシテモ、國營ノ檢査ヲ致シテ居ル關係モアルノデアリマシテ、今回又毛織物モ其ノ同樣ノ立場ニ於テ檢査ヲ致ス次第デアリマス、殊ニ毛織物ニ對シマシテハ圓「ブロック」ヲ通ジマシテ第三國ニ輸出サレルコトニナリマスト、一方ニ於テ十分茲ニ國營檢査ヲ致シテ居ルニモ拘ラズ、圓「ブロック」ヲ通ジテ第三國ニ行ク毛織物ガ粗惡ナモノデアリマスト、折角一方ニ於テ檢査シ、聲價ヲ維持セントスル趣意ニ相反スルコトデアリマスガ故ニ、圓「ブロック」ト雖モ之ヲ除クト云フ譯ニハ參ラナイノデゴザイマス、次ニ反毛回收運動デゴザイマスルガ、只今色々御說ヲ承リマシタガ、是ハ政府トシテモ助力致シマシテ、御趣意ニ副ヒタイト心得テ居ル次第デゴザイマス

畑陸軍大臣ノ應答

須永君ニ御答ヲ致シマス、國民特ニ兵役關係者ヲシテ國民服ヲ普及的ニ著用セシメタイト云フ御意見デアリマシタガ、是ハ軍ニ於キマシテモ有事ノ際ヲ顧慮致シマシテ、其ノ實現ヲ深ク希望シテ居ル所デアリマス、尙ホ反毛回收ニ關シマスル御意見ハ全然同感デアリマシテ、軍ニ於テハ特ニ之ヲ隨分細微ニ亙ツテヤツテ居リマス、併シナガラ今後更ニ徹底的ニ一ツ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ日滿支ヲ通ズル羊毛增產計畫デアリマスルガ、是ハ申スマデモナク、軍需其ノ他ニ至大ノ關係モアリマスルシ、殊ニ物動計畫ト見合セマシテ、ソレ〴〵各方面連繫シテ今シッカリ研究モシ、又相當ノ案モ出來テ居ルノデアリマス

小磯拓務大臣ノ應答

先刻渡邊君ノ御質問ニ對シ御答ヲ申上ゲマシタ如ク、拓務省ハ東亞緬羊協會ノ關係ニ於テ、滿洲北支及ビ蒙疆ノ羊毛改良及ビ增加ニ關係ヲシテ居リマスルカラ、此ノ方面ノ地域ニ關スル增產計畫ニ關シ、私ヨリ御答ヲ申上ゲマス、滿洲ニ於テハ現在約二百四十萬頭ノ羊ガ居リマス、之ヲ十年計畫ヲ以テ四百二十萬頭ニ增加ヲスル筈デアリマス、北支ニ於テハ在來種ガ今日約四百萬頭居リマス、蒙疆ニ於テハ在來種ガ五百四十五萬頭居リマス、サウシテ東亞緬羊協會ノ努力ニ依リ、今後八年間ノ目途ヲ以テ、北支ニハ改良種ヲ百萬頭、蒙疆ニハ改良種二百萬頭ノ增殖ヲスル計畫ニナツテ居リマス

次テ本案ハ政府提出輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及**九〇、一〇七**ノ二案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ（委員長報告ハ本項第**九〇**參看）院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ本案ハ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知シ**九〇**及**一〇七**ハ卽日貴族院ニ送付ス

四月四日本案ハ法律第九十五號ヲ以テ公布セラル

八九　日本肥料株式會社法案

日本肥料株式會社法

第一條　日本肥料株式會社ハ肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條　日本肥料株式會社ノ資本ハ五千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條　日本肥料株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラズ日本肥料株式會社ノ株主トナルコトヲ得

第四條　政府ハ二千五百萬圓ヲ限リ日本肥料株式會社ニ出資スベシ

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第五條　日本肥料株式會社ニ非ザルモノハ日本肥料株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號トナスコトヲ得ズ

第六條　日本肥料株式會社ニ役員トシテ理事長副理事長各一人、理事五人以上及監事三人以上ヲ置ク

理事長ハ日本肥料株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ日本肥料株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

監事ハ日本肥料株式會社ノ業務ヲ監査ス

第七條　理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ選擧シタル候補者中ヨリ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第八條　理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　日本肥料株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　肥料ノ買入及販賣

二　肥料ノ輸出、輸入、移出及移入

三　肥料ノ製造、肥料製造事業ニ對スル投資其ノ他肥料ノ供給確保上必要ナル事業

四　其ノ他肥料ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

前項ノ肥料ハ硫酸アンモニア、石灰窒素、過燐酸石灰、カリ鹽及命令ヲ以テ定ムル其ノ他ノ肥料トス

第一項第三號又ハ第四號ニ揭グル事業ヲ營マントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十條　日本肥料株式會社ハ前條ノ肥料以外ノ肥料ノ配給統制事業ヲ行フ株式會社ニ對シ政府ノ認可ヲ受ケ投資スルコトヲ得

第十一條　政府第九條ノ肥料ノ供給確保上必要アリト認ムルトキハ日本肥料株式會社ニ對シ肥料ノ製造業者ト協議ノ上其ノ製造工場ノ經營ノ管理ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十二條　日本肥料株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ肥料債券ヲ發行スルコトヲ得

肥料債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十三條　肥料債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十四條　政府ハ肥料債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十五條　肥料債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十六條　肥料債券ノ所有者ハ日本肥料株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十七條　日本肥料株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ

第十八條　日本肥料株式會社ハ拂込ミタル株金額ニ對シ勅令ヲ以テ定ムル割合ヲ超エテ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條　日本肥料株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

日本肥料株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト三トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第二十條　政府ハ日本肥料株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條　日本肥料株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條　日本肥料株式會社ノ定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十三條　日本肥料株式會社ハ毎營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十四條　日本肥料株式會社ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外政府ノ認可ヲ受ケタル價格ニ依ルニ非ザレバ第九條ノ肥料ノ買入、販賣、輸出、輸入、移出又ハ移入ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十五條　政府必要アリト認ムルトキハ日本肥料株式會社ニ對シ第九條ノ肥料ノ配給統制上又ハ供給確保上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ズルコトヲ得

政府ハ日本肥料株式會社ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢查ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　政府ハ日本肥料株式會社監理官ヲ置キ日本肥料株式會社ノ業務ヲ監視セシム

日本肥料株式會社監理官ハ何時ニテモ日本肥料株式會社ノ帳簿書類、金庫其ノ他ノ物件ヲ檢查スルコトヲ得

日本肥料株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本肥料株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本肥料株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ハ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十七條　政府日本肥料株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條　重要肥料業統制法第十條第一項ノ規定ハ日本肥料株式會社ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十九條　日本肥料株式會社ハ第九條ノ肥料ノ價格ノ調整ヲ圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ價格平衡資金ヲ設定スベシ

前項ノ規定ニ依リ價格平衡資金ニ繰入レタル金額ハ法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第三十條　第九條ノ肥料ニシテ主務大臣ノ指定スルモノノ製造業者及其ノ肥料ノ取扱ヲ爲ス者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ取扱ニ係ル肥料ヲ日本肥料株式會社ニ賣渡スベシ

前項ノ肥料ノ取扱ヲ爲ス者ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

政府ハ第一項ニ揭グル者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　第二十五條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ第二十四條若ハ前條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第三十條第三項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條第三項ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者亦前項ニ同ジ

第三十三條　法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條第一項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十四條　第三十一條及第三十二條第一項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條　日本肥料株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二　第九條第一項ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三　第十二條第一項ノ規定ニ違反シ肥料債券ヲ發行シタルトキ

四　第二十五條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタルトキ

日本肥料株式會社ノ理事長、副理事長又ハ理事第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條　第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附　則

第三十七條　本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條　日本硫安株式會社及臨時肥料配給統制法第一條第一項ノ規定ニ依リ過燐酸石灰ノ配給統制上必要ナル事業ヲ行フベキコトヲ命ゼラレタル株式會社（燐酸肥料配給株式會社）ハ命令ノ定ムル所ニ依リ商法第三百四十三條ニ定ムル株主總會ノ決議ヲ以テ日本肥料株式會社ト爲ルコトヲ得

日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社前項ノ決議ヲ爲シタルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條　前條ノ認可ヲ爲シタルトキハ政府ハ設立委員ヲ命ジ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ヲ日本肥料株式會社ト爲ス爲ニ必要ナル事務ヲ處理セシム

前項ノ役立委員ノ中少クトモ二人ハ日本硫安株式會社ノ取締役中ヨリ、少クトモ二人ハ燐酸肥料配給株式會社ノ取締役中ヨリ之ヲ命ズルコトヲ要ス

設立委員ノ任命アリタル後ハ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ノ取締役ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ會社ノ常務ニ屬セザル行爲ヲ爲スルコトヲ得ズ

第四十條　設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條　前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ總株式ヨリ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ノ株式ニ引當テラルベキ株式竝ニ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條　株式申込證ニハ商法第百七十五條第二項第二號及第四號乃至第七號ニ規定スル事項ノ外定款認可ノ年月日ヲ記載スベシ

第四十三條　設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第四十四條　設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滯ナク各新株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシム

ベシ

第四十五條　前條ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十六條　創立總會ニ於テハ第七條ノ規定ニ準ジ理事ノ候補者ノ選擧及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十七條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本肥料株式會社理事長ニ引渡スベシ

第四十八條　日本肥料株式會社ノ成立ニ因リ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ハ之ニ吸收セラルルモノトシ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ノ權利義務ハ日本肥料株式會社ニ於テ之ヲ承繼ス

第四十九條　前條ノ規定ニ依リ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ガ日本肥料株式會社ト爲リタルトキハ法人稅法、營業稅法及臨時利得稅法ノ適用ニ關シテハ日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタル法人ト看做ス

日本肥料株式會社ガ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登錄稅ヲ課セズ

第五十條　第三十八條乃至前條ニ規定スル・モノヲ除クノ外日本硫安株式會社及燐酸肥料配給株式會社ガ日本肥料株式會社ト爲ル場合ニ於テ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條　第三十八條第一項ノ決議ナキ場合又ハ其ノ決議ガ效力ヲ生ゼザル場合ニ於テ日本肥料株式會社ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條　第五條ノ規定施行ノ際現ニ日本肥料株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ同條ノ規定施行後六月以內ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十三條　登錄稅法第六條第一項第十一號中「硫安債券」ヲ「肥料債券」ニ改ム

第五十四條　硫酸アンモニア增產及配給統制法中左ノ通改正ス

第六條ヲ削リ第七條ヲ第六條トス

第八條ヲ第七條トシ同條第二項中「日本硫安株式會社」ヲ「日本肥料株式會社」ニ改ム

第九條乃至第三十七條ヲ削ル

第三十八條ヲ第八條トシ同條中「第八條」ヲ「前條」ニ改ム

第三十九條ヲ削ル

第四十條ヲ第九條トシ同條中「本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ」ヲ「前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキ」ニ改ム

第四十一條ヲ第十條トシ同條中「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則」ヲ「第八條ノ罰則」ニ改ム

第四十二條乃至第四十四條ヲ削ル

第五十五條　前條ノ規定施行前硫酸アンモニア增產及配給統制法ノ罰則ヲ適用スベキ行爲アリタルトキハ同條ノ規定施行後ト雖モ仍其ノ罰則ヲ適用ス

右ハ昭和十五年三月四日本院ニ提出ス同月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ島田農林大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ日本肥料株式會社法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、政府ハ肥料ノ重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ需給ノ圓滑及ビ價格ノ公正ヲ圖リマス爲、從來各般ノ施設ヲ購ジテ參ツテ居リマスガ、特ニ支那事變勃發以來、是ガ供給ノ確保ト配給ノ圓滑トヲ圖リマスコトガ一層緊要トナリマシタ爲、臨時肥料配給統制法、竝ニ硫酸「アンモニア」增產及ビ配給統制法ノ制定、肥料配給割當制度ノ實施、其ノ他諸般ノ施設ヲ致シテ、是ガ對策ヲ講ジテ參ツタノデアリマス、然ル所、現在重要肥料ノ配給ハ、硫酸「アンモニア」ニ付キマシテハ日本硫安株式會社、過燐酸石灰ニ付キマシテハ燐酸肥料配給株式會社、其ノ他石灰窒素等ニ付キマシテハ、又別個ノ中樞配給機關ガアリマシテ、是等ノ手ニ依ッテ、各別ノ系統ニ依リ行ッテ居ルノデアリマスガ、此ノ際各種肥料ノ配給ヲ綜合致シマシテ、一元的ニ、且ツ最モ計畫的、能率的ニ、之ヲ行フ必要アリト認メ、卽チ窒素、燐酸及ビ加里ノ調和アル施用ニ遺憾ナカラシム

ル爲、現在ノ配給中樞機關ヲ統合シテ、更ニ強力ナルモノト爲スコトヲ致シタノデアリマス、又現下ノ肥料事情ニ鑑ミマスル時ハ、肥料ノ需給ノ圓滑ヲ圖リマス爲、配給ノ統制ヲ致シマス外、更ニ根本ノ問題タル肥料ノ供給確保ノ爲ノ施設ヲ要スルノデアリマシテ、是ガ爲強力ナル機關ニ於テ、肥料ノ製造、肥料製造工場ノ經營ノ管理、肥料製造事業等ニ對スル投資、其ノ他肥料ノ供給確保上、必要ナル施設ヲ爲シ得ルコトト致スコトヲ必要トシテ居ルノデアリマス、以上ノ如キ理由カラ、茲ニ現ニ存スル肥料ニ關スル中樞機關ヲ統合致シマスト共ニ政府モ之ニ出資ヲ致シマシテ、日本肥料株式會社ヲ設立シ、重要肥料ノ一手買取、販賣、及ビ更ニ進ンデハ、自ラ製造シタルモノノ販賣ヲモ爲スノ計畫ノ下ニ、各種肥料ヲ通ズル供給確保ノ施設及ビ配給統制事業ヲ爲サシメマシテ、以テ肥料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正トヲ圖ラントシ、茲ニ本法案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

長野長廣君、濱地文平君、河野一郎君、野溝勝君及吉田賢一君質疑ヲ爲シ島田農林大臣、小磯拓務大臣及藤原商工大臣應答ス

長野長廣君ノ質疑

私ハ日本肥料株式會社法案ニ付島田農林大臣並ニ拓務大臣、商工大臣、遞信大臣ノ御答辯ヲ求メタイト存ジマス、我國ノ農業經營ハ、良質ニシテ低廉且ツ豐富ニ肥料ヲ供給スルコトニ依ツテ、其ノ收穫ヲ增大シ、又收益ヲ高メ、而シテ報酬漸減ノ法則ヲ相當程度ニ遠ザケ得ルモノデアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ現下農村ニ於ケル勞力不足ノ爲ニ憂慮セラレテ居ル生產減退ノ如キ問題モ、若シ肥料ノ供給ニシテ完璧ヲ期シ得ラレマスナラバ、容易ニ相當程度ニ之ヲ解決スルコトガ出來得ルモノト考ヘルノデゴザイマス、此ノ意味ニ於キマシテ、肥料ハ我國農業經營諸要素ノ中デ嶄然タル地位ヲ占メテ居ル、此ノ優位ナル地歩ヲ占メテ居リマス肥料ニ對スル政策コソ、洵ニ我ガ日本農業ノ振否ニ係ル重要問題デアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ政府ハ本問題解決ノ爲日本肥料株式會社法案ヲ玆ニ提出セラレタノデアリマスルガ、之ヲ以テ我ガ農民ハ安心スルコトハ出來ナイ、肥料ニ關スル幾多ノ重要問題ハ、農民ノ眼前ニ展開ヲシテ、而シテ農民ヲバ生產不安ニ陷レツツアルカノ感ガアルノデアリマス、私ハ是等ノ實情ニ鑑ミマシテ、數項ニ亙ツテ質問致シタイト存ズルノデアリマス、第一ニ、政府ハ肥料ノ配給ヲバ、米麥ヲ中心トスル所ノ重心主義ニ依ツテ爲サントシテ居ルノデアリマス、私ハ之ニ加フルニ地域的生產配給ノ計畫ヲ立テテ、國土計畫ノ上ニ完璧ヲ期セナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス若シ夫レ重點主義ニ依リマシテ、肥料ガ一タビ農民ノ手ニ入リマスルヤ、農民ハ先ヅ農業ノ本質ニ基キマシテ、作付ノ時ニ從ヒ、早ク仕付ケルモノカラ順次ニ其ノ肥料ヲ施スコトニ相成ルノデアリマス、米麥ニ重心點ヲ置クモ、先ヅ一番ニ作付シナケレバナラヌノハ東北ニ於テ麥、中部地方以西ニ於キマシテハ桑デアルノデアリマス、果樹、蔬菜等之ニ次ギ、サウシテ稻ニ對スル所ノ肥料ハ、最後ニ施用セラレルコトトナツテシマフ、後ニナルカラ當然稻ノ作付ニハ、肥料ノ不足ヲ招來ヲ致スノデゴザイマス、是ニ於テ政府ト致シマシテハ、若シ肥料ノ此ノ統制ノ完璧ヲ期センニハ、須ク農村ノ中ニ一ツノ機構ヲ設ケテ、所謂肥料ノ配給ト、配給セラレタル肥料ヲ使フ其ノ狀態ニ向ツテ正シキ觀察ヲ爲シ、之ヲ指導シ、之ヲ監督統制スル所ノ新機構ヲ作ラナケレバ今日ノ儘デハ到底重點主義ノ肥料配給ノ目的ヲ達スルコトハ出來ナイノデアリマス、農林大臣ハ此ノ農村機構ノ確立ニ付テ、何等カノ御計畫ガアルノデアリマセウカ、更ニ國家ノ大局ヨリ眺メマスルト、米麥ノ如キ食糧作物ハ、勿論最モ大切ナモノデアリマスルケレドモ、之ニ加フルニ外貨ノ獲得ヲ爲スニ必要ナル所ノ貿易作物、卽チ桑トカ或ハ果樹、蔬菜ノ如キモノニモ、相當ノ肥料ヲ供給ヲ致サナケレバナラナイノデアリマス、故ニ私ハ此ノ肥料配給ノ問題ニ付キマシテハ、須ク地域的ニ考ヘナクテハナラナイノデアル、桑作ノ多イ地方ハ桑ヲ基調トシ、果樹、蔬菜ノ多キ地方ハ、其ノ園藝作物ヲ中心ニ考ヘナケレバナラヌト存ズルノデアリマス、況ヤ我國ハ南ハ臺灣ヨリ北ハ樺太ニ至ルマデ、蜿

蜒長蛇ノ如ク相成ツテ居リマシテ、其ノ地方々々ニ依ツテ土地ノ利用率ガ違フノデアル、東北北海道等ハ年ニ一二回、西南地方ニ參リマストト、同ジ土地ヲ年ニ四回、五回、或ハ六回ト耕シテ居ルノデアル、一反ノ田地ガ延反別ニシテ五反六反ニ使ハレル、此ノ高度ナル土地利用ノ實體ヨリ致シマシテ、肥料ノ配給、土地利用率ニ向ツテ、十分ナル檢討ヲ遂ゲタ上ニ於テ、地域的ニ決メナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ現在農林當局ノ行ハレテ居ル狀態ヲ眺メテ見マストト、是等ノ地域的ノ實體ニ對シテ、頗ル見當ガ違ツテ居ル、役所ノ窓カラ眺メマシテモ、到底農民ノ要求ヲ摑ムコトハ出來ヌノデアリマス、爲ニ西部或ハ中部地方ノ農民ハ、肥料ノ供給甚少ナルコトニ向ツテ、非常ナル不安ヲ來シテ居ル、生產不安ヨリシテ今日ノ農民ハ脅カサレテ居ルノデアリマス、農林大臣ハ此ノ實情ニ立脚致シマシテ、單ニ米麥中心ノ重心主義ヲ是正シテ、之ニ加フルニ地域的配給ノ計畫ヲ立テル必要ガアリハシナイカ、農相ノ御見解ヲ率直ニ御發表願ヒタイノデアリマス、更ニ第二ニ現今肥料ノ不足ハ耕作反別ヲ減少シ、竝ニ小作爭議ヲ誘發シツツアルカノ嫌ヒガアリマス、又將來相當憂慮スベキ狀態デアルト共ニ、生產不安ニ陷リツツアル、凡ソ國民ノ不安ハ生活不安——生活不安ト云フコトハ從來唱ヘラレマシタガ、生產不安ト云フコト程、又吾々ガ深刻ニ考ヘナケレバナラヌコトハナイノデアル、肥料ガナイカラ田畑ヲ十分ニ耕スコトガ出來ナイ、現ニ私ハ最モ純粹ノ農山村ト認ムベキ二郡ノ地帶ニ於キマシテ、三十二箇町村ヲ精密ナル調査ヲ爲シタルモノヲ持ツテ居ルノデアリマス、之ニ依リマスルト實ニ三十二箇町村ニ於テ田畑ガ山トナッタモノ、卽チ木ヲ植付ケルニ至ッタモノガ五十七町歩、小作人ガ到底耕地ニ堪ヘ得ズシテ、地主ニ返還シタモノガ二百九十三町歩ト相成ツテ居ルノデアリマス、此ノ現象ハ大小ノ差コソアレ、全國農村ニ展開シツツアル所ノ憂フベキ事實デアルノデアリマス、是ニ於テ吾々愼重ニ考慮スベキ點ハ、此ノ勞力不足ノ爲ニ起ツテ來ル所ノ生產ノ減退、耕作ノ減退、肥料及ビ飼料等ノ供給不足ニ依ツテ來ル此ノ耕作ノ減退、此ノ陰慘ナル農村問題ヲ農政上ニ於テ何カラ一番手ヲ著ケタナラバ宜イカト云フ問題デアルノデアリマス、私ハ之ニ向ツテ肥料ノ增給ニアリト斷言ヲ致シタイモノデアリマス、是ハアトヨリ漸次申上ゲルコト

ト致シマスルケレドモ、兎モ角肥料ノ增給策コソ、高度ニ發展セル我ガ日本ノ農業振興ノ上ニ於ケル、最重要ノ政策デアルト考ヘル、是ニ於テ私ハ窒素肥料ノ供給ニ向ツテ大イニ力ヲ加ヘナケレバナラヌト云フコトヲ主張シタイ、殊ニ我ガ日本ノ土地ハ、世界ニ於テ最モ窒素肥料ヲ要求致シテ居ルノデアリマシテ、一町歩ノ土地ニ對シテ十九圤餘ヲ要シテ居ルノデアル、然ルニ英國、米國ノ如キハ其ノ九分ノ一、アノ丁抹デサヘ此ノ五分ノ二ニ過ギナイノデゴザイマス、斯樣ニ世界ニ於テ最モ窒素肥料ヲ要求スル國土ナルニ拘ラズ、此ノ窒素肥料ノ供給ト云フモノガ、甚ダ遺憾ノ狀態ニアッタノデアリマス、然ルニ本年ニ於テハ稻ニ於テモ昨年ノ八割、一般ノ作物ニ於テモ五割六分ト云フ風ニ減少シテ居ルノデアリマス、ココデ私共特ニ考ヘナクテハナラナイコトハ、此ノ肥料不足ハ農民ニ對シテ生產不安ヲ與ヘル、生產不安ヲ與ヘラレタ農民ハ、例ヘバ五反ノ土地ヲ耕スニシテモ、四反歩ニ米ヲ作ルカ、場合ニ依ッタナラバ休閑地トナシ、之ニ草ヲ生ヤストト云フコトニナッテ來ルノデアル、サウシテ其ノ粗放乃至休閑セラレタル土地ノ收穫ガ、減退乃至皆無トナリマスカラ、大ハ以テ我國ノ農產ノ減收ト相成リマスルシ、小ハ以テ小作人ノ土地ガ地主ニ返還ヲサレルト云フヤウナ、所謂小作爭議ノ發端ヲ玆ニ生ンデ來ルノデアリマス、農林大臣ハ今後ニ於テ現ハレテ來ルベキ是等ノ農民ノ生產不安問題、小作問題ノ如キ社會問題ニ對スル政策ニ付テ、御研究ニナリ、御計畫ニ相成ッテ居ルノデゴザイマスルカ、之ニ付テ御說明ヲ戴キタイノデアリマス、第三ニ肥料ノ生產、輸入ニ付テ、的確ナル政策ヲ從來誤ッテ居ッタト認メラレルノデアリマス、政府ハ是等ノ問題ニ付テ如何ナル見解ヲ有セラレルカ、幾多ノ疑問ヲ私ハ持ッテ居ルノデアリマス、抑〻化學肥料ノ中デ硫安ノ減產ハ、直チニ桑ニ大ナル打擊ヲ與ヘマス、隨テ養蠶業ノ衰退ヲ來スノデアリマス、硫酸「アンモニヤ」ハ畑ノミナラズ、田ニ最モ適スルモノデアリマス、政府ノ輸入計畫ヲ致シテ居リマスル智利硝石ハ、水田ニ不適當デアル、畑地ニ專門ニ施サナケレバナラヌノデアリマス、故ニ田畑ヲ多數ニ持ッテ居リマス所謂六百万町歩、之ニ朝鮮、滿洲等ノ大陸ノ農業經營ト關聯ヲシテ考ヘマスルト、窒素肥料ノ增產、

特ニ硫安ノ增產ト云フコトニ、絶大ナル要求ヲ持ツテ居ルノデアリマス、是ニ於テ私ハ先ヅ農林大臣竝ニ遞信大臣ニ御尋申上ゲタイト思ヒマスルコトハ、硫酸「アンモニヤ」ノ增產ヲ爲ス爲ニ、電力及ビ石炭ノ不足ヲ償フベキ如何ナル努力ヲセラレタノデアルカ、是ガ第一デアリマス、第二ニ拓務大臣ニ御尋申上ゲタイト思フコトハ、朝鮮ニ於ケル鴨綠江ノ水力、或ハ滿洲ニ於ケル所ノ幾多ノ「ダム」ヲ活用スル所ノ、此ノ水力電氣ニ基ク所ノ大窒素工業ト云フコトノ御考ヲ持ツテ居ラレルノデアルカ、苟モ大陸發展ノ大方針ヲ持ツテ居ル我ガ日本ノ農業經營、農業問題ヲ考ヘル時ニ於キマシテ、私ハ特ニ此ノ大電力ノ活用ニ十分ノ力ヲ注ガナケレバナラヌコト ヲ痛感スルノデゴザイマス、殊ニ又內ニ於キマシテモ、遞信當局ノ執ラレテ居リマスル所ノ電力政策ノ中ニ、相當ニ是正ヲ要スルモノガアリハシナイカ、卽チ從來縣營ヲ以テ電氣ヲ起シテ居リマシタ諸縣ノ如キハ、概シテ電力ガ豐富デアルニ拘ラズ、是ハ單ニ現在ノ制度ニ依ルノミデナク、發電事業ニ經驗アル縣ヲシテ、モウ少シ積極的ニ開發ヲ爲サシメタナラバ、相當ノ硫安或ハ石灰窒素用ノ電力ヲ供給スルコトガ出來ルト思フノデアル、遞信大臣ハ申スマデモナク、農林大臣ハ國務大臣トシテ、此ノ水力電氣資源開發ニ付テ、縣ヲ大イニ活動セシムルノ御意圖ハナイノデアルカ、斯ノ如ク致シマシテ水力電氣ニ基ク所ノ窒素肥料ノ大供給ヲ爲スコトハ現下ノ急務デアルト存ズルノデアリマス、更ニ私ノ最近ノ調査ニ依リマスト、硫安ヲ製造致シテ居ル所ノ某大肥料會社ノ如キハ、本年一月ニ至ッテ最大ノ減產ヲ致シテ居ルコトヲ知リ得テ居ルノデアリマス、是等ニ對シマシテ農林當局ハ、其ノ直接當局ト連絡ヲ取ラレテ、如何ニ此ノ缺陷ノ是正ニ努メラレル積リデアルカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、更ニ第四トシテ、私ハ農林大臣ノ特ニ明確ナル御答辯ヲ求ムルノデゴザイマスガ、今後ノ農業政策ハ、單ニ我ガ國內ノミニ於テスル所ノ農業ト云フコトニ泥ンデ居ッタノデハ駄目デアルト思フ、或ハ北支、中支ニ於ケル所ノ食糧、或ハ工業用ノ作物ノ大增產モ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、故ニ肥料ノ配給ト云フガ如キコトノミヲ考ヘナイデ、進ンデ肥料ノ十分ナル生產ニ力ヲ入レル、配給ヨリ進ンデ生產、增產ヲスル、肥料ノ增產ト云フコトニ

十分考ヲ及ボサナケレバナラヌノデアルガ、之ニ付テハ現在ノ私營ノ肥料會社ノミニ賴ルト云フコトハイケナイ、宜シク國ハ進ンデ國營ヲ以テ肥料ノ供給ヲ爲ス必要ガアルト思フノデアリマス、米、鹽ノ人生ニ於ケル關係ハ、恰モ肥料ノ農業經營ニ於ケル關係ニ一致スルノデアリマス、而シテ此ノ鹽ノ專賣ガ非常ニ低廉ニ、平均シタル値段デ以テ、國民生活ヲ安固ナラシメテ居ルコトハ、申上ゲルマデモナイコトデゴザイマスルガ、肥料モ亦同樣ニ出來ル限リ生產費ヲ低メテ、安クテ良質ナルモノヲ豐富ニ、而モ値段ニ波ヲ打タセナイデ、安ンジテ農民ニ使ハセルコトニシナケレバナラヌ、而モ之ヲ十分豐富ニシ動スル必要ガアルト思フノデアル、卽チ肥料ノ國營デアリマス、肥料ノ國營ヲ基調トスル所ノ專賣制度ノ實現デアリマス、今回ノ日本肥料株式會社ナルモノハ、此ノ國營ヘ上ルベキ所ノ一段階トシテ私ハ認メタイノデアル、須ク政府ハ此ノ最モ徹底セル肥料ノ國營問題ニ研究ヲ進メラレ、是ガ實現ニ向ッテ手ヲ著ケラレル必要ガアルノデアル、農林大臣ノ御覺悟ハ如何デアルカ、之ヲ承リタイノデアリマス、更ニ第五ニハ、我國ノ農業ハ技術的ニ非常ニ進ンデ居ル、而モ肥料ノ經營要素トシテノ威力ノ强イコトハ、既ニ申上ゲタ如クデアリマス、然ルニ農林省ノ肥料政策ヲ眺メテ見マスルト、之ヲ遠慮ナク申上ゲルナラバ、封建主義的色彩ニナリハシナイカト云フコトヲ痛感スルノデアリマス、ソレハ肥料ノ不足ニ對スル對策ト致シマシテ、現在農林大臣ハ自給肥料ノ供給ニ力ヲ入レラレテ居ル、然ルニ此ノ自給肥料ハ、綠肥ニシテモ、堆肥ニシテモ、爾餘ノ各種ノモノニ致シマシテモ、何レモ勞力ヲ多ク要スル、所謂勞力ノ變化シタルモノ、自給肥料ナリト申サナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ今日農村ノ勞力ハ減退ヲ致シマシテ、到ル處ニ田地ガ荒廢シツツアルコトハ、前ニ申上ゲタ如クデアル、此ノ意味カラ考ヘマハ、私ハ農林當局トセラレテハ、固ヨリ自給肥料ハ必要デアリマス、大ニ力ヲ入レルガ、更ニ進ンデ合理的ナル配合肥料ノ基礎タルベキ所ノ、化學肥料及ビ有機肥料ノ大增產ヲスル必要ガアルト思フガ、斯ル御意思ハナイカ、最後ニ私ハ商工大臣竝ニ農林大臣ニ御尋申上ゲタイト

思フノデアリマス、農林大臣ハ施政演説ニ對スル高田議員ノ御質問ニ對シマシテ、卽チ米ノ價格ノ問題ニ付キマシテ米ノ價格ハ需給關係ヲ基調トシテ決定スベキモノデアルカノ如ク、詰リ需給關係ノミカラ米價問題ニ對スル御見解ヲ述ベラレテ居ルノデアリマス、是ハ苟クモ農村ノ爲ニ而モ今日ノ如キ經濟狀態下ニアル農林大臣トシテハ、實ニ遺憾ナ御答辯デアッタ、凡ソ農産物ノ價格ナルモノハ、需給ノミデ決定スルモノデハアリマセヌ、詰リ生産費ヲ十分ニ考ヘナケレバナラヌノデアル、殊ニ生産條件ノ中デモ土地デアル、此ノ土地ト云フモノニ付テ、十分ナル檢討ヲ致ス必要ガアル、今ヤ都市ノ發展、工業ノ發展ニ伴ヒマシテ、都會ニ近イ所ノ最モ優位ニアル土地ト云フモノハ、片ツ端カラ潰レテ行ッテ居ルノデアリマス、故ニ政府ハ或ハ干拓ニ依リ、或ハ開墾ニ依リマシテ、田地田畑ヲ盛ニ殖ヤシ、開拓ヲシテ居ルノデアル、田畑ノ開拓ハ當然比較的不便デアリ、土地ノ質モ劣ッテ居ル所ヲ、漸次ニ開拓スルコトニ相成ルノデアル、而モ農産物價格決定ノ根本原理ハ、惡質ノ土地ヲ耕セバ耕ス程、ソレダケ其ノ價格ハ騰貴スルノデアリマス、農産物價格決定ノ根本法則ハ、地味ノ劣惡ナルモノ程其ノ生産物ノ價格ガ高イ、斯ウ申上ゲルコトガ出來ルト思フノデアリマス、隨テ今日ノ如ク開墾政策ガ漸次ニ普及實現セラレテ行クコトニ伴ッテ、當然米ヲ初メトシテノ農産物ノ價格ハ、上ラナケレバナラヌ傾向ヲ持ッテ居ルノデアリマス、況ヤ今日ニ於キマシテハ、農業ニ對スル各種資材ノ價格ガ上ッテ居ル、又供給ガ少クシテ、土地ノ生産條件ハ益〻劣惡化シテ行クノデアリマスカラ、茲ニ農産物ノ價格ト云フ問題ニ付テハ、深刻ニ需給關係以外ニ思ヲ及ボサナケレバナラヌノデアル、然ルニ農林大臣ノ先日ノ御答辯ノ中ニ於テ、此ノ問題ニ言及セラレナカッタト云フコトハ、或ハ之ヲ閑却シテ居ラレハシナイカトマデデゴザイマス、殊ニ最近ニ於キマシテハ、商工大臣ノ御所管ニ於テ、農産物ガ決定ヲセラレッツアルノデアリマス、是ニ於テ商工大臣ヨリモ此ノ點ニ付テ、十分納得ノ行クヤウナ御答辯ヲ願ハナケレバナラヌト思フノデアル、卽チ耕地ガ益〻劣惡ナルモノニ擴ガッテ行ク、又各種農業資材ノ供給ガ不圓滑デアッテ、農民ヲシテ殆ド嗟嘆セシメツツアル、而モ其ノ價格ハ高イ、

闇取引ガ横行スル、斯クシテ極メテ零碎ノ利得ヲ狙ッテ居ル我ガ日本ノ農業ガ立行キマスカ、須ク是等ノ情勢ニ伴ウテ、農産物ノ價格ヲ合理的ニ引上ゲルト云フコトサヘ必要ナノデゴザイマスガ、更ニ一歩退イテ考ヘマスルニ、今日國民生活ノ困窮困難ト云フコトヲ考ヘマスルナラバ、農産物ノ價格ヲ引上ゲルト云フコトハ大問題デアル、是ニ於テ此ノ趨勢ニ對處スベク、農産物ノ價格ヲ引上ゲタト同樣ノ效果ヲ收メルヤウニシテ、農民ヲシテ安心シテ有利ニ農業ノ營メルヤウニ、農林大臣及ビ商工大臣ノシッカリシタ政策ヲ立テラレル必要ガ起ッテ來ルノデアリマス、一ハ卽チ農業生産ニ於ケル諸條件ニ對シテ、農林大臣及ビ商工大臣ハ如何ナル具體的政策ヲ持ッテ居ルノデアルカ、他ハ以テ更ニ進ンデ兩大臣ハ、農産物ノ價格ヲ決定スル上ニ於テ如何ナル基礎條件ニ依ッテ決定シテ來タノデアルカ、過去ニ於テ若シ誤レル點ガアルナラバ、將來ニ於テハ斯ク〳〵ノ條件ニ基イテ農産物ノ價格ヲ決定スルモノデアルト云フコトヲ、茲ニ直截簡明ニ御答ニナリマシテ、全國三千万農民ヲシテ、否國民全體ヲシテ安心セシメ得ルヤウナ御政策ノ御發表ヲ願ヒタイノデアリマス、最後ニ私ハ凡ソ我ガ日本ノ國程、精神的又物質的ニ惠マレテ居ル國ハアリマセヌガ、此ノ惠マレタル物心兩面ノ其ノ淵源ハ、申スマデモナク、農山漁村地帶デアルノデアリマス、故ニ農本主義、農業ヲ根本トシテ有ユル政治ヲ考ヘルコトガ大切デアル、是ニ於テ農林大臣ハ國務大臣中ニ於キマシテモ、特ニ其ノ點ニ御考ヲ置カレマシテ、恐ラク著々種々ノ計畫ヲ御立テニナッテ居ラレルコトハ存ジマスケレドモ、此ノ物質的方面、精神的方面ニ於テ農村ヲ如何ニ發展セシムベク御考ニナッテ居ルカ、及ビ是カラ我國農村社會ヲ堅實ニ發展セシムル上ニ於テ、農本主義ノ政治ヲ立テテ、愈〻高調セラレ、力說セラレ、國務大臣全體ヲ引具シテ行ク位ノ慨ヲ以テオヤリニナル御考ガアルカ、農林大臣ノ御決心ノ程ヲ此ノ機會ニ於テ御發表願ヒタイノデアリマス、之ヲ以テ私ノ質問ヲ終ルコトト致シマス

島田農林大臣ノ應答

只今ノ長野君ノ御質問ニ對シテ御答申上ゲマス、肥料ノ問題ニ付キマシテ、米麥重點主義ト云

フヤウナコトノ外ニ、更ニ地域的ニ配給ノ問題ヲ考慮スルノ必要ガアルデハナイカト云フ御質問ニ對シテハ、其ノ通リニ考ヘマス、隨テ大體サウ云フヤウナ考ヘ方ヲ以チマシテ、早場ノ地方トカ、或ハ其ノ他ノ特殊ノ事情ノアル地方ニ對シマシテハ、左樣ナ考ヘ方ヲ以テ此ノ配給ノ上ニ處シテ行キタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、次ニ肥料ノ供給不足ノ問題カラ、小作地ノ返還等ノコトガ起リ、或ハ小作爭議ニ及ブ虞ガアル、斯樣ナ問題ニ付テ御心配ノ上カラ御質問デゴザイマスガ、之ニ付キマシテハ、低廉ナル肥料ヲ豐富ニ供給スルコトガ固ヨリ理想デアリマスガ、肥料ニ付キマシテハソレ等ノ問題ノ外ニ分配、配給ヲ公平ニシテ行クコトガ、最モ肝要ナコトト考ヘテ居リマスノデ、配給ニ當リマシテ、之ヲ簡便ニ且ツ豐富ニスルコトヲ心掛ケルト共ニ、其ノ分配ヲ出來得ル限リ公平ニスルコトヲ心掛ケマシテ、サウシテ農民ノ心理ニ大ナル刺戟ヲ與ヘナイヤウニ仕向ケテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フ考ヘ方ヲ以テ、配給ノ點ニ付キマシテハ、特ニ注意ヲ拂フ必要ガアルト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ窒素肥料ノ增産ニ關係シマシテ、電力ノ問題ニ付テノ御意見モゴザイマシタガ、此ノ度ノ化學肥料ノ供給問題ニ關シマシテモ、電力ノ問題ガ其ノ根本ニ橫ハル極メテ重要ナル事柄デアルト云フコトハ、國民モ等シク之ヲ認メテ居ル次第デアリマシテ、有機質肥料ニ相對シテ最モ重要ナル部面ヲ占メテ居ル化學肥料ノ問題ニ關シマシテ、電力ノ豐富ナル供給ノアルコトヲ希望スルコトハ固ヨリデアリマシテ、是ガ關係當局ニ於キマシテ、其ノ開發ニ付テ萬全ノ對策ヲ立テテ、進行セラレルコトヲ希望致シテ居ル次第デアリマス、本年ハ旱天ノ爲ニ電力不足ヲ來シマシテ、肥料ノ供給ニ相當窮屈ヲ致シタ次第デアリマスガ、只今ノ御質問ニ現ハレマシタヤウニ、二三ノ工場ニ對シテ製造能力ア ルニ拘ラズ、電力ノ供給ガ十分ニナカツタ爲ニ、意外ナ減產ノ事實ヲ見タト云フコトハ、洵ニ遺憾デアリマシタガ、最近ニ至リマシテ所要ノ石炭ノ關係、ソレカラ又降雨ノアリマシタ爲ニ、電力ノ供給ガ相當順調ニナツテ來マシタノデ、是等ノ工場ニ對シテ、其ノ製造能力ヲ相當程度ニ發揮セシムルコトガ出來ルヤウニナリマシテ、稍〻順調ニ動イテ居ルト云フ現狀デアリマス、隨テ是等ノ工場ニ對シマシテハ、ソレ〴〵常ニ注意シテ所要ノ電

力ノ流レテ行クヤウニ、努力ヲ致シテ居ルト云フ次第デアリマス、尙ホ日滿支ノ合體ヲ通ズル關係カラ、化學肥料ノ需要ガ年々增加ヲスルト云フヤウナ點カラ考ヘマシテ、一步ヲ進メテ肥料ノ國家管理、或ハ專賣ト云フ所ニ行クベキデアルト云フ見地カラ、今回ノ此ノ會社法案ハ、ソレニ至ルノ一段階ト見ルト云フ意味ノ御意見ニ對シマシテハ、政府トシテ直チニ肥料ノ專賣ヲ行フト云フ點ニ、一足飛ニ行ク計畫ハ持ツテ居リマセヌ、ケレドモ、其ノ傾向ハ確ニ其ノ方向ニ向ツテ居ル、斯ウ云フヤウニ御考下サツテ、政府ノ意見ト少シモ違ツテ居ル所ハアリマセヌ、尙ホ自給肥料ト勞力ノ問題ニ關聯シマシテ、配給肥料ノコトニ付テ御尋ガアリマシタガ、是ハ政府ニ於テモ其ノ必要ヲ認メマシテ、十三年肥料年度ニ配給致シマシタ程度ニ於テ、完全ナル配合肥料ノ配給ヲ致シタイ、斯ウ云フ考ヲ以テ努力中デアリマス、尙ホ米價ノ問題ニ付キマシテ、是ハ他ノ機會ニ於テモ段々御意見ヲ承ツタ事柄デアリマスガ、米穀ノ價格ニ付キマシテハ、米穀統制法ノ規定ニ依リマシテ、ソレ〴〵ノ標準生產費、又家計ノ關係、一般物價ノ傾向ヲ參酌スル、斯ウ云フヤウナ點カラ、年々生產收穫ノ後ニ於キマシテ、最高最低ノ價格ヲ決メルト云フコトニ、法律ガ規定シテ居リマスノデ、此ノ法律ノ規定ニ依リマシテ、本年ノ產米ニ付テハ、所謂生產費ハ固ヨリ家計ノ關係、又物價ノ關係等ヲ參酌致シマシテ、最高最低ヲ決メル次第デアリマシテ、只今長野君ノ御話ノ中ニアリマシタ所謂生產費ト云フモノハ、相當ナ重點ヲ價格決定ノ上ニハ持ツテ居ル次第デアリ日豫メ此ノ點ニ付テ、或ハ上ルトカ下ルトカ、唯本年ノ米ノ出來タ結果ニ依リマセヌト、今第デアリマス、農產物ノ價格ノ問題ニ付キマシテハ、言明ガ出來ニクイト云フ事情ニアル次タ、此ノ場合私ハ農林大臣トシテ特ニ申上ゲテ置ク次第デアリマスガ、物價ノ全體ニ付キマシテハ、是ハ商工大臣ガ主トシテ御考ガアリ、內閣ノ意見トシマシテ、成ベク統一ヲシテ行クベキ筈デアリマスガ、唯此ノ農作物ハ、御承知ノ如ク普通ノ製造品ト云フヤウナモノト違ヒマシテ、全ク特別ナ關係ヲ以テ生產セラレルモノデアリマスカラシテ、其ノ點ニ於キマシテ、他ノ製造工業ニ係ル品物ト性質ヲ異ニシテ居ル、米ノ如キモ、是ハ增產計畫デ色々ナ觀點カラヤリ

マスケレドモ、結局ハ一年ニ一作デアリマシテ、臺灣ノ如ク二回作モアリマスケレドモ、其ノ時期ト云フモノガ決ツテ居リ、又其ノ政策ニ付テハ、人工ヲ加ヘテモ尚ホ及バザル所ガアリマシテ、結局其ノ成績ト云フモノハ、單純ニ人力ノミヲ以テ支配スル製造工場ニ於ケル生產品ト云フヤウナモノトハ、趣ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、其ノ點ニ付テハ農產物ノ特殊性ニ付テ、深キ理解ヲ以テ決メナケレバナラヌモノデアルト云フ時ニハ、其ノ農產物ノ特殊性ニ付テハ、斯ウ云フ點ダケハ國民モ理解シテ居リ、又價格決定ニ付テノ原則トシテ、之ヲ見テ行カナケレバナラヌコトト思フノデアリマス、此ノ頃問題ニナツテ居リマス蔬菜類デアリマストカ、或ハ果物デアルトカ、或ハモツト變化ノ甚シイ生鮮ノ魚ト云フヤウナモノニ付キマシテハ、是ハ全ク製造シタ品物ナドハ性質ヲ異ニシテ居ルノデアリマスカラ、之ニ付キマシテノ價格ノ決定ニ付テハ、其ノ特質ヲ十分ニ考ヘテ、之ニ對處スルノ方法ヲ講ズルノ外ハナイモノト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ハ商工當局ト致シマシテモ十分ニ理解ヲシテ、是等ノ問題ニ對處セラレルコトト信ジテ居ル次第デアリマス、尚ホ最後ニ、我國ノ農業ノ重キヲ爲シテ居ル點カラシテ、農本主義ト云ヒマスカ、サウ云フ點ニ付テ私ノ所感ヲ御尋ニナリマシタガ、此ノ島國デアル我國、今日ハ朝鮮、大陸ニ一部ヲ持ツテ居ルト雖モ、大體ニ於テ島國デアル我國ト致シマシテ、食糧問題ノ最モ重要デアルト云フコトハ、是ハ論ヲ俟チマセヌ、隨テ國ガ如何ナル事情ニ遭遇シタ場合デモ、食糧ニ付テ缺クル所ガナイ、憂フル所ガナイト云フ準備ヲ、常ニ整ヘテ置クト云フ意味カラ、又有ユル人口資源ノ關係カラ見マシテ、農村ト云フモノニ最モ重キヲ置キ、農業ニ重キヲ置カネバナラヌト云フ事柄ニ付キマシテハ、是ハ吾人共ニ齊シク十分ニ理解シテ居ルコトデアラウト考ヘマスルノデ、農林大臣ト致シマシテ、自分ハ其ノ考ヲ深ク持ツテ、此ノ時局ニ對處シテ行キタイト云フコトダケヲ申上ゲテ置キマス

小磯拓務大臣ノ應答

外地ノ問題ニ付テ御答申上ゲマス、外地ニ於ケル肥料ノ問題ハ、外地ニ於ケル農產物ノ生產計畫ト一律不可分ノ關係ニアリマス、サウシテ其ノ農產物ノ生產ニ付キマシテハ、米ニ付テハ各種ノ機會ニ於テ申述ベマシタカラ、此ノ數量ハ略スルト致シマシテ、地域毎ニ之ヲ申上ゲマスナラバ、朝鮮ニ於テハ米ノ外大麥、小麥、亞麻、棉花、臺灣ニ於テハ米ノ外砂糖黍、薩摩薯、黃麻、苧麻、蓖麻、棉花ニ付テ、又樺太ニ於テハ小麥ト甜菜ニ付テ、サウシテ南洋ニ於テハ砂糖黍ニ付テ各增產計畫ヲ立テテ居リマス、此ノ生產ヲ確保致シマスル爲ニハ、肥料ノ供給ヲ確保スルト云フコトガ、絕對必要ナル條件デゴザイマシテ、サウシテ今回內地ニ於テハ、此ノ肥料ノ確保ノ爲ニ製造及ビ移輸入ニ對シ補助金ノ交付致シマシテ、農民ノ負擔ヲ輕減スルト同時ニ、現在ノ公定價格ヲ維持シテ行カウト云フ計畫ヲ進メラレマスル所、外地ニ於キマシテモ、亦相當ノ補助金ヲ交付スルニアラザレバ、到底肥料ノ供給ヲ確保ガ困難デアルト云フ著意ニ基キマシテ、今回硫安ヲ初メ石灰窒素、過燐酸石灰及ビ加里鹽ニ付テ、各、地域毎ニ補助金ヲ交付シテ貰ヒ得ルヤウニ計上ヲシタ譯デゴザイマス、尚ホ御質問ノ中ニ、朝鮮ニ於テハ鴨綠江水力ヲ將來肥料生產ノ爲ニ利用スル著意ナキヤト云フ御質疑デゴザイマシタガ、鴨綠江水力ハ、御承知ノ如ク豫テ來電力ヲ發生サセル爲ニ工事ヲ進メツヽアリマスノデ、其ノ第一期計畫タル約七十万「キロ」弱ノ工事モ、遠カラズ完成スルト思ヒマス、サウシテ此ノ電力ガ工業發展ノ爲ニ寄與スルコトハ勿論、其ノ相當大ナル部分ガ又肥料生產ノ爲ニ利用セラレルコトハ必然デゴザイマス、隨テ御承知ノ、從來朝鮮ニアリマスル肥料製造ノ機關タル朝窒竝ニ日鐵ノ兼二浦ノ工場、是ノ生產ト併セマシテ、啻ニ朝鮮ニ於ケル肥料ノ需給ニ對シ貢獻スルノミデナク、將來ハ恐ラク相當ノ量ヲ、內地ノ肥料供給ノ爲ニ寄與シ得ルモノト確信シテ居リマス、左樣御諒承願ヒマス

藤原商工大臣ノ應答

長野君ニ御答ヲ申上ゲマス、農業用資材ノ供給ガ今日ニ於キマシテ不圓滑ヲ來シ、是ガ爲ニ農民ニ幾多ノ苦痛ヲ與ヘ、又其ノ不便ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ、政府ニ於キマシテモ頗ル之ヲ遺

慨ト致シテ居リマスノデアリマスカラ、何事ヲ措キマシテモ、他ノ産業ニ優先シテ農業用資材ノ圓滑ヲ圖ルト云フコトハ、政府ニ於テモ十分ニ努力ヲ致シマシテ、今後固イ決心ヲ以テ進ンデ參リタイト存ジテ居リマス、尚ホ又米價ノコトニ付キマシテ御尋ガアリマシタカラ此ノ機會ニ一言私ノ所感ヲ申上ゲテ置キタイト存ジマス、只今農林大臣カラ御述ニナリマシタ通リ、大體ニ於テ商工大臣ト致シマシテ私ハ同ジ考ヲ持ツテ居リマスガ、併シ是ニ於テ一言申上ゲテ置キタイノハ、只今政府ハ低物價政策ヲ堅持致シマシテ、今日ノ時局ヲ乘切リマスニ付キマシテハ、如何ナル努力、如何ナル困難デモ之ヲ排除シテ、サウシテ、低物價政策ヲ以テ之ヲ乘切リタイト存ジテ、各般ノ施設ヲ致シマシテ、卽チ肥料ノ如キモ成ルベク其ノ値段ヲ低廉ニシテ且ツ之ヲ豐富ニシテ、サウシテ農産物ノ價格ヲ引上ゲナイヤウニ致シタイ、斯ウ云フコトノ爲ニ、一面ニ於テハ石炭ノ增産ヲ圖リ、一面ニ於テハ肥料ノ製造ノ奬勵ヲ圖ルト云フヤウナ工合ニシテ、努力ヲ致シテ居リマスコトハ、長野君ニ於テモ能ク御承知ノ通リデアリマス、尚又一般物價ニ對シマシテハ、生産業者ニ多少ノ赤字ガ出來ルトカ云フヤウナコトガアツテモ、出來ルダケ我慢ヲシテ戴イテ、又配給業者ニモ協力シテ戴キ、旁〻以テ物價ヲ成ベク引上ゲナイデ、低物價政策ノ主義ヲ遂行致シタイト思ヒマシテ、百方努力致シテ居リマスルヤウナ今日ノ狀況デゴザイマス、無論農産品ノ價格ニ付テハ、政府ニ於テモ農業ガ我國ノ非常ナ重要ナ產業デアルト云フコトハ承知致シテ居リマスルカラ、其ノ價格決定等ニ對シテハ、十分ニ同情シ、協力致シマシテ考慮致スコトハ、是ハ申上ゲルマデモナク當然ナコトデハアリマスルガ、一面ニ於テ又低物價政策ノ爲ニハ、國家ノ各層ニ於キマシテモ、皆此ノ時局ニ協力スル意味ヲ以テ、若干ノ我慢ヲシテ戴イテ、サウシテ此ノ時局ヲ乘リ切リタイ、斯ウ云フ積リデ居リマスルカラ、其ノ政府ノ意ノアル所モ、ドウゾ御諒察ヲ願ヒタイト云フコトヲ、此ノ機會ニ一言申添ヘテ置キマス

濱地文平君ノ質疑

私ハ只今上程中ノ日本肥料株式會社法案ニ關聯致シマシテ、極メテ簡單ニ、サウシテ私ノ一番心配シテ居ルコトダケヲ取上ゲテ、質問ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス、萬國農事統計協會ノ發表ニ依リマスルト、四十「エーカー」ノ耕地ニテ扶養ヲ要スル人口ハ、米國ニ於キマシテハ二百九十五人、佛蘭西ニ於キマシテハ二百九十五人、獨逸ハ三百二十一人、伊太利ハ三百三十一人デアリマシテ、日本ハ實ニ一千百四十人ト云フ多數ニナツテ居ルノデアリマス、畢竟我國ハ耕地面積ガ狹隘デアリマシテ、人口ガ稠密デアリマスルカラ、反當リノ扶養人口ハ、他ノ各國ニ比シテ三倍乃至五倍ニナツテ居ルノデアリマス、茲ニ我國ノ農業ガ、肥料ト勞力ニ集約デナケレバナラナイ必然性ガアルノデアリマシテ、現ニ我國ノ農業ハ世界ニ類例ノナイ多收穫ノ成績ヲ擧ゲテ居リマス爲ニ、反當リ扶養人口ノ三分ノ一或ハ五分ノ一ニシカ過ギナイ各國ガ、尚ホ食糧不足ノ爲ニ非常ナル苦心ヲ致シテ居ル中ニアリマシテ、兎ニモ角ニモ食糧ノ需給ガ出來テ居リマシタコトハ、何ト申シマシテモ、我國農業ノ非常ナ誇デアリマスト同時ニ、吾々ハ農民ニ對シテ深甚ノ感謝ヲセナケレバナラナイ事デアルト思フノデアリマス、併シソレハ前申シマシタヤウニ、肥料ト農民ノ粒々辛苦デアル勞力トニ集約ナルガ爲デアリマシテ、隨テ農業ニ對スル肥料ノ重要性ハ、他ノ何レノ國ニモ比較スベクモナイノデアリマス、而シテ政府ノ本年度ニ於ケル農業生產ノ計畫ヲ伺ヒマスト、米穀ニ於テ七千百万石、小麥一千三百万石ヲ初メ、各種農產物ニ關シ飛躍的ナ增產計畫ヲ立テテ居ラレルノデアリマス、蓋シ此ノ生產目標ハ需給推算カラ生レタ數字デアリマシテ、理窟ハドウアラウト、是非是ダケノモノハ生產シナケレバナラナイ、是ダケノ生產ヲ擧ゲナケレバ國民生活ノ維持ガ出來ナイト云フ、切羽詰ツタ實情カラ、是等ノ生產計畫ハ立テラレタノデアルト思フノデアリマス、而シテ是等ノ生產目標ニ付テ考ヘマスノニ、過去ニ於テ米ノ一番收穫ノアツタノハ、御承知ノ通リ昭和八年度ノ七千八十万石デアリマスガ、本年度ハ此ノ未曾有トモ云フベキ增收ヨリモ、尚ホ更ニ多クノ收穫ヲ擧ゲヨウトスルノデアリマス、此ノ收穫ヲ確保セネバナラナイ實情ニアルノデアリマス、小麥ニ致シマシテモ、昨年ガ未曾有ノ增收デアリマシタノニ、是亦本年ハソレヨリモ更ニヨリ多クノ生

産目標ヲ立テテ、サウシテ其ノ生産ヲ確保セネバナラナイ實情ニアルノデアリマス、斯ル厖大ナル增産計畫ガ、我國ノ現狀ニ於テ、飽クマデ其ノ完遂ヲ期セネバナラナイ餘儀ナキ運命ニ置カレテ居ルコトヲ考ヘ、飜ツテ我國農業生産ノ立地條件ヲ檢討スル時ニ於キマシテ、洵ニ心配ニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス、肥料ト勞力トニ集約デアル必然性ヲ持ツ我國ノ農業ニ於キマシテ、勞力ノ不足ハ愈〻顯著ナラントシツツアルノデアリマス、全國ノ何レノ地方ニ於キマシテモ、年期勞働者ノ雇入レハ、非常ニ困難ナ實情ニアルノデアリマシテ、愈〻本年ノ農繁期トモナリマスルナラバ、農村ノ手不足ハ實ニ深刻ナルモノアルニ至ルデアラウト存ジマス、此ノ際更ニ肥料ノ不足ヲ來スガ如キコトガアリマシタナラバ、我國農業生産ノ上ニ容易ナラヌ難局ニ立ツモノト申サネバナラナイノデアリマス、更ニ農業資材ノ供給モ甚シキ不足ヲ告ゲツツアリマス、斯ル狀況ノ下ニアリマシテ、今マデニ例ノナイ程ノ增産ヲ圖ラウ、圖ラナケレバナラナイトスルノデアリマスルナラバ、勞働者ノ不足ハ、戰時下ニ於キマシテ、如何トモ致シ方ハアリマセヌガ、セメテ肥料ノ供給ヲ確保シ、生産ノ確保ニ遺憾ナキヲ期セネバナラナイト存ズルノデアリマス、肥料ノ供給不足ハ、肥料ノ不足ニ因ル直接的ナ生産減退ニ止マラナイノデアリマシテ、農民心理ニ及ボス影響ノ甚大ナルモノアルヲ思ハネバナラナイノデアリマス、近時肥料供給ニ不足ヲ來スデアラウト傳ヘラレマスルヤ、農民ノ失望譬フルニモノナク、殆ド積極的奮鬪精神ヲ失ウテ、自暴自棄的態度ニ出ル者サヘアルノデアリマシテ、斯ルコトガ農業生産ニ及ボス影響モ、決シテ輕視スル譯ニハ參ラナイト存ズルノデアリマス、政府ハ有ユル手段ヲ盡シテ、肥料ノ供給確保ニ邁進セネバナリマセヌ、食糧生産減退ノ爲ニ、食糧不安ヲ招來セシムルガ如キコトガアッテハナラナイノデアリマシテ、食糧生産ヲ增進シ、其ノ供給ヲ確保スル爲ニハ、有ユル努力ヲ惜ンデハナラナイノデアリマス、私ハ斯ル考ヲ以チマシテ、茲ニ數項ニ付キマシテ政府ノ御所見ヲ御伺致シタイト思ヒマス、其ノ一ハ、政府ハ自給肥料ノ增産奬勵ニ、一段ノ努力ヲ加ヘラレントシツツアルノデアリマスガ、其ノ事ハ至極結構デアリマスルケレドモ、若シソレニ依ッテ金肥ノ不足ヲ補ハントスル考ヲ持ッテ居ラルルトセバ、ソレハ非常ナ間

違ヒデアルト思フノデアリマス、自給肥料ノ增産ハ勿論必要デアリマス、併シ農村ノ今日ノ狀況ニ於テハ、之ニ依ッテ金肥ヲ補フ程ノ增産ヲ期スルコトハ到底望ミ得ナイノデアリマシテ、金肥ハ金肥トシテ其ノ供給ヲ確保スルノ方策ヲ立テラレナケレバナラナイト信ズルノデアリマスガ、政府ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス、第二ハ、政府ハ硫安八〇%、過燐酸ハ殆ド一〇〇%ノ供給ガ可能ナリト、各種ノ機會ニ言明セラレテ居ルヤウデアリマスガ、現在ノ狀況ニ於テハ、斯ル供給力ハ到底期待シ得ラレナイト考ヘラレル者デアリマス、今日トナッテ農民ニ氣安メヲ言ウテ居ル場合デハナイノデアリマシテ、政府ハ如何ナル成算ガアラセラレルカ、是モハッキリト信念ヲ持ッテ御答辯願ヒタイノデアリマス、第三樣、農林當局ハ、硫安ノ生產減退ハ遁レ得ナイ、約八〇%ノ供給量ト見込ンデ、其ノ不足分ハ大豆粕ヲ以テ補フベシト言明サレ、本年度滿洲カラハ大豆粕百七万瓲、大豆九十万瓲ノ輸入ヲ確保スルコトニ、滿洲國トノ協定ガ成立シタト言明サレマシテ、次イデ更ニ大豆十八万瓲ノ增加輸入ノ協定ガ成立シタト言ハレテ居ッタノデアリマス、全國ノ農民ハ政府ノ此ノ言明ニ多大ノ期待ヲ持ッテ居タノデアリマシタガ、大豆及ビ大豆粕輸入ノ狀況ハ、全ク政府從來ノ言明ヲ裏切ルガ如キ實情ニアルノデアリマス、政府ハ果シテ大豆及ビ大豆粕ノ輸入ニ關シテ、其ノ言明ヲ裏切ラナイダケノ確信ガアルノデアリマスカドウカ、是モハッキリト承ッテ置キタイト思ヒマス、第四ハ、政府ハ從來ノ單肥配給奬勵ノ方針ヲ棄テテ、本年ハ配合肥料ノ配給ニ重點ヲ置カルル方針ヲ立テラレタノデアリマシタガ、硫安ガナイ、或ハ大豆粕ガナイ等ノ爲ニ配合ガ出來ナクテ、其ノ配給ガ非常ニ遲レル狀況ニアリマス、此ノ際單肥ノ配給又ハ無機ノ配合ヲ許可スル積リノ方針ハナイカ、アリヤ承ッテ置キタイト思ヒマス、第五、大豆粕ノ買入ニ關シマシテ、臺灣トノ間ニ競合ヒガアッテ洵ニ面白カラヌ噂サヘ傳ヘラレタノデアリマスガ、大豆又ビ大豆粕ノ輸入ニ關シマシテハ、內外地ヲ一貫シタル統制方策ヲ立ツルノ必要アリト思フノデアリマスガ、政府當局ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、以上ノ質問ニ對シテハッキリト、主トシテ農林大臣ノ御答辯ヲ承ッテ置

キタイト思ヒマス

島田農林大臣ノ應答

濱地君ノ御質問ニ御答致シマス、自給肥料ノ增産ニ付テ、政府ガ努力シテ居ルコトハ御尋ノ通リデアリマス、併シナガラ之ヲ以テ金肥ノ不足ヲ補フ、斯フ云フ意味ニ考ヘテ、金肥ニ付テノ努力ヲ緩メルト云フヤウナ考ヲ持ツテ居リハシナイカト云フヤウナ意味ノ御尋ガアッタト思ヒマスガ、左樣ナ事ハ全ク考ヘテ居リマセヌ、金肥ノコトニ付キマルテハ、政府ハ是マデ他ノ機會ニ於テ屢、御答ヲ致シマセタヤウニ、有機質、無機質總テニ付テ出來ルダケノ努力ヲシテ、其ノ供給ヲ圖ッテ居ル次第デアリマス、同時ニ此ノ自給ノ肥料ノ增産ニ付キマシテ努力ヲ致シテ居ルト云フ意味ニ、御諒解ヲ願ヒタイノデアリマス、第二ニ、硫安ニ付テ米麥重點主義デ、昨年割當ヲ致シマシタ八〇%、又過燐酸ニ付キマシテハ、大體一〇〇%、此ノ割合ヲ以テ行クコトニ付テ、確信ヲ持ツテ其ノ實行ガ出來ルカト云フコトニ付キマシテハ、屢、申上ゲマシタヤウニ、此ノ硫安ノ製造ニ付キマシテ、電力ノ關係カラ非常ナル不安ガ一時アッタノデアリマスケレドモ、現時ノ狀況ヲ以テ致シマスレバ、只今政府ガ考ヘテ居リ、又既ニ割當ヲ致シタ數量ニ付キマシテハ、是ハ確信ヲ以テ間違ヒナク配給ガ出來ル、斯ウ云フコトヲ申上ゲテ置キマス、尙ホ此ノ硫安等ノ不足ニ付テ、大豆粕及ビ大豆ノ問題ニ關シマシテハ、是ハ既ニ滿洲トノ間ニ協定ヲ爲シ、努力ヲ致シテ居リマシテ、本省カラモ常置ノ如ク長ク滯在スル人ヲ派シテ居リマシテ、刻々此ノ出荷ニ付テ督促ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、是亦今日ノ狀況ニ於キマシテハ、豫定ノ數量ヲ獲得スルコトニ自信ヲ持ツテ居リマス、尙ホ是ハ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマスルカラシテ、其ノ努力ヲ弛メズニ、豫定ノ數量ノ獲得ニ努メル積リデアリマス、次ニ配合肥料ノ問題デアリマスガ、是ハ配合肥料ノ原料ニ付キマシテ、色々ナ變動ガアリ、變化ガアリ方ノ計畫ニ付テノ之ヲ改メテ、サウシテ改メタ計畫ノ下ニ於テ、豫定ノ配合肥料ヲ配分スルヤウナ考ヲ以テ只今計畫ヲシ、當局ニ於テ日夜其ノ點ニ付テ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマスカラ、左樣ニ此ノ點モ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、尙ホ外地トノ間ニ一貫ノ方策ニ依ッテ、肥料ノ問題ハ、洵ニ御質問ノ通リデアリマシテ、政府ト致シマシテ協力ヲシ、連絡ヲ執ッテヤリタイ、又其ノヤル方針ヲ以テ進ンデ居ルト云フコトヲ申上ゲテ、簡單ナガラ御答ニ致シテ置キマス

河野一郎君ノ質疑

私ハ只今上程ニ相成ッテ居リマスル日本肥料株式會社法案ニ付テ、極ク簡單ニ二三ノ點ニ付テ御尋ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、本案ハ政府ニ於キマシテ現下ノ肥料事情ヲ如何ナル認識ノ下ニ御提案ニナッタノカハ存ジマセヌガ、吾々ト致シマシテハ、甚ダ其ノ內容ノ不徹底ナルニ驚ク者デアリマス、例ヘバ本案ノ如キ單ナル既設ノ會社ヲ合同經營シ、既設ノ施設ヲ其ノ儘運用スルコトニ依ッテ、現下ノ肥料事情ヲ打開スルコトハ、斷ジテ不可能デアルト考ヘル者デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ、少シク現在ノ農村事情、肥料事情ト併セ關聯致シマシテ、政府ニ本質的ナ御尋ヲ致シテ見タイト考ヘルノデアリマス、先ヅ第一ハ、戰時下ニ於キマシテモ、最低ノ必要數量ハ、絕對ニ確保セラルベキモノナリト私ハ考ヘルノデアリマスケレドモ、最近政府ノ執ッテ居ラレマスル所ノ肥料政策ヲ拜見致シマスルノニ、戰時下ナルガ故ニ七割デ我慢セヨ、八割デ我慢セヨ、六割デ我慢セヨ、無イモノハ仕方ガナイカラ、此ノ儘デヤッテ行ケト云フヤウナ態度ヲ執ッテ、以テ農村ニ必要ナル食糧資源、其ノ他農產資源ヲ要求セラルル所ニ、非常ナ無理ガアルト私ハ思フノデアリマス、而シテ此ノ情勢ヲ、政府ハ例ヘバ電力ノ問題、石炭ノ問題、其ノ他爲替ノ問題等ニ關聯シテ、マア暫ク〳〵ト云フコトデ、遂ニ今日ノ農村ニ於キマスル所ノ、絕對的肥料不安ノ實情ニ追込ンダモノト私ハ思フノデアリマスルガ、更ニ政府ハ本案ヲ以テ致シマシテ、將來ニ於キマスル肥料事情ヲ改善スル確信アリヤ否ヤ、具體的ニ申上ゲマスレバ、明肥料年度、此ノ七月ヨリ致シマスル所ノ肥料年度ニ於テ、本案ニ依ッテ幾許ノ硫安ノ製造ガ期待セラレルカ、何程ノ過燐酸ヲ農村ニ配給ガ出來ルカ、其ノ他ノ必

要ナル肥料資材ヲ、ドノ程度配給スルコトガ出來ルカト云フ點ニ付テ、率直ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、只今前質問者ニ對スル農林大臣ノ御答辯ハ、私甚ダ意ニ滿タナイモノガアリマス、例ヘバ我國ニ於キマスル硫安ノ製造可能量ハ、恐ラク二百万瓲乃至二百十万瓲アル筈デアリマス、今日ニ於キマシテ政府ガ配給計畫セラレッツアル數量、卽チ只今農林大臣ガ確信ヲ以テ配給スルト申サレマシタ量ハ幾許デアルカ、此ノ製造可能數量ニ對シテ、四五十万瓲內輪ニ見積ッタ數量デアリマス、吾々ハ少クトモ硫安ニ對シマシテハ、此ノ製造可能數量卽チ二百万瓲乃至二百十万瓲ノ製造ヲ致シテ以テ、之ヲ全農村ニ配給シ、更ニ進ンデ此ノ資源ヲ以テ大豆粕ニ代ヘルダケノ積極性ヲ持タナケレバナルマイト思フノデアル、果シテ此ノ會社ニ依ツテ、只今上程セラレテ居リマスル本案ニ依ツテ御答辯ガ願ヒタイ、更ニ進ンデ過燐酸ニ付テ持ツテオヰデニナルカ、從來ノ如クニ過燐酸ハ百「パーセント」配給スルト申サレマスルガ、此ノ百「パーセント」ハ甚ダ吾々農村側ニ於キマシテハ意ニ滿タザル百「パーセント」デアリマス、更ニ又進ンデ申上ゲマスレバ、大豆粕ノ只今ノ農林大臣ノ御答辯ノ如キハ、最モ私ノ不滿ニ堪ヘザルモノガアリマス、斯ノ如キコトヲ此ノ機會ニ申上ゲマスコトハ、ドウカト考ヘマスルケレドモ、私ノ調査致シマシタ所ニ依リマスレバ、少クトモ農林大臣ノ只今ノ言明トノ間ニ、三四十万瓲ノ開キガアルノデアリマス、政府ノ屢〻議會ヲ通ジテノ御答辯ニ依リマスレバ、大豆粕ニ於テモ百六七万瓲、大豆ニ於テ九十五万瓲、之ヲ內地ニ輸入シテ以テ硫安ノ不足分ニ窒素ヲ補フモノデアルト云フコトヲ聲明セラレテ居リマスケレドモ、之ヲ更ニ詳細ニ點檢致シマスレバ、現在滿洲國ニ於キマスル所ノ大豆ノ出廻リ事情ハドウナッテ居ルカ、滿洲國ニ於キマシテハ、當初大豆ノ生產豫定數量ハ四百五十万瓲ト發表セラレタ筈デアリマス、政府ハ恐ラク此ノ四百五六万瓲ノ中カラ、地場ニ消費スル所ノ百三四十万瓲ヲ「マイナス」致シ、更ニ支那其ノ他ノ第三國ニ輸入スルモノヲ「マイナス」致シマシテ、內地ヘ向ッテノ輸入數量ヲ、只今申上ゲマシタ大豆デ九十五万瓲、豆粕ニシテ百六七万瓲、之ヲ全部大豆ニ換算致シマシテ、二百二十万瓲程度ノモノヲ、內地ニ持ッテ來ル計畫ヲ御立テニナッタコトト考ヘマス、併シナガラ今日滿洲國全體ヲ通ジテ、吾々ガ他ノ方面ヨリ調査致シマスル所ニ依リマスレバ、先月ノ中旬、卽チ舊正月マデノ出廻ハ僅ニ百十万瓲、其ノ後舊正月以後ニ於キマスル所ノ出廻ガ、業界全體ノ觀測ト致シマシテハ、多クテ七十万瓲、少ク見テ六十万瓲カラ五十万瓲ダラウト云フ、悲觀的豫想ガ民間全部ノ聲デアリマス、之ヲ全部合計致シマシテ割當テマシテ、之ヲ內地ノ豆粕ノ消費ニ向ケマス時ニハ、ドウ計算致シマシテモ、政府ガ豫期シテ居ラレマスル數字トノ間ニハ、三四十万瓲ノ開キガアル筈デアリマス、今日只今ノ問題ニ付テ三四十万瓲ノ開キノアルコトヲ、農林大臣ガ確認セラレザル所ニ、私ハ非常ナ不安ヲ持ッ者デアリマス、農林大臣ハ只今係官ヲ派遣シテ最善ノ努力ヲ盡シテ居ラレルト申サレマスケレドモ、係官ノ御調査モ民間ノ調査モ食違ヒノアル筈ハアリマセヌ、現實ノ問題トシテ斯ノ如ク傳ハリマス聲ガ、農村津々浦々ニ不安トナッテ現ハレテ居ルノデアリマス、如何ニ政府ガ大豆ハヤル、大豆粕ノ不足ヲ斯ク全農村ニセニナリマシテモ、此ノ吾々ノ調査、民間ノ聲其ノモノガ、大豆粕ハ配給スルト仰意識セシメテ、政府ガ最近大豆粕ヲ四圓五十錢デ配給スルト申シテモ、今尙ホ六圓、六圓五十錢、七圓ノ闇取引ガ、全農村ニアルコトヲ吾々ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、農林大臣ハ速ニ是等ノ事情ヲ再檢討セラレマシテ、本當ニドウナルカ、吾々ハ四月、五月、六月ノ此ノ當面セル肥料最盛期ニ於テ、農村ハドウ云フ問題ガ起ルダラウカ、何ガ起ッテ來ルカト云フコトヲ、非常ニ憂慮致ス者デアリマス、是等ノ點ニ付キマシテハ、農林大臣ハ重ネテ此ノ議場ニ於テ明確ナル答辯ヲセラレンコトヲ望ム者デアリマス、繰返シテ申シマス、戰時下ニ於テハ、最小限度ノ肥料ノ絕對確保ヲ吾々農村ハ要求スル、然ラザレバ必要ナル農產物ノ確保ハ絕對ニ不可能デアル、過去數年ニ於キマスル如クニ、八割デヤレ、七割デヤレト云フヤウナコトハ、非常ナ間違ヒデアル、斯ノ如キ事態ガ長ク續クモノデハナイ、ソレ等ガ清算セラレテ、現下ニ於ケル所ノ農村ノ肥料不安事情ガ起ッテ居ルノデアル、是等ヲ深ク認識セラレマシテ、明確ナル御答辯ガ願ヒタイト思フノデアリマス、第二ニハ、

ノ御所見ハ如何デアリマスカ、次ニ御尋致シタイノハ、歐米各國ノ事情ヲ見マシテモ、我國ノ今日ノ肥料政策ノ如クニ、貧困ナルモノハナカラウト私ハ思フノデアリマス、ナゼナラバ、現在農林當局ノ御考ニナッテ居リマスルコトハ、肥料ハ有機質ト無機質デアル、無機質ノ肥料ハ窒素ト燐酸ト加里デアル、此ノ程度ニ出ナイ考ヘ方ガ、果シテ妥當デアラウカドウカ、私大シタ研究モアリマセヌケレドモ、第一次歐洲大戰以後ニ於キマスル英米其他獨佛、何レノ國ノ肥料ノ進歩改善ノ跡ヲ見マシテモ、單ナル窒素、燐酸、加里ヲ取扱ッテ居ル國家ハナイノデアリマス、獨リ我國ノミガ依然トシテ窒素デアル、燐酸デアル、加里デアルト云フモノヲ扱ハナケレバナラヌ理由ガ果シテアリマセウカ、何故ニモウ少シ高級ナ肥料ヲ造ルコトニ政府ハ御考ニナラヌノカ、ナゼモウ少シ進歩シタ研究ヲナサラウト致サレヌノカ、依然トシテ十年二十年昔ノ歐米ヲ模倣シテ、其ノ儘ノ狀態ニ於テ國策ヲ樹立セラレルト云フコトハ、餘リニモ消極的デハナカラウカト思フノデアリマス、例ヘバ英吉利ニ於キマス所ノ硫燐安、獨逸ニ於キマス所ノ「ニトロホスカ」是等ノ高度ノ合成肥料、化成肥料ト云フヤウナモノヲ、取ッテ以テ國策ニ入レラレルコトガ——今日運送ノ關係、包裝ノ關係、是等ノ非常ニ窮屈ヲ來シテ居リマスル際ニ、モウ少シ成分ノ高イ肥料ヲ奬勵研究サレルコトガ、絶對ニ必要デハナイカ、其ノ域ニ達シテコソ、初メテ新東亞建設ノ第一線ニ立ッテ、是等ノ農村開發ニ本當ニ資スル所以デハナイカト私ハ思フノデアリ、是等企業合同ノ上ニ立テ積極的ナ肥料ノ研究ヲ進メ、以テ肥料全般ノ大進展ヲスル、大革新ヲスルダケノ意圖ハ政府ニハナイノカ、其ノ必要ヲ御認メニナラヌノカト云フコトヲ御尋致シタイト思フノデアリマス、第四ニハ、現下肥料政策ノ一般ニ於キマシテ非常ニヤカマシク論議セラレマス配給ノ問題ハ、中央ニ於ケル配給ノ問題ニアラズシテ、地方ニ於ケル問題デアリマス、卽チ一方ニハ闇取引ノ横行トナリ、更ニ又各府縣知事ノ命令ニ依ッテ、縣令ニ依ッテ、地方割據主義ノ肥料價格ノ續出トナリ、仍テ以テ各地方ノ肥料ノ偏在トナリツツアル實情ガ、最モ憂慮スベキ問題デアリマス、然ルニ今回ノ法案ニ依リマスレバ、中央ニ於ケル所ノ肥料ノ配給ニ

此ノ法律案ニ依リマスレバ、第十一條ニ於テ、政府必要ト認メタル場合ニハ、各會社ニ向ッテ協議ノ上ニ、ソレ〴〵ノ工場ヲ此ノ日本肥料株式會社ニ經營セシメルコトガ出來ルコトニナッテ居リマス、卽チ新會社ハ工場ノ管理ヲスルコトガ出來ルヤウニ規定セラレテ居リマス、政府ハ恐ラク此ノ條項ヲ以テ、是カラ業績ノ擧ラザル工場ヲ振興スルヤウニ御考ヘデゴザイマセウケレドモ、私ハ此ノ點ニ對シテ多大ナル不滿ヲ持ッ者デアリマス、何故ナレバ戰時下ニ於テハ苟クモ絶對ニ國家ノ必要ナル資源、國家ノ必要ナル資材ニ付テハ、業界ニ於ケル所ノ採算、業界ニ於ケル所ノ採算、取ッテ以テ國家的ニ公益的ニ提供シナケレバナラナイト私ハ思フノデアリマス、然ルニ政府ノ御示ニナッテ居ルヤウニ、業者ト相談ヲシタ上デ、業者ガ承知ヲシタナラバ、其ノ管理ヲ會社ガ出來ルト云フコトデハ、業者ガ採算ノ合フ所ハ、採算點ニ達スルマデハ管理ニ同意ハシナカラウト私ハ思フノデアリマス、全部不利益ナ、不採算ナ率ノ合ハナイモノダケガ、工場管理ニ同意致シマシテ、儲ッテ居ル、採算ノ合フモノハ工場管理ニ同意ヲシナイ、此ノ結果ト致シマシテ、硫安工業ノ如ク非常ニ技術ヲ要スル、非常ニ難シイ仕事ニ於キマシテハ儲ッテ居ル會社デナケレバ、立派ナ技術者ハ居ルマイト私ハ思フノデアリマス、今日肥料界ニ於テ、殊ニ硫安製造界ニ於テ最モ必要ナルモノハ、貴重ナモノハ、優秀ナル技術者デアルノデアリマス、機械設備ハ、機械設備ト致シマシテハ、只今私申上ゲマシタ通リニ、二百數十万甅ノ機械設備ガアル筈デアリマス、所ガ遺憾ナガラ此ノ機械設備ヲ全能力的ニ運轉スルダケノ技術者ニ缺ケテ居ルノデハナイカト私ハ思フノデアリマス、政府ハ果シテ是等消極的ナ工場管理ニ依ッテ優秀ナ技術ヲ獲得スルコトモ出來ズ、如何ニシテ全能力ヲ發揮スルコトガ出來ルカ、斯ノ如キ消極的ナ會社ヲ作ッタ所ガ「マイナス」ノモノダケ管理スルコトニナッテ、結局所期スルダケノモノヲ獲得スルコトガ出來ナイノデハナカラウカ、何故ニ進ンデ全企業合同ヲオヤリニナラナカッタカ、全部ノ硫安工場ヲ其ノ儘合同セシメテ、取ッテ以テ最大能力ヲ發揮スルダケノ意圖ニオ出デニナラナカッタカ、ソコマデ徹底シタ案ヲ御立テニナッテ、初メテ所期スル所ノ硫安ヲ期待スルコトガ出來タノデハナカラウカト吾々ハ思フノデアリマスガ、政府

付テハ、此ノ會社ヲ以テ萬全ト考ヘルコトガ出來ルカモ知リマセヌケレドモ、何故ニ最モ急務中ノ急務デアリ、最モ難事中ノ難事デアル所ノ、地方ノ配給機構ニ付テ御考ニナラナカツタノカ、此ノ點ニ付テ積極的ニ政府ガオヤリニナラナケレバ、決シテ今日ノ肥料問題ハ解消スルモノデハナイト私ハ思フノデアリマス、卽チ各府縣、各市町村ニ於ケル肥料ノ配給ノ問題ニ付テ、政府ハ如何ニ御考ニナツテ居ルカ、將來之ヲドウシヨウトナサルノカ、此ノ日本肥料株式會社成立ノ後ニ於テ、此ノ會社ト地方トノ關係ハ、ドウ云フ風ニ御進メニナル積リカ、此ノ點ニ付テ御答ヲ願ツテ置キタイト思フノデアリマス、第五トシテ御尋致シタイノハ、先程申上ゲマシタル通リ、大豆粕ニ於テ非常ニ政府ノ發表ニ違算ガアリ、現下ノ國內配給事情ニ於テ不圓滑ナル事情ノアリマスル際ニ、此ノ大豆粕ヲ以テ非常ニ主要ナル飼料ト致シテ居リマスル部分ニ於テ、肥料ト飼料トノ關係ヲ如何ニ政府ハ御取扱ニナル積リカ、此ノ點ニ付テハ政府ハ速ニ本問題解決ノ方途ヲ御示ニナルコトガ、地方農村ノ事情ヲ明朗ナラシメル所以デアルト考ヘルノデアリマス、之ニ對スル所見モ、此ノ機會ニ質シテ置キタイト思フノデアリマス、更ニ一言、商工大臣御出席デアリマスルカラ、此ノ機會ニ御尋致シテ置キマス、先程來農林、商工兩大臣ノ御答辯乃至ハ本議場ヲ通ジテノ政府ノ御意見等ヲ承ツテ居リマスルト、低物價政策ナル故ニ、米ノ價段モ安クシテ置ク、肥料ノ價段モカルガ故ニ安クシテ置クト云フコトデ、肥料ノ價格ヲ下ゲテ置クカラ、米ノ價格モ下ゲテ置イテ宜シイト云フ、肥料、米ノ線ニ沿ウテ低物價政策ヲ達成シヨトウスルヤウナ御話デアリマス、併シナガラ私ノ考ヘマスル所デハ、肥料ノ値段ヲ下ゲテ、米ノ値段ヲ下ゲルカラト云ウテ、政府所期ノ目的ガ達セラレルトハ斷ジテ考ヘナイノデアリマス、何故ナラバ肥料ノ値段ヲ下ゲテ、政府ガ所謂重點主義ニ依ツテ、米ニ對シテ八割ノ肥料ヲ配給スルト申サレマシテモ、米ガ安ケレバ折角ノ安イ肥料ヲ米ニ使フトハ斷ジテ限ラヌノデアリマス、卽チモツト割高ノ農產物ニ對シテ肥料ガ流出ル虞ガ多分ニアル、肥料ガ安ケレバ米ガ安クテモ宜イト云フコトハ、決シテ戰時下ニ於キマスル所ノ食糧政策ヲ完遂スル所以デハナイト私ハ信ズル者デアリマス、何處マデモ公正ナ價格、適正ナ

價格ヲ以テ進ムコトガ、絕對ニ必要ナモノナリト私ハ確信スルモノデアツテ、政府ノ意圖セラレマスル如クニ、肥料ヲ安クシテ米ヲ安クスルト云フコトヲ考ヘルモノデアリマスルケレドモ、之ニ對シテ商工大臣ハ物價政策上如何ニ御考ニナリマスカ、又農林大臣ノ之ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

島田農林大臣ノ應答

只今ノ河野君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、戰時下ニ於テ必要ナル肥料ノ分量ヲ確保スルノ必要ガアルト云フコトニ付キマシテハ、是ハ御意見ノ通リニ考ヘテ居リマス、而シテ其ノ點ニ付キマシテハ、昨年來政府ガ執ツテ居リマス所ノ處置ニ付キマシテモ屢〻御答シタ通リデアリマシテ、所謂米麥重點主義ニ依ツテ、大體其ノ決定ニ從ツテ肥料ノ分配ヲヤル考デアリマシテ、之ニ付テハ先刻モ御答致シマシタヤウニ、政府トシテハ確信ヲ以テ是ガ可能デアルト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ本法案ノ十一條ニ依ル不徹底ナル所謂工場管理、經營ト云フヤウナコトニ依ツテ、肥料ノ增產ノ計畫ガ出來ルカ、斯ウ云フ點デアリマスガ、是ハ此ノ會社ヲ設立スルニ付キマシテハ、只今御話ノアツタ、全部ノ工場ヲ合同シテ、一大進展ヲスルノ擧ニ出デナカツタカト云フ點ニ關聯シテ居ル次第デアリマスガ、只今現存シテ居ツテ、配給ノ任ニ當ツテ居ル會社ヲ先ヅ合同ヲシテ、漸次ニ大成ヲシテ有機質、無機質ヲ通ジテ肥料ノ全體ニ及ボシテ行クト云フヤウナ考ヘ方カラシテ、先ヅ現在アル大キナ二ツノ會社ヲ一ツニシマシテ、政府モ亦出資ヲ致シテ此ノ會社ヲ設立シ、以テ現在ノ差向キノ需要ニ應ジタイ、斯ウ云フ考ノ下ニヤル譯デアリマシテ、或ハ協議スルト云フヤウナ微弱ナ規定デアルト云フヤウナコトデアリマスケレドモ、實情ニ卽シテ、設立後ニ於テ、此ノ規定ノ活用ニ依リ、相當ナル效果ヲ擧ゲルコトガ出來ルモノト考ヘテ居リマス、尙ホ大々的ニ國家ノ必要ニ應ジテ、全體ニ於テ無機質肥料ノ增產ヲ圖

ルコトノ計畫ニ付キマシテハ、是ハ此ノ會社ノ計畫トハ別ニ、若クハ是ト竝ンデ、政府トシテハ尚ホ考ヲ以テ進マナケレバナラヌモノデアル、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ新種肥料ト云フモノニ付テ、政府ハ研究ノ歩ヲ進メテ行ク考ハナイカト云フ意味ノコトデアリマシタガ、是ハ洵ニ政府トシテ其ノ必要ヲ感ジテ居ル、殊ニ現時ノ如キ狀態ニ鑑ミマシテ、效果ノ多イ新シイ種類ノ肥料ニ付テ研究ヲシ、又ソレ等ノモノニ付テノ生產ヲ圖ルト云フコトハ、現下ノ事態ニ照シマシテ、最モ緊要ナコトトヲ考ヘルノデアリマス、唯此ノ點ニ付キマシテ、從來遺憾ナガラ研究ト云フ方面ニ付テ、十分ノ手ガ伸ビテ居ラナカツタト思フノデアリマスガ、自分ハ是等ノ點ニ付キマシテハ、十分ナ努力ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ此ノ會社ガ出來テ、配給ノ點ニ付テハドウ云フ風ニスルカ、殊ニ地方ノ配給ノニ付テノ御心配ノ點ニ付キマシテハ、御承知ノヤウナ實情デアリマスノデ、大體ニ於キマシテハ現在ノ機構ニ依ツテ流シテ行キ、サウシテ漸次ニ之ヲ改良シテ行クト云フヤリ方ニ依ルノ外ハ、只今特別ナ事柄ニ付テ考ヘル餘地ガナイノデアリマスガ、既ニ地方々々ニ色々ナ問題ノアルコトヲ知ツテ居ルノデアリマスガ、先ヅ此ノ會社ノ設立ヲ見マシテ、サウシテ地方ノ問題ニ付キマシテハ、ソレニ適應シテ指導ヲシ、此ノ配給ヲ圓滑ナラシムルノ方途ニ出タイト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、次ノ飼料トノ關係ニ付キマシテハ、洵ニ御尤モデアリマス、卽チ肥料ガ飼料ニナル、隨テ配給セラレタル大豆粕ハ飼料ニスルカト云フコトニ付テ、之ニ色々ナ問題ノアルト云フコトハ承知致シテ居リマス、是ハ兩者ノ需要ヲ睨ミ合セマシテ、飼料タルベキ部分ト、肥料トスベキ部分ニ付テ、適當ナ配給ノ割合ヲ定メテ行クヤウニ致シタイト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマシテ、此ノ問題ハ直チニ今起ツテ居ル必要ナ問題デアリマスカラ、之ニ對シマシテハ相當ナ處置ヲ執ツテ、今申上ゲルヤウナ方針ニ依ツテ、處置ヲシテ行キタイト考ヘテ居リマス、以上一應私カラ御答申上ゲマス

藤原商工大臣ノ應答

河野君ニ御答申上ゲマス、只今私ノ申上ゲマシタノハ、政府ハ此ノ時局ヲ乘切ルガ爲ニハ、ドウシテモ低物價政策デ參リタイ、ソレニ付キマシテハ、我國ノ最モ重要ナル生產品ノ米ノ如キ、之ヲ若シ値段ヲ上ゲルト云フヤウナコトニ致シマシタナラバ、低物價政策ハ直チニ根本カラ覆ヘルト云フコトハ、是ハ私カラ申上ゲルマデモナイコトト存ジマス、ソレ故ニ兎ニ角農民ノ負擔ヲ出來ルダケ少クスル、卽チ肥料ノ如キハ、之ヲ値上ヲスルト云フヤウナコトヲ、根本的ニナイヤウニシテ、サウシテ之ヲ低廉ナ價格ヲ以テ澤山ニ供給スルト云フヤウナ政策ヲ實行シテ、同時ニ又他一般物價ヲ騰貴セシメルト云フヤウナ虞ノアル、例ヘバ石炭ノヤウナ、斯ウ云フ品物ニ對シテモ、ヤハリ値上ヲシナイヤウニシテ、サウシテ出來ルダケ農民ノ負擔ヲ少クシテ、低物價政策ヲ遂行致シタイ、斯ウ云フ安クシタカラ米ヲ安クシテモ宜イデハナイカト云フ趣旨ヲ以テ進ンデ居ルノデアリマシテ、決シテ肥料ヲデナイト云フコトヲ、ドウゾ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

河野君ノ再質疑

只今農林大臣ノ御答辯ハ、最初ニ私申上ゲマシタル通リニ、現下ノ肥料事情、農村事情ニ對スル大臣ト私トノ認識ノ間ニハ、相當ノ距離ノアルコトヲ遺憾ニ思フノデアリマス、卽チ私ノ御尋ハ、明肥料年度、卽チ來ル八月ヨリ來年七月マデノ明肥料年度ニ於ケル、政府ノ肥料ニ對スル確保ノ條件ハ、ドノ程度ニ考ヘテ居ルノカ、卽チ百「パーセント」ニ與ヘテヤル、今マデ言ウタ通リニハヤル積リダト仰シヤルカ、其ノ仰シヤル言葉ハ、卽チ八割デアリ、六割デアルノデアリマス、大臣ハ過般吾々ノ同志ヨリ御尋致シマシタ際ニモ、本質的ニ數字的基礎ヲ間違ヘテ御答辯ニナツタコトガアル、例ヘバ硫安ニ付テハ、增產分ニ付テハ加ヘテナイケレドモ、其ノ他ノモノニ付テハ斯ウ斯ウ爾カ〳〵デ、今マデ政府ガ言ウタ通リニヤルト云フヤウナ御答辯ニナツテ居リマスケレド

モ、是等モ全ク違フノデアリマス、モウ少シ事情ヲ十分ニ御調査ノ上、現在ノ政府ノ地方ニ配給セントスル肥料ノ數量ガ、農村ノ要求トドノ程度ニナッテ居ルカト云フコトヲ御調査願ヒタイ、昨年度ニ於キマシテハ、一昨年カラノ肥料ノ持越ガ相當ニ多カッタ爲ニ、政府ノ分配致シマシタ肥料デ、或ル程度農村ハ肥料ノ分配ガ出來タノデアリマス、今年ハ昨年ヨリ引續ク持越「ゼロ」ノ事情ニ於テノ植付時ヲ迎ヘルノデアリマスカラ、昨年ト今年トノ事情ノ間ニハ全クノ違ヒガアル、而モ明年度ヲ考ヘマス時ニ、只今ノ大臣ノ御認識ノ程度デハ、農村ハ益〻肥料ノ不足ヲ深刻ニ傳ヘ、更ニ生産ニ於テ非常ナ不安ガ生レテ來ルト私ハ思フノデアリマス、故ニ少クトモ明肥料年度ニ於テハ、今年ノ如クセズシテ、積極的ニ二割、三割、四割、即チ硫安ニ於キマシテハ、生産可能數量ノ全部ヲ獲得スルダケノ御決心ガナケレバナルマイト私ハ思フノデアリマス、此ノ點ニ付テ十分ナル御認識ヲ戴イテ、更ニ御答辯ヲ願ヒタイ、是ニ於テ大臣ヨリ明確ニ將來ノ肥料問題ニ對スル政府ノ御決意ヲ御發表ニナリマスルコトハ、農家ニ於テ肥料ヲ將來段々ナクナルダラウト思ッテ買溜シテアル、持ッテ居ルト云フヤウナモノヲ有無相通ジテ、オ互ニ分ケ合ッテ使フコトガアルラ、私ハ大臣ヨリ此ノ機會ニ於テ、明瞭ニ明肥料年度ニ對スル大臣ノ認識ヲ、御說明願ヒタイト申上ゲルノデアリマス、第二ノ點ニ付キマシテモ、現下ノ事情ガ、平時デアリマスナルラバ、先ヅ今アル會社ヲ纏メテ、ソレカラ其ノ次ニ企業ノ點ニ付テ考ヘルト云フコトモ、一ツノ順序デゴザイマセウ、併シ苟モ今日ノ事情ヲ吾々ハ考ヘマスル時ニ、サウ云フ普通ノ考ヘ方ノ順序ヲ追ッテ居ルヤウナコトデハ間ニ合ハナイ、吾々ハ此ノ議會ガ濟ムカ濟マナイカニ、全國ニ肥料問題ノ大キナ渦巻ノ卷クコトヲ豫想シテ居ルノデアリマス、甚ダ申上ゲ方ハ怪シカラヌカモ知レマセヌケレドモ、其ノ事ノナカランコトヲ期待致シマスケレドモ、益〻深刻ニ急「ピッチ」ニ其ノ方向ニ今進ンデ居リマス、大臣ノ御考ニナッテ居ルコトハ、非常ニ距離ノアルコトヲ私ハ玆ニ申上ゲザルヲ得ヌノデアリマス、失禮デアリマスケレドモ、重ネテ御所見ヲ御發表ニナランコトヲ御願シテ質問ヲ打切リマス

島田農林大臣ノ應答

私ガ河野君ニ御答ヲシテ居ルノハ、此ノ七月ニ至ルマデノ事柄ニ付テ、主トシテ御答ヲシテ居ッタノデアリマスガ、七月以降ノ事柄ニ付キマシテハ、是ハ原狀ニ復シ、即チ百「パーセント」増產計畫ニ付キマシテモ及ブダケノ能力ヲ發揮シ、供給ノ出來ルト云フコトノ確信ヲ、將來ニ付テハ持ッテ居ル次第デアリマス、今年ノ難關ヲ切拔ケルニ付テ苦心ヲシテ居ルコトヲ、私ハ申上ゲテ居ルノデアリマス、左樣ニ此ノ點ハ御諒解ヲ願ヒタイ、サウシテ此ノ會社ノ出來タコトニ付キマシテ——之ヲ捧ヘルト云フコトニ付キマシテ、成程時局下ニ於テ、非常時デアルカラ、急速ニ大キナ計畫ヲ實現スルト云フコトノ必要デアルト云フコトモ、是ハ御意見トシテ承リマス、併シナガラ之ヲ實行スルト云フ時ニハ、又自ラ其ノ間ニ段階ノアルト云フコトハ申スマデモナイ次第デアリマシテ、即チ政府ハ先ヅ此ノ肥料業ノ關係者ノ作ッテ居リマスル、現在ノ二ツノ配給會社ヲ集メテ一ツト爲シ、サウシテ此ノ會社ノ成立ノ基礎ノ出來ルノヲ待ッテ、更ニ其ノ次ノ「ステップ」ニ向ッテ行キタイト、斯ウ云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、先程申上ゲタ通リデアリマシテ、此ノ會社ガ出來タカラシテ、直チニ此ノ肥料ノ增產ガ實現スルト云フコトヲ、斷言シ得ナイ點ガアルカモ知レマセヌガ、是等ノ會社ノ株主トナルベキ小會社ハ、何レモ製造工場ヲ持ッテ居ルモノデアリマスカラ、之ニ對シテ電力ノ供給其ノ他ニ付テ優先的ナ配當ガ出來ル以上ハ、只今問題ニセラレマシタ全能力ヲ「フル」ニ働カセタ二百万馬程度ノ生產ト云フコトハ、決シテ難クナイモノデアラウト思フノデアリマス、尙ホ此ノ微弱ナル工場ノ管理ヲシ、經營ヲ併セテスルコトガ出來マシタナラバ、相當ナ增產ヲ期待スルコトガ出來ルヤウニ考ヘテ居リマスカラ、私ハ只今河野君ノ御質問ノ機會ヲ通ジテ、全國ノ農民諸君ニ對シテ、明年度ノ七月以降ノ肥料ノ供給ニ付テハ政府ハ不安ヲ持ッテ居ラヌ、斯ウ云フコトヲ言明致シテ置キマス

野溝勝君ノ質疑

上程ニナリマシタ日本肥料會社法案ニ付テ、數點ニ亙ツテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、大體質問ノ順序ヲ申シテ置キマス、第一增産計畫ト肥料確保ニ於テ、第二點ガ法案ノ性格ニ付テ、第三點ガ肥料ノ價格政策ニ付テ、第四點ガ配給機構ノ確立ニ付テ、第五點ガ肥料ノ國家管理ニ付テ、以上五點デアリマス、爾カ致シマシテ此ノ質問ヲ試ミル前ニ、私ト大體内容ヲ一ニ致シマシタ同僚諸君ノ質問デ、重複シタ點ハ省略致シタイト思ヒマス、第一點ノ增産計畫ト肥料ノ確保ニ付テデアリマスガ、政府ハ十五年米穀年度ノ需給推算ニ於キマシテ、厖大ナル計畫ヲ立テラレテ居ルノデアリマス、今日ノ戰時目的ヲ遂行スルニハ、アノ食糧生産計畫ハ已ムヲ得ナイト私ハ思フノデアリマスガ、食糧生産計畫ヲ立テルニハ、大臣モ御承知ノ通リ、現下ノ農村ノ實情ヲ今少シク深ク掘下ゲテ認識ヲ持ツテ貰ハナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、ナゼカナラバ、食糧生産計畫ハ言フマデモナク、地カラ湧イテ來ルモノデモナイ、之ニハ勞力、資材、畜力ト云フモノガ、三位一體的ニ之ニ力ヲ注グノデナケレバ、食糧生産計畫ノ確保ト云フコトハ斷ジテ出來ルモノデハナイ、然ルニ現下ノ農村ノ實情ハドウカ、何百万人ト云フ出征軍人ノ大部分ハ農村ノ子弟デアル、又畜力方面ニ於キマシテモ軍ノ需要ガ多ク致シマシテ、是ハ物動計畫デ――企畫院デ發表シマセヌケレドモ、亦私モ此處デ發表スルコトヲ避ケマスガ、折角增産計畫ヲ立テマシテモ、軍ノ需要ガ多クアリマシテ、遂ニハ畜産增産計畫モ中々思フヤウニ行カヌト云フ事情ニアル、シテ見マスルト、折角ノ食糧生産確保ガドウシテ出來マスカ、唯一點望ミヲ掛クベキモノハ、肥料以外ニハナイ、此ノ肥料ナクシテ食糧ノ生産確保ト云フコトハ、斷ジテ出來ナイノデアリマス、然ルニ今回ノ法案ノ精神ヲ見マスルト、從來ノ肥料法案ト何等變ル所ガナイヤウニ私ハ認メル、少シノ進歩ハアルカモ知レマセヌケレドモ、大體ニ於テ大同小異ト私ハ認メテ居ル、少クトモ食糧ノ生産確保ヲセントスルナラバ、先ヅ肥料ノ生産方法ニ急激ナル變革ヲ加ヘナケレバナラヌ、微溫的ナ寄木細工ノヤウナ、接木細工ノヤウナ、右ノモノヲ左ヘ持ツテ行ツタ程度ノ、コンナ肥料會社法案位デ、

此ノ食糧生産確保ト云フ重大ナル問題ヲ解決スルナント云フコトハ出來ルモノデハナイ、ソコデ先程同僚諸君ガ申サレマシタガ、日本ハ多肥農業デアリマス、輪作農業ヲヤツテ居ル所モ一部ハアリマスガ、我ガ信州ヲ初メ、日本全體カラ見ルナラバ、大體ニ於キマシテハ多肥農業デアリマス、輪作農業經營ノ唯一ノ條件ト致シマシテハ肥料以外ニハナイ、然ルニ今回ノ肥料法案カラ見ルナラバ、其ノ事ヲ一ツモ考ヘテ居ナイヤウニ見受ケルノデアリマス、肥料ハソレ自體米デアリ、麥デアリ、繭デアル、シテ見ルナラバ、此ノ肥料ヲ解決スルコトニ依ツテ、繭、米、麥ト云フヤウナ、日本重要農產物ノ解決モ自ヅト付クト斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、爾カ致シマシテ今回ノ肥料法案ノ内容ヲ、ヨリ一層之ヲ檢討シテ見マスルト、私ハ容易ナラザルモノガアルト思ヒマス、今日政府ノ示サレタ肥料供給量ト云フモノハ、同僚諸君ノ言葉ヲ藉リテ言フ譯デヤナイガ、實ニ危カシイモノデアル、米麥ニ於テ八〇%、其ノ他ノ物ニ於テ六〇%、ソレモ完全ニ確保スルト云フコトヲ言明サレテ居リマスケレドモ、私カラ之ヲ具體的ニ點檢スルナラバ、確保サレナイト見ル、何故カナレバ、申上ゲルマデモナク硫安ソレ自體ニ於テノ現下ノ狀態ハドウカ、硫安ハ製造能力可能量二百万瓲モアルト言ハレテ居リマスケレドモ、私達ハソンナ大キナコトヲ言ヒタクナイ、現ニ一月カラ七月ニ於ケル供給量六十六万五千瓲ノ確保スラ不安デナラヌ、御承知ノ如ク内地ノ生産量ノ外ハ外安十万瓲、滿洲方面カラ少シ移入致シマシテ、ソレデ六十六万五千瓲ノ供給量ト宣明サレテ居ルノデアリマスケレドモ、先ヅ第一ニ内地ノ生産狀況ヲ見ナサイ、電力調整令ノ發動ニ依リマシテ、漸ク見込ガ付イテ來タラシイノデアリマスケレドモ、唯單ニ内地ノ生産量ダケデハ、政府ノ考ヘテ居ルダケノ見込量ト云フモノノ確保ハ出來ナイ、既ニ問題デアルノハ滿洲化學會社ハドウカ、是ハ政府ハ莫大ノ金ヲ投ジテ滿洲國トノ間ニ出來タ會社デアル、生産量二十四万瓲ノ可能生産量ガアル、然ルニ前年度ハ何ダ、十二万五千瓲シカ出來ナイデヤナイカ、ソコデ内地ニ持ツテ行ク十万瓲移入ノ豫定ガ、十二万瓲シカ出來ヌ爲ニ、遂ニ滿洲ダケデ消費シテ、内地移入ガ出來ナイ、外安ニシテモサウデアリマス、十万瓲カラ輸入サレルト云ツテ居リマスケレ

ドモ、恐ラク此ノ外安モ船舶ノ不足、或ハ積出ノ困難、肥料ノ暴騰等ノ關係カラ見テ、政府ガ考ヘテ居ルヤウナ譯ニ行カヌト思ヒマス、電力調整令モサウデアリマス、戰前ト今日トヲ比較シテ御覽ナサイ、戰前ハ「フル」ニシテ有力會社ノ一時間ノ發電量ト云フモノハ八万「キロワット」アッタ、今日ハ電力調整令ガ發令ニナッタ後ト雖モ、僅カ三万「キロワット」シカ復活シテ居ラナイ、シテ見ルト戰前ト今日ノ戰爭ノ際ニ於ケル一時間ノ發電量ニ於テ、大體五万「キロワット」ノ差ガアルノデアリマス、斯ウ云フ心細イ情勢デハ、幾ラ大臣ガ言明サレマシテモ、私ハ今年度ノ供給量ヲ確保スルト云フコトニ對シマシテハ、不安ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、ソレバカリデハアリマセヌ、硫安ヲ「カバー」スル爲ニ、智利硝石ト云フモノヲ硫安可能量ニ見込ンデアル、是ガ「インチキ」デアル、智利硝石ト云フモノハ、成程窒素肥料デアリマスケレドモ、是ハ水ニハ役立タヌ、特ニ私共ノヤウナ山村デハ冷エマスカラ、此ノ智利硝石ハ役立タナイ、冷エルバカリデハナイ、田圃ニ於テハ役ニ立タヌ、此ノ伸ノ惡イ智利硝石ヲ十万「トン」輸入シテ、硫安ノ不足分ヲ「カバー」スルト言ッテ居リマスケレドモ、コンナコトハ當ニナラヌ、肥效性分ニ於テ遙ニ劣ル、斯ッ云フモノヲ硫安供給量ノ中ヘ織込ムト云フコトハ、既ニ私ハ當局ノ考ヘ方ガ狹クハナイカト云フヤウニ思フノデアリマス、ソレバカリデハアリマセヌ、加里ノ如キニ於キマシテモ言フコトハ澤山アリマス、加里ノ如キニ於キマシテモ三万五千「トン」ノ供給ガアルト云フヤウナコトヲ言ッテ居リマスケレドモ、恐ラク是モ醫藥ノ方ニ取ラレタリ、或ハ工業方面ニ取ラレタリスルナラバ、此ノ三万五千「トン」ト云フモノハ、ヤハリ不安デアル、石灰窒素ニ於テモ然リ、私ハソレ等ノ點ヲ一々此處デ申上ゲテ居ルト時間ガアリマセヌカラ申上ゲマセヌガ、兎ニ角供給量確保ト云フコトヲ大臣ハ言明サレテ居リマスケレドモ、以上ノ點カラ推論スル時ニ、本年度米麥八〇%、其ノ他六〇%ノ確保ニ對シマシテハ、私ハ先ヅ此處デ相當確タル具體的ナ事實デモ示シテ貰ハザル以上、政府當局ノ言ヲサウデスカト云ッテ鵜呑ニスル譯ニハ行カナイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ當局ハ若シ自信ガアルト云フコトデアルナラバ、甚ダ僭越デアリマス

ガ、此處デ此ノ無機質肥料ニ對スル月別計畫表ト云フモノヲ、御發表願ヒタイト思フノデアリマス、是ハ唯單ニ無機質バカリデハアリマセヌ、肥料政策ハ——特ニ窒素成分ハ有機質モ關係ガアルノデアリマスカラ、此ノ窒素ノ不足分ヲ大體有機質ニ依ッテ「カバー」シヨウトシテ居ルヤウデアリマス、此ノ點モ同僚諸君ガ先程述ベラレマシタノデ、私ハ重複スル所ハ避ケマスガ、一點ダケ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、昨年私ハ滿洲ヘ行ッテ來マシタ、滿洲ヘ行ッタノハ、唯滿洲ヘ行ッタト云フダケデハナイノデアリマス、ソレハ先年來問題ニナッテ居リマスル肥料ノ調査ニ行ッタノデアリマス、特ニ有機質ノ問題ニ付キマシテハ、掘下ゲテ調査ヲシテ來ナケレバ、十五肥料年度ガ心配ニナリマスノデ、特ニ調査ニ參リマシタ、滿洲ニ於テハ國策會社ガ幾ツモ出來テ居リマス、特ニ大豆專管公社ガ大豆ヲ扱ッテ居リマス、糧穀方面ニ於テハ、糧穀會社、或ハ生活必需品會社ト云フモノモアリマスガ、大豆專管公社ノ能力タルヤ、實ニダラシノナイモデアリマシタ、サウ申シテハ失禮デアリマスガ、大豆專管公社ノ命令ガ行ハレテ居ラナイノデアリマス、居ラナイドコロカ、統制ガヤカマシイト云フノデ、大豆ノ本質的性分ヲ其ノ儘トシ、規格ヲ變ヘ所謂小豆板ニシタリ、大豆粉末ニシタリシテ、ドン〳〵送リ出シテ居ル、甚シキニ至ッテハ臺灣ノ役人マデ來テ、ドンドンヤッテ居ル、何ガ日滿支「ブロック」デアルカ、何ノコトカ分ラヌ、斯ウ云フコトデハ私達ハ全ク國民ニ對シテ斯クアルベキデアルト云フコトヲ言切ルコトガ出來ナイ、國策會社ト云ッテモ、其ノ會社ノダラシノナイヤリ方ハ、實ニ見下ゲタモノデアル、ソコデ大豆專管公社ガ慌テテ一生懸命デ闘東軍、或ハ滿洲國アタリヘ話込ンデ、ドウニカ大豆ノ出廻リヲ宜クスル爲ニ、協力シタ結果、統制ヲ强化スルコトニナッタ、例ヘバ輸送方面、大豆一切ノ原料ニ至ルマデ、統制ヲ大豆專管公社デヤルコトニナッタ、ソレニ依ッテ漸ク出廻ルヤウニナッタガ、聞ク所ニ依ルトマダ〳〵完全ナ統制デハナイヤウデアリマス、斯樣ナ次第デ政府ガ考ヘテ居ルヤウニ安心出來マセヌ、大豆ニ於テ前年度七十五万「トン」、本年度九十万「トン」、大豆粕ニ於テ前年度八十一万「トン」、本年度百七万「トン」ト云フヤウナ計數ヲ發表サレテ居マスケレドモ、私ハ此ノ計算ニ對

シテハ、只今ノ事情カラ非常ナ不安ガアリマス、ソレバカリデハナイ、魚肥ニ於テハドウデスカ、釜石アタリニ於テハ、重油ガナイ爲ニ一統五六隻トシテ百統、三千隻ガウロ／＼シテ居ツタサウデアリマス、此ノ連中ハ魚獲リヲヤリタイガ、遺憾ナコトニ發動機ヲ動カス石油ガナイ爲ニ、魚獲ニ向フコトガ出來ナイト云ッテ、非常ニ憤慨シテ居ツタノデアリマス、斯樣ナ實情カラ見マシテモ、魚粕ノ點ニ於テモ非常ナ不安ガアル、ソレバカリデハナイ、各縣ガ一「ブロック」ヲ作ッテ、自分ノ所デ穫ッタ魚ハ成ベク他ヘ出スナト云フコトカラ、遂ニ魚粕ノ出廻リガ惡クナッタ、仕方ガナイカラ政府ハ朝鮮ヘ飛ンデ行ッテ、魚粕ノ出廻ヲ少シヅツ付ケテ貰フト云フ狀態デアッタ、斯樣ナ點カラ見テ不安ハ多イノデアリマシテ、右ノ事情カラ見ルト、政府ノ供給量確保ト云フ言明ニ對シテハ、信ヲ置クコトガ出來ナイノデアリマス、ソコデ結論ト致シマシテ、第一ノ質問ヲ要約スルト、次ノ三點ニナリマス、第一點、政府ノ米麥八〇%、其ノ他六〇%トアルモ、目的達成ノ爲ニハ國家權力ヲ發動シテモ供給確保ヲスル自信ガアルカドウカ、第二點、肥料確保八〇%トカ、六〇%トカ言フガ、戰時食糧生産確保ヲスル爲ニ電力ヲ「フル」ニ出シテ、米麥繭等ヲ一〇〇%位ニ改編スルト云フ意思ヲ持タレテ居ルカドウカ、第三點ハ、本年度肥料供給量デ、果シテ農産物ノ增産計畫ノ目的ヲ達シ得ラレルヤドウカト云フコトヲ御聽シタイノデアリマス、次ハ本法案ノ性格デアリマス、本法案タルヤ前法案ト餘リ代リ榮エノシナイ法案デアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ、同僚諸君ノ御質疑ノ中ニモアリマシタ通リ、私ハ同感デアリマス、併シ同感デハアリマスケレドモ、マア前ノ法案ヨリハ一歩前進デアルダケハ認メルモノデアリマス、併シ一歩前進デハアリマスガ、政府ハ御承知ノ如ク、今日肥料界ガ混亂シタノハ何處ニ原因ガアルカト云フコトヲ、先ヅ檢討シタ上ニ此ノ法案ヲ出サレタノカドウカ、私ハ其ノ點ニ疑問ヲ持ツモノデアリマス、今回ノ肥料界ノ混亂ハ、重要肥料ノ統制バカリヤリマシテ、有機質ノ肥料ノ統制ヲヤラナカッタ爲ニ、ソッチノ方カラ爆發致シマシテ、肥料界ガ大混亂シタコトハ御承知ノ通リデアリマス、一生懸命ニ硫安ノ公定ダ、ヤレ過燐酸ノ公定ダ、加里ノ公定ダト云ッテ騷イデ居ル中ニ、片方ガ拔ケテ居リマスカラ、片方カラ鯰ヤ鰻ノヤウニズル／＼ト辷リ出テシマッタ、ソコデ結局闇相場ト云フモノガ起ルノデアリマシテ、遂ニ有機質ノ暴騰トナリ、昂騰トナッテ、之ヲ抑ヘルコトガ出來ズシテ、肥料界ガ大混亂ニ陷ッタノデアリマス、ソコデ肥料ニ對スル統制ハ、唯單ニ無機質バカリノ統制デハ駄目ダト云フコトノ結論ガ得ラレタ譯デアリマス、無機質ダケノ統制デハ駄目ダ有機質ヲモ一緒ニシタ、卽チ無機質、有機質其ノ他內地生産、外地生産、一切ノ肥料ニ對スル所ノ一貫シタ統制ヲシナケレバ、到底肥料價格ノ公定、需給ノ圓滑ト云フヤウナコトハ圖リ得ラレナイ事實ヲ、賢明ナル政府ハ既ニ體得サレタノデハナイカト思フ、然ルニ又コンナ程度ノ法案ヲ出サレルヤウデハ、是ハ又心細イ次第デアル、政府ニ對シテ申上ゲタイコトハ、眞ニ本法案ノ目的タル需給ノ圓滑、價格ノ公正、先程誰カモ言ヒマシタケレドモ、廉價配給ト云フコトノ目的ヲ達成セントスルナラバ、政府ハ思切ッテ、肥料ニ對スル一貫シタ統制ヲ行フ意思ガアリヤ否ヤト云フコトヲ御聽シタイノデアリマス、又本法案モ國策會社ニ依ッテ統制サレルヤウニ出來テ居リマス、國策會社洵ニ結構デアリマス、併シ其ノ國策會社タルヤ、他ノ方面ハ知リマセヌケレドモ、私ノ知ッテ居ル範圍ノ國策會社ハ、恐ラク其ノ目的通リヤッテ呉レタコトハ一回モアリマセヌ、肥料會社ニ致シマシテモ、飼料會社ニ致シマシテモ、揭ゲル看板、旗印ハ非常ニ宜シイ、金魚ヤ鮒ヤ鯉デハナイガ、餌ガ來タト思ッテ直グニ飛ビ付ク、飛ビ付イタノハ宜シイガ、飛ビ付イタ所ガ、其ノ中ニ鈎ガアッタト云フヤウニナッテシマッタ、是ハ嘘僞リデモ何デモナイ、今農民ノ憤激シタ氣持ヲ聞イテ御覽ナサイ、オ前達ハ何ノ爲ニ一體議會ニ出テ居ルノデアルカ、大臣達ニ騙マサレテ居ルンダト云フ碌デモナイコトヲ言フ、私ハ憤慨致シマシタガ、併シドウモ大衆ニハ勝テナイ、自分ダケハ信ジテ居リマスケレドモ、大勢ノ口デアリマスカラ、其ノ大勢ノ口ニ對シマシテ私ハ一々抗辯ハ出來ナイ、私達ハ斯ウ云フコトヲ聞ク時ニ、決シテ私ハ大臣達ガ嘘僞リヲ言フトハ思ッテ居リマセヌケレドモ、少クトモアナタ方ガ折角太鼓判ヲ捺シテ決裁ヲシテ提案シ、可決シタ法律ノ精神ガ、國民ニマデ浸透シテナイト云フコトニナリマスト、又其ノ方針ガ國民ノ下ニ浸透スル時ニハ、逆ナ方向ニ向ッテ居ルトスルナラバ、結論ハ何ト

言ツテモ嘘ニナツテシマツタ、私達ハ其ノヤウナ國策會社ヲ今日マデ多ク見受ケテ居ル、今回ノ國策會社モ大體ニ於テ其ノ轍ヲ覆ムノデハナイカト云フコトヲ、私達ハ憂慮スル者デアリマス、特ニ此ノ國策會社ハ、既ニ聞ク所ニ依リマスト、大體ノ機構ガ出來テ居ツテ、此ノ法案ヲ出スト云フコトハ、甚ダ僭越ノヤウニ思ヒマスガ、ソレハ噂ダト思ヒマスカラ、深入シテ詮議シタクハナイケレドモ、斯ノ如キ半知半解ノ内容ヲ持ツテ居ル國策會社デ、此ノ肥料法案ノ目的ヲ達シ得ルコトガ、果シテ出來ルヤ否ヤ、之ヲ御聽シタイノデアリマス、次ニ肥料ノ價格政策ニ付テ申上ゲテ見タイト思ヒマス、本法案ガ肥料ノ買上販賣或ハ輸入、移入等ノ統制ヲ强化シタルハ當然デアリマスガ、生産ニ關シテハ一ツモ觸レテナイノデアリマス、先程河野君ノ御話ニ依リマスシ、餘程觸レテ居ルヤウニ言ハレマシタガ、私カラ見ルナラバ逆ナ見方ヲシテ居リマス、私ハ寧ロ觸レ方ガ少イト思ツテ居リマス、是ハモット徹底的ニ觸レナケレバナラヌト思ヒマス、デアリマスカラ、大體ニ於テ此ノ肥料案モ七八分マデハ統制シタガ、後ノ二三分ガ拔ケテ居リマスカラ、中氣ノ肥料統制ニナツタ、中氣ノ肥料會社法案ニナツタ、是ハ甚ダ殘念ニ思ヒマス、ソコデナゼ政府ハ販賣カラ買上カラ輸入、移入ノ一切ヲ統制シテ、肝腎ナ生産ヘドウシテソレニ手ヲ染メナイカ、何處カオツカナイデスカ、議會ダケガオツカナクテ、外ノ所ハオツカナイ所ハナイデセウ、議會ハ氣味ガ惡イ、早ク濟メバ宜イト思フデセウガ、其ノ他ニハ苦痛ナ所ハナイデセウ、然ラバナゼ之ニ手ヲ染メナイ、自治的統制ニ任スト云フコトヲ能ク言ツテ居リマスガ、今統制經濟ヲ主張シテ居ツテ自治的統制トハ何デスカ、ソンナ統制經濟ガアリマスカ、一方ニ於テハ自治的統制、一方ニ於テハ自由經濟、一於ニ於テハ統制經濟論ヲ今日マデ教ハツタコトハナイ、サウ云フコトカラ官僚獨善ト言ハレテ居ルガ、私カラ言ハセルナラバ官僚獨善デハナイ、官僚腰拔ケデアル、官僚ガ腰拔ケニナツテシマフカラ、中氣ノ統制經濟ニナツテシマツテ、問題ガ起ツテ來ル、サウ云フ點ヲ能ク御考ニナルナラバ、製造ニ對シマシテ自

治的統制ナント云フコトハ、實際是ハ見樣ニ依ツテハ、資本家統制デアルト私ハ思ヒマス、サウ云フ點ニ付キマシテ、ナゼ一體政府ハ思切ツテ生産方面マデモ統制シヨウトシナイカ、先程モ申シマシタ通リ、肥料界ノ混亂ハ——消費方面ノ統制、價格方面ノ統制ハシタケレドモ、惜シイ哉生産方面ニ對スル統制ガシテナカツタ爲ニ、肥料ノ生産力ガ減リマシテ、遂ニ闇相場ヲ起シテ今日ノ狀態ニ至ツタノデアリマス、茲ニ思ヲ及ボスナラバ、何ガ故ニモウ一步進ンデ生産統制ニ手ヲ染メナカツタカト云フコトニ付テ遺憾ニ存ズルモノデアリマス、政府ハ生産統制ニ、今後力ヲ入レル氣カドウカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、而シテ今回ノ法案、價格政策ノ點デアリマスガ、外地生産ノ肥料、例ヘバ硫安ニスルナラバ、日本デハ馳當リノ生産費ガ百圓近ク掛ル、所ガ外國カラ持ツテ來ル硫安ハ二百圓乃至二百五十圓掛ルサウデス、最近三井ノ輸入シタ二万馳ノ肥料ノ馳當リノ生産費ヲ見ルト、三百圓ニ達シテ居ルト云フコトヲ言ツテ居リマス、シテ見ルト內地ニ於テハ百圓、外國カラ輸入シタ所ノ硫安ニ付テハ三百圓、一體此ノ價格調整ヲドウシテ行クノデアリマシタケレドモ、外安ト內地ノ硫安トノ生産費ヲ、ドウ睨合セテ最近ノ硫安ノ公定値ト云フモノヲ決メマシタカ、ソレヲ御伺シテ置キマス、次ニ商工大臣ニ御尋致シマスガ、アナタハ二月十日ノ豫算總會デ、肥料、石炭ニ對スル値上ハセヌト云フコトヲ言明サレテ居リマシテ、是ハ新聞ニモ出テ居リマス、又農林大臣ハ二月二十八日ノ閣議ニ於テ、滿洲輸入ノ有機質肥料ニ對シマシテハ、二月十八日以來二割ヲ上ゲ報告サレテ居リマス、是ハ何ノコトデスカ、上ゲタコトガ低物價ニナルノデスカ、私ハ經濟論モ何モサウ學ンダ者デハナイガ、物ノ上ルノハ高物價ダト思ツテ居ル、物ノ下ルノハ低物價ダト思ツテ居ル、此ノ通リ解釋シテ間違ヒナイデセウ、然ルニ一方商工大臣ノ方ハ低物價ト言ツテ居ル、一方農林大臣ノ方ハ高物價ヲ實行シテ居ル、是ハ何ノコトデスカ、斯ウ云フ一ツノ具體的ノ事實ヲ以テ私ハ質問スルノデアリマスカラ、何モアナタ方ガ答辯技術デ以テ、ココデ胡麻化サウトシテモ、其ノ手ニハ私ハ乘ラナイ、ソコデ是ハ今日ノ國民ノ要求トシテ、肥料ハ何トシテモ政府ニ要請シ、出廻リヲ宜ク

シテ貰ハンコトニハ生産ガ出來ヌノデ、當局ニ賴ム、當局ハ國民ノ要望ニ應ヘテ、何ヲ偖テ措キ高クテモ何デモ肥料ヲ出シテヤラウト云フアナタ方ノ氣持ニハ相違ナイト思ヒマス、其ノ氣持ハ能ク分ルノデアリマスガ、ト云ツテ政府ニ價格政策ニ一定ノ方針ガナイト云フコトハ、又非常ニ危險デアリマス、所謂一方ニ於テハ販賣方面ヲ扱ツテ居ル商工大臣ノ價格政策ハ低物價、又生產指導方面ニ當ツテ居ル農林大臣トシテハ高物價、是デハ價格政策ノ混亂デス、甚ダ困ル、仍テ此ノ際先ヅ兩關係大臣ニ於キマシテ、此ノ肥料ノ價格政策ヲ內外地睨合セマシテ、ドウ調整シ價格公定ヲシテ行クカ、商工大臣、農林大臣ノ責任アル御答辯ヲ御願シマス、續イテ奬勵金ノ問題デアリマスガ、奬勵金ヲ出スコトハ、是ハ肥料代ヲ上ゲタト云フ譯ニハナラヌ、斯ウ言ヒマスケレドモ、是モ見樣デアルト思ヒマス、奬勵金ハ直グソレハ肥料代ノ値上ニハナリマセヌケレドモ、私ハ間接ノ値上ニナツテ來ルト思フ、ソレバカリハデナク、肥料公定値ノ肥料代ト奬勵金トノ幅ガ、是ハ闇取引ヲヤツテモ宜シイゾヨト云ツタヤウナコトニモ、解釋出來ル、ソンナコトハ勝手ナ解釋ダト言ヘバソレマデデスガ、兎ニ角今日ハ一モ闇、二モ闇、三モ闇デ、闇ト云フ常套語ニ使ハレテ居ル時代デアリマス、善イカ惡イカハ別問題ト致シマシテ、闇ヲヤツテモ屁デモナイヤウニ考ヘテ居ル今日ノ世ノ中デアリマス、ソコデ奬勵金ヲ政府ガ出スコトニナリマストト、政府ニ於テモソレマデ面倒ヲ見テヤルト云フコトナラバ、尤モ無理ハナイ、マアソレ位ハ闇ガアツテモ宜イト云フ風ニ解釋サレル、此ノ奬勵金問題ニ對シマシテ、公定價格トノ間ニ於テ闇ヲ起サセルト云フコトニナルガ、商工大臣ハ此ノ點ニ付キマシテドウ考ヘテ居ルカ伺ヒタイ、最後ニ肥料ノ配給機構ニ付テ御尋致シタイ、配給機構ノ點ニ付キマシテハ、私ハ急イデ確立シテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマス、配給機構ニ付テハ色々努力サレテ居ルコトモ見受ケマス、私達モ能ク其ノ事ハ承知シテ居リマス、併シ今ノヤウナ狀態デアルト、殆ド地方ノ行政ト云フモノハ、每日商人ト農民ト、ソレカラ農村ノ中デモ生產者團體ノ農會ト配給團體ト、又其ノ間ニ富農ト貧農ノ間ニ於キマシテ、物資ヲ繞リマシテ色々ナ相剋摩擦ガ展開サレテ居ルノデアリマス、此ノ原因ハ、配給機構ノ不整備カラデアリマス、配給機構

ガ打テバ響ク頭ノ天邊カラ爪先マデ一貫的ニ作用サレルナラバ、コンナ問題ハ起ラナイ、地方廳ニ行ツテ御覽ナサイ、政府カラ言テツ來ルコトハ實ニ困ル、上ノ頭ノ方デ決メテ置イテ、ウルサイコトハオ前達ノ方デ何トカ調整シテヤツテ行ケト云フ、是デハ吾々ハ全ク人ノ相剋摩擦ノ調停役ニナツテ來タヤウナモノデ、コンナ地方長官ナラ有難クナイト言ツテ居ル、地方長官ノ言フコト必ズシモ正シクアリマセヌガ兎ニ角今日ノ配給機構ト云フモノハ、實ニ私ハ徹底ヲ缺イテ居ル點ガアルト確信スル者デアリマス、何故ナラバ、今日ノ配給機構ハ、既ニ實績數量ヲ基準ニシテ作ツタ配給機構デアリマス、實績數量多イ者ニノ多ク流シ込ムノデアリマスカラ、ドウシテモ商人方面ニ偏在スル傾向ガ相當多イ、ソコデ私ハ此ノ實績數量ニ依ル配給內容ハ色々ナ相剋摩擦ガアリマスルカラ、此ノ實績數量ハ配給方針ヲ變ヘナケレバナヌ、今マデノ實績數量デハ金ノアル者ハドンノ〳〵買ツテ金ノナイ者ハ買ヘナイ、昭和四年以來百姓ハ農業恐慌ノ不景氣デ肥料ガ入ラナイ、幸ニ近頃ニナツテ漸クドウニカ肥料モ少シ買ヘルヤウニナツタノデアリマス、斯ウ云フ狀態デ百姓ハ相當困ツテ居ツタ、ダカラ百姓ノ肥料ノ實績數量ハ少ナカツタ、斯樣ナ譯デ、今日ノ百姓ハ其ノ實績數量デ割當テラレルト相當困ル、ソコデ割當方針ヲ改メナケレバナラヌ、然ラバドウ改メタラ宜イカト云フト、先ヅ私ハ作付段別、土壤ノ性質、ソレカラ農作物ノ種別ヲ中心ニ割當テルコトガ正シイト思フ、例ヘバ此ノ農作物ニ對シテハ「アンモニア」ガ必要カ、加里ガ必要カ、燐酸ガ必要カ、種類ニ依ツテ各〻違ヒマス、ソレカラ氣候ノ關係モ同樣デアル、此ノ點ヲ科學的ニ綜合的ニ調査ヲ致シマシテ、其ノ上ニ立ツタ配給方針デナケレバ今ノヤウニ唯單ニ實績數量ダケノ目安ニ依ツテ配給方針ヲ立テルコトハ、私ハ誤ツテ居ルト思フノデアリマス、ソコデ機構上ノ問題デアリマスガ、此ノ機構ノ問題ニ付キマシテハ、今日ハ商人ト產業組合ニナツテ居リマスガ、是モ亦變ヘナケレバナラヌ肥料商ト產業組合、此ノ關係ヲモツト私ハ一元化シナケレバナラヌト思ヒマス、サウスルニハ先ヅ生產者ヲ中心ニシテ、機構ノ改革ヲシロト云フコトヲ言フ者デアリマスガ、兎ニ角生產團體ヲ中心ニ、生產團體ヲ中心ニ、而シテ產業組合ナト云フナラバ農會ト云フコトニモナリマス

ドニ付キマシテモ、私ハ今日ノ富農ト貧農トノ間ニ於ケル産業組合ノ組織機構ガ、少シ缺點ガアリマスノデ、ソレヲ修正スルナラバ、生産團體ト同一ニ認メテヤッテモ宜イノデアリマスケレドモ、先ヅ産業組合ガ今日個人全般ノ農民ガ全部加入シ得ル所ノ機構ニナッテ居ナイ以上ハ、取敢ヘズ生産者團體タル農會ヲ中心ニシテ、配給機構ノ一元化ヲ圖ル意思アリヤ否ヤト云フコトヲ聽キタイノデアリマス、最後ニ肥料ノ國家管理ニ付テデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、先程同僚長野君、濱地君——河野君ハ言ヒマセヌデシタケレドモ、オ二人ノ意見ハ、完全ニ國家管理ヲ力說シテ居リマシタ、大臣ノ之ニ對スル答辯ハ、漸次其ノ方向ニ向ヒツツアルト云フコトヲ言明サレテ居ル、又向ハナケレバナラナイト云フヤウナ意思表示モサレテ居リマシタ、私ハ非常ニ心強ク感ジテ、又期待ヲシテ居ル者デアリマスガ、此ノ際政府ノ御意見モ分リマシタカラ、私ハ國家管理ニ對スル質問デナク、希望ダケヲ申シテ置キマス、ソレハ第一ガ肥料ノ生産、集荷、配給消費、各分野ノ一貫的統制ヲスルコト、二ガ全肥料輸移出入ヲ計畫化スル爲、輸移出入ノ肥料ト、輸移出入農産物ノ綜合「リンク」制ヲ採用スルコト、第三ガ物動計畫ハ食糧ト肥料トノ關聯ニ於テ優先的ニ配給ヲサレルコト、是ガ實行サレルナラバ、國家管理ト何等選ブ所ハナイト思ヒマス、之ヲ取敢ヘズ大馬力ヲ掛ケテヤッテ貰ヒタイト思ヒマス、政府ハ電力ノ國營ヲ實行致シマシタ、マダ今日ハ配電方面ニハ電力國營ハ實行サレテ居リマセヌケレドモ、大體發送電方面ノ電力ハ國營化サレタノデアリマス、次ニヤラナケレバナラヌモノハ、肥料ト石炭デアルト思フ、右ニ肥料ノ國營、左ニ石炭ノ國營ヲ實行スルナラバ、日本ノ産業部面ト云フモノハ、農業、工業ノ全分野ニ於テ、國家意思ニ基イタ所ノ計畫的統制ガ行ハレルト思フノデアリマス、私ハドウカ左樣ナ計畫的統制經濟ヲ實行スルコトガ、今日長期戰下ニ於ケル目的ヲ遂行スル最モ重要ナルコトデアルト信ズルガ故ニ、特ニ此ノ點ヲ要望シテ私ノ此ノ質問ヲ打切ル者デアリマス

島田農林大臣ノ應答

野溝君ノ御質問ニ御答致シマス、食糧作物ノ增産ニ關シテ、肥料ノ確保ト云フコトニ付テ、政府ノ言明ニ對シテ疑ヲ持ツト云フ御言葉デアリマシタガ、政府トシテハ屢〻御答ヲ申上ゲマスヤウニ、肥料ノ供給ニ付キマシテハ、相當ノ確信ヲ以テ實行ヲ努力シテ居ル次第デアリマスカラ、此ノ點ニ付テハ帝國政府ノ責任アル當事者ノ言明ヲ、ドウゾ御信用ヲ願ヒマシテ、唯不安デアルヤウナ氣分ヲ國民ノ間ニ流布スルヤウナコトノ虞ヲ妨グ意味ニ於テ、御協力ヲ願ヒタイト思ヒマス、次ニ本法案ノ本質ト云フコトニ關シテ、色々ノ御意見ガアリマシタガ、是ハ曩ニモ提案ノ際ニ申上ゲマシタヤウニ、此ノ會社ノ設立ヲ以テ肥料問題ガ全部解決スルト、斯樣ニ政府ハ考ヘテ居ル譯デハナイノデアリマス、現在ノ肥料界ノ情勢ニ鑑ミマシテ、先ヅ肥料ノ配給ノ意味カラ致シマシテ、需給ノ調整ヲ圖ルト云フ意味カラ致シマシテ、無機質肥料ノ方面ニ於テ、本會社ノ成立ヲ以テ、此ノ方面ニ對スル應急ノ處置トシテ之ヲヤリタイ、而シテ之ヲ有機質ノ肥料ト相結ビテ、肥料全體ノ問題ノ解決ニ進ムヤウニ致シタイ、斯ウ云フ考ヲ提案致シタ次第デアリマシテ、本會社ノ成立ヲ以テ、總テノ問題ノ解決ニ至ルモノト申シテ居ル譯デハアリマセヌ、卽チ其ノ一ツノ有力ナ手段デアル、斯樣ニ考ヘテ提案ヲ致シテ居ル次第デアリマス、次ニ肥料ノ價格ノ問題ニ付キマシテ、色々ノ御意見ガアリマシタガ、滿洲國ニ於テ大豆ノ値上ヲシタト云フコトニ付キマシテ、是ハ內地ノ肥料ノ事情、飼料等ノ關係カラ致シマシテ、甚ダ其ノ事柄ニ付テハ、內地ト滿洲國トヲ一體「ブロック」ト云フコトヲ謂ヒマスガ、滿洲國ハ獨立ノ國家デアリマスカラ、連絡ハ十分ニ取リマスケレドモ、滿洲國ニ於テ、滿洲國自體ノ事情カラ致シマシテ、大豆ノ値上ヲシタト云フコトニ付テ、帝國ノ側ニ於キマシテ、物價政策ノ變更ヲ來シタト云フヤウナ意味ノ御考ヲ御持チ下サルコトハ、寧ロ御考直シヲ願ヒタイト思フノデアリマス、次ニ配給機構ノ事柄ニ付キマシテハ、一元化シテヤルト云フコトニ付テノ御理想ハ、政府モ持ッテ居ルノデアリマス、併シナガラ現在ノ事情ニ於テ、產組、商業團體、是等ヲ通シテヤッテ居ル所ノ地方ノ配給ノ事情ニ付キマシテハ、暫ク此ノ實情ニ卽シテ之ニ依

ツテヤツテ、漸次此ノ改良ヲ圖ツテ行クノ途ヲ執ルコトガ適當デアル、斯ウ云フコトヲ繰返シテ御答シテ居ルノデアル、理想論トシテハ、一元化ト云フコトハ結構デアリマスケレドモ、事實ニ於テ是ハ現在ノ方法ニ依ルノ外ハ途ガナイト考ヘテ居ル、次ニ國家管理ニ關スル事柄ニ付テ、段々御意見ノ御開陳ガアリマシタガ、是ハ只今直チニ國家管理ニ行ク、專賣ニ行クト云フ次第デハアリマセヌケレドモ、其ノ道程ニ於テ野溝君ノ御述ニナリマシタ各種ノ御意見ハ、政府ハ有力ナル參考トシテ拜聽致シテ置クコトヲ申上ゲテ置キマス

藤原商工大臣ノ應答

野溝君ニ御答申上ゲマス、肥料價格ニ付キマシテハ只今農林大臣カラ御答辯ガゴザイマシタ通リ、私モ同樣ナ考ヲ持ツテ居リマシテ、政府ニ於テ價格問題等ニ付テ、所信ヲ異ニスルト云フヤウナコトハ絶對ニゴザイマセヌカラ、左樣御承知ヲ願ヒマス

野溝君ノ再質疑

商工大臣ニ對シテ二點質問シタイノデアリマスガ、奬勵金問題ト價格公定ノ問題ニ對スル御答辯ガアリマセヌ、ソレヲ御願致シマス

藤原商工大臣ノ應答

奬勵金ヲ交付致シマスルコトハ、肥料ノ價格ヲ引上ゲルコトガ、農民ノ負擔ヲ增加スル所以デアルカラ、此ノ際ハ肥料ノ價格ヲ引上ゲナイデ、肥料ノ增產ヲ圖リタイト云フ趣旨カラ出マシタモノデアリマシテ、政府ニ於キマシテハ是ガ爲ニ闇取引ガ行ハレルトカ云フヤウナコトハ考ヘテ居リマセヌカラ、左樣御承知ヲ願ヒマス

吉田賢一君ノ質疑

私ハ政府ニ向ツテ肥料生產ノ問題ト、輸入肥料ノ問題、價格ノ問題、損失補償ノ問題、肥料資金融通等ノ問題ニ付テ、數項質疑ヲ致シテ見タイト思ヒマス、申スマデモナク肥料ノ問題ハ、米ノ問題ニ關聯ヲ持チマシテ、國家ノ重要問題ノ一ツト信ジマス、肥料事情ガスツカリ安定致シマスルト、恐ラク米穀事情モ安定ニ赴クモノト思ヒマス、斯クテ政治モ安定スルノデアリマセウ、肥料ハ申スマデモナク優良質ノ增產ト、價格ノ安定ト、潤澤ナ供給、此ノ三ツノ要素ガ備ハリマシテ、茲ニ肥料問題ノ解決ノ途ガアラウト信ジマス、然ルニ現在ノ狀況ハ增產ノ面ニ於キマシテモ、種々ノ事情カラ非常ニ悲觀スベキ狀況ニアルト信ジテ居リマス、今大臣ハ野溝君ノ質問ニ對スル答辯トシテ、相當御安心ノヤウニ仰シヤイマシタケレドモ、少クトモ豫定サレテ居リマシタ有ユル化學肥料ガ、過去ノ種々ナ原因ニ因リマシテ夥シク減產致シマシタ其ノ數量、其ノ缺陷ヲ生ジテ居リマスル數量ハ、今後ノ努力ガドンナニアリマシテモ、同復スルコトハ不可能ト信ジマス、然ル時ニソレダケハ供給面ニ於キマシテ自ラ缺陷ヲ生ジテ參リマスルノデ、今日ノ米穀其ノ他農產物ノ大增產ヲ必要ト致シマスル時ニ、極メテ重大ナ影響ヲ持ツテ居ルモノタルコトハ勿論デアリマス、併シナガラ增產ニ付キマシテハ、出來ルダケ諸般ノ手段ヲ盡スベキコトハ申スマデモゴザイマセヌ、私ハ增產ノ問題ニ付テ色々手段ハアリマセウケレドモ、斯ウ云フコトガ取上ゲラルベキ問題デナイカト思ツテ居リマス、卽チ凡ソ化學肥料ノ工場ハ、最新ノ工場ニナル程設備ガ優秀デゴザイマリマス、併シ厖大ナ資金ヲ本トシマス關係上、俄ニ古イ設備ヲ取替ヘルコトハ困難デアリマス、ソコデ幾十カノ製造會社ノ中、優良ナル設備品ト、サウデナイ劣ツタ設備能率ノ會社ノ製品トノ間ニ、三段位ノ價格ノ等差ヲ設ケマシテ、能率ノ低イ設備ノ會社ニ對スル價格ヲ成ベク引上ゲテヤル、斯ウ云フヤウナ方法ヲ執リマスト、ソレハ生產ノ有力ナ奬勵ニナリ、又色々ナ設備ノ百「パーセント」ノ活用ニナルノデハナイカト思ヒマス、統計ニ現ハレタ所ニ依リマスルト、例ヘバ硫安會社ニ致シマシテモ、總計二百四十万瓲ノ生產力ガアルト言ハレテ居リマス、是等ノ方面ヲ十分ニ活用スルコトガ、增產ノ基本的

ナ條件ノ一ツデアルコトヲ思ヒマスル時ニ、價格ニ等差ヲ設ケマシテ、劣ツタモノヲ出來ルダケ導イテヤル、斯ウ云フ風ニスルノガ宜クハナイデアラウカ、優秀ナ成績ヲ持ツテ居ル會社ハ、概シテ日本ノ有力ナル財閥ノ會社デゴザイマスカラ、斯ウ云フ等差ヲ設ケル國策ノ行キ方ニ對シテ、恐クハ反對スマイト思ヒマス、就テハ其ノ點ニ付テ政府ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、第二ニハ、本法律案ニモ新會社ノ事業ト致シマシテ、肥料ノ製造ナルモノガ規定サレテアリマス、私ハ國家總動員法ノ第八條ヲ適用致シマシテ、生產命令、配給命令ヲ肥料ニ對シテ出シテハドウカ、是ハ隨時用ヒ得ラレル簡便ナモノデアリマスノデ、其ノ方法ヲ何時モ用意シテ居ルト云フコトヲ、此ノ法律ノ運用ト共ニ考ヘテ置クベキデハナイデアラウカ、ソレ程肥料ノ增產ハ、國家ノ重大ナル緊迫シタル問題デアルト考ヘマスルガ故ニ、此ノ點ニ付キマシテ政府ノ御考ヲ伺ヒタイノデアリマス、次ニ生產ノ重要ナ基礎條件ト致シマシテ、電力ニ付テハ相當優遇サレルコトニナツタヤウデアリマスルケレドモ、更ニ廣ク原料タル石炭ニ付キマシテ、是ハ多クノ他ノ工業生產部門ノ需要モアルコトデアリマスルケレドモ、肥料生產國策ノ重大ナルコトニ鑑ミマシテ、思切ツテ石炭電力等ヲ有ユル化學肥料ノ生產工場ニ對シテ優先的ニ配給シ、生產計畫ヲ確保スルコトニ協力スルコトガ、此ノ際最モ望マシイコトデハナイカト思ヒマス、殊ニ石炭ニ付キマシテハ、法律的ナ關係ハ別ト致シマシテ、經濟的ナ資本構成ノ關係ハ、昭和肥料系統ト日本ノ大キナ肥料會社ノ資本系統ハ大體似テ居リマスルノデ、サウ云フ種々ノ便宜モアリマスルカラ、ココハ一ツ國家ノ大キナ目的ノ爲ニ、商工大臣ハ御奮鬪ト言ヒマスヨリモ、其ノ方針ヲ御立テニナツテハ如何カト思ヒマスルノデ、御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ更ニ生產ニ關シマシテハ、工場ノ能率ヲ擧ゲマスル爲ニ勞働者ニ對シマシテ、例ヘバ總動員法第六條ノ關係ノ勞動者雇入ノ制限等ニ付キマシテハ、是ハ肥料製造業者ニ優先權ヲ與ヘルト云フ風ニ致シマシテ人員ヲ增加シ、休養時間ヲ更ニ與ヘルコト等ガ、工場ノ能率ヲ擧ゲ得ル最モ重要ナ方法デアラウト考ヘルノデアリマス、就キマシテハ肥料國策ニ協力スル意味ニ於テ、厚生省當局ノ御所見ヲ拜聽シタイノデアリマス、次ニ價格ノ問題ニ付キマシテ、價格ハ無機質ノ肥料ハ大體公定サレテ居リマスルケレドモ、併シ有機質ノ肥料ハ、數日前ニ大豆粕ガ公定サレマシタ以外ハ、成行キ放任デアリマスル爲ニ、到ル處デ闇ガ行ハレテ、品ガ拂底シテ居ルコトハ申スマデモゴザイマセヌ、ソコデ私ハ廣ク是等ノ闇ノ成行キヲ憂慮致シマシテ、其ノ暴騰ヲ抑壓スル爲ニ、一刻モ早ク有ユル有機質肥料ニ向ツテ、價格ヲ適正ニ統制スルコトガ必要デハナイカ、サウシマセヌト、無機質肥料ガ入手難デアリマスノデ、有機質ノ肥料ノ方ヘ買氣ガ段々ト募ツテ行クコトガ、勢ヒ闇取引增大ノ拍車ニナリマス、目下農村ハ、殊ニ吾々ガ平素接シテ居リマスル關西ノ地方ニ於キマシテハ、昨年ノ大旱魃ニ依リマシテ、肥料ヲ僅カ蓄積シテ居ル者モアリハ致シマスルケレドモ、大部分ハ肥料資金ニマデ窮シテ居ル現狀デアリマス、サウ云フ農民ガ無機質ノ肥料、配給肥料ノ入手ニ困リ、有機質ノ諸肥料ヲ眼ノ出ルヤウナ高イ値デ買ハサレルト云フ窮狀ニ置カレテ居リマスルコトヲ思ヒマスト、一刻モ早ク適切ナル價格政策ノ實行ガ、農村ノ爲ニ最モ望マシイコトト考ヘルノデゴザイマス、サウ云フ方面ヲ完全ニ爲スノデナカツタナラバ、本法案ノヤウナ制度ガドンナニ完備致シ、中央ニ於ケル配給機關ガ完成致シマシテモ、肥料國策ハ地方的ニ破綻シテシマフ、價格ノ方面カラ破綻シテシマフト云フ結果ニナラウト存ズルノデアリマス、就キマシテハ一刻モ早ク有ユル有機質ノ肥料ニ對スル價格ノ公定ヲ爲サレル御意思アリヤ否ヤニ付テ、御伺シタイノデアリマス、次ニ目下ハ過燐酸石灰ヤ加里鹽ナドハ、事實配給ガ行ハレテ居ラヌト思ヒマス、或ハ私ノ見聞ガ狹イカモ分リマセヌガ——ソコデ加里鹽或ハ燐礦石ナド、殊ニ加里鹽ニ付キマシテハ、歐洲大戰ノ爲ニ輸入杜絕ト云フ窮狀ニナツテ居ルコトハ、百モ承知致シテ居リマスルガ、併シナガラ日本ノ此ノ肥料國策ノ重大ナルニ鑑ミマシテ、加里鹽モ、燐礦石其ノ他從來輸入シテ居リマシタ所ノ輸入肥料ニ付キマシテモ、ヤハリ事變前ノ實績ニ近似ノ數量ヲ確保スルト云フ目標ニ向ツテ、有ユル努力ヲ傾注サレンコトヲ願ヒタイノデアリマス、加里肥料ナドハ數量ガ少イカラト云フヤウナ見方ガ、若シアリト致シマスナラバ、洵ニ是ハ農村ノ民心ニ與ヘル影響ノ危險ナルコトヲ考ヘネバナラヌノデゴザイマシテ、何カ知ラヌケレドモ、入

手出來ヌトカ、無イトカ云フヤウナコトハ、農家ノ不安ヲ增大スルノミデアリマシテ、他ノ方面ニ對スル惡イ刺戟、影響ノアルコトヲ考慮シナケレバナリマセヌ、ヤハリ肥料ハ必要ナル有ユル種類、要素ヲ準備スルコトノ方向ニ向ッテ、肥料國策ガ遂行セラレテ行カレンコトガ望マシイノデアリマシテ、ソレニ對スル御用意、乃至ハ現狀ト將來ニ付テノ御意見ヲ拜聽シタイノデアリマス、次ニ肥料ノ潤澤ニ配給サレルコト、配給確保ト云フコトハ、是ハ農家ノ立場カラハ、終局ノ問題トシテ實ニ重要ナ「ポイント」デゴザイマス、然ルニ現在スル肥料ノ絕對數量ハ別ト致シマシテ、農家ノ手許ト云フ立場ニ於キマシテハ、缺乏ノ狀態デゴザイマス、是ノ影響シマス所ハ實ニ重大ト考ヘマシテ、密カニ憂ヘル所ハ、例ヘバ農家ニ米作ヲ拋棄スルヤウナ思想ガ生ジハシナイデアラウカトサヘ憂ヘマス、若シ夫レ供米ガ進マナカッタリ、賣惜ガ出來タリ必要量以上ニ貯藏スルト云フ傾向ヲ助長シタリ、サウ云フコトハ日常見ル所デゴザイマスガ、何レニ致シマシテモ、玆ニ肥料增產ノ計畫ヲ立テ、適正安價ナル價格ヲ据置キ、而シテ潤澤ニ配給スルト云フ、此ノ最後ノ段階ニ於キマシテハ、是ハ非常ニ末梢ニ亙リ、ソレダケ分野ガ全農村ニ亙リ廣ウゴザイマスカラ、吾々ハ萬全ノ方法ヲ講ズルノ必要ガアルデアラウト存ジマス、中央ニ於キマシテ本案ノヤウナ會社ヲ拵ヘマスルコトハ、至極簡單ニ出來ルカモ分リセヌガ、此ノ現實ノ地方々々ノ配給面ニ至リマシテハ、實ニ複雜多岐デアリマスカラ、ソレニ關スル一二ノ問題ヲ御尋致シマス、一ッハ肥料資金ノ融通ノコトデアリマス、資金ガナクシテ商人ニ已ムヲ得ズ一割以上ノ利息デ肥料ヲ借リルシテ、良質、惡質ナドヲ見分ケルコトスラシナイ、左樣ナ立場カラ農家ヲ救フコトハ、單ナル肥料配給ノ問題ト申スヨリモ、肥料國策ノ重要ナ一眼目デゴザイマス、一方玆ニ一ッノ資料トシマシテ、信用組合ガ持ッテ居リマスル貯金ハ、推定二十八億圓ト言ハレテ居リマス、此ノ二十八億圓ノ金ハ、ソレ〴〵ト用ヒラレテ居リマセウ、又組織サレテ一ッノ資本ノ形態ヲ成シ得ルモノデゴザイマス、之ヲ地方ヘ還元致シ、農村ニ還元シマシテ、農家ノ不自然ナル窮狀ヲ救フト云フ方ヘ、積極的ニ利用スルト云フコトハ、最モ重要ナ手段デハナイカ、私ガ見聞スル所ニ依リマシテモ、關西ノ旱害地帶ニ於キマシテ、小作農家ガ旱害ノ爲ニ、肥料ヲ買フ爲ニ支拂フベキ金モナク、已ムヲ得ズ平素心易ク願ッテ居ル商人ニ、數百圓ノ新シイ借金ガ出來タト云フ實例モ多々存ジテ居リマス、是ハ特異ナ例デハナク、一般的ナ例デゴザイマスルノデ、サウ云フ方面ニ對スル徹底的ナ救濟ノ途ヲ講ズルコトガ、肥料ノ配給獲得ノ機會ヲ均霑セシムル意味ニ於テ、非常ニ重要デアラウト存ジマス、就キマシテ只今ノ信用組合ノ持テル貯金ヲ、此ノ問題ニ利用スルコトニ對スル御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、モウ一ッハ旱害地帶ニ對シマシテ、肥料ヲ貸付ケルト云フ方法ハ出來ナイモノデアラウカ、或ル地方ニ於キマシテハ、ヤハリ資金難ガ原因デアリマスルカ、信用組合ノ振ハナイコトモ原因致シマシテ、三千圓以上ノ資產ヲ持ッテ居ル者ガ保證シナイト、產業組合カラモ肥料ヲ供給シナイト、斯ウ云フ村ガゴザイマス、サウ云フヤウナ人々ニ對シマシテモ、私ハ融資ノ外ニ現物ノ貸付ト云フ方法ガ何トカ出來ナイモノデアラウカ、就テハソレニ對スル御所見モ伺ヒタイノデアリマス、配給ノ機構トカ、或ハ方法トカ等ニ付キマシテ、幾多ノ問題ガアリマスルケレドモ、他ノ諸君ノ御質問モアッタヤウデアリマスルカラ、此ノ二點ニ付テ私ハ御伺シタイノデアリマス、ソレカラ先ニ野溝君ガ御尋ニナッタ奬勵金、其ノ意味ト私ガ問ハウトスルノト同ジデアルカモ存ジマセヌガ、本年ノ一月カラ十二月マデニ、化學肥料ノ製造會社ニ五千万圓限度ニ助成金、奬勵金ナドヲ交付スルト云フコトデアリマスガ、之ニ付テ私ハ其ノ必要ガアルノカドウカト云フコトト、ソレハ一體何時マデ續クノデアラウカト云フヤウナコトヲ御伺シタイノデアリマス、三菱經濟研究所ノ調査ニ依リマスルト、日本窒素其ノ他ノ六大肥料會社ノ純益ハ、昭和十二年ノ下半期カラ十四年ノ下半期ノ十月ニ至リマスルマデ、拂込資本金ニ對シマシテ一割二分カラ一割八分マデノ純益ヲ擧ゲテ居マス、此ノ會社ノ利益配當モ勅令デ制限ヲ受ケマスカ、斯樣ニ一割以上ノ純益ヲ擧ゲテ居ルト云フコトハ、非常ニ優良ナ事業會社ト申サネバナリマセヌ、勿論化學肥料ノ會社ハ構成、營業ナド、非常ニ複雜デアリマスノデ、單ニ肥料ノミヤッテ居ルノデハナイコトハ知ッテ居リマスケレドモ、何レニシマシテモ、會社ノ計算ト致シマシテハ、一割以上ノ純益ヲ擧ゲテ居ルノ

デアリマス、サウ云フ場合ニ年額五千万圓ヲ補助、若クハ奬勵助成ノ爲ニ與ヘルト云フコトハ、是ハ今日ノ物價政策、或ハ一般ノ物資增産ノ政策ノ根本ニ影響ヲ持ツ、重大ナル問題デハナイカト思ハレマス、サウ云フ風ニ會社トシテ認メラレルコトニナリマシタナラバ、例ヘバ日本全國ノ五百六十万ノ農家ハ、一體ドウナルノデゴザイマセウカ、一般生産農家ノ生産費ト農業收支、或ハ小作農ガ小作料ヲ支拂ッタ殘リノ收益等ノ經濟的收支ノ關係ハ、嚴密ニ言フナラ損失デゴザイマス、小作農、生産農家ガ現下ノ物資、物價ノ諸事情カラ考ヘテ見マシテ、皆損ヲシッツアルノデアリマス、サウスルトサウ云フ人々ニ對シマシテ、是モ一齊ニ補助ヲセナケレバナラヌノデハナイカト、斯ウ云フ問題モ起ッテ參リマス、又年額五千万圓ヲ補助致シマシテ、五年モ繼續スルト二億五千万圓ニ上リマス、左樣ナコトナラバ、百尺竿頭一歩ヲ進メテ、寧ロ是等ノ會社ヲ國家ガ買收致シマシテ、ソレ等ノ工場ノ經營者ヲ官吏ニ登用シテ優遇シ、技能ヲ十分ニ發揮セシメマシテ、之ヲ經營スルト云フ所マデ行ッテハドウカトサヘ私ハ考ヘルノデゴザイマス、何時マデ續クノデゴザイマセウカ、ナゼ左樣ナ補償ヲ御出シニナルノデアリマセウカ、御答辯ヲ拜聽シタイノデゴザイマス、最後ニ全體トシテ、此ノ會社案ヲ見ルト、肥料配給ノ一面デゴザイマシテ、生産ニ付テハ規定ハアリマスケレドモ、是ハ第九條第三號ニナッテ居リ、或ハ經營管理ノコトモアリマスガ、是モ第十一條ニアルガ、非常ニ重大デナイヤウナ規定ト見マスノデ、ヤハリ本案ノ重點ハ、中央ニ於ケル配給機構ノ綜合統一確立ト云フ點ニ、此ノ法案ノ狙ヒ所ノ重點ガアラウト思ヒマス、ソレデハ日本ノ肥料國策ノ全體ノ建前カラ致シマシテ、非常ニ不徹底ノモノト存ジマスルノデ、是ハヤハリ生産面カラ配給ヘ、最後ノ消費ニ至リマスマデ一貫シタ計畫ガナケレバ、大時局ニ直面シタ肥料國策ノ確立ニハナルマイト考ヘテ居ルノデゴザイマス、之ニ付キマシテモ御意見ヲ拜聽出來レバ仕合セデアリマス、以上ヲ以チマシテ私ノ質疑ト致シマス

島田農林大臣ノ應答

吉田君ノ御質問ニ御答致シマス、增産ノ方法ニ付テ優秀ノ設備ヲシテ居ルモノト、設備ノ劣等ナルモノトノ間ニ區別ヲ付ケテ、サウシテ生産品ノ價格ニ付テ適當ナ段階ヲ設ケテノ奬勵ノ方法ニスルナラバ云々ト云フコトニ付キマシテハ、政府ト致シマシテモ、大體サウ云フヤウナ考ヘ方ヲ以テ進ムコトガ適當デアルト云フ考ヲ以テ、處置シテ行ク計畫ヲシテ居ル次第デアリマス、次ニ肥料生産ニ付テ、總動員法ノ發動ニ依ッテ、生産命令ヲ出スト云フヤウナコトノ御意見デアリマスガ、是ハ臨時措置法ノ發動ト致シマシテ、省令ヲ以テ此ノ生産ノ命令ヲ爲スコトガ出來ルノデアルカラ、必要ノ場合ニハ此ノ規定ヲ運用シテ、其ノ目的ヲ達シタイト考ヘテ居リマス、次ニ無機質肥料ノ價格ニ付テ、公定ヲ爲スノ意思ガアルカト云フコトデアリマスガ、是ハ御說ノ通リニ、無機質ノ肥料ノ價格ノ公定ヲ爲ス以上ハ、有機質肥料ニマデ之ヲ及ボスコトハ當然デアリマシテ、出來得ル限リニ於テ、之ヲヤル方針ヲ以テ進ンデ居ルノデアリマス、大豆ノ油粕デアルトカ、サウ云ッタヤウナモノニ付テハ、既ニ價格ヲ公定シタ物モアリマス、又魚肥ニ付キマシテハ、是ハ其ノ集荷方法等ニ付テ相當困難ガアリマスノデ、ソレ等ノ方法ニ付テ順序ガ立チマスレバ、之ニ關シマシテモ價格ヲ公定スルノ必要ガアルト、斯樣ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、是ハ御話ノ通リニ公定ノ必要ノアルコトヲ、政府トシテハ認メテ居ルト云フコトヲ御答申上ゲテ置キマス、尙ホ各種肥料、原料タル礦石ノ輸入等ニ關シマシテ、色々ナ御意見ガゴザイマシタガ、之ニ付キマシテハ御說ノ通リニ、或物ハナイト、農民ニ對シテサウ云フコトヲシマスコトハ、農民心理ノ上ニ刺戟ヲ與ヘルト云フ御意見ハ、御尤モト考ヘマスガ、政府トシマシテハ、此ノ輸入ニ付テハ、各種ノ礦石ニ付テ出來ルダケノ手段ヲ講ジテ、此ノ事變中デアリマシテモ、又歐羅巴ノ戰爭ノ事情ガアリマシテモ、ソレ等ノ關係ニ色々變動ハアリマスケレドモ、ソレ等ノ事情ヲ克服シテ、出來ルダケノ必要量ヲ輸入スルコトニ努メテ居ル次第デアリマシテ、大體ニ於キマシテハ、或ル特殊ノ物ヲ除クノ外ハ、其ノ目的ヲ達スルコトハ出來ルト、斯樣ニ考ヘテ居ル次

第デアリマス、尚ホ配給ノ確保ノ點カラシテ、肥料ノ購入ニ困ル場合ニ、購入資金ノ融通ト云フコトニ付テ御意見ガアリマシテ、信用組合ノ資金ヲ融通スルト云フヤウナ御意見モアリマシタガ、政府ト致シマシテハ、此ノ點ニ付キマシテハ、年々肥料ノ資金トシマシテ四千万圓以上ノ低利資金ヲ融通スルト云フ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマスガ、尚ホ是ハ只今御意見ノヤウナ點モ大イニ參考ニ致シマシテ、此ノ肥料ノ購入資金ニ困ツテ居ル方面ニ向ツテ、適當ニ肥料ノ手ニ入ルヤウナ方法ヲ講ズルト云フコトハ、十分ニ研究シテ行キタイ、實施シテ行キタイト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、尚ホ肥料生産ニ付テノ助成金ノコトデアリマスガ、是ハ昨年以來ノ肥料ノ需給ニ鑑ミマシテ、只今公定ノ價格ト輸入ノ肥料ノ價格、或ハ實際ノ生産費等ノ關係カラ致シマシテ、水力ガ石炭ニナツタ爲ニ生ズル電力量ノ差額トカ、サウ云フ種々ノ點ヲ考ヘテ、臨時ノ處置トシテ助成ヲシテ、肥料ノ生産確保ノ爲ニ、之ヲ實際處置シテ居ル次第デアリマシテ、此ノ意味カラ臨時ニヤツテ居ル次第デアリマスカラ、更ニ其ノ肥料事情ノ變ル先ノ問題ニ付キマシテハ、更ニ根本的ニ是ハ考ヘテ行ク必要ガアラウト考ヘテ居ル次第デアリマス、助成金ノ點ハ、左樣ナ意味ニ御了解ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス

藤原商工大臣ノ應答

吉田君ニ御答申上ゲマス、吉田君ハ十分御承知ノコトト存ジマスガ、只今我國ノ肥料製造會社ニ於キマシテハ、製造ノ能力ヲ持ツテ居リマスニモ拘ラズ、其ノ能力ヲ十分ニ發揮セシメテ生産ヲ增加スルト云フコトガ、不可能ノ狀態ニ相成ツテ居リマスノハ、色々ノ事情モゴザイマスケレドモ、先般來ノ電力、石炭ノ不足ト云フヤウナコトガ、主ナル原因デアルト云フコトハ能ク御承知ノコトト存ジマス、ソレ故ニ此ノ電力若クハ石炭ノ缺乏ノ爲ニ、折角持ツテ居リマスル工場能力ヲ十分ニ發揮セシメルコトガ出來ナイデ、其ノ爲ニ或ハ農民ニ不自由ヲ掛ケ、若クハ高イ外國ノ肥料ヲ輸入シナケレバナラヌト云フヤウナコトハナイノデアリマスカラ、政府ニ於キマシテハ、兎ニ角至急ニ此ノ石炭ノ增產ヲ圖リマシテ、電力及ビ石炭ヲ十分ニ肥料會社ニ供給致シマス樣ニ運轉セシメテ、肥料ノ增產ヲ圖リタイト云フ方針ヲ以テ、不日石炭增產ニ關スル議案ヲ本議場ニ提出シテ御協贊ヲ願ヒタイト存ジテ居リマス、尚又サウ云フ事情デアリマスカラ、此ノ石炭ニ關係致シマス所ノ物資ノ配給トカ、若クハ勞力ノ點ナドニ付キマシテハ、他ノ產業ニ優先シテ之ニ配給致シマシテ、サウシテ肥料增產ニ支障ノナイヤウニシテ、農民ノ爲ニ幾分デモ多量ニ、且ツ安イ肥料ヲ供給致シタイト、斯ウ云フ積リデ努力致シテ居リマスノデ、左樣御承知ヲ願ヒマス

次テ本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託スルニ決シ卽日議長之ヲ指名ス委員ハ翌六日委員會ヲ開キ委員長及理事ノ互選ヲ行ヒ審査ノ末原案ヲ修正（附帶決議ヲ附ス）スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

委員會報告書及附帶決議

（小字ハ委員會修正）

委員會報告書

日本肥料株式會社法案中左ノ通修正ス

第七條　理事長及副理事長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ選擧シタル候補者中ヨリ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

肥料業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本肥料株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

附帶決議

一　政府ハ速ニ肥料ノ國家管理ヲ斷行スベシ

二　政府ハ主要農產物ノ生產ニ對シ他ノ總テノ物資ニ優先シテ各種肥料ノ供給ヲ確保スベシ

三　政府ハ中央地方ヲ通ジ各種肥料配給機構ヲ整備シ敏速且圓滑ナル配給ニ遺憾ナキヲ期スベシ

四　政府ハ有機質肥料ノ供給及價格ノ適正ニ付更ニ徹底ヲ期スベシ

五　政府ハ速ニ飼料ノ配給ヲ圓滑ニシ家畜ノ增產ヲ圖リ自給肥料ヲ奬勵スベシ

同日議事日程ヲ變更シテ本案ノ第一讀會ヲ開キ委員長熊谷直太君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今上程セラレマシタ日本肥料株式會社法案ニ付キマシテ、委員會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本法案ハ現下ニ於ケル肥料對策ト致シマシテ、極メテ緊要ナル法案デアリマス、委員會ニ於キマシテハ、之ヲ開會スルコト十一回、委員各位終始熱心ナル審議ガ行ハレタノデアリマス、本法案ノ目的ト致シマスル所ハ、現下ノ肥料事情ニ鑑ミマスル時ハ、肥料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正トヲ圖ルコトガ一層緊要デアリマスノデ、茲ニ日本肥料株式會社ヲ設立致シマシテ、重要肥料ノ配給統制及ビ供給確保ヲ爲ス爲ニ、必要ナル事業ヲ爲サシメントスルニアルノデアリマス、卽チ日本肥料株式會社ハ、其ノ資本金トシテ五千万圓、現存ノ日本硫安株式會社及ビ燐酸肥料配給株式會社ヲ統合致シマシテ、之ニ新ナル民間出資ヲ加ヘテ、更ニ政府ニ資本ノ半額ヲ出資セシメテ設立致スモノデアリマシテ、其ノ事業ト致シマスル所ハ、硫酸「アンモニア」、石灰窒素、過燐酸石灰、加里鹽、其ノ他重要肥料ノ一手買取販賣ヲ致シマスルノ外ニ、肥料ノ輸移出及ビ輸移入ヲ行ヒ、更ニ肥料ノ製造、肥料製造工場ノ經營ノ管理、製造事業ニ對スル投資等、肥料ノ供給確保上必要ナル有ユル行爲ヲ行フモノデアリマス、而シテ本會社ニ對シマシテハ、其ノ資金調達ノ便宜ヲ得セシメマスル爲ニ、社債發行ニ付キマシテハ、商法ノ特例ヲ設ケマシテ、其ノ元利ノ支拂ヲ政府ニ於テ保證致シマスル外ニ、政府所有ノ株式ヲ劣後株ト致シマシテ、民間株式ニ對スル利益配當ヲ優遇スル等ノ保護特典ヲ與ヘタノデアリマス、又他面ニハ是ガ指導監督ヲ嚴重ニ致シマシテ、事業遂行上重要ナル事項ニ付キマシテハ、政府ノ認可ヲ受ケシムル等ノ措置ヲ講ジマス、又利益ノ配當ニ付キマシテモ、之ヲ制限スルコトト致シテ居ルノデアリマス、更ニ肥料ノ製造業者、取扱業者ハ、其ノ製造又ハ取扱ニ係リマスル肥料ヲ、本會社ニ對シテ賣渡スベキ旨ノ規定ヲ設ケマシテ、以テ本會社ノ行ヒマスル所ノ配給統制事業ノ遂行ニ、遺憾ナキコトヲ期シテ居ルノデアリマス、本法制定ノ趣旨ニ付キマシテハ、委員各位ハ何レモ贊意ヲ表シタノデアリマスルガ、本法案ノ重要性ノ爲ニ、政府當局トノ間ニ非常ニ熱心ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、卽チ各委員ハ全部質疑ヲ試ミ、政府之ニ對シテ應答スルト云フ狀態デアツタノデアリマス、其ノ詳細ノ點ニ付キマシテハ、中々長ク掛リマスカラ、一々御報告申上ゲル譯ニ參リマセヌノデ、速記錄ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、併シ其ノ重要ナル二三ノ點ニ付キマシテ、茲ニ御報告申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソレハ第一ニハ、肥料ノ配給ノ圓滑ヲ圖ル爲ニハ、本法案ニ依リマシテ、中樞配給機構ヲ整備統合スルノミデハ不十分デアル、地方ニ於ケル所ノ配給機構ノ一元化、又ハ配給設備ノ簡易化ヲ圖ルベキデハナイカト云フ

質問ガアツタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、地方ニ於キマスル配給機構ヲ一層整備致シ、又ハ簡易化スルコトハ贊成デアルカラ、肥料配給ノ實情ニ卽シマシテ、善處シタイト云フ所ノ答辯ガアツタノデアリマス、第二ニハ、本會社ニ依ル肥料增産ノ具體的方法如何、又本法案ニ依ツテ爲シ得ル肥料製造工場ノ經營ノ管理ハ、之ヲ更ニ强化シタルモノトスルノ要ハナイカ、卽チ肥料製造工場ノ合同ヲ圖ルノ意思ハナイカドウカト云フ點デアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、肥料ノ供給確保ニ付キマシテハ、本會社ノ爲ス肥料製造事業ニ對スル投資、肥料ノ製造、施設ノ運用實施ニ依ツテ、之ヲ行ツテ參リタイト云フ答辯デアツタノデアリマス、第三ハ、今、明肥料年度ニ於ケル肥料、殊ニ硫安ノ供給ニ不安ナキヤト云フ點デアリマス、是ハ洵ニ重大ナル點デアリマス、此ノ點ニ對シマシテハ、政府ハ、今年度ニ於ケル硫安等ノ統制肥料ニ付キマシテハ、曩ニ地方ニ割當テタルモノノ配給ニ付テハ不安ハナイ、大豆油粕ニ付テハ、現在マデニ相當數量ノ輸入ヲ見タガ、尙ホ今後極力滿洲ヨリノ輸入等ニ依リ、供給ノ確保ヲ圖ルト共ニ、是ガ配給ノ適正ヲ圖リタイ、又魚粕ノ供給增加ニモ一層努力スルノ外、他ノ雜粕ノ供給及ビ配給ノ統制、自給肥料ノ奬勵等ヲモ併セテ努力中デアル、更ニ明年度以降ニ於ケル硫安等ノ供給ニ付キマシテハ、出來ルダケノ措置ヲ講ジテ居ルガ、之ニ併セテ肥料ノ消費ヲ合理化シ、又之ヲ調整シテ、肥料ノ需給ニ不安ナカラシメタイト云フ答辯デアツタノデアリマス、第四ハ、今、數多ノ質問ガアリマシタガ、是ハ略シテ置キマス、次ニ討論ニ入リマシテ、民政黨ノ山田君ヨリ修正案ヲ提出サレタノデアリマス、是ト同時ニ又附帶決議ヲ申出デラレタノデアリマスガ、茲ニ修正セラレマシタ所ノ修正案ト附帶決議ヲ朗讀致シマス

第七條第四項トシテ左ノ一項ヲ加フ

肥料業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ其ノ職ヲ退キタル後五年間日本肥料株式會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

是ハ御承知ノ通リ國策會社ニ付テハ、議院ノ殆ド慣例トモ言ツテ宜イ位デアリマスガ、一昨々年アタリカラ、此ノ條項ヲ法律ヲ以テ入レルコトニシテアリマス、其ノ例ニ倣ヒマシテ、此ノ修正案ガ出タ譯デアリマス、次ニ附帶決議ヲ朗讀致シマス

附帶決議

一　政府ハ速ニ肥料ノ國家管理ヲ斷行スベシ

二　政府ハ主要農產物ノ生產ニ對シ他ノ總テノ物資ニ優先シテ各種肥料ノ供給ヲ確保スベシ

三　政府ハ中央地方ヲ通ジ各種肥料配給機構ヲ整備シ敏速且圓滑ナル配給ニ遺憾ナキヲ期スベシ

四　政府ハ有機質肥料ノ供給及價格ノ適正ニ付更ニ徹底ヲ期スベシ

五　政府ハ速ニ飼料ノ配給ヲ圓滑ニシ家畜ノ增產ヲ圖リ自給肥料ヲ奬勵スベシ

斯ウ云フ五ツノ附帶決議デアリマス、山田委員ハ是等修正案及ビ附帶決議ヲ提出シ、同時ニ原案ニ贊意ヲ表シ、小平委員、河野委員、野溝委員、石坂委員、各〻其ノ黨ヲ代表セラレマシテ、只今申上ゲマシタ附帶決議竝ニ修正案、及ビ修正セラレマシタ以外ノ原案ニ付テ、贊成ノ意ヲ表セラレタノデアリマス、之ヲ起立ニ諮ヒマシタ所、滿場一致本案ヲ可決シタノデアリマス、右委員會ノ結果ヲ御報告申上ゲマス

院議異議ナク本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會報告ノ通修正議決シ卽日貴族院ニ送付ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日可決奏上ス

四月八日法律第百一號ヲ以テ公布セラル

商業組合法中左ノ通改正ス

第四條　商業組合ハ其ノ名稱中ニ商業組合ナル文字ヲ用フベシ但シ第十七條ノ二又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ハ統制商業組合ナル文字ヲ用フベシ

商業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ商業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第十七條ノ二又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ依ル商業組合ニ非ザル商業組合ハ其ノ名稱中ニ統制商業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ依リ登記スベキ事項ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事實ノ生ジタル後二週間以內ニ之ヲ登記スベシ

第二十一條ノ三　行政官廳監督上特ニ必要アリト認ムルトキハ第三條第一項第二號ノ事業ヲ行フ商業組合ノ理事又ハ監事ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル理事又ハ監事ノ解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

特別ノ事情アル場合ニ於テハ行政官廳ハ第三條第一項第二號ノ事業ヲ行フ商業組合ノ定款又ハ第七條ノ規程ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第三十二條ノ二　商業小組合ハ小商業者ヲ以テ之ヲ組織シ組合員ノ共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トシ組合員ノ取扱商品ノ仕入、保管、運搬其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設ヲ爲スモノトス

前項ノ小商業者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商業小組合ハ法人トス

商業小組合ハ第一項ノ事業ノ外組合員ノ營業ニ關スル指導、研究、調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

商業小組合ハ其ノ名稱中ニ商業小組合ナル文字ヲ用フベシ

第三十二條ノ三　商業小組合ノ組合員ノ總數ハ十人ヲ超エザルヲ以テ例トス

第三十二條ノ四　商業小組合ヲ設立セントスルトキハ組合員タラントスル者全員設立者ト爲リ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

商業小組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第三十二條ノ五　組合員タル資格ヲ有スル者ハ組合員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ商業小組合ニ加入スルコトヲ得

第三十二條ノ六　商業小組合ハ當該商業ニ關スル商業組合ノ組合員タルコトヲ得

小商業者商業小組合ノ組合員ト爲リタルトキハ當該商業ニ關スル商業組合ノ組合員タルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ商業小組合ニ對シ當該商業ニ關スル商業組合ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該商業小組合ハ當該商業組合ノ組合員トス

第三十二條ノ七　商業小組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　目的

二　名稱

三　事務所

四　組合員タル資格ニ關スル規定及組合員ノ總數

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

七　剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

八　準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九　組合員ノ權利義務ニ關スル規定

十　事業及其ノ執行ニ關スル規定

十一　役員ニ關スル規定

十二　會議ニ關スル規定

十三　會計ニ關スル規定

十四　存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第三十二條ノ八　商業小組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

一　前條第一號乃至第三號、第六號及第十四號ニ揭ゲタル事項

二　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額
三　設立認可ノ年月日
四　理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第二號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十二條ノ九　商業小組合ニハ營業稅ヲ課セズ

第三十二條ノ十　第四條第二項、第十五條ノ二、第十七條第一項、第二十條、第二十二條(但書ヲ除ク)、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條、第三十三條乃至第三十六條及第三十八條、民法第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條及第六十六條、非訟事件手續法第百三十八條、第百四十一條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條及第百七十八條竝ニ産業組合法第五條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十一條、第二十四條、第二十六條乃至第三十四條、第三十五條、第三十六條、第三十九條乃至第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十七條、第六十條、第六十二條(第一項第三號及第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十五條、第六十九條乃至第七十三條ノ二、第七十四條第一項、第七十五條、第九十六條、第九十七條及第百四條ノ規定ハ商業小組合ニ付之ヲ準用ス但シ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十七條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ之ヲ行政官廳トス

第三十八條ニ左ノ一號ヲ加フ

十六　商業組合監査員ノ行フ監査ヲ拒ミタルトキ

第三十九條　第四條第二項(第三十二條及第三十二條ノ十ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第三項(第三十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十條　削除

第五十四條ノ二　商業組合中央會其ノ所屬ノ商業組合及商業組合聯合會ノ事業及財産ノ狀況ニ付監査ノ事業ヲ行フ場合ニ於テハ商業組合監査員ヲ置クベシ

商業組合監査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

商業組合監査員ハ商業組合中央會所屬ノ商業組合及商業組合聯合會ノ事務所、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨ミ金錢、物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ調査シ當該商業組合及商業組合聯合會ノ事業及財産ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得

商業組合監査員及其ノ行フ監査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條ノ三　行政官廳ハ商業組合中央會又ハ商業組合監査員ニ對シ商業組合又ハ商業組合聯合會ノ監査上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第五十四條ノ四　商業組合監査員前條ノ命令ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ過料ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條第七號、印紙稅法第四條第一項第一項竝ニ商工組合中央金庫法第一條第一項、第七條第一項、第二十八條第一項第六號及第二十九條第一項第三號中「商業組合聯合會、」ノ下ニ「商業小組合、」ヲ加フ

右ハ昭和十五年三月四日本院ニ提出ス同月五日本案ノ第一讀會ヲ開キ藤原商工大臣ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

商業組合法中改正法律案提案ノ理由ヲ簡單ニ御說明致シマス、商業組合ノ制度ハ、昭和七年創設以來、極メテ順調ナル發達ヲ遂ゲテ參ツタノデアリマスルガ、支那事變勃發以來、物資ノ配給機關竝ニ物價ノ統制機關トシテ、統制經濟上重要ナル地位ヲ占ムルニ至リマシタノデ、一昨年ノ本議會ニ於キマシテ、組合事業ノ擴充ノ外、統制商業組合制度ヲ樹立致シマシテ、以テ右ノ事情ニ卽應セシメタノデアリマスルガ、最近ノ中小商業ノ實情ハ、現行ノ商業組合制度ヲ利用スル程度ニ達シマセヌ多數ノ弱小商業者ノアリマスルコト、竝ニ商業組合ノ物資統制上占ムル重要性ニ照應致シマシテ、其ノ監督取締ヲ更ニ强化スルノ要アリマスルコト等ニ鑑ミマシテ、今回本法ノ一部ヲ改正致シタイト考ヘルノデアリマス、今改正ノ主要ナル點ヲ擧ゲマスレバ、第一ニ、從來弱小商業者ニ取リマシテハ、商業組合制度ノ利用ハ兎角不便デアリマシタノデ、是等ノ弱小商業者ノ爲ニ、別ニ一個ノ共同經營的ナル小組合制度ヲ創設シマシタルコト、第二ニ、最近物資配給統制竝ニ物價統制ノ進展ニ伴ヒマシテ、商業組合制度ノ公共的使命ガ極メテ增大シテ參リマシタノデ、是ガ監督ノ强化ヲ圖リマス爲ニ、監督取締ニ關スル規定ヲ整備致シマシタルコト、次ニ商業組合中央會ニ商業組合監査員ヲ設置シマシテ、自治監査制度ヲ創設シマシタルコト等デアリマス、尙ホ詳細ハ委員會等ニ於テ申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス、何卒御審議ノ上御協贊アランコトヲ希望スル次第デアリマス

次テ本案ハ政府提出輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案委員ニ併セ付託スルニ決ス委員會ハ審査ノ末原案ヲ可決スヘキモノト決シ三月十九日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日議事日程ヲ變更シ本案及八八、一〇七ノ三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長井上知治君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

只今議題トナリマシタ商業組合法中改正法律案、輸出毛織物取締法案、損害保險國營再保險特別會計法案、以上三案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、先ヅ商業組合法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、商業組合制度ハ、昭和七年ニ創設セラレ、其後順調ノ發達ヲ遂ゲテ參リマシタガ、支那事變以來商業組合ハ物資配給、物價統制機關トシテ、統制經濟上重要ナル地位ヲ占ムルニ至リマシタガ、最近ノ中小商業者ノ實情ハ、現行ノ商業組合制度ヲ利用シタクテモ利用スル能ハザル、多數ノ取殘サレタル小商業者ガ生ジマシタノデ、是等小商業者ノ救濟更生ヲ圖ル爲ヲ主眼トシマシテ、併セテ商業組合ノ物資統制上占ムル重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ監督取締指導ヲスルト云フコト、此ノ二點ヲ重點トシテ本改正法案ガ提出セラレタノデアリマス、質問ノ要點ヲ申シマスト、第一ハ、現在商業組合ト云フ組合制度ガアルガ、此ノ同業組合制度ト商業組合制度トハ、其ノ關係ヲ政府ハ如何ニ御考ニナツテ居ルカ、第二ハ、商業小組合制度ノ創設ハ、洵ニ結構デハアルガ、今日ノ工業小組合制度ノ實情ニ鑑ミル時、果シテ此ノ法案ノ狙ツテ居ル目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ、第三ハ、組合ノ監督取締制度ヲ政府ハ惡用スル虞ハナイカト云フヤウナ點デアリマシタ、其ノ他生鮮食料品、銅材、「タイヤ」地下足袋「カーバイド」其ノ他百般物資ノ配給統制ニ付テ、各委員ヨリ質疑ガアリマシタガ、政府ヨリハ各委員ヲ十分納得セシメ、此ノ法案ノ運用ニ依リマシテ、小商業者ノ救濟ニ大イニ役立テルコトガ出來ルト云フヤウナ、ソレ〴〵適切ナル御答辯ガアツタノデアリマス、斯クシテ質疑ヲ終リ、討論ヲ省キ、滿場一致可決セラレマシタ、次ニ輸出毛織物取締法案ニ付テ申上ゲマス、本法律案ハ、輸出毛織物ニ對シマシテ國營檢査ヲヤリ、之ニ合格シタルモノニアラザレバ、販賣ノ目的ヲ以テ輸出スルコトヲ得ザラシムルト云フ法律案デアリマシテ、粗惡品ノ輸出ヲ防止シ、海外市場ニ於ケル聲價ヲ維持シ、更ニ進ンデ品質ノ改善高級化ヲ促シ、毛織物ノ輸出振興ヲ圖ラントスルノガ、本案ノ骨子デアリマスルガ委員會ニ於テハ檢査標準、檢査方法、不合格品ノ處置、原毛獲得、特ニ「リンク」制ニ關スル事項、海外市場調査、見本蒐集、其他羊毛工業ノ改善發達竝ニ其ノ輸出振興ニ付テ、各委員ヨリ適切ナル質問ガアリ、政府當局ヨリ懇切ナル御答辯ガアリマシテ、質疑ヲ終了シ、討論ヲ省キ、一致可決セラレタノデアリマス、最後ニ損害保險國營再保險特別會計法案ニ付テ申上ゲマス、本案ハ先般本院ニ於テ可決セラレマシタ損害保險國營再保險法ノ附屬法案デアリマシテ、其ノ資金八千二百万圓ノ圓滑ナル運用ヲ爲スベシト云フコトヲ政府ニ要望シマシテ、質問討論ヲ打切リ、一致可決セラレマシタ、以上御報告ヲ申上ゲマス

院議異議ナク三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シ引讀キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ各原案ノ通可決シ卽日本案及一〇七ノ兩案ハ貴族院ニ送付シ、八八ハ卽日裁可ヲ奉請シ其ノ旨貴族院ニ通知ス

貴族院ニ於テハ三月二十四日本案ヲ可決奏上ス

四月四日法律第九十七號ヲ以テ公布セラル

九一　石炭配給統制法案

石炭配給統制法

第一條　石炭ノ生產業者、輸入業者及移入業者竝ニ石炭ノ取扱ヲ爲ス會社ニシテ主務大臣ノ指定シタルモノ（指定會社）ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ生產、輸入、移入又ハ取扱ニ係ル石炭

ヲ日本石炭株式會社ニ賣渡スベシ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　石炭ノ生產業者、輸入業者又ハ移入業者命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ生產、輸入又ハ移入ニ係ル石炭ヲ自己ノ用ニ供スルトキ

二　指定會社ノ社員又ハ株主タル石炭ノ生產業者其ノ生產ニ係ル石炭ヲ當該指定會社ニ賣渡ストキ

三　特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ

第二條　主務大臣ハ石炭ノ配給ノ圓滑ヲ確保スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ石炭ノ生產業者、輸入業者、移入業者又ハ販賣業者ニ對シ石炭ノ配給ニ關スル施設ノ賃貸又ハ讓渡ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ協議ヲ命ゼラレタル者協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第三條　前條第二項ノ規定ニ依ル決定アリタル場合ニ於テ賃貸料又ハ讓渡價格ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日（決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日）ヨリ三十日以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條　前二條ニ定ムルモノノ外決定竝ニ之ニ依ル石炭ノ配給ニ關スル施設ノ賃貸及讓渡ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　主務大臣ハ石炭ノ生產業者、輸入業者若ハ移入業者又ハ指定會社ニ對シ其ノ業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

第六條　日本石炭株式會社ハ石炭ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第七條　日本石炭株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ內二千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

日本石炭株式會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第八條　日本石炭株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ拘ラズ日本石炭株式會社ノ株主ト爲ルコトヲ得

第九條　日本石炭株式會社ニ非ザルモノハ日本石炭株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第十條　日本石炭株式會社ニ役員トシテ社長副社長各一人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十一條　社長ハ日本石炭株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ
副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本石炭株式會社ノ業務ヲ分掌ス
監事ハ日本石炭株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十二條　社長、副社長及理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス
監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十三條　社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　日本石炭株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス
一　石炭ノ買入及販賣
二　石炭ノ輸出、輸入、移出及移入
三　石炭鑛業ニ對スル資金ノ融通及投資
四　前各號ノ事業ニ附帶スル事業
五　其ノ他石炭ノ需給ノ圓滑及價格ノ公正ヲ圖ル爲必要ナル事業

日本石炭株式會社前項第四號又ハ第五號ニ掲グル事業ヲ營マントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十五條　日本石炭株式會社ハ販賣ノ目的ヲ以テ買入ルル者ニ石炭ヲ賣渡ストキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ石炭ノ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトヲ得
主務大臣ハ石炭ノ配給ノ圓滑又ハ價格ノ公正ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ日本石炭株式會社ヨリ販賣ノ目的ヲ以テ石炭ヲ買入ルル者ニ對シ前項ノ指示ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十六條　日本石炭株式會社ハ商法第二百九十七條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十七條　日本石炭株式會社社債ヲ募集セントスル場合ニ於テハ商法第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十八條　日本石炭株式會社ノ社債權者ハ同會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條　日本石炭株式會社ハ毎營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ

第二十條　主務大臣ハ日本石炭株式會社ノ業務ヲ監督ス